

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第436集

とちほらに
柎洞Ⅱ遺跡発掘調査報告書

遠野第二ダム建設事業関連遺跡発掘調査

岩手県遠野地方振興局土木部
(財) 岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第436集

柝洞Ⅱ遺跡発掘調査報告書 正誤表

頁	訂正箇所	誤	正
13	第6図 凡例(下段/右)	玩状耳飾	玦状耳飾
85	下から1行目	大迫町教委区委員会	大迫町教育委員会
86	上から3行目	縄文土器Ⅱ	縄文土器Ⅱ
86	上から4行目	縄文土器Ⅰ	縄文土器Ⅰ
86	上から5行目	岩手県博物館	岩手県立博物館
86	上から6行目	縄文土器Ⅲ	縄文土器Ⅲ

とちほら に
朽洞Ⅱ遺跡発掘調査報告書

遠野第二ダム建設事業関連遺跡発掘調査

序

岩手県内には、旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地に残されております。これら先人の残した多くの文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、私たち県民に課せられた大切な責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発にともなう社会資本の充実も重要な一施策であります。このように埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、当文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、遠野第二ダム建設事業に関連して、平成14年度に発掘調査を実施した柘洞Ⅱ遺跡の発掘調査結果をまとめたものであります。調査によって、縄文時代の遺構が確認され、当該地域の歴史や周辺の遺跡との関連性を考える上で貴重な資料を提供することができました。この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが発掘及び報告書作成にご援助、ご協力賜りました岩手県遠野地方振興局土木部、遠野市教育委員会をはじめとする多くの関係機関、関係各位に深く感謝申し上げます。

平成 15 年 11 月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 合 田 武

例 言

1. 本報告書は、岩手県遠野市遠野町第31地割字女男石47-7ほかに所在する柗洞Ⅱ遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の調査は、遠野第二生活貯水池建設事業に伴い、岩手県教育委員会生涯学習文化課と遠野地方振興局土木部との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが記録保存を目的として行った緊急発掘調査である。
3. 岩手県遺跡登録台帳における番号と調査時の遺跡略号は以下の通りである。
遺跡番号 MF 5 5 - 0 0 9 3
遺跡略号 THⅡ - 0 2
4. 調査期間・調査面積・調査担当者は以下の通りである。
調査期間 平成14年4月10日～平成14年7月31日
調査面積 4,106㎡
調査担当者 金子昭彦、星 幸文、坂部恵造
5. 室内整理期間と整理担当者は、以下の通りである。
室内整理期間 平成14年11月1日～平成15年3月31日
整理担当者 星 幸文、坂部恵造
6. 本報告の執筆と編集は、星幸文が担当した。
7. 委託業務にあたっては以下に委託した。(敬称略)
航空写真 東邦航空株式会社
基準点測量 株式会社 イチイ土木コンサルタント
石材鑑定 花崗岩研究会
8. 土層及び土器の色調観察には農林水産省農林水産技術会議監修の「新版標準土色帖」を参考にした。
9. 遺跡の調査概要は、平成14年度分の岩手県埋蔵文化財発掘調査略報に公表したが、本書の内容が優先するものである。
10. 本報告書作成にあたり、遠野市教育委員会の方々に協力とご指導をいただいた。
11. 本遺跡から出土した遺物及び調査にかかわる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管してある。

目次

序
例言

< 本文 >

I 調査に至る経過	3	(5) 凡例	12
II 遺跡の位置と環境	3	IV 検出された遺構と遺物	15
1. 遺跡の位置	3	1. 竪穴住居跡・住居状遺構	15
2. 遺跡周辺の地形と地質	3	2. 陥し穴状遺構	22
3. 遺跡の基本層序	5	3. 土坑	24
4. 周辺の遺跡	6	4. 焼土遺構	33
III 調査方法と室内整理	11	V 出土遺物	42
1. 野外調査の方法	11	1. 土器	42
(1) グリットの設定	11	2. 石器	46
(2) 粗掘りと遺構検出	11	3. 土製品	48
(3) 遺構の精査と実測	11	4. 石製品	49
(4) 写真撮影について	11	5. 銭貨	49
(5) 遺物の取り上げについて	11	6. 陶磁器	49
(6) 遺構の命名	11	VI まとめ	84
2. 野外調査	15	1. 層位について	84
(1) 作業手順	12	2. 遺構	84
(2) 遺構	12	参考引用文献	
(3) 遺物	12	報告書抄録	
(4) 掲載番号について	12	職員名簿	

< 図版 >

第1図 岩手県全図	1	第12図 3号竪穴住居跡	19
第2図 遺跡周辺の地形図	2	第13図 住居状遺構	21
第3図 遺跡周辺地形分類図	4	第14図 陥し穴状遺構	23
第4図 柵列跡	6	第15図 土坑(1)	25
第5図 周辺遺跡分布図	10	第16図 土坑(2)	28
第6図 凡例	13	第17図 土坑(3)	29
第7図 遺構配置図	14	第18図 10号土坑土器出土状況	31
第8図 1号竪穴住居跡(1)	16	第19図 土坑(4)	32
第9図 1号竪穴住居跡(2)	17	第20図 焼土列	34
第10図 2号竪穴住居跡	18	第21図 焼土遺構(1)	34
第11図 2号竪穴住居跡埋土上面遺物出土範囲	19	第22図 焼土遺構(2)	36

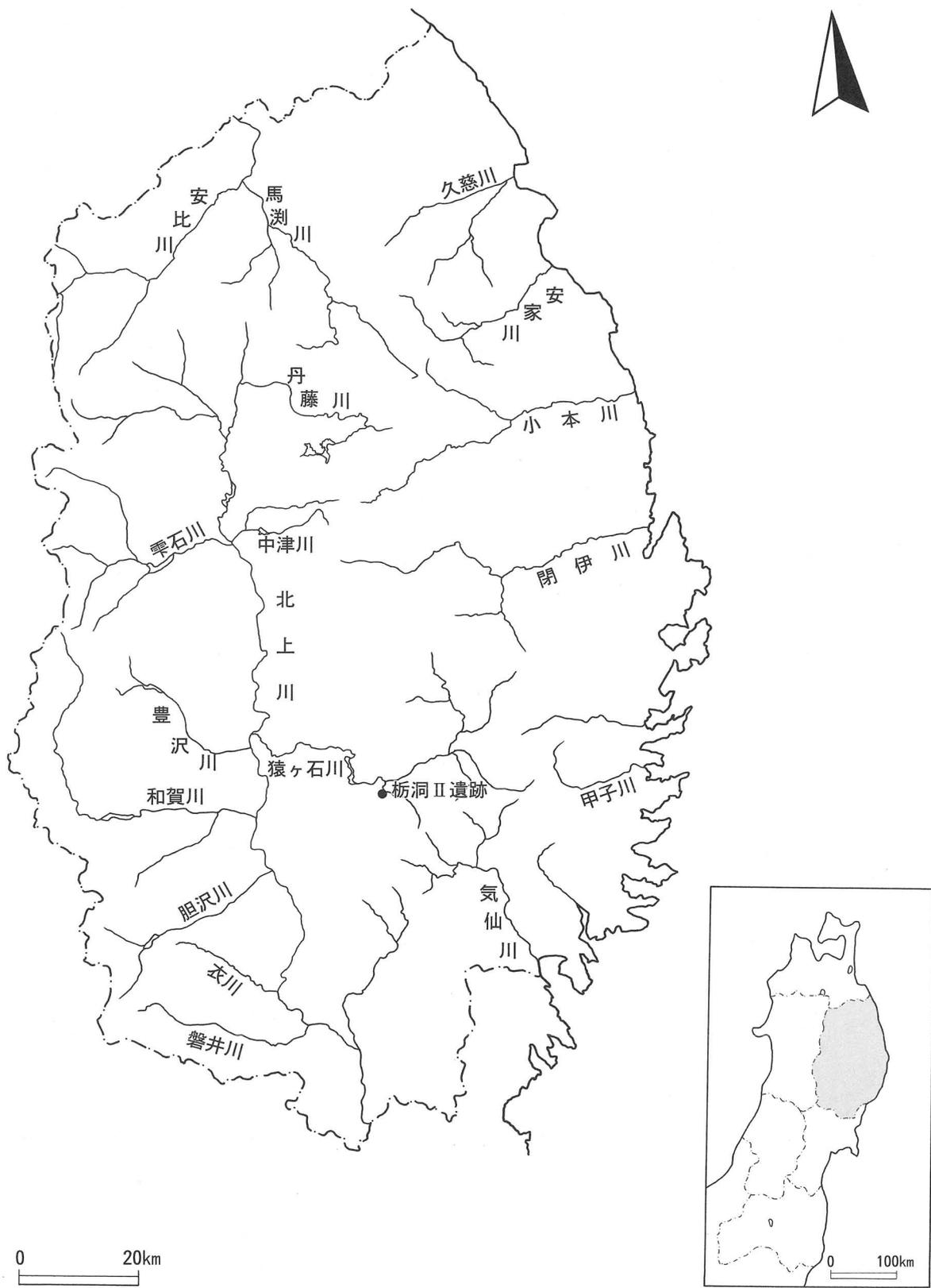
第23図	焼土遺構（3）	38	第36図	遺構外出土遺物（4）	60
第24図	焼土遺構（4）	40	第37図	遺構外出土遺物（5）	61
第25図	焼土遺構（5）	41	第38図	遺構外出土遺物（6）	62
第26図	遺構内出土遺物（1）	50	第39図	遺構外出土遺物（7）	63
第27図	遺構内出土遺物（2）	51	第40図	遺構外出土遺物（8）	64
第28図	遺構内出土遺物（3）	52	第41図	遺構外出土遺物（9）	65
第29図	遺構内出土遺物（4）	53	第42図	遺構外出土遺物（10）	66
第30図	遺構内出土遺物（5）	54	第43図	遺構外出土遺物（11）	67
第31図	遺構内出土遺物（6）	55	第44図	遺構外出土遺物（12）	68
第32図	遺構内出土遺物（7）	56	第45図	遺構外出土遺物（13）	69
第33図	遺構外出土遺物（1）	57	第46図	遺構外出土遺物（14）	70
第34図	遺構外出土遺物（2）	58	第47図	遺構外出土遺物（15）	71
第35図	遺構外出土遺物（3）	59			

＜ 表 ＞

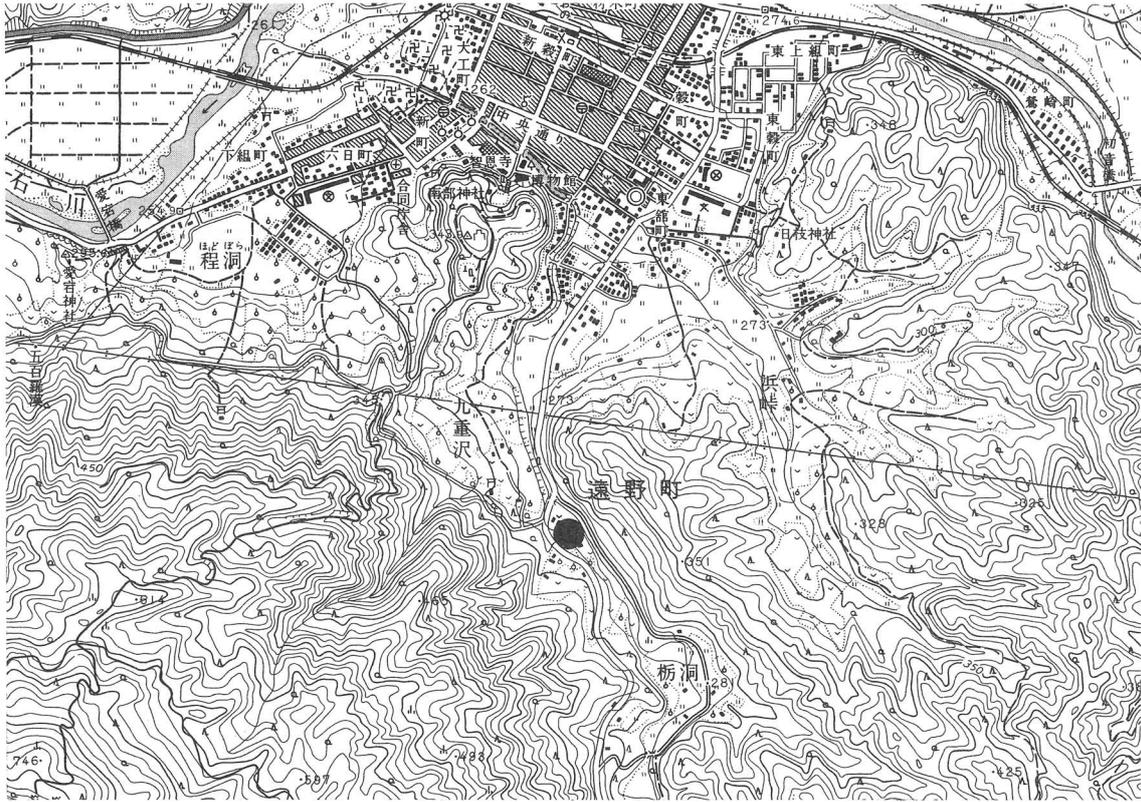
第1表	周辺の遺跡一覧	8	第2表	出土遺物観察表	72
-----	---------	---	-----	---------	----

＜ 写真図版 ＞

写真図版1	遺跡遠景・調査区全景	89	写真図版20	遺構外出土遺物（1）	108
写真図版2	調査前風景・調査後風景	90	写真図版21	遺構外出土遺物（2）	109
写真図版3	1号竪穴住居跡	91	写真図版22	遺構外出土遺物（3）	110
写真図版4	2号竪穴住居跡	92	写真図版23	遺構外出土遺物（4）	111
写真図版5	3号竪穴住居跡・住居状遺構	93	写真図版24	遺構外出土遺物（5）	112
写真図版6	陥し穴状遺構・土坑（1）	94	写真図版25	遺構外出土遺物（6）	113
写真図版7	土坑（2）	95	写真図版26	遺構外出土遺物（7）	114
写真図版8	土坑（3）	96	写真図版27	遺構外出土遺物（8）	115
写真図版9	土坑（4）・焼土遺構（1）	97	写真図版28	遺構外出土遺物（9）	116
写真図版10	焼土遺構（2）	98	写真図版29	遺構外出土遺物（10）	117
写真図版11	焼土遺構（3）	99	写真図版30	石器（1）	118
写真図版12	焼土遺構（4）	100	写真図版31	石器（2）	119
写真図版13	焼土遺構（5）・遺物出土状況	101	写真図版32	石器（3）	120
写真図版14	遺構内出土遺物（1）	102	写真図版33	石器（4）	121
写真図版15	遺構内出土遺物（2）	103	写真図版34	石器（5）	122
写真図版16	遺構内出土遺物（3）	104	写真図版35	石器（6）	123
写真図版17	遺構内出土遺物（4）	105	写真図版36	石器（7）	124
写真図版18	遺構内出土遺物（5）	106	写真図版37	石器（8）	125
写真図版19	遺構内出土遺物（6）	107	写真図版38	銭貨・陶磁器	126



第1図 岩手県全図



1:25,000



1:20,000

第2図 遺跡周辺の地形図

I 調査に至る経過

栃洞Ⅱ及び九重沢遺跡は、「遠野第二生活貯水池建設事業」の実施に伴い、その事業区域内に存することから、発掘調査を実施することになったものである。

遠野第二生活貯水池建設事業は、猿ヶ石川上流流域の来内川筋、治水対策事業により、昭和32年県営第一号の遠野ダムが完成した下流部に位置するものである。

昭和56年8月の台風15号により来内川が氾濫し、遠野市街地で多くの家屋が浸水被害を受けたことから、現在、洪水から貴重な資産を守るなど目的とした遠野第二ダム（仮称）の建設を進めている。

当該事業は、平成2年4月に事業の建設採択を受け、調査・設計を行い、平成12年4月に遠野第二ダム地権者が発足して平成13年11月に補償基準の妥結を得て、用地解決を図り、工事を着手することとなった。

栃洞Ⅱ遺跡は、付替県道工事（L=980m）及び九重沢遺跡は、左岸側付替市道工事（L=350m）区間として、平成14年度から着手することになった。

栃洞Ⅱ及び九重沢遺跡については岩手県教育委員会が平成12年～13年度に試掘調査を実施して、共に縄文文化の住居跡が確認されている。

その結果に基づいて、岩手県教育委員会は、岩手県遠野地方振興局と協議を行い発掘調査を財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることにした。

尚、発掘調査は平成14年4月に着手して同年7月に現地調査が終了した。

報告書の作成に係る室内整理は平成15年3月まで実施して、報告書は平成15年度の刊行である。

（岩手県遠野地方振興局土木部）

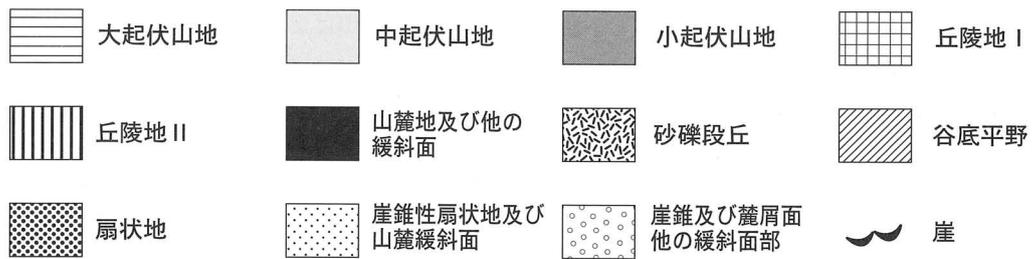
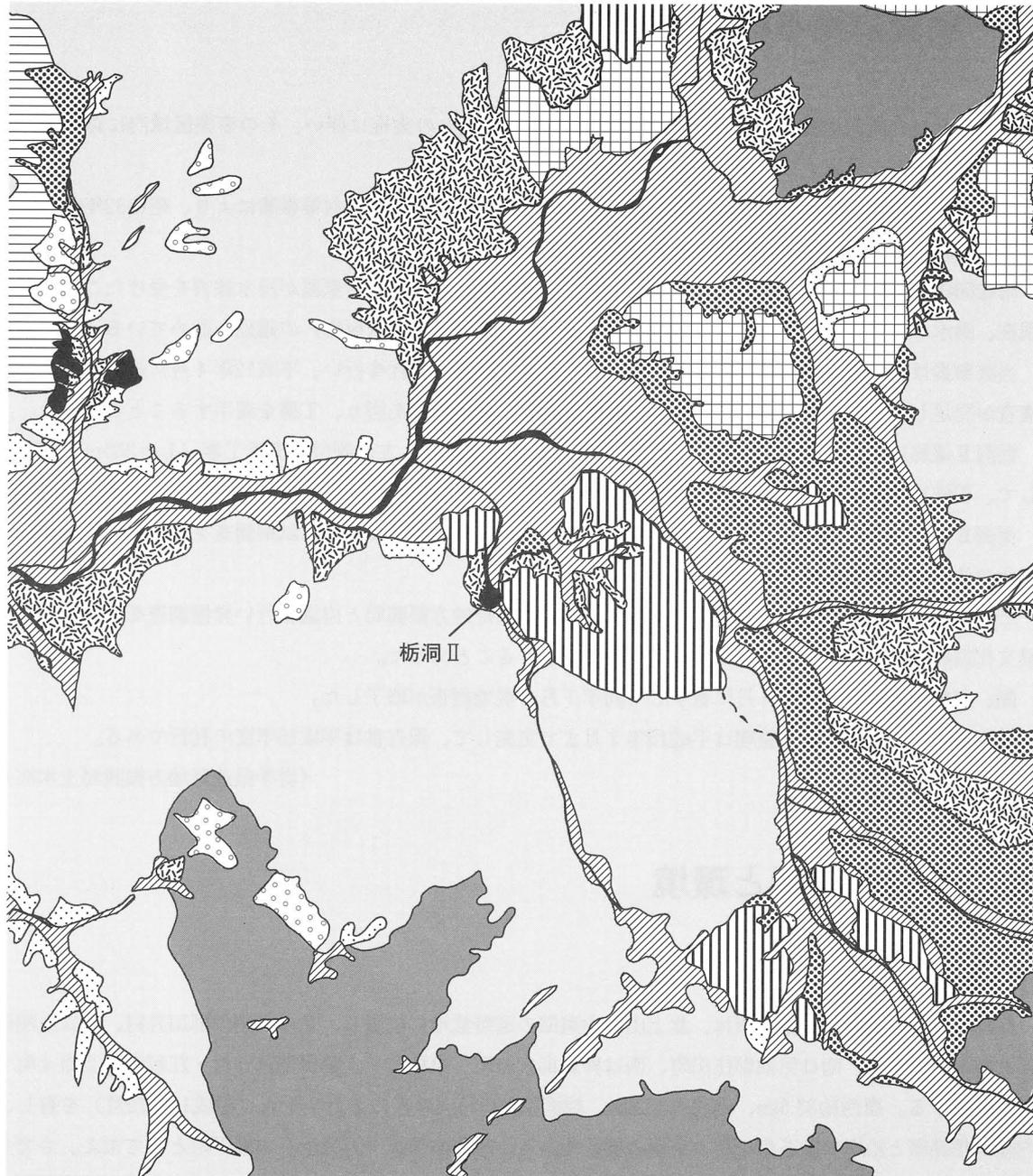
II 遺跡の位置と環境

1. 位置と地形

栃洞Ⅱ遺跡の所在する遠野市は、北上山地中南部の遠野盆地に位置し、北は下閉伊郡川井村、東は上閉伊郡大槌町・釜石市、南は気仙郡住田町、西は稗貫郡大迫町・東和町・上閉伊郡宮守村・江刺市の2市4町2村と隣接する。東西約33.5km、南北約38.2km、総面積660.38km²の人口2万7千人（平成14年12月）を有し、内陸の花巻市と沿岸の釜石市を結ぶ交通の要所である。遠野南部氏一万三千石の城下町として栄え、今でも至る所に古風な面影を残している。民話の里として名高い。遺跡は第2図に示すようにJR釜石線遠野駅の南側約1.7km、遠野町第31地割女男石に所在し、猿ヶ石川支流の来内川によって形成された左岸の河岸段丘上に立地している。また、遺跡の立地する地域は九重沢が来内川に合流する地域でもあり、本遺跡と九重沢遺跡が隣接している。本遺跡は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「遠野」NJ-54-14-5-3（一関5号-3）の図幅に含まれ、北緯39度19分00秒、東経141度31分51秒付近にあたる。標高は約290mで、現況は東側が山林、西側が果樹園である。

2. 遺跡周辺の地形と地質

遠野盆地は北上山地のほぼ中央部に位置する。北上山地は、南北に延びた紡錘形をなし、北端は青森県八



第3図 遺跡周辺地形分類図

戸市付近、南端は宮城県牡鹿半島に至る南北延長約240km、東西最大幅約77km（岩手県分では南北約180kmで県面積のおよそ3分の2にあたる）で、中央部が最も高く南方及び北方に向かい高度が低下する。東方には太平洋、西方には北上川や馬淵川の低地が推移し低地を隔てて奥羽山脈と対峙している。この北上山地の歴史は古く石炭紀の中頃（約3億年前）の造山運動により隆起し山系の一部を造ったのが始まりと言われる。古生代末、中生代三畳紀初（約2億4千万年前）の大規模な造山運動では山地の大部分が陸化し、その後、山地の東北部や南部が海底に沈んだ。砂や粘土を堆積し、白亜紀前半中頃（約1億年前）の造山運動により山地の全域が陸地となり、これに伴う花崗岩活動や断層運動により、山地の輪郭が現在と近くなった。その後も浸食作用・隆起・沈降等を繰り返し現在の形になったと考えられている。地質の主体は古生界および中生界とそれを貫く花崗岩ならびに蛇紋岩などの塩基性岩類、そのほか新生界古第三系も局部的に発達している。また、新第三系ならびに第四系もかなり広い分布である。このように北上山地は何億年もの長い期間の複雑かつ、激しい変動を経て現在の姿に至っているため、時代的に多様で岩石の種類も豊富である。地質時代の判然としている我が国最古の地層（古生代シルリア紀の地層）もやはりこの北上山地（大船渡市）で見つっている。

遠野盆地は、薬師岳に源を発する猿ヶ石川（73.1km）とその支流である小烏瀬川・来内川・早瀬川、さらにその支流である河内川、猫川等がこの北上山地の一部を開析して作った山地内で最も広大な谷底平野である。河川流域には耕地が拓けている。北上山地の中で谷底平野の広い地域は、花崗岩の分布域でもある。当地は北上山地最大の遠野・土淵花崗岩体の分布域である。これらの花崗岩は上記した白亜紀前半中頃に形成されたものである。盆地北方には北上山地の主峰早池峰山の姿が望まれ、東には一ツ石山（1,058.3m）・貞任山（886m）・六角牛山（1,294m）等早池峰山の支脈が南北に走り、南には物見山（917m）、西には高清水山（797.7m）、北には天ヶ森（756m）・薬師岳（1,645m）のなだらかな山稜が並ぶ。北上山地は開析隆起準平原（浸食を受けた隆起準平原）で、山地に続く丘陵縁辺部に小規模な段丘と沖積地が観察される。盆地は播り鉢状の地形となっており、内陸性の盆地的気候を呈し、夏期には30℃を越すが暑い日は少なく、また冬期には-26.5℃（昭和15年1月21日）、-25.5℃（昭和20年1月27日）を記録するなど県内有数の低温域で気温の較差が大きい地域である。冬期には北西の季節風、夏期には南西風が北上平野を北上し、花巻市から峡谷を越えて盆地にはいるため主風向は西風（全体の32%）である。

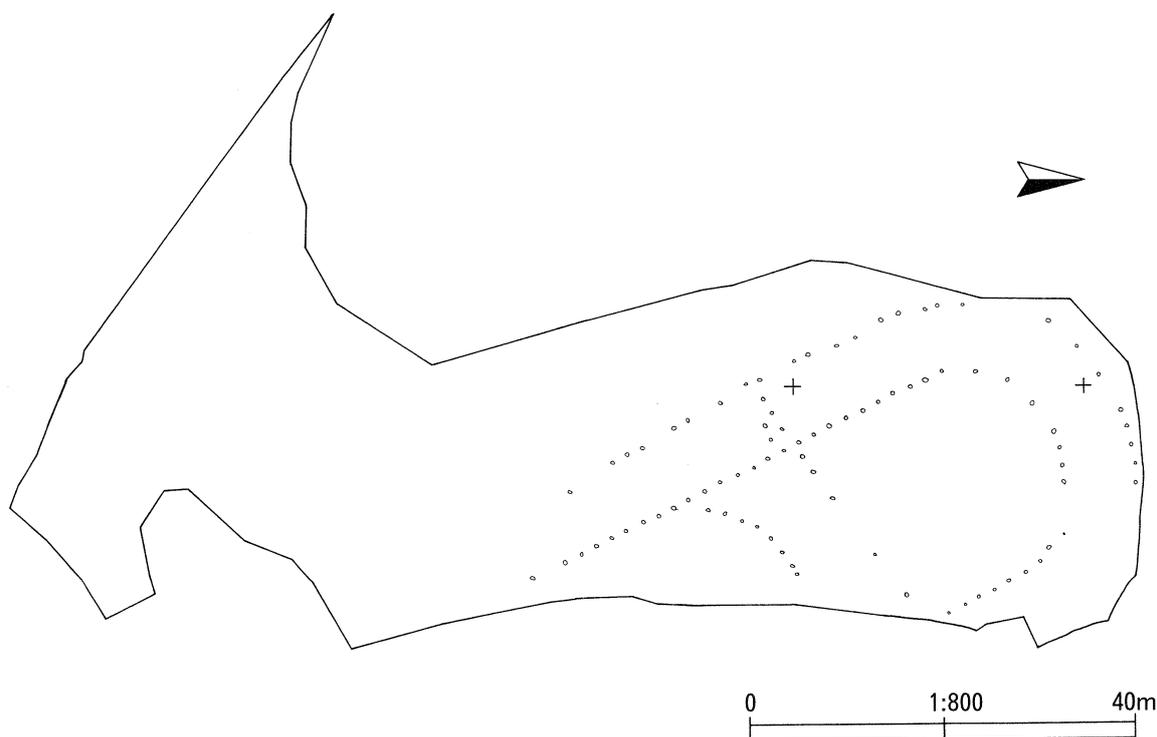
今回発掘調査した栃洞Ⅱ遺跡は来内川によって形成された河岸段丘上に立地し、遺跡の上流約1.5kmには昭和32年に完成した来内ダム（遠野ダム）がある。土壌は黒ボクを混入する粗粒灰色低地土壌統群に分類され、豊間根統で花崗岩を母岩とする。

3. 遺跡の基本層序

今回調査した地域は、東側に来内川、北側に九重沢が流れている。遺跡は来内川の左岸段丘上に立地し、調査区外の北側と東側は下方に急傾斜している。調査区北東側は昭和初期に放牧地として利用され、その後畑地を経て山林となり、南西側は、畑地から果樹園として利用され現在に至っている。調査区北東側からは当時の面影を残す柵列跡（第4図）が検出されている。また、放牧地にするためかなり削平されたものと思われ、南西側で比較的厚く堆積している黒色土層（Ⅱ層）は検出されず、表土（Ⅰ層）下は大方がⅣ～Ⅴ層である（一部Ⅲ層の残るところもある）。12D②グリッド付近から9H③グリッド付近及び、14G②グリッド付近から13H①グリッド付近には西から東へ向かう小さな沢跡を検出している。調査区の西側の標高は約290m、東側の標高は約280mと西側から東側に傾斜した地形となっている。調査区全体が削平及び植物根等

による攪乱を受けているため、基本層序は一樣には確認できない。以下は調査区中央西よりの7E④グリッド付近で観察された層序である。遺構検出面は、調査区北東側はIV～V層、南西側はIII～V層である。

- I 層：10YR2/3 黒褐色シルト しまり並で粘性は弱い 現在の表土層で果樹園の耕作土
- II a 層：10YR2/2 黒褐色シルト やや堅く締まり粘性もやや強い
- II b 層：10YR2/2～2/3 黒褐色砂礫土 風化した花崗岩主体
- II c 層：10YR2/1 黒色シルト やや堅く締まり粘性は強い 粗い粒子を含む
- III 層：10YR2/3 黒褐色シルト やや堅く締まり粘性もやや強い I層より黒色が強く、赤みもある
- IV 層：10YR3/4 暗褐色シルト III層とIV層の漸移層
- V 層：10YR4/6 褐色シルト 粘性やや弱く、しまりやや強い
- VI 層：10YR5/4～5/6 にぶい黄褐色～黄褐色砂礫土 粘性は弱い
- VII 層：10YR5/6 黄褐色砂質土 粘性なし
- VIII 層：礫層



第4図 柵列跡

4. 周辺の遺跡

岩手県教育委員会のまとめによると、平成12年度現在で県内には約9,677ヶ所の遺跡が確認され、そのうち遠野市内には320ヶ所の遺跡が登録されている。本遺跡と時代を同じくする縄文時代の遺跡及び、縄文時代に属する可能性のある遺跡は市内に195ヶ所ある。また、本遺跡を中心とする半径10kmの近隣地区には、163ヶ所（遠野市153ヶ所、宮守村5ヶ所、住田町5ヶ所）確認されている。その遺跡のほとんどが猿ヶ石川及びその支流の河川によって形成された地形に沿って立地している。古代の遺跡が猿ヶ石川流域の沖積地に

多く見られるのに対し、丘陵地、扇状地の段丘や微高地等には縄文の遺跡が集中している。

近年遠野市内で発掘調査された遺跡には、縄文時代早期～前期の遺跡としては平成12年に発掘調査が行われた権現前遺跡がある。住居跡15棟、土坑43基等検出されている。前期～中期の遺跡としては平成10年～12年に発掘調査が行われた新田Ⅱ遺跡（綾織新田遺跡）がある。前期前葉～中葉に属する住居跡18棟、中期に属する住居跡2棟、古代の住居跡1棟等が検出されている。縄文前期前葉の大型竪穴住居からなる拠点集落跡では国内最古級のものとして注目を集め、平成14年11月18日国指定史跡となっている。後期の遺跡としては平成9年に発掘調査が行われた甲子遺跡（近世遺構も検出されている）がある。その他に近年発掘調査が行われた遺跡としては寒風遺跡（縄文・古代・近世、昭和56年）、高瀬Ⅰ遺跡（縄文・古代・近世、昭和63年）、逢田遺跡（古代、昭和63年）、高瀬Ⅱ遺跡（古代、平成元年）、本宿遺跡（古代、平成3～4年）、寒風Ⅰ遺跡（縄文早期・前期、平成8年）、篠館跡遺跡（中世、平成10～11年）等がある。

これまで遠野市では数点の土器片は出土するもの早期の遺跡と呼べるものは無かったが、近年の発掘調査において権現前遺跡で確認されている。

今年度は本遺跡の他、同市内では平倉観音遺跡、九重沢遺跡、中土淵遺跡の発掘調査も行われ、縄文時代および弥生時代の遺構・遺物等を確認している。

<参考・引用文献>

- 岩手県（1971）：「北上山系開発地域土地分類基本調査 遠野」
- 岩手県（1971）：「北上山系開発地域土地分類基本調査 人首」
- 岩手県（1971）：「北上山系開発地域土地分類基本調査 土淵」
- 岩手県（1971）：「北上山系開発地域土地分類基本調査 大迫」
- 岩手放送株式会社、株・アイ・ビー・シー開発センター（1976）：「岩手地誌 三部作 第三部 北上山系」
- 株式会社 新公論社（1987）：「日本の川－自然と民族Ⅱ」
- 岩手県立博物館（1990）：「岩手県の地質図－博物館版－」
- 遠野市教育委員会：「遠野市史 第1巻」
- 遠野市教育委員会（1991）：「逢田遺跡」遠野市埋蔵文化財調査報告書第3集
- 遠野市教育委員会（1991）：「高瀬Ⅱ遺跡」遠野市埋蔵文化財調査報告書第4集
- 遠野市教育委員会（1994）：「本宿遺跡」遠野市埋蔵文化財調査報告書第7集
- 遠野市教育委員会（1997）：「寒風Ⅰ遺跡」遠野市埋蔵文化財調査報告書第10集
- 遠野市教育委員会（1998）：「甲子遺跡」遠野市埋蔵文化財調査報告書第11集
- 遠野市教育委員会（2002）：「新田Ⅱ遺跡」遠野市埋蔵文化財調査報告書第13集
- （財）岩手県埋蔵文化財センター（1982）：「寒風Ⅰ遺跡発掘調査報告書」岩埋文調査報告書第43集
- （財）岩手県埋蔵文化財センター（1991）：「高瀬Ⅰ遺跡発掘調査報告書」岩埋文調査報告書第155集
- （財）岩手県埋蔵文化財センター（2001）：「篠館跡発掘調査報告書」岩埋文調査報告書第353集
- （財）岩手県埋蔵文化財センター（2002）：「権現前遺跡発掘調査報告書」岩埋文調査報告書第384集

第1表 周辺の遺跡

(遠野市)

No.	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物
1	上ノ山	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器
2	上駒木	散布地	縄文	石槍、縄文土器
3	駒木Ⅲ	散布地	縄文・平安	縄文土器、土師器
4	宮代Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
5	宮代Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器
6	宮代Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器
7	町田	散布地		土器
8	谷地	散布地	縄文	縄文土器
9	高瀬Ⅰ	集落跡・古墳	縄文・奈良・平安	縄文土器、土師器、須恵器、蕨手刀、鉄鏃、周湟、陥し穴
10	下似田貝	散布地		
11	蓮池	集落跡	近世・古代	縄文土器、土師器
12	下土淵	散布地	縄文・古代	縄文土器、土師器
13	栃内山崎Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(前期末)、石斧、石鏃、石刀
14	栃内山崎Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(前期)、石鏃
15	栃内鐘突堂	散布地		
16	栃内大櫓	散布地	縄文	縄文土器、石刀
17	栃内野崎	散布地	縄文	縄文土器(前末～中初期)
18	高室Ⅰ	散布地		土器
19	砂子沢Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(中期)
20	砂子沢Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(中期)
21	横内Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器、土師器
22	横内Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(中期)
23	横内Ⅲ	散布地	縄文・古代	縄文土器(早期)、土師器
24	大久保	散布地	縄文・平安	縄文土器(早期)、土師器、須恵器
25	金ヶ沢Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器、石器
26	金ヶ沢Ⅱ	集落跡	縄文	縄文土器
27	天神Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器
28	天神Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器
29	ミサザキ蝦夷岩	洞穴	縄文	縄文土器(晩・中・後期)
30	天神Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
31	天神Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器
32	下柳Ⅰ	散布地		
33	下柳Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(晩期)
34	日影	散布地		土器、石器、石鏃
35	寒風Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器
36	寒風Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(早?・前期?)
37	寒風Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器(早?・前期?)、石鏃
38	寒風Ⅴ	散布地	縄文	縄文土器(前期)
39	宮野目Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(早・前期)
40	寒風Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(早期)
41	宮野目Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(早期)
42	蓬田	集落跡	縄文・奈良・中世	縄文土器(後・晩期)、土師器
43	土淵谷地	散布地	縄文	縄文土器
44	大柳	集落跡	縄文・古代	縄文土器、土師器
45	飛鳥田Ⅱ	散布地	縄文	石皿
46	朴ノ木	散布地	縄文	縄文土器
47	晴山Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器
48	晴山	散布地	縄文	縄文土器
49	晴山Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器
50	赤羽根Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器
51	踊鹿Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
52		散布地	縄文	縄文土器
53	赤羽根Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
54	長谷場	散布地		
55	権現前	散布地		
56	飛鳥田Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器、石鏃
57	沢田	散布地	縄文	縄文土器、石鏃、石槍、石匙、石錐

No.	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物
58	安戸	散布地		
59	新田Ⅱ	散布地	縄文・平安	縄文土器、土師器、須恵器
60	深沢野Ⅲ	散布地		土器
61	新田	散布地	縄文	縄文土器、石棒
62	深沢野Ⅱ	散布地		土器
63	熊野沢	散布地		土器
64	新里五器洗場	散布地	縄文	縄文土器
65	新里間木野	散布地	縄文・古代	縄文土器（前・後期）、土師器、須恵器、石斧、石匙、石鏃
66	新里新滝	散布地	縄文	縄文土器（前期）
67	新里愛宕裏	集落跡	縄文	縄文土器
68	五日市Ⅲ	散布地	縄文	縄文
69	五日市Ⅱ	散布地		縄文
70	五日市Ⅰ	散布地	縄文	縄文
71	向野Ⅱ	散布地	縄文・古代	縄文
72	蟻ヶ崎	集落跡	縄文・古代	
73	晴山Ⅴ	散布地		縄文
74	九重沢	散布地	縄文	縄文土器
75	栃洞Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（早・前・中・後・晩期）
76	中下	散布地	縄文	縄文土器
77	合田	散布地		土器
78	八幡Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
79	八幡Ⅰ	散布地		土器
80	下関	散布地	縄文	縄文土器
81	栃洞	散布地	縄文	縄文土器、土師器
82	夫婦石袖高野	集落跡	縄文	青竜刀形石器、炉跡
83	ノ田	散布地	縄文	縄文土器
84	太田	散布地	縄文・平安	石皿、石弾、土師器
85	館石	散布地		土器
86	鳥居長根Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器
87	館山麓	散布地	縄文	石皿、石鏃
88	鳥居長根Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
89	赤川Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
90	小友土室Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器
91	小友土室Ⅱ	散布地		土器
92	小友土室Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器、石棒
93	長洞	散布地	縄文	縄文土器（後期）
94	同地	散布地	縄文	縄文土器（晩期）
95	細越沢	散布地	縄文	縄文土器（晩期）
96	権現	散布地	縄文	縄文土器、石斧、石鏃
97	赤川	散布地	縄文	縄文土器、石斧、石鏃
98	清水川Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器（後期）、石棒、石斧
99	清水川Ⅱ	散布地		土器
100	伊原	散布地	縄文・平安	縄文土器、土師器
101	瀬内	集落跡	縄文	縄文土器（前末～中初期）、石斧
102	越田	散布地		土器
103	平倉観音	散布地	縄文	縄文土器（後末期）、注口土器
104	切掛	散布地	縄文	縄文土器、石鏃
105	地崎	集落跡	縄文	縄文土器（晩期）、石斧、石鏃
106	平倉	散布地	縄文	縄文土器、磨製石斧
107	林崎Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器（前末～中初期）、磨製石斧、土偶、石錐、石匙、石鏃
108	平野原	散布地	縄文	縄文土器（中期）、石器
109	平野原Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器

(住田町)

No.	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物
110	新田Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（後期）
111	新田山Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（後期）
112	新田山Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（後期）



第 5 图 周边遗迹分布图

Ⅲ 調査方法と室内整理

1. 野外調査の方法

(1) グリッドの設定

調査区の地区割りにあたっては、平面直角座標第Ⅹ系（世界測地系）に合わせ基準点1・2、補点8点を設定し、これを基準として、調査区に直交するメッシュがかかるようにグリッドを設定した。設定した基準点、補点の座標、最高値は以下の通りである。

基準点1 (3 F①)	X = -75,592.083	Y = 60,149.691	H = 282.809
基準点2 (6 F①)	X = -75,622.083	Y = 60,149.691	H = 284.605
補点1 (6 H②)	X = -75,622.082	Y = 60,174.691	H = 283.237
補点2 (6 D②)	X = -75,622.083	Y = 60,134.692	H = 285.181
補点3 (3 G②)	X = -75,592.083	Y = 60,164.691	H = 281.855
補点4 (10H②)	X = -75,662.082	Y = 60,174.691	H = 285.782
補点5 (10G②)	X = -75,662.082	Y = 60,164.691	H = 286.798
補点6 (10E②)	X = -75,662.082	Y = 60,144.691	H = 288.850
補点7 (12F③)	X = -75,687.082	Y = 60,149.691	H = 290.404
補点8 (12D④)	X = -75,687.082	Y = 60,134.692	H = 290.640

グリッドの設定に際しては、原点(1 A)を北西側隅にして、10m四方の大グリッドに分割した。このグリッドの南北方向の北から1・2・3……の番号を付し、東西方向の西からA・B・C……のアルファベットを付した。さらに大グリッドを5mメッシュに区割りし、中グリッドとした。中グリッドは北西側を①、北東側を②、南西側を③、南東側を④とし、1 A①、1 A②というように呼称した。

(2) 粗掘りと遺構検出

検出面の深さと層序の確認のため調査区に幅2m程のトレンチを12ヶ所設定し、土層・遺物の出土状況・検出面を確認し、重機による粗掘りを行った後、鋤簾・両刃鎌を用いて遺構検出を行った。トレンチの設定は基準杭設定の前に行っている。トレンチを設定したおおよかな位置は以下の通りである。

第1トレンチ……3 H①-3 H③-4 H①	第2トレンチ……2 G③-3 G①-3 G③-4 G①
第3トレンチ……2 F③-3 F①-3 F③	第4トレンチ……4 E②-4 E④-5 E②
第5トレンチ……4 G③-5 G①	第6トレンチ……4 H③-5 H①-5 G④・5 H③
第7トレンチ……5 G④-6 G①-6 F④	第8トレンチ……7 F①-6 F④・7 F②-6 G③
第9トレンチ……9 H①-9 H③-10H①	第10トレンチ……8 E④-8 F①・8 F③
第11トレンチ……11 E②・10 E④-10 F③-10 F②-10 G①	
第12トレンチ……5 D④-6 D②・6 E①-6 E③	

(3) 遺構の精査と実測

検出された遺構は、竪穴住居跡・住居状遺構は4分法、土坑・焼土類については2分法で行ったが、必要に応じて使い分けた。遺構の平面図および調査区の実測図は竪穴住居跡、陥し穴状遺構、土坑、焼土遺構類は1/20、竪穴住居内の炉跡は1/10を基本とした。

(4) 写真撮影について

写真撮影は35mm判カメラ2台（モノクロ、カラー・リバーサル）とモノクローム6×6cm判1台を使用し、適宜調査前の調査区、遺構の完掘状況、遺構の断面、遺構の埋土状況等の撮影を行った。また、調査終了前に空中写真撮影を行っている。

（5）遺物の取り上げについて

遺構内の出土遺物については、埋土、床面に分けて取り上げた。遺構外出土遺物については、一部を除き一括して取り上げた。

（6）遺構の命名

検出された遺構の命名については、種別毎に野外調査中の精査順に通し番号で1号竪穴住居跡、2号竪穴住居跡等と付した。室内整理の段階で遺構ごとに再検討し、番号の付け直しや遺構名の変更を行っている。

2. 室内整理の方法

（1）作業手順

室内整理は、遺物の水洗、出土地点を注記することから始め、遺物の仕分け、接合・復元、拓本作成、実測、写真撮影、遺物実測図のトレースの順に行った。遺構の実測図については点検・合成の後にトレースを行い、図版・写真図版の作成を順次進めた。

（2）遺 構

遺構配置図は、発掘調査時に作成した実測図を基に1/300の縮尺図を作成し、1/600で掲載している。各遺構図版の縮尺は、規模により1/20、1/40を用いそれぞれにスケールを付している。

（3）遺 物

遺物の分類・掲載方法については、第1に遺構内・遺構外出土によって選別した。第2に縄文土器・陶磁器・石器と種類別に大別し、第3に編年・器種・部位別によって分類した。土器については、遺構内出土のものは極力掲載するように努めたが、同種と判断される破片や小破片のものについては掲載していない。遺構外出土遺物に関しては一定量の出土量のあるものは掲載に堪えうる遺物を選択し掲載している。全体の様子が窺える資料はできるだけ実測図を作成したが、時間の都合上拓本で済ませているものも多い。破片資料はほとんど拓本で掲載した。縮尺率は、縄文時代の土器については1/3（器高30cmを超えるものは1/4）、土製品、銭貨、陶磁器については2/3を基本としている。石器については、剥片石器の一部を除き全て掲載している。ただし、時間の都合上写真のみの掲載が多い。遺構内出土のものは不定形石器を除き極力実測するように努めたが、一部写真のみのものもある。遺構外出土の石鏃・尖頭器・石匙・楔形石器等の出土量の多い物に関しては形状の似たものから選択し実測している。接合石器、陶磁器は写真のみの掲載である。実測図は小型のものは2/3で、大型のものは1/3を基本とし、遺構内、遺構外の順に掲載しているが一部異なるものもある。写真図版については遺構内、遺構外出土のものをまとめ器種ごとに掲載している。不定形石器については背面写真を基本に掲載している。

（4）掲載番号について

土器・土製品については遺構内、遺構外の順に、銭貨、陶磁器については種別ごとに1から通し番号を付している。石器については写真図版を基に器種ごとにS1から通し番号を付し、遺構内出土のものには写真図版の番号の下にアンダーラインを付している。

（5）凡 例

図中の土器はP、石はSの記号で表し、スクリーントーン等の表現は以下に示すとおりである。なお石器

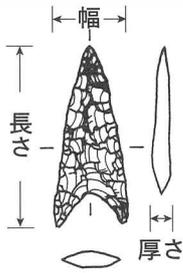
の計測については、第6図に示した基準で計測し、観察表にその数値を記入した。



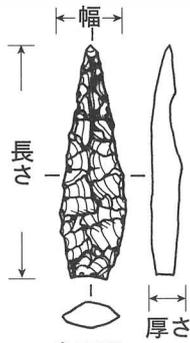
焼土



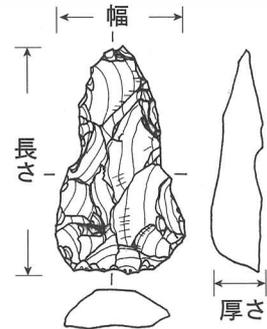
攪乱



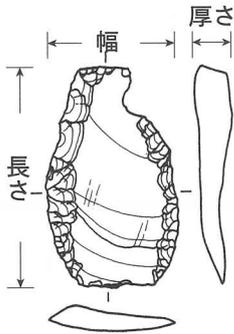
石鏃



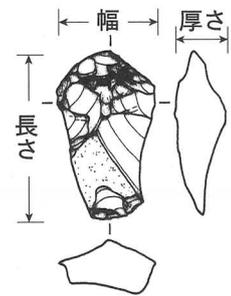
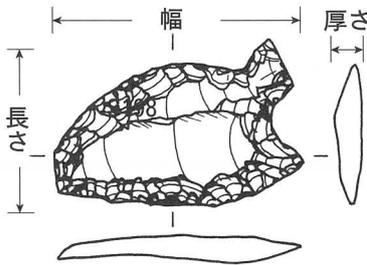
尖頭器



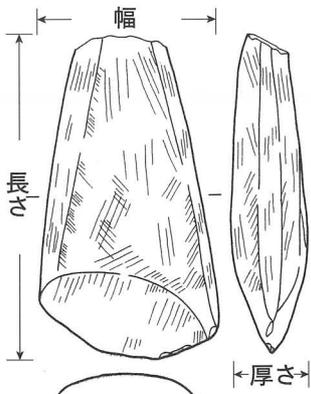
石鏃



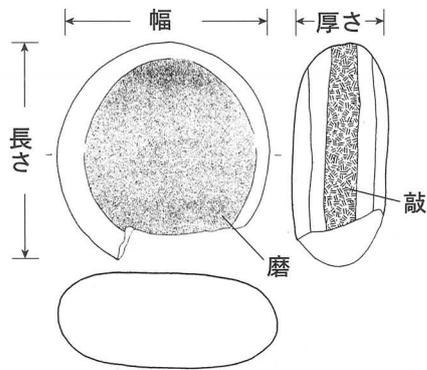
石匙



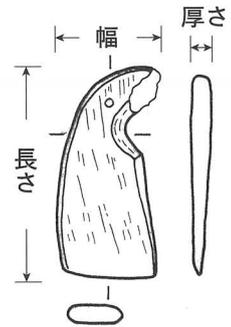
楔型石器



磨製石斧

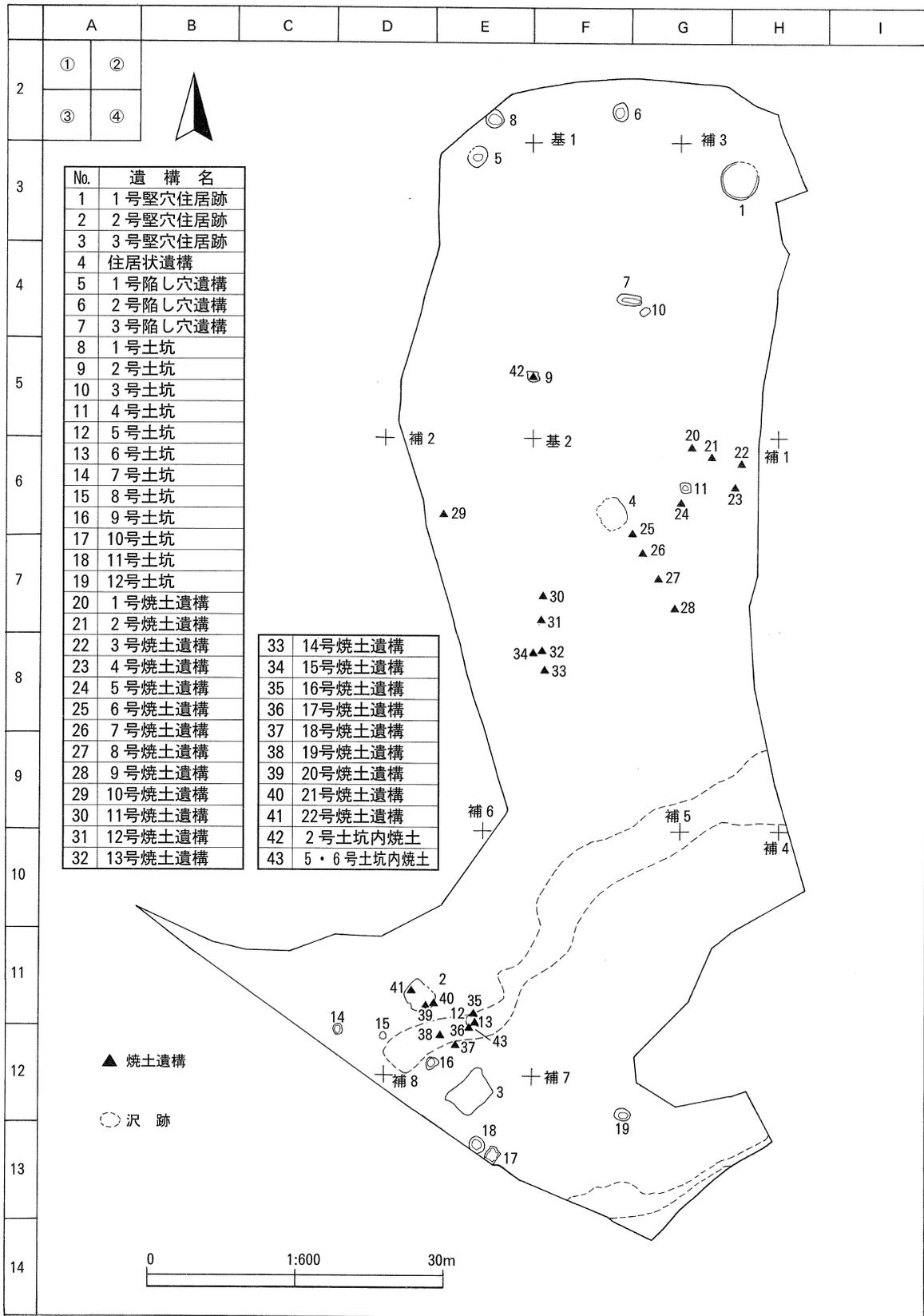


敲磨器



玩状耳飾

第6図 凡例



第7図 遺構配置図

IV 検出された遺構と遺物

検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡 2 棟、古代の竪穴住居跡 1 棟、住居状遺構 1 基、土坑12基、焼土遺構24基である。遺物は、縄文時代の土器13箱分（T-40規格（41×31×19）コンテナ）、石器類1089点、土製品17点、石製品 1 点、銭貨 6 点、中世・近世の陶磁器が 1 箱分（T-14規格（41×10×19）コンテナ）出土した。この項では事実を中心に記載し、考察等についてはまとめの項に記載している。

1. 竪穴住居跡・住居状遺構

1号竪穴住居跡（第8・9・26図、写真図版3・14）

〔位置〕 調査区北側の3H①グリッドに位置する。

〔検出状況〕 同グリッド内の岩手県教育委員会生涯学習文化課の試掘トレンチ跡を延長したところ、石囲炉と思われる礫の並びおよび土器を検出した。周囲を清浄したところV層上面に弧状の黒褐色プランを確認した。

〔重複〕 なし。

〔形状・規模〕 北東側の壁の一部が削平されていたため形状の詳細は不明であるが、検出部分から直径3.7m程の円形を呈するものと思われる。

〔埋土〕 黒褐色土を主体とし、9層に細別される。

〔壁・床面〕 削平のため北東側の壁は検出されなかった。東壁も最下部のみの検出である。検出された壁は、西側で18cm、南側で22cmを測り、床面から急傾斜で立ち上がっている。床面は平坦でやや縮まりがある。

〔柱穴〕 6基検出された。完掘時の位置から推定してP1-P3-P4-P6の四角形を構成する支柱穴の配置が考えられる。

柱穴No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6
開口部径 (cm)	19×22	14×14	16×13	36×23	15×15	25×21
深さ (cm)	43.5	20.8	45.6	36.0	17.4	41.4

〔炉〕 住居中央部からやや北側に複式炉を検出した。100×55cmの規模で、二つの石囲が連なる長方形状に花崗岩を組み合わせで構築している。炉は、V層を掘り込んでから炉石を設置している。焼土の厚さは最大で10cmを測る。

〔出土遺物〕 (1)の土器が1点、炉脇の住居埋土下層の4層から出土している。口縁から胴部の一部で円筒状の器形を呈し、口縁内面には焼けはじけがある。縄文時代中期後葉の土器（大木10式の深鉢）である。

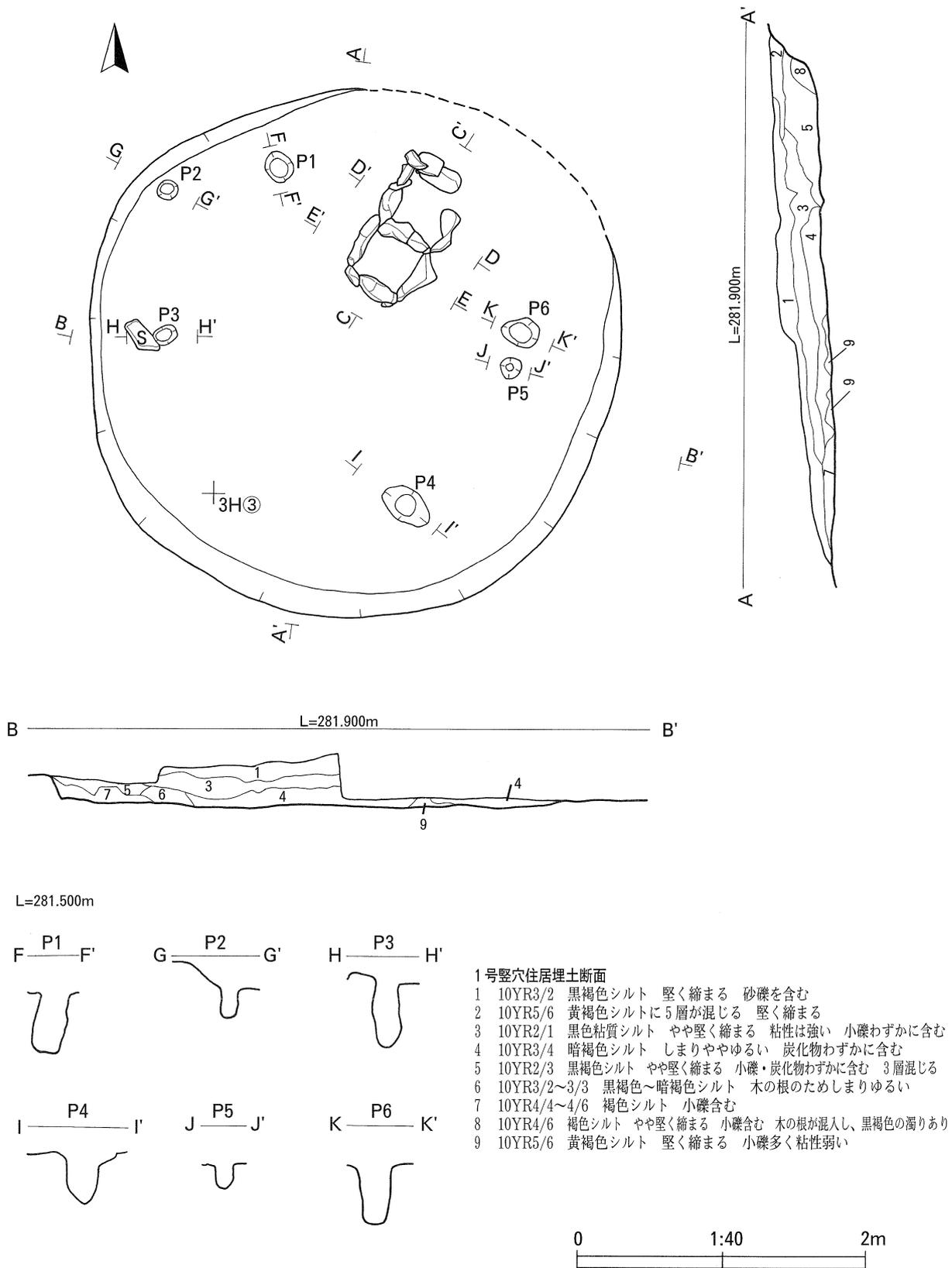
〔時期〕 出土遺物から縄文時代中期後葉と推定される。

2号竪穴住居跡（第10・11・26～29図、写真図版4・14～16・30・32・34・36）

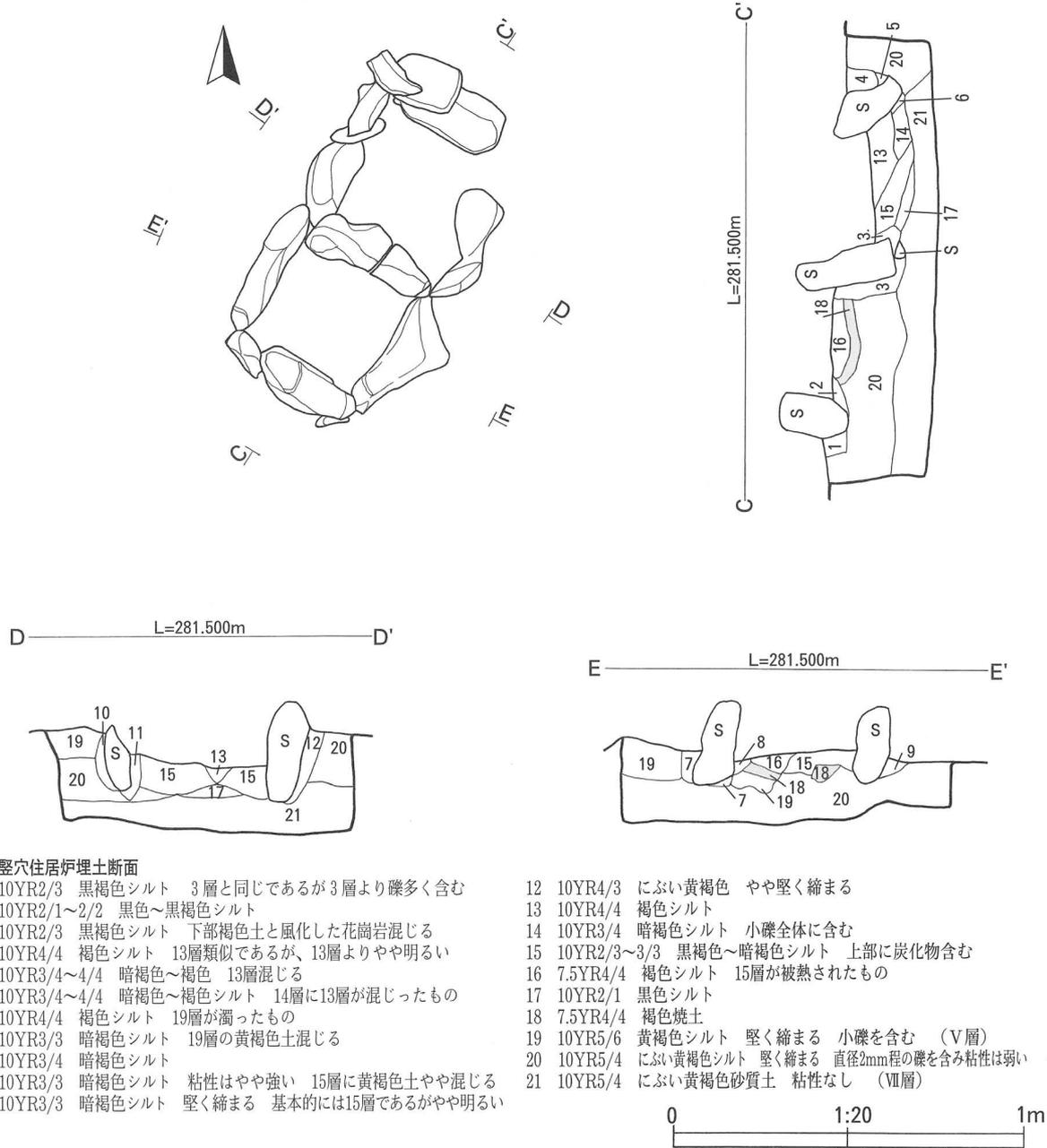
〔位置〕 調査区南西側の11D④グリッドに位置する。

〔検出状況〕 同グリッド付近のⅡ層～Ⅲ層除去中に遺物が集中して出土した。平面図に記録をとり周囲を精査しながら掘り下げたところ、V層面で方形の黒褐色プランの広がりを確認した。

〔重複〕 なし。



第8図 1号竖穴住居跡(1)



1号竪穴住居埋土断面

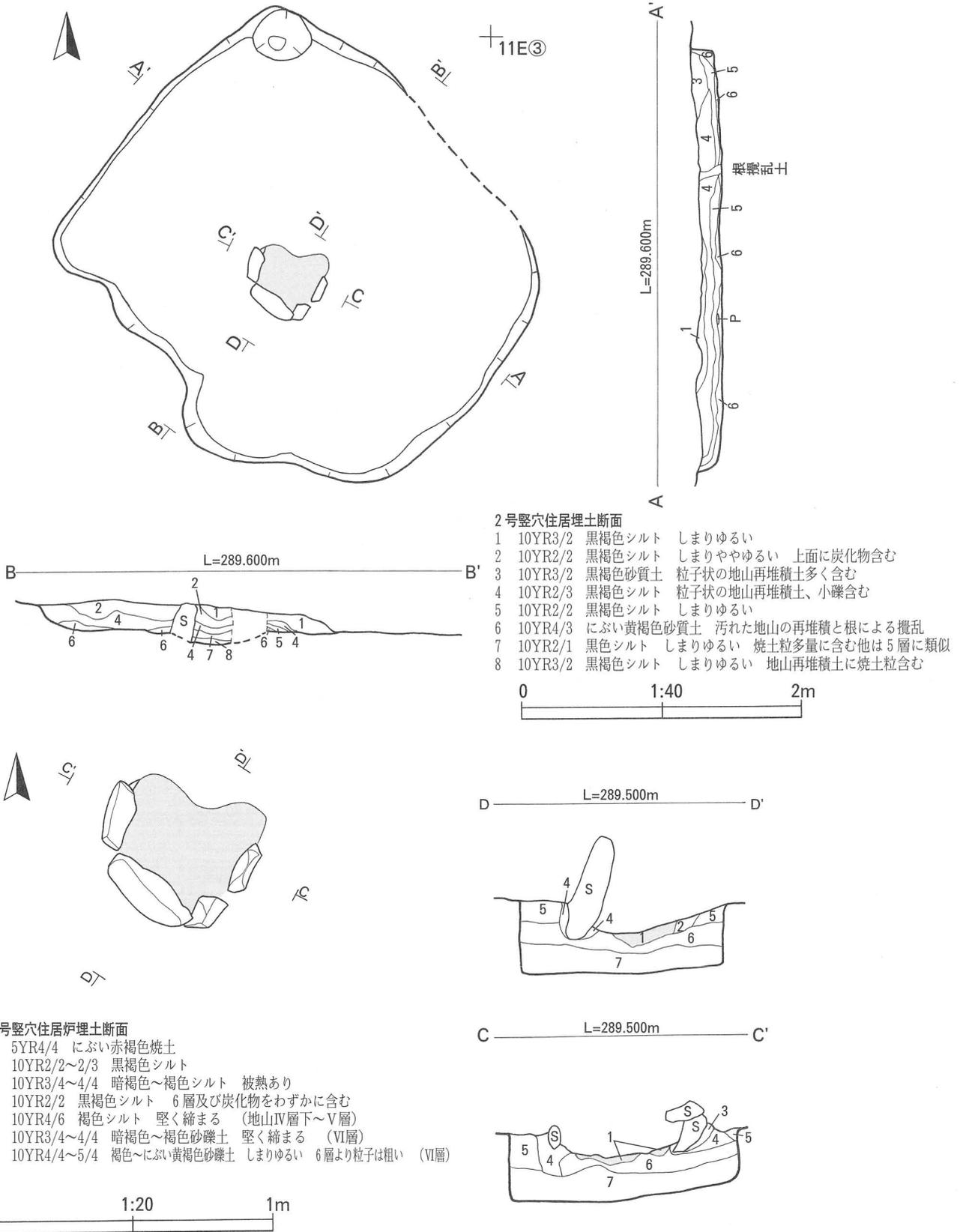
- | | |
|--|---|
| <p>1 10YR2/3 黒褐色シルト 3層と同じであるが3層より礫多く含む</p> <p>2 10YR2/1~2/2 黒色~黒褐色シルト</p> <p>3 10YR2/3 黒褐色シルト 下部褐色土と風化した花崗岩混じる</p> <p>4 10YR4/4 褐色シルト 13層類似であるが、13層よりやや明るい</p> <p>5 10YR3/4~4/4 暗褐色~褐色 13層混じる</p> <p>6 10YR3/4~4/4 暗褐色~褐色シルト 14層に13層が混じったもの</p> <p>7 10YR4/4 褐色シルト 19層が濁ったもの</p> <p>8 10YR3/3 暗褐色シルト 19層の黄褐色土混じる</p> <p>9 10YR3/4 暗褐色シルト</p> <p>10 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性はやや強い 15層に黄褐色土やや混じる</p> <p>11 10YR3/3 暗褐色シルト 強く締まる 基本的には15層であるがやや明るい</p> | <p>12 10YR4/3 にふい黄褐色 やや強く締まる</p> <p>13 10YR4/4 褐色シルト</p> <p>14 10YR3/4 暗褐色シルト 小礫全体に含む</p> <p>15 10YR2/3~3/3 黒褐色~暗褐色シルト 上部に炭化物含む</p> <p>16 7.5YR4/4 褐色シルト 15層が被熱されたもの</p> <p>17 10YR2/1 黒色シルト</p> <p>18 7.5YR4/4 褐色焼土</p> <p>19 10YR5/6 黄褐色シルト 強く締まる 小礫を含む (V層)</p> <p>20 10YR5/4 にふい黄褐色シルト 強く締まる 直径2mm程の礫を含み粘性は弱い (VI層)</p> <p>21 10YR5/4 にふい黄褐色砂質土 粘性なし (VII層)</p> |
|--|---|

第9図 1号竪穴住居跡

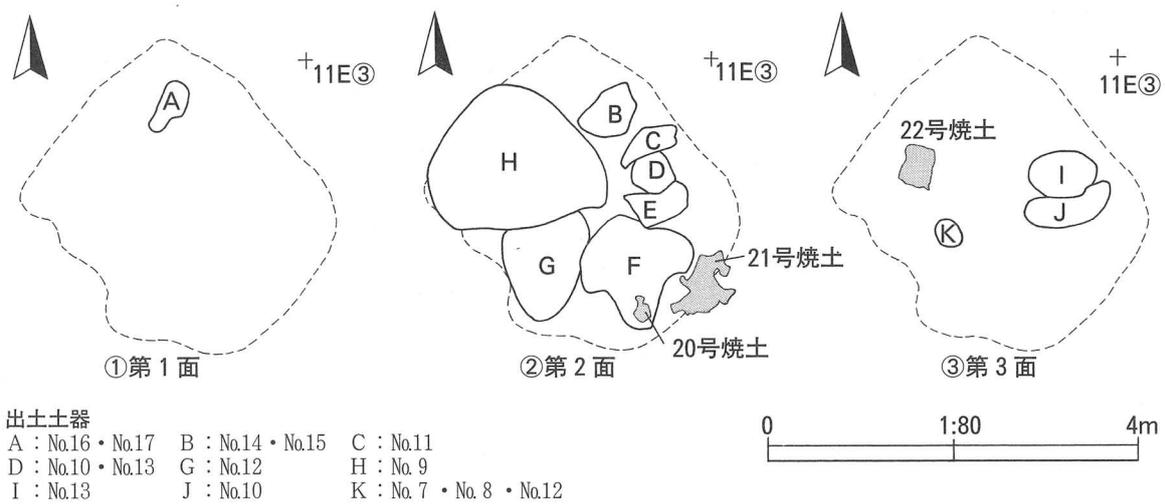
〔平面形・規模〕北東壁の一部は検出できなかった。詳細については不明であるが、検出部分から長軸3.1m、短軸2.7mの長方形を呈するものと思われる。

〔埋土〕黒褐色土を主体とし、8層に細別される。南西から北東の土層断面は一部不手際により確認していない部分がある。また、住居上面の遺物集中区については住居の埋土上面の土と似ていることから検出面より上面に壁の掘り込みがあったものと思われる。焼土については焼成部が平面的な広がりを示さず、焼土粒がブロック状に含まれていたため異地性の焼土（廃棄されたもの）と判断した。

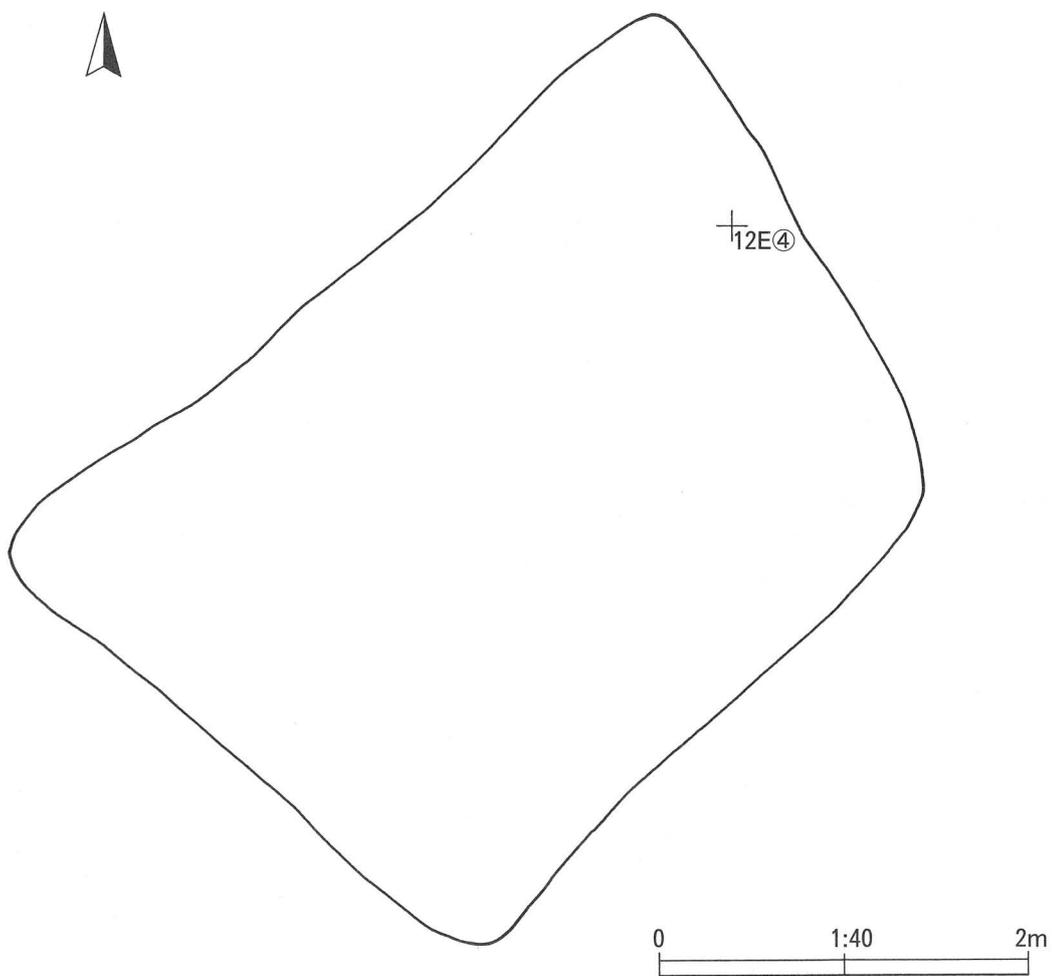
〔壁・床面〕北東側の壁の一部が削平されていた。検出された壁の壁高は、北西側と南西側が18cm、南東側が15cm程を測り、床面からやや急傾斜で立ち上がる。床面は平坦でやや締まりがある。



第10図 2号竪穴住居跡



第11图 2号竖穴住居跡埋土上面遺物出土範圍



第12图 3号竖穴住居跡

〔柱穴〕北壁際に1基検出した。長軸40cm、短軸37cmの不整の円形を呈し、深さは27.4cmである。

〔炉〕石囲炉を1基検出した。北側を構築する炉石は検出できなかったが、赤褐色の焼土の広がりを確認している。炉は掘り込んで花崗岩を炉石として設置しており、炉石を検出できなかった北東側においても、掘り込み跡が確認されていることから、抜け落ちたと推測され、方形基調であったものと思われる。検出部分での焼土の最大厚は10cmである。

〔出土遺物〕住居のベルトおよび埋土から後期前葉の土器片が出土している。検出面上面の出土遺物については出土範囲をA～Kで表し、掲載した土器のみ出土地点に番号を記している。なお検出した焼土についてはすべて異地性のもと判断し焼土範囲のみを図に記した。図は上面が①、中面が②、下面が③で標高は289.5m～289.37mの範囲である。住居検出面は289.35mで住居検出面との差は20cm程である。本遺構がある程度埋没した状態で焼土とともに土器や石器などの遺物を廃棄したもので本遺構とあまり時期差のないものと思われる。このため、これらの遺物については本住居出土遺物として扱った。住居検出面下面から出土したものは、(2)～(5)である。(2)は炉の埋土中から出土した皿形?土器で縄文の施されていない無文の土器である。(3)と(4)には刻みのある隆帯が貼り付けられている。(5)はベルト1層から出土したミニチュア土器で、無文丸底で胴部と底部の間に段を有する。検出面より上面から出土した遺物は、(6)～(17)で、それぞれの出土位置は観察表及び第11図に記している。(13)は器形および文様構成から宮戸I b式(後期前葉)に比定されるものである。(16)はミニチュア土器で、内外のほぼ全面に炭化物が付着している。器形は胴部に膨らみをもち、口縁は外反する。(17)は壺形?のものと思われる。全面に縄文が施されている。他に土器片が9号袋で2袋、石鏃9点(S9・S30・S31・S46～S51)、楔形石器2点(S85・S86)、不定形石器8点(S96～S99・S149・S169・S187・S188)、敲磨器1点(S203)、玦状耳飾1点(S207)が出土している。土器はほとんどが胴部小破片であるため掲載していない。焼土は上面から22号焼土、23号焼土、24号焼土である。

〔時期〕出土遺物から後期前葉と推定される。

3号竪穴住居跡(第12図、写真図版5)

〔位置〕調査区12E③グリッドに位置する。

〔検出状況〕鋤簾による遺構検出の際、黒褐色土に黒褐色～黒色土の方形プランを検出した。表土から浅いため根による攪乱をかなり受けている。

〔重複〕なし。

〔形状・規模〕規模は4.6m×3.1mの不整長方形である。

〔埋土〕黒褐色～黒色土を主体としている。

〔壁・床面〕攪乱及び削平のため不明である。

〔施設〕検出できなかった。

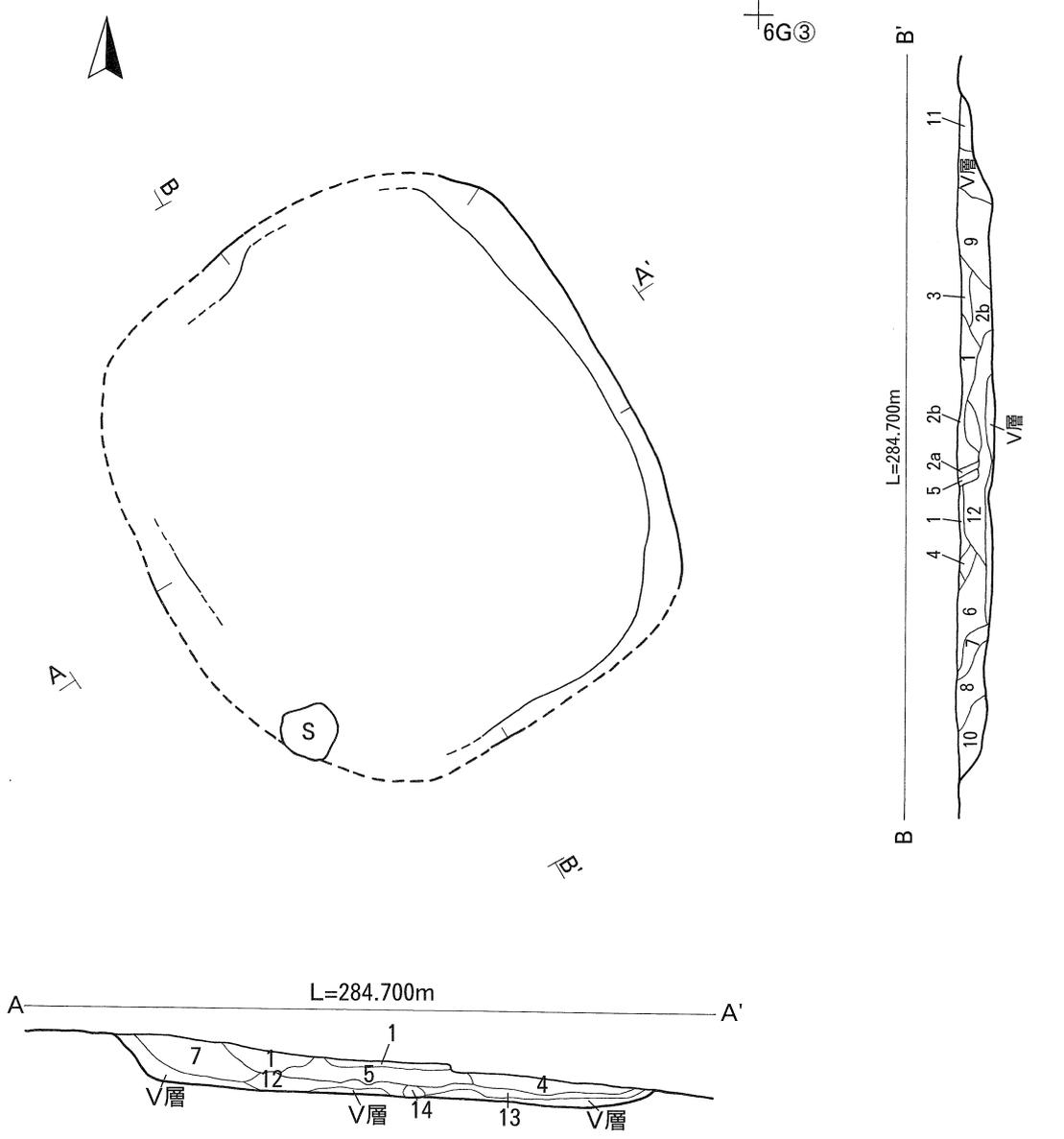
〔出土遺物〕なし。

〔時期〕埋土および形状から古代の住居である可能性が高い。

住居状遺構(第13・29図、写真図版5・16・30・33)

〔位置〕調査区中央の6F④グリッドに位置する。

〔検出状況〕表土除去後のV層において黒褐色のプランを検出した。周囲を精査したところ長方形の広がり



住居状遺構埋土断面

- 1 10YR2/1~2/2 黒~黒褐色シルト 強く締まる 部分的に中礫火山灰が混じる
- 2a 10YR3/3 暗褐色シルト 小礫やや含む
- 2b 10YR3/3 暗褐色シルト 小礫やや含む 炭化物片を数片含む
- 3 10YR2/2 黒褐色シルト
- 4 10YR3/3~3/4暗褐色シルト 強く締まる 9層類似
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト 強く締まる
- 6 10YR2/3 黒褐色シルト やや堅い 小礫含む
- 7 10YR2/3 黒褐色シルト 強く締まり粘性も強い 小礫含む
- 8 10YR3/4 暗褐色シルト 小礫含む
- 9 10YR3/3 暗褐色シルト 強く締まる 木の根が入る 小礫含む
- 10 10YR4/4 褐色シルト 強く締まる 礫を含む
- 11 10YR3/3 黒褐色シルト 粘性強い
- 12 10YR2/3~3/3 黒褐色シルト 2b層が混じる しまりややゆるい 大きめの礫を含む
- 13 10YR3/4~4/4 暗褐色~褐色シルト 強く締まる
- 14 10YR2/2~2/3 黒褐色シルト しまりゆるい

第13図 住居状遺構

を確認した。

〔重複〕 なし。

〔形状・規模〕 近隣遺跡同様に本遺構も壁際に溝が検出されるものと思ひ掘りすぎてしまった。波線は上場及び下場の推定線である。平面形は検出時に確認した不整長方形になるものと思われる。ベルト断面から規模は3.9m×3.0mと推定される。

〔埋土〕 黒褐色土を主体とし、14層に細別される。風化した花崗岩の小礫を含む層が多い。埋土上面には十和田火山起源の中礫火山灰の褐色ブロックが混じる。

〔壁・床面〕 ベルト断面から壁高は南西壁26cm、北西壁12cm、北東壁10cm、南東壁20cm程である。床面は固く締まっている。

〔柱穴〕 検出されなかった。

〔炉〕 検出されなかった。

〔出土遺物〕 埋土中から土器の小破片が8点、石器が2点出土している。土器は(18)の1点のみ掲載した。(18)は13層から、(S1)の石鏃は8層から、(S126)の不定形石器は7層からそれぞれ出土している。(18)は胴部破片である。原体は複節(LRL)で胎土に繊維を含む。

〔時期〕 出土遺物は破片で出土数も少なく時期決定の要素を欠くものと思われる。時期は不明である。

2. 陥し穴状遺構

1号陥し穴状遺構 (第14・29図、写真図版6・16・38)

〔位置〕 3E①～3E②グリッドに位置する。

〔検出状況〕 表土除去後のIV層面で方形の攪乱土と薄い黒色のしみ状の広がりを確認した。半裁したところ下方に弧状の黒褐色プランを確認した。

〔重複〕 なし。

〔形状・規模〕 長軸2.15m、短軸1.95mの不整円形を呈する。断面形はおおむね台形状を呈し検出面からの深さは1.12mである。

〔埋土〕 暗褐色を主体とし、17層に細別される。風化した花崗岩の粒子を含む層が多い。1層、2層は攪乱土である。

〔壁・底面〕 V層～VIII層を壁とし、底はVIII層である。壁は底から急傾斜で立ち上がっている。底面には長軸30cm、短軸27cmの円形の副穴がある。副穴の深さは29.7cmである。

〔出土遺物〕 3層下面から(19)・(20)の土器が出土している。胎土に繊維を含むものである。

〔時期〕 形状から縄文時代早期末葉～前期初頭のものと思われる。

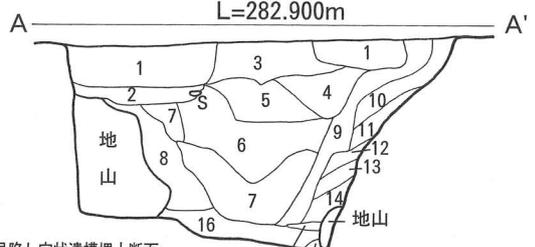
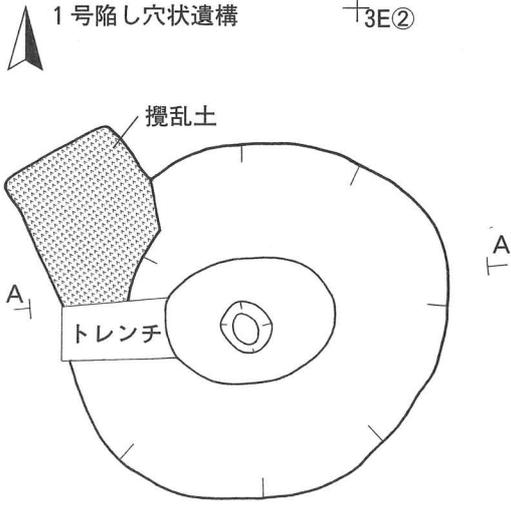
2号陥し穴状遺構 (第14図、写真図版6)

〔位置〕 2F④グリッドに位置する。

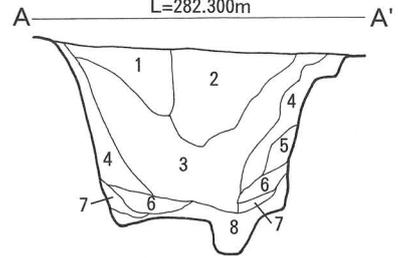
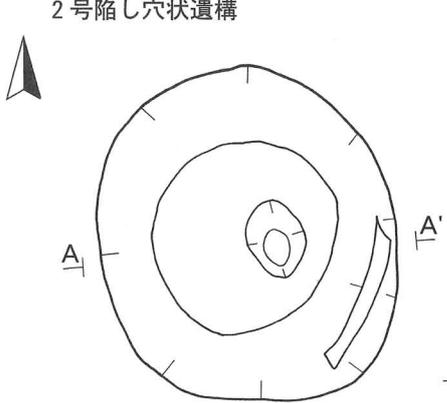
〔検出状況〕 V層面でしみ状に広がる薄い黒色の広がりを確認した。

〔重複〕 なし。

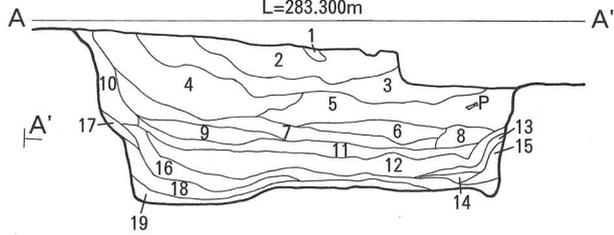
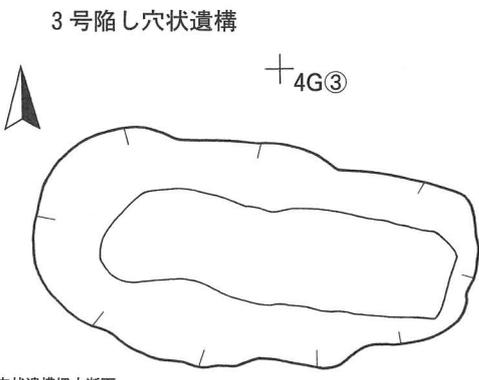
〔形状・規模〕 長軸1.88m、短軸1.63mの不整円形を呈する。断面形はおおむね台形状を呈し検出面からの深さは94cmである。



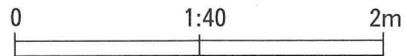
- 1号陥し穴状遺構埋土断面
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 攪乱土
 - 2 10YR3/2 黒褐色シルトと10YR4/4褐色シルトの混合土 1層と褐色土の混合土
 - 3 10YR3/4 暗褐色シルト 強く締まっている 小礫を含む
 - 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強く、強く締まっている 小礫を含む
 - 5 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや強く、小礫を多量に含む
 - 6 10YR4/4 褐色シルトと5層の混合土
 - 7 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや強い 小礫と炭化物わずかに含む
 - 8 10YR4/4 褐色シルト やや強く締まる 小礫を含む 粘性弱い
 - 9 10YR3/4~4/4 暗褐色~褐色シルト 強く締まり粘性も強い 礫を含む
 - 10 10YR4/4 褐色シルト やや強く締まる 小礫含む
 - 11 10YR5/6 黄褐色シルト 強く締まる 粘性なし 直径5mm程の礫を多量に含む
 - 12 10YR4/4~4/6 褐色シルト 強く締まる 粘性なし 直径5mm程の礫を含む
 - 13 10YR4/4 褐色シルト 強く締まる 粘性なし 直径5mm程の礫を多量に含む
 - 14 10YR3/4 暗褐色シルト しまりややゆるい 粘性やや弱い 直径3mm程の礫を多量に含む
 - 15 10YR4/4 褐色粘質土 強く締まり粘性も強い
 - 16 10YR5/6 黄褐色シルト 礫を含む
 - 17 10YR5/4 ぶい黄褐色 砂質土と粘質土の混合土 やや強く締まる 粘性やや強い



- 2号陥し穴状遺構埋土断面
- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 根による攪乱あり 風化した花崗岩ブロック含む
 - 2 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや強い 根による攪乱あり
 - 3 10YR3/3 暗褐色シルト 10YR3/4暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合土 小礫含む
 - 4 10YR4/3 ぶい黄褐色シルト 小礫含む
 - 5 10YR4/4 褐色シルト 砂質で粘性なし 砂礫含む
 - 6 10YR3/4 暗褐色シルト しまりややゆるい
 - 7 10YR4/4 褐色 粘性なし 風化した花崗岩を多量に含む
 - 8 10YR2/3 黒褐色シルト 少量の炭化物と小礫を含む



- 3号陥し穴状遺構埋土断面
- 1 10YR1.7/1 黒色シルト しまりゆるい
 - 2 10YR2/3 黒褐色シルト やや強く締まる 粘性やや強い
 - 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや強い わずかに小礫含む
 - 4 10YR2/3 黒褐色シルト しまりややゆるい 褐色土を全体に含む わずかに炭化物含む
 - 5 10YR2/3 黒褐色シルト やや強く締まる 粘性やや強い
 - 6 10YR3/2~3/3 黒褐色~暗褐色シルト 粘性強い わずかに小礫含む
 - 7 10YR3/2~3/3 黒褐色~暗褐色シルト やや強く締まる 褐色土多量に含む 小礫含む
 - 8 10YR2/3 黒褐色シルト 強く締まり粘性も強い 小礫と褐色土含む
 - 9 10YR4/6 褐色シルト 強く締まる 粘性弱い 小礫多い
 - 10 10YR4/6~5/6 褐色~黄褐色シルト 粘性やや弱い 小礫多量に含む
 - 11 10YR2/3~3/3 黒褐色~暗褐色シルト 粘性強い 直径5mm程の礫をわずかに含む
 - 12 10YR5/6 黄褐色シルト しまりやや強い 粘性なし 小礫多量に含む
 - 13 10YR3/4~4/4 暗褐色~褐色シルト 粘性なし 小礫多量に含む
 - 14 10YR4/6 褐色シルト 粘性弱い 小礫と直径5mm程の礫含む
 - 15 10YR4/4~4/6 褐色砂質土 しまりややゆるい 粘性なし 炭化物わずかに含む
 - 16 10YR3/3 暗褐色シルト しまりややゆるい 粘性やや強い 砂礫含む
 - 17 10YR5/4 ぶい黄褐色砂質土 しまりゆるい 粗砂で粘性なし
 - 18 10YR4/4~4/6 褐色砂質土 しまりややゆるい 粘性なし
 - 19 10YR3/2~3/3 黒褐色~暗褐色シルト 粘性弱い 小礫多い



第14図 陥し穴状遺構

〔埋土〕 上部黒褐色、下部暗褐色土を主体とする8層に細別される。風化した花崗岩の粒子を含む層が多い。

〔壁・底面〕 V層～VIII層を壁とし、底はVIII層である。壁は底から急傾斜で立ち上がっている。底面には長軸43cm、短軸29cmの楕円形の副穴がある。副穴の深さは35.7cmである。

〔出土遺物〕 埋土中から胎土に繊維を含む土器の小破片等が4点出土している。

〔時期〕 形状から縄文時代早期末葉～前期初頭のものと思われる。

3号陥し穴状遺構（第14・29図、写真図版6・16・31・33）

〔位置〕 4F④～4G①グリッドに位置する。

〔検出状況〕 表土除去後のV層面での検出である。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 長軸2.38m、短軸1.23mの不整の楕円形を呈する。断面形は台形状を呈し、検出面からの深さは80cmである。

〔埋土〕 上部黒褐色土、下部暗褐色土を主体とする19層に細別され、レンズ状の自然堆積である。風化した花崗岩の粒子を含む層が多い。

〔壁・底面〕 V層～VII層を壁とし、底はVII層である。壁は底面から急傾斜で立ち上がる。

〔出土遺物〕 埋土上面から(21)の土器、(S60)の尖頭器、(S127)の不定形石器が出土している。

〔時期〕 不明であるが、形状から縄文時代と思われる。

3. 土坑

1号土坑（第15・30図、写真図版6・35）

〔位置〕 調査区2E④グリッドに位置する。

〔検出状況〕 表土除去後のIV層面での検出である。

〔重複〕 なし。

〔形状・規模〕 開口部径1.76mのほぼ円形を呈す。断面形状は浅鉢状を呈し検出面からの深さは60cmを測る。

〔埋土〕 上部黒褐色土、下部は暗褐色土を主体とする。22層に細別される。風化した花崗岩粒子を含む層が多く、埋土下層には薄く広がる炭化物の層がある。レンズ状の自然堆積である。

〔壁・底面〕 V層面を掘り込んでいる。

〔出土遺物〕 埋土上層の12層から(S202)の敲磨器が出土している。

〔時期〕 縄文時代のものと思われる。

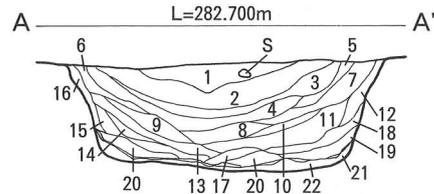
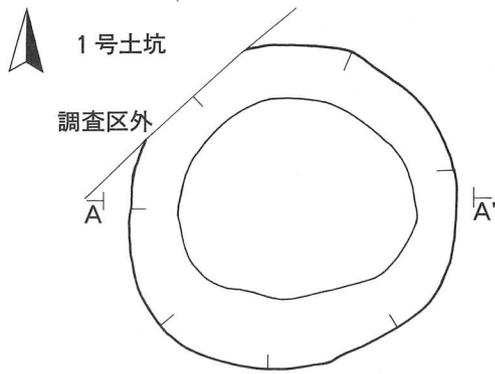
2号土坑？（第15・29図、写真図版7・16・32～34・36・37）

〔位置〕 5E②～5F①グリッドに位置する。

〔検出状況〕 表土除去後のIV層下面～V層において、石器（接合石器等）が集中して検出された。周囲を精査したところ木の根の攪乱とも取れる黒色のしみ状の広がりを確認した。半裁したところ焼土が検出されたため土坑の可能性があると判断し、この項に含めた。

〔重複〕 なし

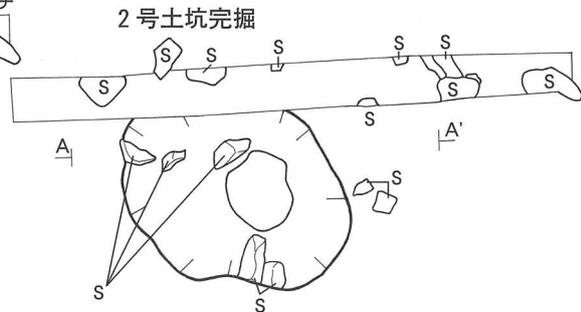
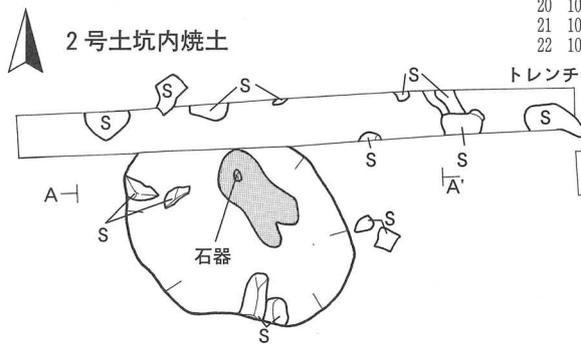
〔形状・規模〕 開口部径1.3m×1.1mの不整の楕円形を呈する。焼土底面が底と考えられる。検出面から深



1号土坑埋土断面

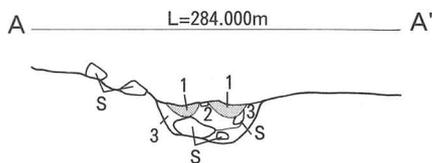
- 1 10YR2/1 黒色シルト 小礫含む II層下類似
- 2 10YR2/3 黒褐色シルト 炭化物・小礫を含む III層類似でやや赤味がある
下層は黒みが強く花崗岩の小礫を多量に含む
- 3 10YR3/3 暗褐色礫 小〜中礫を多量に含む 礫の堆積層
- 4 10YR3/4 暗褐色シルト 炭化物を含む 下層に小礫含む
- 5 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性強い 炭化物を含む 赤味があり2層より明るい
- 6 10YR3/4~4/4 暗褐色〜褐色シルト やや堅く締まる 小礫を多量に含む
- 7 10YR4/4 褐色シルト 粘性強い 粒子は他層より小さい
- 8 10YR3/3 暗褐色シルト 堅く締まる 小礫多量に含む粘性はない
- 9 10YR3/3 暗褐色シルト やや堅く締まる 粘性強い 小礫多量に含む 8層より黒味あり
- 10 10YR2/3 黒褐色シルト しまりややゆるい 粘性は強い
- 11 10YR3/4 暗褐色シルト しまりややゆるい
- 12 10YR4/6 褐色シルト 16層類似であるが礫はあまり含まない
- 13 10YR2/2 黒褐色シルト 堅く締まり粘性も強い 小礫を含む
- 14 10YR3/4 暗褐色シルト 堅く締まる
- 15 10YR4/6 褐色シルト やや堅く締まり粘性は強い 小礫をわずかに含む
- 16 10YR4/6 褐色シルト 砂礫を含む
- 17 10YR3/4 暗褐色シルト 小礫を含む
- 18 10YR2/3 黒褐色シルトに10YR2/1黒色シルト10YR3/4暗褐色シルト混じる 粘性強い
- 19 10YR2/3 黒褐色シルト 18層に炭化物を含んだもの
- 20 10YR4/4 褐色シルト 堅く締まる 小礫を多量に含む
- 21 10YR2/1 黒色 炭化物の層
- 22 10YR4/6~5/6 褐色〜黄褐色シルト かなり堅く締まる 小〜中礫を多量に含む粘性なし

3E②



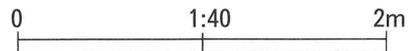
5F③

5F③



2号土坑内焼土断面

- 1 7.5YR3/2 黒褐色シルト しまりはかなりゆるい 炭化物わずかに含む
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまりはゆるい 地山が根の影響で濁った可能性あり
- 3 V~VI層



第15図 土坑(1)

さは10cm程である。

〔埋土〕 3層に細別しているが、2層・3層はV層およびVI層が木の根の攪乱を受けているものと思われる。

〔壁・底面〕 根による攪乱もあり、焼土下は濁っていた。周囲は砂礫層である。底は焼土下の1層下面になるものと思われる。土坑の上面が削平されたものか、あるいは石器製作に関連する施設の存在が考えられる。

〔焼土〕 56cm×20cmの不整形で厚さは最大8cmを計る。異地性の焼土の可能性もある。焼土内には石器の剥片が含まれている。根による攪乱のためかかなり濁っている。

〔出土遺物〕 剥片石器が焼土上面の埋土および周囲から9号袋で2袋程出土している。一部接合されたものも存在する。(22)は焼土半裁時に出土した土器である。原体は0段多条で同一原体を用い方向を変え施文し、羽状の文様をなしている。胎土には繊維を含む。(S208)・(S209)・(S210)は出土石器を接合したものである。写真のみ掲載している。

〔時期〕 縄文時代のものと思われる。

3号土坑 (第16図、写真図版7)

〔位置〕 4G③グリッドに位置する。

〔検出状況〕 表土除去後のV層面での検出である。東側はやや攪乱されている。

〔重複〕 なし。

〔形状・規模〕 開口部径1.03m×0.96mの円形を呈する。断面形状は壁が開口部より広がる袋状を呈し、検出面からの深さは58cmを測る。

〔埋土〕 黒褐色土を主体とし、13層に細別される。風化した花崗岩粒を含む層が多い。

〔壁・底面〕 壁はV層～VII層で礫層を底としている。

〔出土遺物〕 埋土上面から土器の小破片が3点出土している。

〔時期〕 不明である。

4号土坑 (第16図、写真図版7)

〔位置〕 6G①～6G④グリッドに位置する。

〔検出状況〕 表土除去後のIV層面での検出である。

〔重複〕 なし。

〔形状・規模〕 開口部径1.15m×1.00mの不整な円形を呈し、検出面からの深さは34cmを測る。断面形は浅鉢状である。

〔埋土〕 暗褐色土を主体とする5層に細別される。全体に炭化物を含み締まりがゆるい。埋め戻した可能性もある。

〔壁・底面〕 IV層～V層。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 不明であるが、埋土および炭化物の状態から新しい可能性がある。

5号土坑 (第17・30図、写真図版7・16)

〔位置〕 11E③グリッドに位置する。

〔検出状況〕 上面の17号焼土半裁時の精査中に黒褐色のプランをわずかに検出した。III層面での検出である。

〔重複〕 6号土坑と切り合っている。

〔形状・規模〕 6号土坑と切り合っているため、詳細は不明であるが検出部から平面形状は砲弾型を呈するものと思われる。断面形状は浅鉢状を呈し、検出面からの深さは20cm程である。底部の窪みは花崗岩が抜けた跡で意図的要因は低いと思われるが顕著なので図に記した。

〔埋土〕 3層に細別され、1層は基本土層のⅡ層とⅢ層の混合土で、埋め戻している可能性がある。

〔壁・底面〕 Ⅲ層・Ⅳ層を壁とし、底はⅤ層である。

〔出土遺物〕 (23)の土器が出土している。胴部に膨らみをもち口縁は外反する。無節の縄文(L)を原体とし原体の末端結節による綾線文をもつ。口縁部はナデによる調整が施され無文である。

〔時期〕 出土遺物から後期前葉の可能性がある。

6号土坑(第17・30図、写真図版7・8・16)

〔位置〕 11E③～11E④グリッドに位置する。

〔検出状況〕 上面の17号焼土を除去し、5号土坑精査中に切り合いを確認した。Ⅲ層面での検出である。

〔重複〕 5号土坑と切り合っている。

〔形状・規模〕 5号土坑と切り合っているため詳細は不明である。断面形状は浅鉢状を呈し、検出面からの深さは32cmを測る。

〔埋土〕 4層に細別される。主体は風化した花崗岩、炭化物を多量に含む黒褐色土である。

〔壁・底面〕 Ⅲ層・Ⅳ層を壁とし、底はⅤ層で、5号土坑より上面に位置する。

〔焼土遺構〕 28cm×10cmの範囲に厚さ7cm程の焼土を確認している。焼土下面の3層は5号土坑の1層に、4層は基本層序Ⅵ層にあたる。5号土坑に一部入るが焼土の底が本遺構の底と同じ高さであることから本遺構に伴うものと思われる。

〔新旧関係〕 焼土が両土坑に入り込んでいることと、焼土の底が6号土坑の底と同じ高さで5号土坑の埋土が焼土下にあることから6号土坑が新しく5号土坑が古いものと思われる。両土坑出土の土器は接合されなかった。

〔出土遺物〕 埋土の2層から(24)の土器が出土している。胴部に膨らみをもち、口縁部はやや外に開く。単節の縄文(LR)を原体とし、原体の末端結節による綾線文をもつ。口縁部はナデによる調整が施され無文である。

〔時期〕 出土遺物から後期前葉の可能性がある。

7号土坑(第16・30・31図、写真図版8・17・18)

〔位置〕 11D③～12D①グリッドに位置する。

〔検出状況〕 Ⅳ層面に黒褐色の不整形のプランを検出したが、重機による攪乱のため当初は土坑とは気付かなかった。多量の土器片が出土したことから土坑と判断した。

〔重複〕 なし。

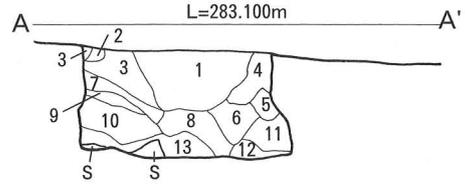
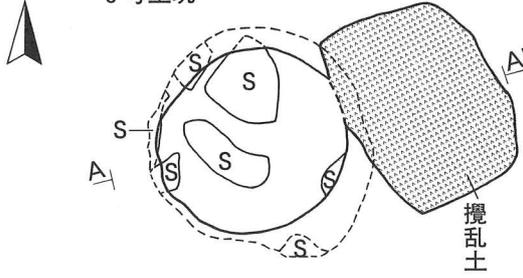
〔形状・規模〕 土坑周辺が攪乱されているため詳細は不明である。検出部から長軸1.11m、短軸0.96mの不整形円形と推定される。断面形状は浅鉢状を呈し、検出面からの深さは32cmを測る。

〔埋土〕 粘性のある黒褐色土を主体とし、しまりはゆるい。

〔壁・底面〕 Ⅴ層である。

〔出土遺物〕 (25)～(34)の10点を掲載した。他に土器の小破片が9号袋で1袋出土している。土坑出土土器として一括して取り上げた。ただし(25)は土坑脇の攪乱土から出土したもの、(31)の破片のほとんどは土坑周辺からの出土で口縁の一部のみが土坑内からの出土である。土坑上面の攪乱に伴い、破片が周囲に広がった可能性もあるため本土坑内出土遺物として扱っている。(27)～(31)は壺形の土器で、(27)の

3号土坑

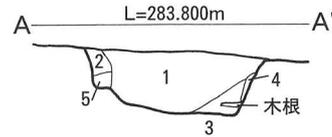
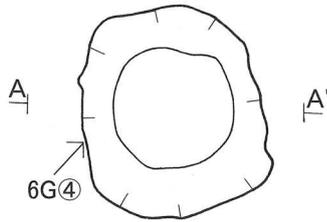


3号土坑埋土断面

- 1 10YR2/1 黒色シルト 強く締まり粘性強い
- 2 10YR5/6 黄褐色シルト 強く締まる 小礫多く粘性なし
- 3 10YR3/4 暗褐色シルト ややゆるい 小礫含む 上層に炭化物含む
- 4 10YR2/3~3/3 黒褐色~暗褐色シルト 10YR5/6黄褐色シルトと小礫含む
- 5 10YR4/4~4/6 褐色シルト しまりややゆるい 粗砂を含む
- 6 10YR2/1 黒色シルト 強く締まり粘性強い
- 7 10YR2/2 黒褐色シルト しまりややゆるい
- 8 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや強い 粗砂をわずかに含む
- 9 10YR3/4 暗褐色シルト しまりややゆるい 3層類似 粘性は3層より強い
- 10 10YR2/3 黒褐色シルト しまりややゆるい 小礫をわずかに含む
- 11 10YR3/4~4/4 暗褐色~褐色シルト しまりゆるい 中礫を多く含む粘性なし
- 12 10YR2/2~2/3 暗褐色シルト 粘性強い 13層に褐色土と小礫が混じったもの
- 13 10YR2/2~2/3 暗褐色シルト 粘性強い

+5G①

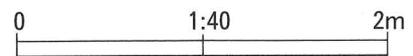
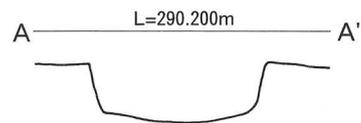
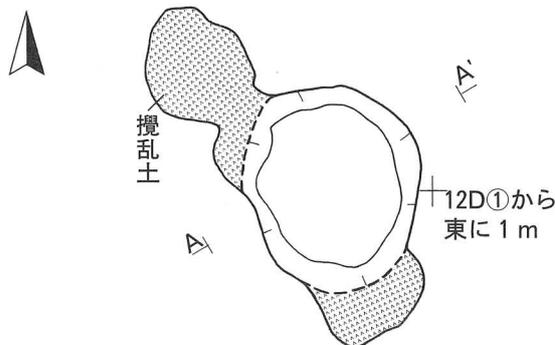
4号土坑



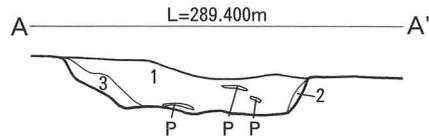
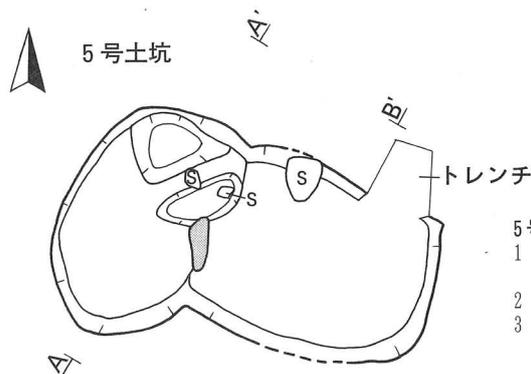
4号土坑埋土断面

- 1 10YR2/2~2/3 黒褐色シルト 粘性やや強い 炭化物を含む
- 2 10YR2/3 黒褐色シルト 1層・3層の混合土 炭化物を含む 根による攪乱の為しまりはゆるい
- 3 10YR3/4 暗褐色シルト しまりややゆるい 木の根が入る
- 4 10YR3/4~4/4 暗褐色~褐色シルト しまりややゆるい 炭化物・小礫を含み、3層混じる
- 5 10YR3/4~4/4 暗褐色~褐色シルト しまりややゆるい 炭化物・小礫を含む

7号土坑

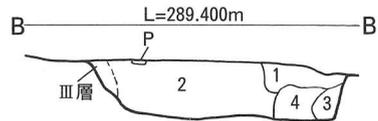


第16図 土坑 (2)



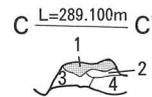
5号土坑埋土断面

- 1 10YR2/1 黒色シルト しまりやゆるい 粒状の小礫多量に含み、一部上層に焼土粒・炭化物を含む 土器出土
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト しまりゆるい 粒状の小礫多量に含む
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト しまりやゆるい 黒色土とIV層の混合土



6号土坑埋土断面

- 1 10YR3/1 黒褐色シルト 炭化物含む 壁が崩れて流れ込んだ土と思われる
- 2 10YR3/1 黒褐色シルト 粒状の小礫を多量に含む 土器・炭化物含む 4層付近にV層ブロック含む
- 3 10YR2/1 黒色シルト しまりゆるい 根による攪乱でII層が落ち込んだものと思われる
- 4 10YR2/2 黒褐色シルト III層土多く含む

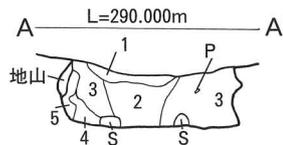
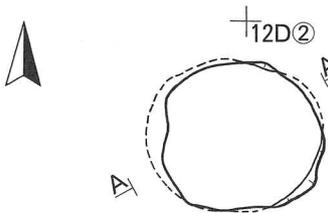


5・6号土坑内焼土

- 1 7.5YR4/6 褐色焼土
- 2 10YR3/2 黒褐色砂質土 しまりやゆるい 焼土粒混じる
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト 小礫含む (5号土坑の1層)
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土



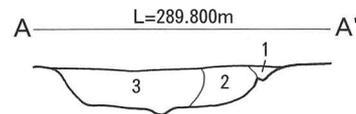
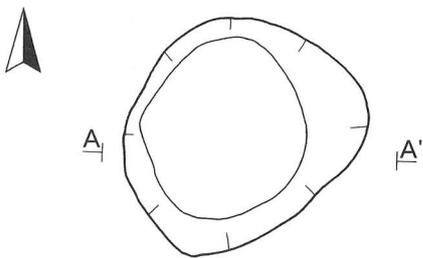
8号土坑



8号土坑埋土断面

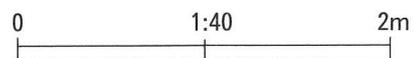
- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや強い 直径3mm程の炭化物含む
- 2 10YR2/1 黒色シルトに10YR6/6明黄褐色のV層ブロック含む 粘性やや強い
- 3 10YR2/1 黒色シルト 粘性強い V層の再堆積土粒子状に含む 土器出土
- 4 10YR3/1 黒褐色シルト 根による攪乱の為しまりはゆるい 粘性やや強い
- 5 10YR6/6 明黄褐色シルト しまりゆるい 粘性やや強い V層の再堆積もしくはV層が根による攪乱を受けたもの

9号土坑



9号土坑埋土断面

- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト しまりゆるい 底部に10YR3/1黒褐色シルト混じる
- 2 10YR3/1 黒褐色シルト 3層と同じ 攪乱のためか色調は3層より黒い
- 3 10YR3/1 黒褐色シルト VII層を粒子状に多量に含む 直径5mm程の炭化物含む



第17図 土坑(3)

内外面および(30)・(33)の外面には赤色顔料の施された跡が確認される。(27)は切断蓋付土器である。(33)・(34)は同一個体の可能性がある。

〔時期〕出土遺物から後期前葉の墓壇の可能性はある。

8号土坑(第17・31図、写真図版8・18)

〔位置〕12D①～12D②グリッドに位置する。

〔検出状況〕V層面での検出である。

〔重複〕なし。

〔形状・規模〕長軸88cm、短軸78cmの不整円形を呈する。深さは34cmを測り、断面は壁が開口部より広がる袋状である。

〔埋土〕黒色土を主体とする5層に細別される。人為堆積の可能性はある。

〔壁・底面〕V層である。

〔出土遺物〕(35)・(36)の土器を掲載した。他に4号袋で1袋ほど土器の小破片が出土している。いずれも埋土上面からの出土である。

〔時期〕不明である。

9号土坑(第17・31図、写真図版8・18)

〔位置〕12D②～12E①グリッドに位置する。

〔検出状況〕V層面での検出である。

〔重複〕なし。

〔形状・規模〕長軸1.34m、短軸1.12mの不整円形を呈する。深さ24cmを測り、断面形状は浅鉢状である。

〔埋土〕3層に細別される。根による攪乱を受けている。

〔壁・底面〕V層である。

〔出土遺物〕埋土上面から土器片が出土している。(37)・(38)の2点を掲載した。

〔時期〕不明である。

10号土坑(第18・19・31・32図、写真図版8・9・18・19)

〔位置〕13E②グリッドに位置する。

〔検出状況〕表土除去後、土器が多数出土した。周囲を精査し、私道及び調査区外に延びる部分にサブトレンチを入れ、不整の方形プランを確認した。V層面での検出である。

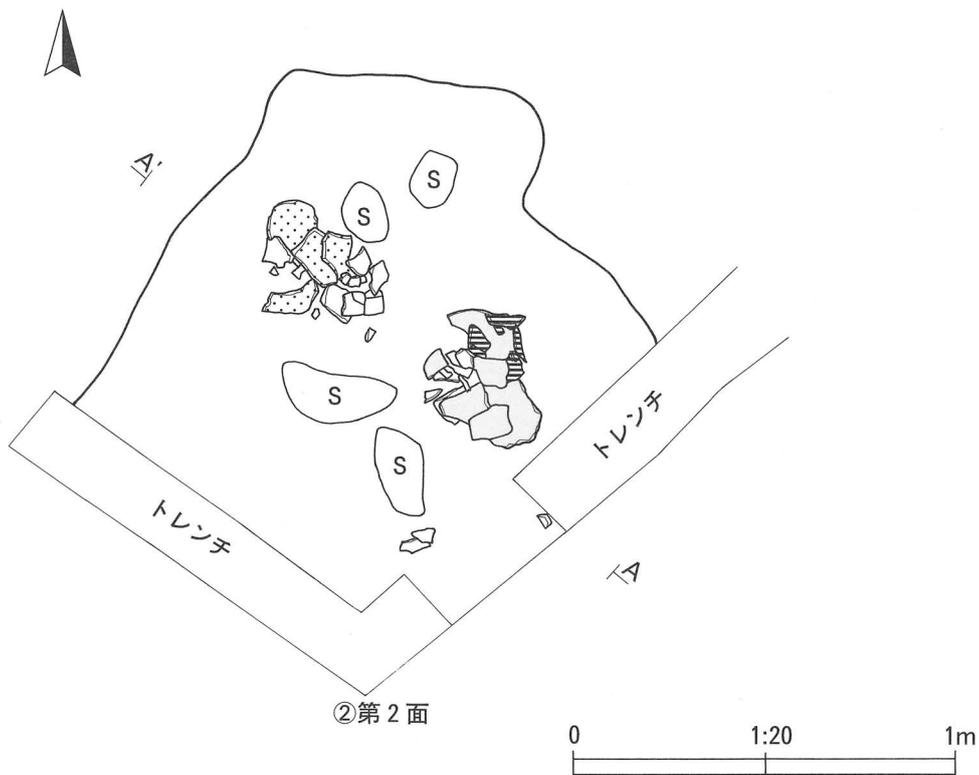
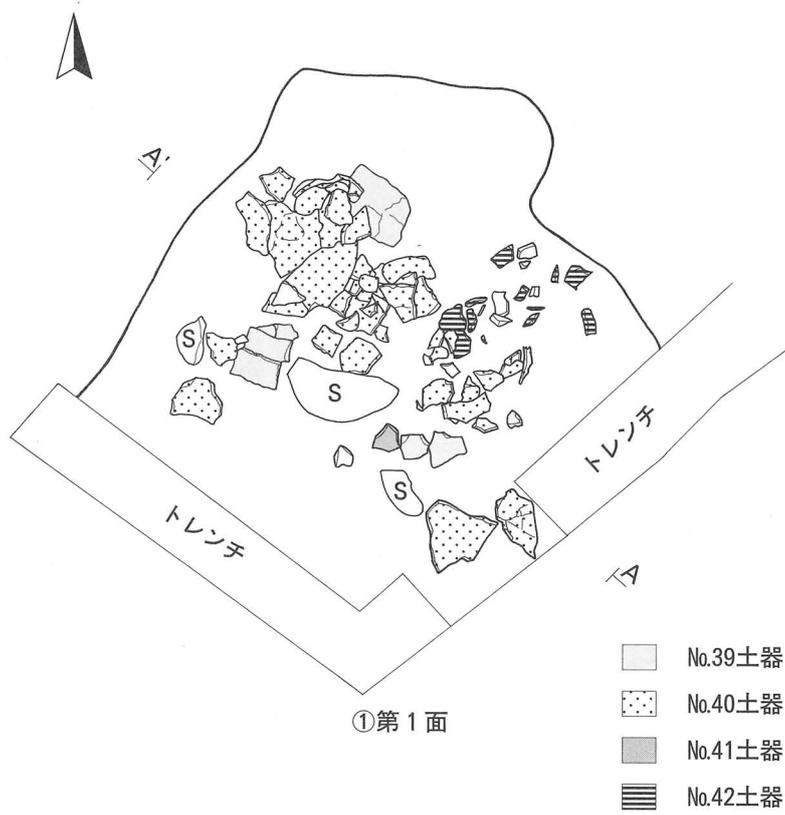
〔重複〕なし。

〔形状・規模〕東側が私道、南側が調査区外に延びるため形状の詳細については不明である。また、検出部も木の根によりかなり攪乱されている。断面形状は浅鉢状を呈し、検出面からの深さは18cmである。

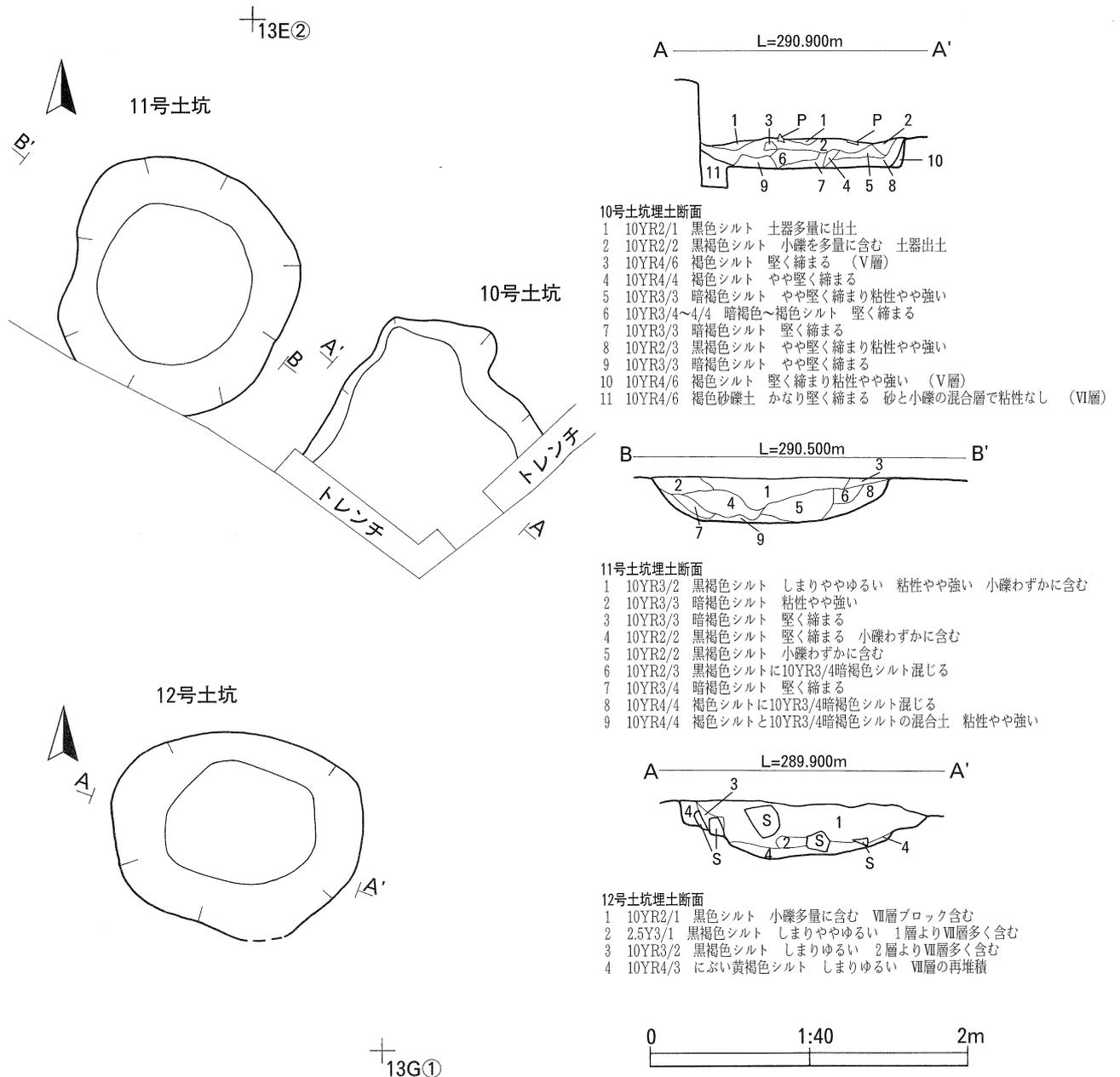
〔埋土〕暗褐色土を主体し、9層に細別される。10層と11層は地山である。1層・2層から土器が出土している。

〔壁・底面〕V層である。

〔出土遺物〕(39)～(42)の土器が出土している。出土量が多いため上面と下面に分けて平面図に記録した。①が上面、②が下面である。出土した土器はすべて深鉢である。(39)は口縁に山形状の突起をもち、



第18図 10号土坑土器出土状況



第19図 土坑

(40) は平口縁でほぼ直立する。共に胴上部に膨らみをもち、口縁部はナデによる調整が施され無文である。(40) の頸部には一条の沈線が施され口縁の無文部と胴部の縄文部を区別している。胴部上方には単節の縄文(LR)、下方には複節の縄文(RLR)をそれぞれ原体とし、複節縄文の原体は末端結節である。(42) は磨消技法を用いた8単位の文様構成をとる。すべて後期前葉の土器である。

〔時期〕 出土遺物から後期前葉と推定される。

11号土坑（第19図、写真図版9）

〔位置〕 13E①～13E②グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層面での検出である。

〔重複〕 なし。

〔形状・規模〕 南西側が調査区外に伸びているため、詳細は不明である。検出部分から長軸1.67m、短軸1.55mの不整の円形を呈すると思われる。断面形状は浅鉢状を呈し、検出面からの深さは29cmを測る。

〔埋土〕 9層に細別される。レンズ状の自然堆積である。

〔壁・底面〕 V層である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 出土遺物が無く時期不明である。

12号土坑（第19図、写真図版9）

〔位置〕 12F④グリッドに位置する。

〔検出状況〕 表土除去後の精査中に黒色の楕円形のプランを検出した。削平のためVI層面での検出である。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 長軸1.58m、短軸1.3mの不整の楕円形を呈する。検出面からの深さは36cmを測り、断面形状は浅鉢状を呈する。

〔埋土〕 黒褐色土を主体とする4層に細別される。埋土の各層には礫やVII層の砂土が含まれている。人為堆積と思われる。

〔壁・底面〕 VII層である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 縄文時代の墓塚の可能性はある。

4. 焼土遺構

24基検出した。異地性の焼土（5号・18号・19号・2号竪穴住居跡上面焼土20号～22号）については焼土範囲のみを図に掲載し、土坑内から検出された焼土については土坑の項に記載している。1号～4号焼土、6号～9号焼土、11号～15号焼土は一定間隔を置いて検出されており、竪穴住居跡に伴う焼土の可能性も考えられるが住居の壁や柱穴は検出されていない。1号～4号焼土および11号～15号焼土検出直前の層には十和田火山起源の中礫火山灰の褐色ブロックが含まれていた。焼土は全般に根による攪乱を受けている。

1号焼土遺構（第21図、写真図版9）

〔位置〕 6G②グリッドに位置する。

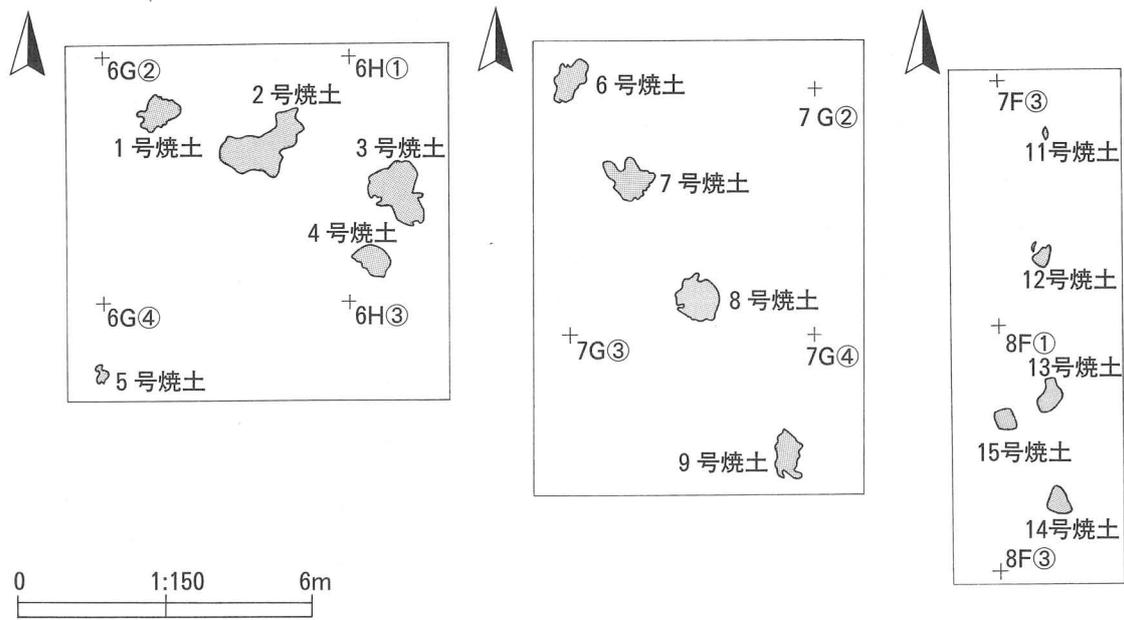
〔検出状況〕 IV層面での検出である。

〔重複〕 なし。

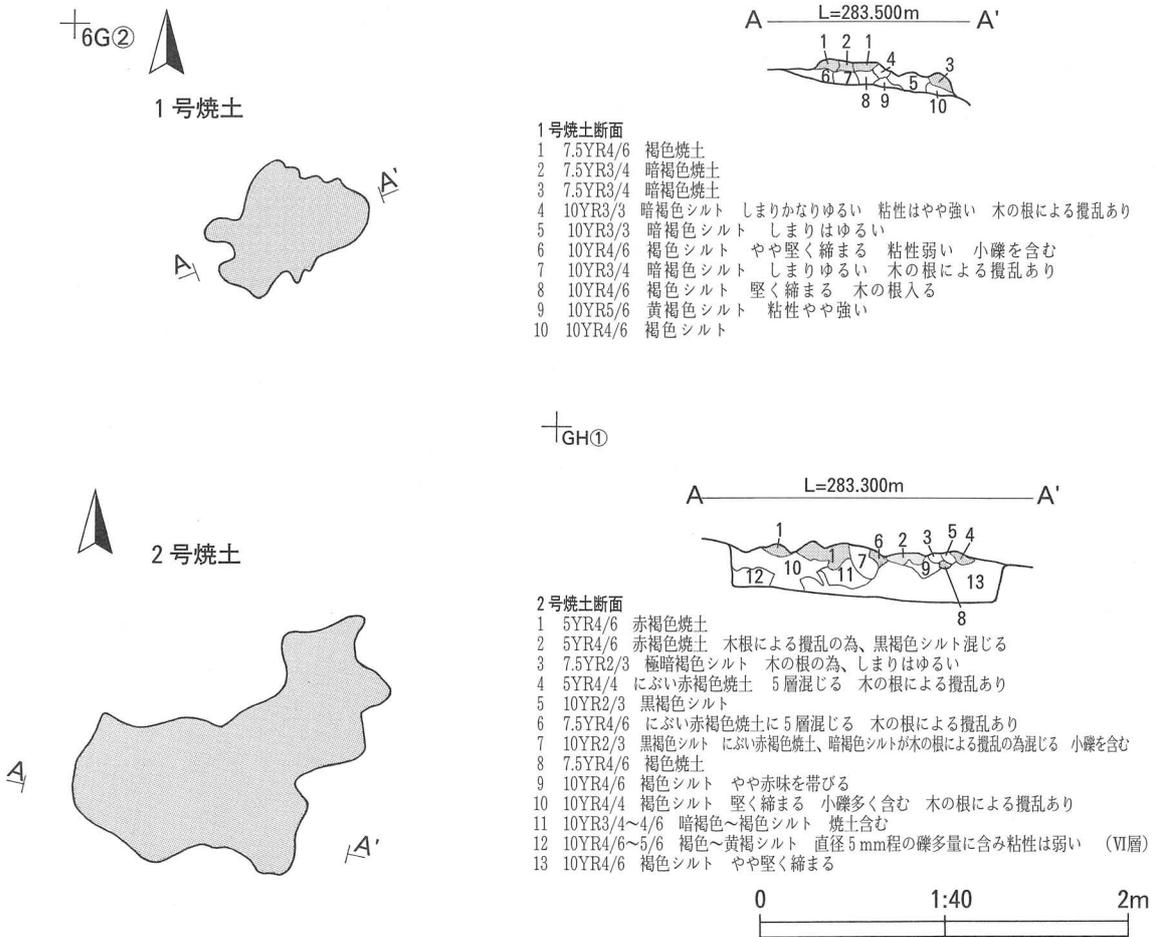
〔規模・形状〕 70cm×50cmの範囲に、厚さが約6cmの焼土を確認した。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 検出面から縄文時代前期の可能性はある。



第20図 焼土列



第21図 焼土遺構(1)

2号焼土遺構（第21図、写真図版10）

〔位置〕 6 G②グリッドに位置する。

〔検出状況〕 IV層面での検出である。木の根の下部からの検出で、根による攪乱をかなり受けている。

〔重複〕 なし。

〔規模・形状〕 180cm×86cmの範囲に、厚さが約14cmの焼土を確認した。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 検出面から縄文時代前期の可能性がある。

3号焼土遺構（第22図、写真図版10）

〔位置〕 6 H①グリッドに位置する。

〔検出状況〕 IV層面で検出した。

〔重複〕 なし。

〔規模・形状〕 134cm×110cmの範囲に、厚さが約6cmの焼土を確認した。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 検出面から縄文時代前期の可能性がある。

4号焼土遺構（第22・32図、写真図版10・19）

〔位置〕 6 H①グリッドに位置する。

〔検出状況〕 IV層面での検出である。

〔重複〕 なし。

〔規模・形状〕 74cm×54cmの範囲に、厚さが約6cmの焼土を確認した。

〔出土遺物〕 焼土上面から(43)の土器が出土している。口縁部には綾線文、胴部には0段多条の原体による羽状縄文が施文されており、胎土には繊維を含む。

〔時期〕 検出面から縄文時代前期の可能性がある。

6号焼土遺構（第22図、写真図版10）

〔位置〕 7 G①グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層面での検出である。

〔重複〕 なし。

〔規模・形状〕 104cm×50cmの範囲に、厚さが約6cmの焼土を確認した。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 不明である。

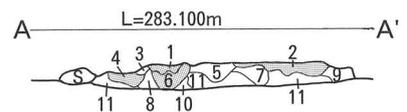
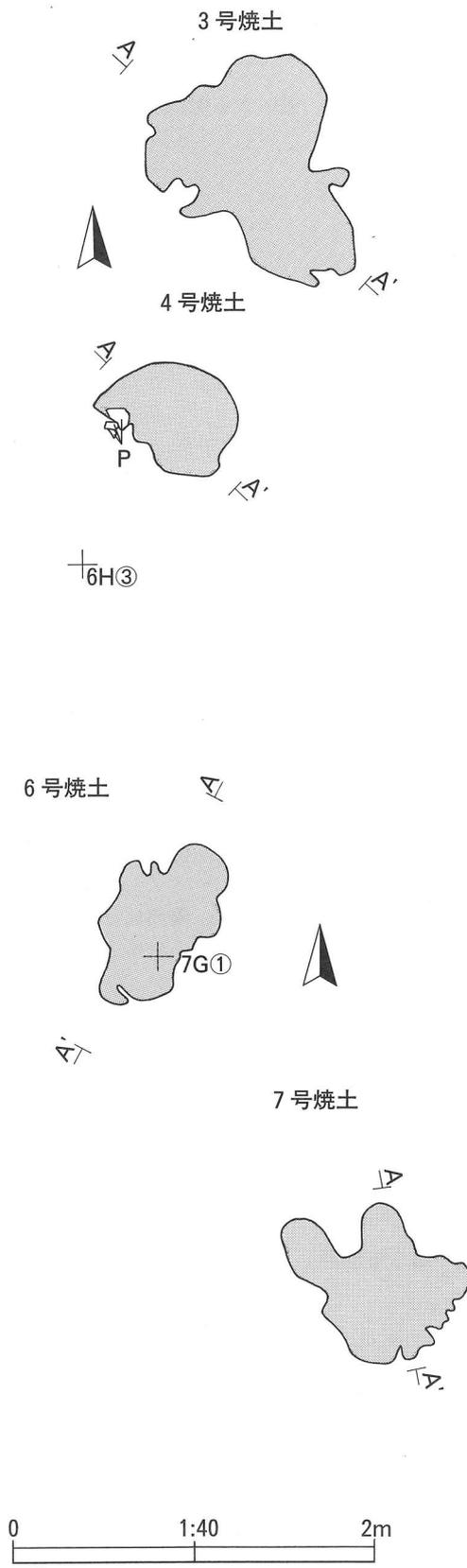
7号焼土遺構（第22図、写真図版11）

〔位置〕 7 G①グリッドに位置する。

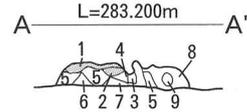
〔検出状況〕 V層面での検出である。

〔重複〕 なし。

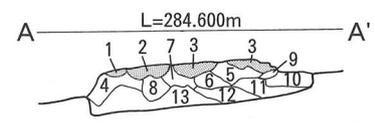
〔規模・形状〕 96cm×61cmの範囲に、厚さが約4cmの焼土を確認した。



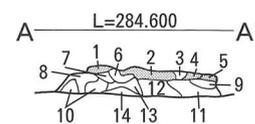
- 3号焼土断面**
- 1 7.5YR4/4 褐色焼土 木の根による攪乱あり
 - 2 5YR4/8 赤褐色焼土
 - 3 7.5YR2/2黒褐色シルトに7.5YR3/4暗褐色焼土粒混じる
 - 4 5YR4/8 赤褐色焼土
 - 5 10YR3/4 暗褐色シルト 木の根による攪乱あり
 - 6 7.5YR3/4 暗褐色焼土
 - 7 10YR3/4 暗褐色シルト 焼土粒含む 木の根による攪乱あり
 - 8 10YR4/4 11層が被熱したものの
 - 9 10YR2/3~3/3黒褐色シルト 根による攪乱土
 - 10 7.5YR4/4 褐色シルト 根による攪乱あり
 - 11 10YR4/4 褐色シルト 小礫含む



- 4号焼土断面**
- 1 7.5YR3/4 暗褐色焼土
 - 2 5YR5/6 明赤褐色焼土
 - 3 10YR3/4 暗褐色シルトと10YR2/3黒褐色シルトの混合土 木の根による攪乱あり
 - 4 7.5YR4/4 褐色シルト 小礫含む やや被熱している
 - 5 10YR3/4 暗褐色シルト
 - 6 10YR4/6 褐色シルト
 - 7 10YR4/4 褐色シルト 根による攪乱のためしまりはゆるい
 - 8 10YR4/3 におい黄褐色シルト 小礫含む
 - 9 10YR4/4~4/6 褐色シルト 小礫多く粘性なし



- 6号焼土断面**
- 1 7.5YR4/4 褐色焼土
 - 2 5YR4/8 赤褐色焼土
 - 3 5YR4/6 赤褐色焼土
 - 4 10YR4/3 におい黄褐色シルト しまりややゆるい 木の根入る
 - 5 10YR3/4 暗褐色シルト しまりややゆるい 中央に木の根入る
 - 6 10YR4/4 褐色シルト やや堅く締まる
 - 7 7.5YR4/4 褐色シルト 堅く締まる 被熱あり
 - 8 10YR3/3 暗褐色シルト やや堅く締まる
 - 9 10YR4/4 褐色シルト 堅く締まる 粘性やや強い
 - 10 10YR2/3 黒褐色シルト しまりゆるい 木の根による攪乱あり
 - 11 10YR5/4~5/6 におい黄褐色~黄褐色シルト しまりややゆるく粘性やや強い 直径5mm程の礫わずかに含む
 - 12 10YR4/4 褐色シルト
 - 13 10YR4/6~5/6 褐色~黄褐色シルト



- 7号焼土断面**
- 1 5YR5/6 明赤褐色焼土
 - 2 5YR3/6 明赤褐色焼土
 - 3 10YR4/4 褐色シルト やや粒子が大きい
 - 4 5YR4/6 赤褐色焼土
 - 5 7.5YR4/4 褐色焼土 木の根の為黒く濁る
 - 6 10YR4/4 褐色シルト しまりゆるい 木の根による攪乱あり
 - 7 10YR3/4 暗褐色シルト やや堅く締まる やや被熱している
 - 8 10YR2/3~3/3 黒褐色~暗褐色シルト しまりややゆるい
 - 9 10YR3/4 暗褐色シルト しまりやや堅く締まる
 - 10 10YR4/4 褐色シルト しまりやや堅く締まる 粘性やや弱い
 - 11 10YR4/4 褐色シルト しまりゆるい 粘性やや弱い
 - 12 10YR4/4 褐色シルト
 - 13 7.5YR4/6 褐色シルト しまりやや弱い 12層が被熱したものの
 - 14 10YR3/3 暗褐色シルト しまりゆるい 粘性弱い 木の根による攪乱あり

第22図 焼土遺構 (2)

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

8号焼土遺構（第23図、写真図版11）

〔位置〕7 G①グリッドに位置する。

〔検出状況〕V層面で検出した。

〔重複〕なし。

〔規模・形状〕102cm×86cmの範囲に、厚さが約6cmの焼土を確認した。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

9号焼土遺構（第23図、写真図版11）

〔位置〕7 G③グリッドに位置する。

〔検出状況〕V層面での検出である。

〔重複〕なし。

〔規模・形状〕106cm×44cmの範囲に、厚さが約8cmの焼土を確認した。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

10号焼土遺構（第23図、写真図版11）

〔位置〕6 E③グリッドに位置する。

〔検出状況〕IV層面での検出である。上部の一部は耕作による攪乱を受けていて上面からはビニール線が出土している。焼土に混じるものではなく、攪乱部からの出土で時期判断の要素に欠ける。

〔重複〕なし。

〔規模・形状〕80cm×30cmの範囲に、厚さが約6cmの焼土を確認した。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

11号焼土遺構（第24図、写真図版12）

〔位置〕7 F③グリッドに位置する。

〔検出状況〕V層面での検出である。木の根の下部からの検出で根による攪乱を受けている。

〔重複〕なし。

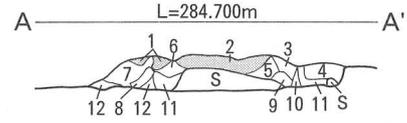
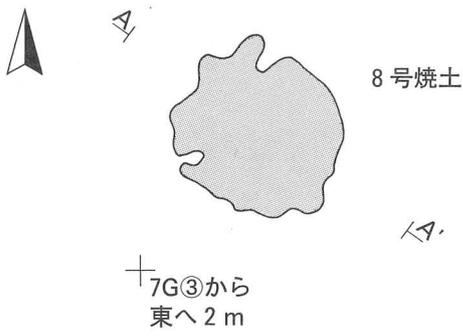
〔規模・形状〕19cm×14cmの範囲に、厚さが約4cmの焼土を確認した。

〔出土遺物〕なし。

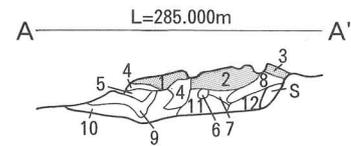
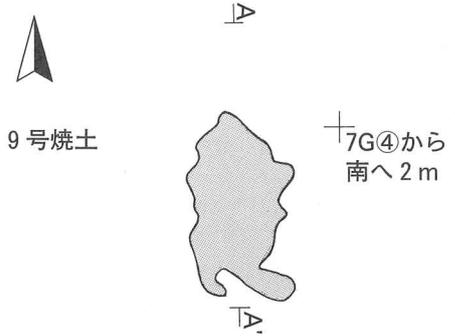
〔時期〕検出状況から縄文時代のものと思われる。

12号焼土遺構（第24図、写真図版12）

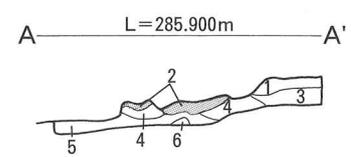
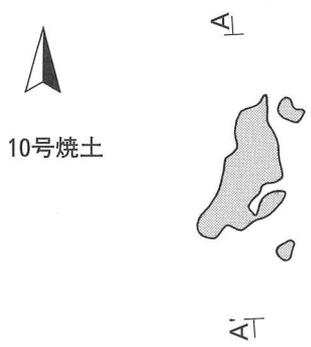
〔位置〕7 F③グリッドに位置する。



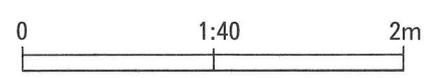
- 8号焼土断面
- 1 5YR5/6 明赤褐色焼土 小礫多い
 - 2 5YR3/6 暗赤褐色焼土 小礫多い 木の根による攪乱あり
 - 3 10YR2/3 黒褐色シルト 強く締まる
 - 4 10YR3/3 暗褐色シルト やや強く締まる 粗砂含む
 - 5 7.5YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱い 上部被熱
 - 6 7.5YR4/4 褐色シルト 木の根による攪乱を受けた焼土
 - 7 10YR3/4 暗褐色シルト 強く締まる 木の根による攪乱土
 - 8 7.5YR4/6 褐色シルト 強く締まる 小礫多く粘性弱い
 - 9 10YR4/6 褐色シルト 強く締まる
 - 10 10YR3/3~3/4 暗褐色シルト しまりゆるい 木の根による攪乱土 小礫含む
 - 11 10YR4/4 褐色シルト 強く締まる
 - 12 10YR5/4~5/6 にぶい黄褐色~黄褐色シルト 強く締まる 小礫を多量に含み粘性なし



- 9号焼土断面
- 1 5YR4/6 赤褐色焼土
 - 2 5YR4/6 赤褐色焼土 木の根による攪乱あり
 - 3 5YR3/6 暗赤褐色焼土
 - 4 7.5YR4/4 褐色シルト 強く締まる
 - 5 10YR4/4 褐色シルト しまりややゆるい
 - 6 10YR3/3~3/4 暗褐色シルト しまりかなりゆるい 木の根の攪乱土
 - 7 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
 - 8 7.5YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや強い わずかに焼土含む
 - 9 10YR3/4 暗褐色シルト しまりややゆるい 粘性やや強い
 - 10 10YR3/4~4/4 暗褐色~褐色シルト しまりややゆるい
 - 11 10YR4/4~4/6 褐色シルト 粘性やや強い
 - 12 10YR4/4 褐色シルト 小礫含み粘性弱い



- 10号焼土断面
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト しまりややゆるい 炭化物含む
 - 2 5YR4/8 赤褐色焼土
 - 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強い
 - 4 10YR3/3 暗褐色シルト しまりややゆるい 粘性やや強い 褐色シルト含む
 - 5 10YR3/4~4/4 暗褐色シルト~褐色シルト しまりややゆるい
 - 6 10YR2/2~2/3 黒褐色シルト 木の根による攪乱土



第23図 焼土遺構 (3)

〔検出状況〕 V層面での検出である。

〔重複〕 なし。

〔規模・形状〕 47cm×32cmの範囲に、厚さが約3cmの焼土を確認した。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 検出状況から縄文時代のものと思われる。

13号焼土遺構（第24図、写真図版12）

〔位置〕 8 F①グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層面での検出である。

〔重複〕 なし。

〔規模・形状〕 71cm×37cmの範囲に、厚さが約7cmの焼土を確認した。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 検出状況から縄文時代のものと思われる。

14号焼土遺構（第24図、写真図版12）

〔位置〕 8 F①グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層面での検出である。

〔重複〕 なし。

〔規模・形状〕 56cm×49cmの範囲に、厚さが約8cmの焼土を確認した。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 検出状況から縄文時代のものと思われる。

15号焼土遺構（第24図、写真図版13）

〔位置〕 8 F①グリッドに位置する。

〔検出状況〕 V層面での検出である。

〔重複〕 なし。

〔規模・形状〕 51cm×46cmの範囲に、厚さが約8cmの焼土を確認した。

〔遺物〕 なし。

〔時期〕 検出状況から縄文時代のものと思われる。

16号焼土遺構（第25・32図、写真図版13・19）

〔位置〕 11 E③～12 E①グリッドに位置する。

〔検出状況〕 III層面での検出である。本焼土と17号焼土の間を通り南東側から北西側に延びる重機による攪乱の跡を検出している。本焼土は17号焼土とつながっていたものと思われる。

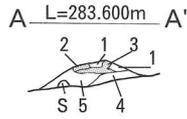
〔重複〕 なし。

〔規模・形状〕 77cm×33cmの範囲に、厚さが約10cmの焼土を確認した。

〔出土遺物〕 焼土上面と焼土脇から土器が数点出土している。(44)のみ掲載した。後期に属する可能性のある土器である。



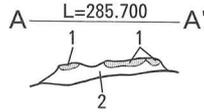
11号焼土



11号焼土断面

- 1 10YR4/4 褐色シルト しまりゆるい 木の根による攪乱土
- 2 7.5YR5/6 明褐色焼土
- 3 7.5YR5/6 明褐色焼土
- 4 10YR4/4 褐色シルト しまりゆるい 木の根による攪乱あり
- 5 10YR5/6 黄褐色シルト 砂質でしまりゆるい

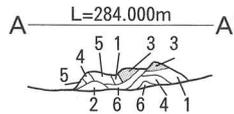
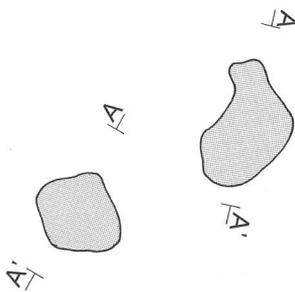
12号焼土



12号焼土断面

- 1 7.5YR4/3 褐色焼土 地山がわずかに被熱
- 2 10YR5/4 におい黄褐色 小礫含む V層が木の根による攪乱を受けたもの

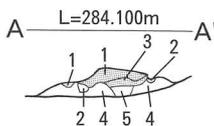
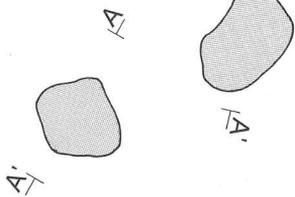
8F①



13号焼土断面

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト しまりゆるい 炭化物含む 木の根による攪乱あり
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト しまり非常にゆるい 木の根による攪乱あり
- 3 7.5YR5/6 明赤褐色焼土
- 4 10YR4/3 におい黄褐色シルト しまりややゆるい 木の根による攪乱あり
- 5 10YR4/4 褐色シルト
- 6 10YR5/6 黄褐色シルト

15号焼土



15号焼土断面

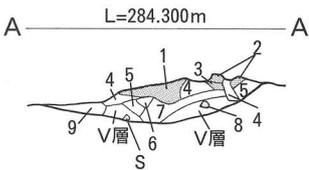
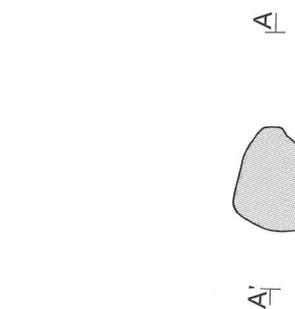
- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 焼土粒多く含む
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト しまりややゆるい 粘性やや強い 木の根による攪乱あり
- 3 5YR5/6 明赤褐色焼土
- 4 10YR4/4 褐色シルト しまりややゆるい 粘性やや強い
- 5 10YR5/4 におい黄褐色シルト しまりややゆるい

13号焼土

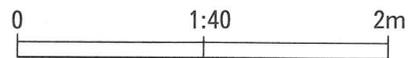
14号焼土断面

- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 焼土粒多く含む
- 2 7.5YR4/4 褐色焼土 木の根による攪乱あり
- 3 5YR5/6 明赤褐色焼土
- 4 10YR4/3 におい黄褐色シルト 木の根による攪乱土
- 5 10YR4/4 褐色粘質土 しまりややゆるい 木の根による攪乱土
- 6 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性強い
- 7 7.5YR5/6 明赤褐色シルト 粘性強い 焼土粒含む V層が被熱したもの
- 8 5YR5/6 明赤褐色焼土 しまりゆるい 焼土が攪乱によって移動したもの
- 9 10YR3/2 黒褐色シルト 木の根による攪乱土

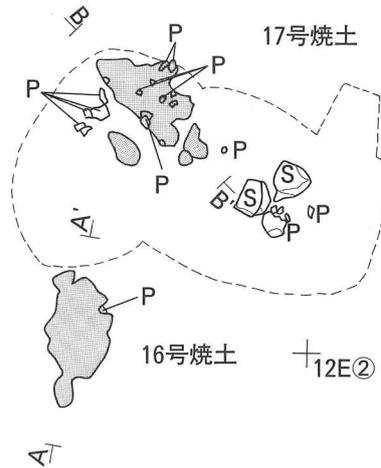
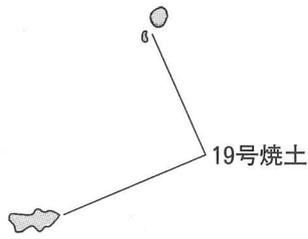
15号焼土



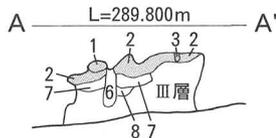
14号焼土



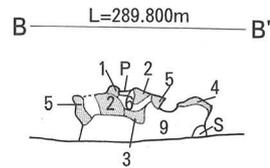
第24図 焼土遺構(4)



16号焼土



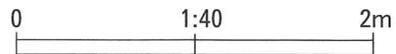
17号焼土



16・17号焼土断面

- 1 10YR4/4 褐色焼土
- 2 5YR5/8 明赤褐色焼土
- 3 7.5YR4/4 褐色焼土 焼土が木の根により攪乱されたもの
- 4 7.5YR3/2 黒褐色シルトと5YR5/8明赤褐色焼土の混合土 焼土が木の根により攪乱されたもの
- 5 7.5YR3/2 黒褐色シルト 焼土粒混じる 攪乱土
- 6 7.5YR3/1 黒褐色シルト しまりゆるい 木の根による攪乱土

- 7 7.5YR3/1 黒褐色シルト しまりややゆるい 焼土粒混じる 木の根による攪乱土
- 8 7.5YR3/1 黒褐色シルト しまりややゆるい 7層より焼土粒多く混じる 木の根による攪乱土
- 9 10YR2/2 黒褐色シルト 炭化物含む



第25図 焼土遺構 (5)

〔時期〕 検出状況および周囲の遺物から縄文時代後期の可能性がある。

17号焼土遺構 (第25図、写真図版13・29)

〔位置〕 11E③グリッドに位置する。

〔検出状況〕 III層面での検出である。16号焼土とつながっていたものと思われる。9層は下部の土坑の埋土と同じ土と思われる。

〔重複〕 ないと思われる。

〔規模・形状〕 64cm×32cmの範囲に、厚さが約16cmの焼土を確認した。

〔遺物〕 焼土上面および周囲から土器片が出土している。焼土付近から出土した(201)以外は胴部小破片のため掲載していない。(201)は遺構外出土遺物の項に掲載した。

〔時期〕 検出状況から縄文時代後期の可能性がある。

V 出土遺物

今回の発掘調査で出土した遺物は、縄文土器、石器、土製品、石製品、銭貨、陶磁器類である。

1. 土器

本遺跡では遺構内、遺構外合わせてT-40規格のコンテナ（41×39×19cmのコンテナ）で約13箱出土している。出土した土器の時期は縄文時代早期；前期；中期；後期；晩期で、後期の土器が最も多く、次いで前期の土器が多い。土器の分類は遺構内、遺構外を含め、縄文時代早期に属する可能性のある土器をI群、前期に属する可能性のある土器をII群、中期に属する可能性のあるものをIII群、後期に属する可能性のあるものをIV群、晩期に属する可能性のあるものをV群として大別し、各群を更に数類に分類した。

I 群土器（第33図、写真図版20）

縄文時代早期に属する可能性のある土器群である。本群の土器は大半が9グリットライン以北のIV層を中心に出土した。遺構外からの出土で全て破片である。文様の種類などによって5類に細分した。胎土に粗礫を含むものが多い。

I 群1類（45）

爪形文が施文される土器である。（45）は口縁部破片である。口縁に沿って数条の爪形文が施文されている。口唇部は丸みがある。

I 群2類（46～57）

貝殻文・沈線・刺突の組み合わせによって文様を施文している土器である。沈線に沿って貝殻腹縁文が施文されるものや沈線で区画された部分に貝殻腹縁文が施されるものが多い。（47）・（54）の口唇部には連続した刻みが施されており、（47）の口唇は内側に尖る。（48）～（50）は深鉢の口縁である。半裁竹管による沈線と貝殻腹縁文、刺突による文様が施文されており、（49）のゆるい山形口縁の頂部には貝殻腹縁による刻み、（48）の口縁頂部には棒状工具による刻みが施されている。（48）・（49）は半裁竹管による沈線施文後、貝殻腹縁による文様を施文し、（50）は貝殻腹縁による文様施文後半裁竹管で沈線を描いている。（56）は深鉢の口縁部で頸部は「く」の字に屈曲し、貝殻腹縁による連続した刻みのある隆帯をもち、口唇部には2条の押し引きによる沈線が施文されている。（56）・（57）は同一個体の可能性がある。

I 群3類（58）

口縁部文様が沈線とヘラ状工具による刻みで描かれ、胴部には縄文が施文されている土器である。（58）の1点のみの出土である。胴部には撚糸の側面圧痕（RL）が施されている。

I 群4類（59）

表裏両面に縄文を施す土器である。口唇部付近で外反し、縄文の施された口唇部は外側に傾斜している。

I 群5類（60）

無文の土器である。胎土と焼成から早期のものと思われる。口唇部は外に傾斜している。胎土には粗礫が多量に含まれる。

II 群土器（第29・32・34～36図、写真図版16・19・21・22）

胎土に多量の繊維を含み、縄文のみを施文する土器で縄文時代前期（大木2 aを下限）に属する可能性のある土器群である。

II 群1類 胴部に菱形の撚糸文を施文する土器である。（61～64）

(61)～(63)はいずれも胴部破片で文様のモチーフは似ているが原体は(62)が無節(L)、(61)・(63)は無節(R)である。(64)は口縁部破片である。口縁部は外傾している。(64)は大木2a式に属するものと思われる。

II群2類 不整の結節回転文(綾線文)を施文する土器である。(19・43・65～89)

(19)・(43)の2点を除き遺構外からの出土である。口縁部は、外反するもの(19・65・66～69・70・71・73・75・77～79・82～86・88)と外傾するもの(43・67・74・76・80・81・87)があり、口唇部は平坦のものが多い。口唇部が肥厚するもの(68・69・75・76・82)や外側に傾斜するもの(68・69・70・74・76・77・82・83・88)もある。ほとんどが平口縁であるが波状のもの(71・73)もある。胴部の文様は非結節の羽状縄文(0段多条)が多く、菱形をモチーフしたものもある。(71～73)、(85)と(86)は同一個体の可能性がある。

II群3類 葺瓦状撚糸文を施文する土器である。(90～92)

大木2a式に属するものと思われる。

II群4類 口縁部に沈線を施文する土器である。(93・94)

同一個体の可能性がある。大木2a式に属するものと思われる。

II群5類 全面に斜行縄文、若しくは羽状縄文を施文する土器である。(18・22・95～103)

遺構内出土のものは(18)・(22)の2点で他は遺構外からの出土である。地文は単節・複節・多条、様々で、右撚り、左撚りがある。口縁部は平口縁のものが多い。また、直立または外傾するものが多いが(98)・(103)のように内湾しながら立ち上がるものもある。(22)の胴部破片は羽状をなしており、同群2類に含まれるものかもしれない。

II群6類 底部付近のものである。(20・104・105)

(20)は1号陥し穴から、(104)・(105)は遺構外からの出土である。(104)の底面は調整が施され無文である。胴部にはわずかに綾線文が見られる。(105)は葺瓦状撚糸文が施され、底部は上げ底である。大木2aに属するものと思われる。

III群土器 (第26・36図、写真図版14・23)

縄文時代中期後葉に属する可能性のある土器群である。(1・106・107)

(1)は1号住居から出土したもので全面に縄文を施し、口縁部または胴部を沈線によって区画し、部分的に縄文を磨り消している土器である。胴部は円筒状に伸び、口縁がややすぼまる器形である。胴部には0段多条(LR)の縄文を施文する。大木10式に相当するものである。(106)は断面三角形の隆帯を貼り付け、その後単節(RL)縄文を回転方向を変え施文している。(107)は複節(RLR)の縄文を施文後、数条の沈線を施してもので、頸部の破片と思われ湾曲している。

IV群土器 (第26～28・30～32・36～42図、写真図版14・15・23)

縄文時代後期に属する可能性のある土器群である。

IV群1類 前葉に属する可能性のある土器である。

① 口縁部に隆帯をもつ土器。(3・4・12・14・108～114)

(3)・(4)・(12)・(14)の4点が2号住居から出土し、他は遺構外からの出土である。口縁部はナデによる調整が施され無文である。(3)・(4)・(12)は隆帯に斜位の連続した刻みが施され、(110)・(112)・(113)・(114)は隆帯上に連続した刺突が施されている。(109)は断面三角形の隆帯の両脇に沈線が沿う。(3)と(12)は円形の貼付文をもつ。(4)は頂部に刻みをもち、(108)とともに円孔が穿たれる。(111)

は1条の沈線で下書き後その上に断面かまぼこ状の隆帯を貼り付け、隆帯の両脇に沈線を施している。(111)を除き、隆帯の貼り付け後の調整は丁寧とはいえ貼り付け痕を残す。(12)・(113)の口縁が外反する他は直立あるいはやや外に開く器形をとる。

② 口縁部文様が刺突文と沈線文によるものおよび沈線によって口縁部と胴部の地文部を区切る土器。(40・115～126)

10号土坑から出土した(40)の1点を除き他は遺構外からの出土である。口縁部に縦位の刺突をもつもの(115～121)の多くは波状口縁で頸部付近から外反する器形である。口縁頂部に刻みをもつもの(117・119・121)もある。頸部は横位の一条の沈線により胴部と区画されている。頸部の沈線より下の残るものは全て沈線より下に縄文が施されている。(40)・(123)・(124)・(126)は横位の沈線により口縁部と胴部の地文を区切る。(125)は口縁部に沈線による文様を描き、胴部には縄文を付している。(122)の口縁部の小破片は、沈線のみを施しているため本類に含めたが、口縁部特徴および沈線による文様を見る限り、本項①の(113)に類するものである可能性が高い。

③ 胴部に文様を有する土器。

A 器形が深鉢および鉢形のもの。(13・25・26・42・127～133)

(13)・(25)・(26)・(42)は遺構内出土で他は遺構外からの出土である。縄文が施されるものと施されないものがあり、縄文が施されるものには、磨消技法を用いるものと縄文を磨り消さず地文上に沈線で文様を描くものがある。磨消技法を用いているものは(13)・(25)・(42)・(127)～(130)・(133)である。(13)は4単位の波状口縁で楕円形の貼付文を口縁にもつ。この貼り付け文には刺突のあるもの無いものがあり、刺突のあるものでも刺突数は一定でない。頂部には刻みが施されている。文様構成は波頂部を中心に4単位で、S字状の連鎖沈線を倒卵形の沈線が囲っている。口縁部には沈線による長楕円形の区画を持ち、区画間には、竹管による数個の円形刺突が施されている。(42)は網目状撚糸文を地文とし、胴部文様は8単位である。(127)は胴部が「く」の字に湾曲する器形である。色調は橙色でBの壺形土器に似る。内面のミガキも丁寧である。磨消技法をもたないものは、(26)・(131)である。(131)は撚糸文を地文とし、その上に沈線による渦巻文を施文している。(132)は沈線により縦位の文様が施文されている。

B 器形が壺形のもの。(21・27～31・134～139)

(21)・(27)～(31)は遺構内出土で、(134)～(139)は遺構外からの出土である。縄文が施文されるものとされないものがあり、縄文が施文されるものはすべて磨消技法が施されている。胎土には粗砂を含み、縄文施文のものは橙色を、施文しないものは浅黄色を呈している。縄文が施文されるものは、(21)・(28)～(30)・(135)・(136)である。(134)は口縁部破片で縄文の施文されないものであるが、(28)の口縁部に類似であるため胴部には磨消技法を用いた文様が構成されていたものと思われるこの項に入れた。(28)とは別個体であるが(135)の器形も(28)に類似のものと思われる。(28)は頸部と口唇部に断面三角形の隆帯を貼り付け、3単位と思われる把手をもつ。把手には3単位の竹管による円形刺突あるいは円孔がある。胴部には6単位?の文様を沈線で描き、区画した一部の縄文を磨り消し、上部には竹管による円形刺突が2個縦位に並ぶ。(29)は3単位の把手をもち、把手上下に竹管による刺突がある。すべて単節縄文で器面は丁寧に磨いている。磨消技法は丁寧とは言えず、区画内に縄文を残す。(30)は赤色顔料が施されていたものと思われる。

縄文が施文されないものは、(27)・(137)～(139)である。(27)・(137)・(138)は所々に朱色痕が見られることからいずれも赤色顔料が施されていたものと思われる。(27)は切断蓋付土器、(139)も上面に切

断面が確認されることから切断蓋付土器であると思われる。(27)・(138)・(139)は沈線のみ文様である。(137)は胴部に隆帯を貼り付け、胴部は「く」の字に屈曲し、屈曲部から上には沈線と円形の刺突による文様がモチーフされている。

IV群2類 中葉に属する可能性のある土器。(140～148)

全て遺構外からの出土でほとんどが小破片である。(141)の口縁部の突起には内外面に沈線が施されている。

IV群3類 1類および2類とほぼ時期を同じくすると思われる土器。

① 撚り糸文の土器 (37・44・149～160)

(37・44)は遺構内、他は遺構外からの出土である。口縁部には無文でナデによる調整が施されているもの(150・152・153・156・158～160)と口唇部付近から撚り糸文が施文されるもの(44・151・154)がある。口縁に無文部をもつものは、胴部に膨らみをもち外反する口縁のものが多いが、(156)のように胴部の湾曲がそのまま口縁に至るものも見られる。(159)の口縁は波状を呈する。(154)の口唇部にはゆるい山形の突起があり、頂部には棒状工具による2条の刻みがある。(37)・(149)・(155)・(157)は胴部破片である。(157)には1条の沈線が施されており沈線によって口縁部無文部と胴部を区別している可能性もあり同群1類②に含むべきものかもしれない。胴部には撚り糸文施文後、円形の刺突を施している。

② 縄文の土器 (6～8・23・24・35・36・39・41・161～188)

(6～8)・(23)・(24)・(35)・(36)・(39)・(41)は遺構内、(161)～(188)は遺構外からの出土である。口縁部が無文のものと口唇部付近から縄文が施文されるものがある。また、口縁部無文のものは、幅広で頸部付近まで無文部をもつもの(6～8・23・24・35・39・171・172・175・176・178～180・183～187)と幅が狭く口縁部の一部が無文のもの(169・174・177・181・182)とがある。いずれも地文の縄文を磨り消しているようであるが一部磨り消しが不十分のものもある。(185)は口縁に沿う1条の沈線が施され胴部がやや膨らむ器形である。口縁上部から縄文が施文されているものは(41)・(161)～(168)で目の細い縄文のものが多い。器形は胴部に膨らみをもち胴部・頸部・口縁の区別が明瞭なものや胴部の湾曲の流れを汲みそのまま内湾する口縁のもの、口縁部が外反するものなどがある。口唇部は丸みがあるものが多い。(164)～(166)は口唇部にも縄文が施されている。(162)は口縁上端に縄文が施され撚り糸側面圧痕により頸部無文部と区別している。崎山弁天遺跡IV群6類に類似のものが見られる。(188)は(28)の壺型土器の底部の可能性が有る。

③ 沈線文の土器 (189)

遺構外からの出土した胴部破片で沈線による格子状の文様が施されている。

IV群4類 底部 (9・10・11・34・190～200)

後期のものと思われる底部を一括した。木葉痕を持つものは(9)・(10)・(34)・(192)・(193)・(198)・(200)で、底部が外に張り出すかあるいは張り出し気味の器形をとる。(194)は底面に調整が施され無文となっている。(195)・(196)はリング状の高台をもち、(197)は丸底である。(190)は網代痕を持つもので、出土地点及び胎土から(144)の底部の可能性が有る。

IV群5類 無文の土器 (2・32・33・38・201)

完形品は2点で(2)は皿形、(201)は小型の鉢形土器である。表面に赤色顔料が付着しており、朱色に塗られていたものと思われる。(32)・(33)・(38)は口縁部破片であり、胴部に文様のあるものかもしれない。

V群土器（第43図、写真図版29）

晩期に属する可能性のある土器群である。（202～207）

全て中葉に属する可能性のものである。

2. 石器

出土した石器類は、遺構内・外を合計して1,089点を数えた。器種構成は、石鏃（59点）、石匙（16点）、尖頭器（6点）、不定形石器「搔削器、リタッチド・フレイク（Rフレ）」（96点）、楔形石器（11点）、石篋（3点）、玦状耳飾（1点）、磨製石斧（6点）、敲磨器類（9点）、石核（1点）、2次加工痕を持たない剥片（881点、以後剥片と記す）である。時間的制約から本報告書に掲載した点数は229点（写真だけのもの176点）である。また、搔削器・Rフレは不定形石器に、磨石・凹石・敲石は敲磨器類としてそれぞれ一括した。本項では各種の概要について述べ、個々の石器の観察事項は観察表に記載している。石質については花崗岩研究会の矢内・土井・柳沢氏に石材石質を鑑定していただいた。なお、掲載したもの以外の剥片についてはほとんどが鑑定をおこなっておらず材質不明の資料が多い。

（1）石鏃（第28・29・44図、写真図版30）

出土総数は59点で、2号竪穴住居跡埋土から9点、住居状遺構から1点出土している他は遺構外からの出土である。基部の形状等によりI～IV群に大別した。明確な中茎（柄）を有する有茎鏃は出土しておらず、全て無茎鏃である。

I群 中茎（柄）がなく、基部が抉入するもの（無茎凹基鏃）

- a類 側縁が湾曲する形態をとり、基部抉入の浅いもの（S1）
- b類 鏃身及び基部に抉入のあるもの（S2～S8）
- c類 形状が二等辺三角形で、基部抉入の深いもの（S9～S17）
- d類 形状が二等辺三角形で、基部抉入の浅いもの（S18～S25）
- e類 先端から基部までの側縁が湾曲する形態をとり、基部に抉入のあるもの（S26）
- f類 基部付近の側縁が湾曲し、基部にゆるい抉入のあるもの（S27～S29）
- g類 基部抉入が深く、ブーメラン形をなすもの（S30～S32）

II群 中茎がなく基部が平坦なもの（無茎平基鏃）

- a類 二等辺三角形のもの（S33～S35）
- b類 三角形のもの（S36～S40）

III群 中茎の作り出しが不明瞭なもの

- a類 基部が丸みを帯びるもの（円基鏃）（S41）
- b類 基部が出ているもの（S42～S45）

IV群 欠損および未製品のため形状の不明なもの（S46～S59）

（2）尖頭器（第29・44図、写真図版31）

6点出土している。3号陥し穴状遺構埋土から1点出土した他は遺構外である。形状からI～II群に大別した。

I群 先端から基部に向かって広がる三角形のもの（S60・S61）

II群 先端から中央付近にかけて広がり、中央付近から基部にかけてすばまる細長い形状のもの（S62～S65）

(S64) は先端部のみの欠損品であるが、先端部の作りからⅡ群として扱った。表裏全面調整である。

(3) 石筥 (第44図、写真図版31)

(S66) ~ (S68) の3点が出土した。全て遺構外からの出土である。細分はしていない。

(4) 石匙 (第45図、写真図版31)

つまみ状の小突起をもち、刃部が作出されている石器を一括した。16点全て遺構外からの出土である。形状からⅠ~Ⅲ群に大別した。Ⅲ群はⅠ群に属すると思われるが、縁辺の構成が不明のものである。

Ⅰ群 縦型のもの

a類 縁辺の構成が2辺のもの (S69~S76)

b類 縁辺の構成が3辺のもの (S77・S78)

Ⅱ群 横型のもの

a類 縁辺の構成が2辺のもの (S79)

b類 縁辺の構成が3辺のもの (S80・S81)

Ⅲ群 欠損品あるいは未製品のため形状が把握できないもの (S82~S84)

(5) 楔形石器 (第29・45図、写真図版32)

両極打法 (バイポーラーテクニック) の見られる石器である。11点出土している。2号住居跡埋土下面から1点 (S85)、上面から1点 (S86) 出土した他はすべて遺構外である。細分は行っていない。(S95) を除き打痕のある辺の一边は鋭角になっている。(S91) は素材剥片の鋭角部を利用している可能性もあるが他は二次加工を施し鋭角部を作りだしているものと思われる。

(6) 不定形石器 (写真図版32~34)

上記以外の剥片石器、及び上記に属する可能性はあるが、欠損のため形状が把握できず不明なものを扱った。2号住居から8点 (S96~S99・S149・S169・S187・S188)、住居状遺構から1点 (S126)、3号陥し穴状遺構から1点 (S127)、2号土坑から3点 (S118・S128・S170) 出土した他は遺構外からの出土である。加工のある辺数によってⅠ群~Ⅳ群に大別し、加工されている辺の長さを基準とし、最も加工されている1辺について、辺全体 (1)、辺の長さの1/2以上 (2)、辺の長さの1/2程度 (3)、辺の長さの1/2以下 (4) に区別した。全て写真のみの掲載である。

Ⅰ群 剥片の1側縁に加工のあるもの (S96~S125)

Ⅱ群 剥片の2側縁に加工のあるもの

a類 隣接している2側縁に加工のあるもの (S126~S148)

b類 2側縁に加工のあるもの (S149~S168)

Ⅲ群 剥片の3側縁に加工のあるもの (S169~S186)

Ⅳ群 周縁に加工のあるもの (S187~S191)

(7) 磨製石斧 (第46図、写真図版35)

6点 (S192~S197) 出土している。全て遺構外である。刃部および基部は使用時に折れたと思われるものが多く、完形品は出土していない。(S196) は表面の磨きが他のものと類似していること、形状が磨製石斧に似ていることから本項に含めている。

(8) 敲磨器類 (第29・30・46図、写真図版35・36)

自然礫の一部に磨り痕・敲打痕・凹等を有するもので磨石・敲石・凹石・特殊磨石を一括した。形状からⅠ~Ⅱ群に大別し、それぞれを7類に細分した。

I 群 断面形が円形ないしは楕円形の礫を素材として、平坦面または側面に使用痕をもつもの

- 1 類 磨り面のみをもつもの (S198)
- 2 類 凹みのみをもつもの (S199)
- 3 類 敲打痕のみをもつもの
- 4 類 磨り面と凹みをもつもの
- 5 類 磨り面と敲打痕をもつもの (S200・S201)
- 6 類 凹みと敲打痕を併せもつもの
- 7 類 磨り面・凹み・敲打痕をすべてもつもの (S202)

II 群 断面形が三角形ないしは四角形あるいは扁平な礫を素材として 1 ないしは複数の側縁に使用痕をもつもの

- 1 類 磨り面のみをもつもの
- 2 類 凹みのみをもつもの
- 3 類 敲打痕のみをもつもの (S203・S204)
- 4 類 磨り面と凹みをもつもの
- 5 類 磨り面と敲打痕をもつもの (S205・S206)
- 6 類 凹みと敲打痕を併せもつもの
- 7 類 磨り面・凹み・敲打痕をすべてもつもの

(S199) と (S202) は凹みをもつものとして分類しているが、凹みは浅く敲く物の下に置いて使用した台石的なものとも考えられる。(S205) は不整の直方体状の石の角を (S206) は一側縁を敲いた後磨いており、磨り石を作ろうとした途中のものとも考えられる。(S203) は 3 辺側縁を (S204) は 2 側縁を敲いている。(S198) は何か石製品を作ろうとしたものと考えられるが、磨きだけが施されているためこの項に入れた。

(9) 接合石器 (写真図版35・36)

写真のみの掲載である。(S208) は 5 点、(S209) は 2 点、(S210) は 15 点の剥片石器を接合したものである。すべて 2 号土坑上面の 5 F ①グリッド付近の IV 層～V 層から出土したものである。石質は頁岩 (北上山地) である。

3. 土製品 (第26・27・43図、写真図版14・15・29)

17 点出土している。ミニチュア土器の 3 点が遺構内他は全て遺構外からの出土である。

(1) ミニチュア土器 (5・15・16・208・209・210・211・212)

無文の土器がほとんどである。(209) の 1 点のみ沈線による文様が施文されている。(15)・(212) は上底で、底部から口縁に向かって広がる器形をとる。(5)・(16)・(208)・(210)・(211) は胴部が膨らむ器形である。底部には上底、丸底、平底等ある。(15) の内外面には多量の炭化物が付着している。

(2) スタンプ形土製品 (213)

遺構外の柵列柱跡から 1 点出土している。側面下部に 1 条の沈線が入りつまみ状の無文部と文様を区画している。底面にも沈線が施されているようであるが剥落のため詳細は観察できない。

(3) 円盤状土製品 (214～219)

(215) ～ (219) は深鉢形土器の胴部・底部破片の転用と思われ加工の痕が観察される。(214) は剥離の

見られない縁辺をもつことから当初から円盤形に作られたものと思われる。ほとんどが後期前葉のものと思われる。

(4) 不明のもの

(220) は土偶?の一部、(221) は土錘の一部とも思われるが定かでない。

4. 石製品 (第29図、写真図版36)

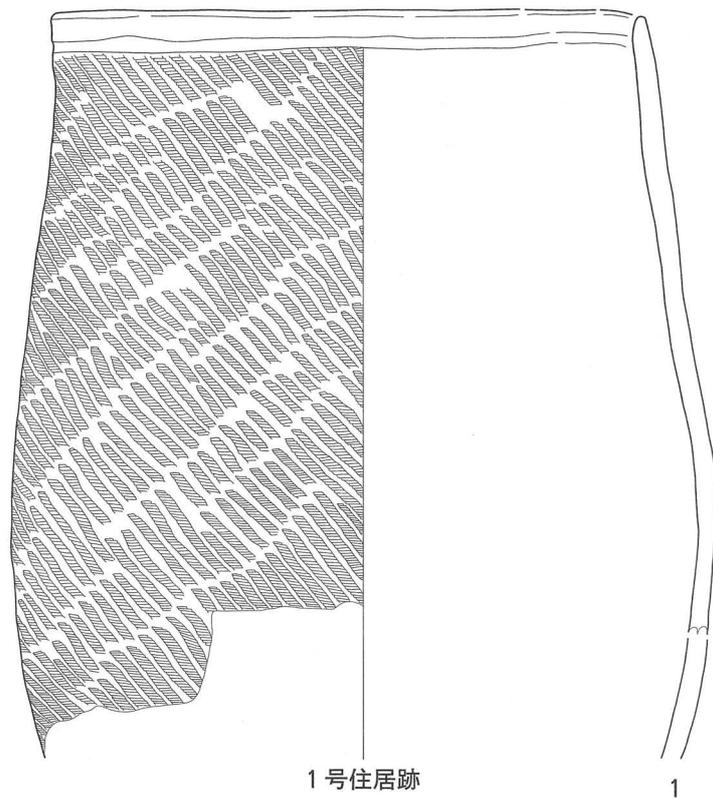
塊状耳飾 (S207) が2号竪穴住居跡埋土上面Hから1点出土している。片面が欠損している平面形は長方形を呈するものと思われる。断面形は楕円形を呈する。湾曲部の平面に円形の凹みがある。

5. 銭貨 (第29・47図、写真図版38)

本遺跡からは6点出土している。(224) が1号陥し穴の2層の攪乱土から出土している。他は全て遺構外の基本層序Ⅱ層および攪乱土から出土したものである。銭名はあるものの磨滅していて解読できないものもある。(223) は永楽通宝 (16世紀: 中国の明)、(222) は開元通宝、(224) ~ (226) は寛永通宝と思われる。(227) は不明である。観察表は作成していない。

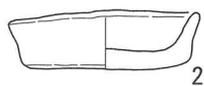
6. 陶磁器 (写真図版38)

中世から近世にかけてのものが破片で数十点出土している。写真だけ6点を掲載した。観察表は作成していない。(228) ~ (230) は瀬戸・美濃産の皿 (16世紀末)、(231)・(232) は明 (中国) の染付 (16世紀)、(233) は肥前産の色絵 (17世紀前半) である。



1号住居跡

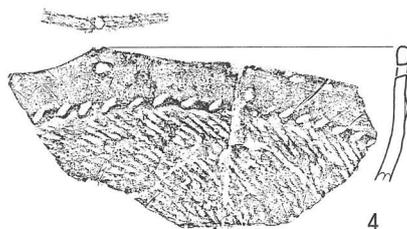
1



2



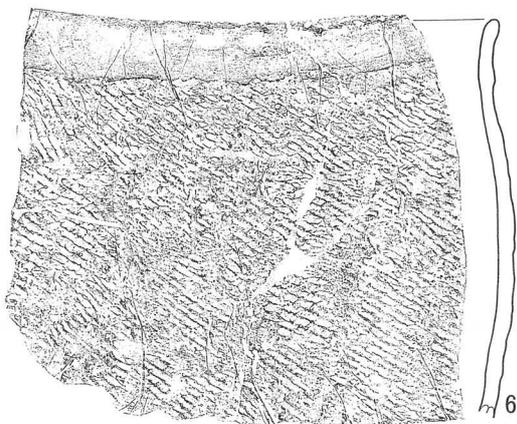
3



4



5



6

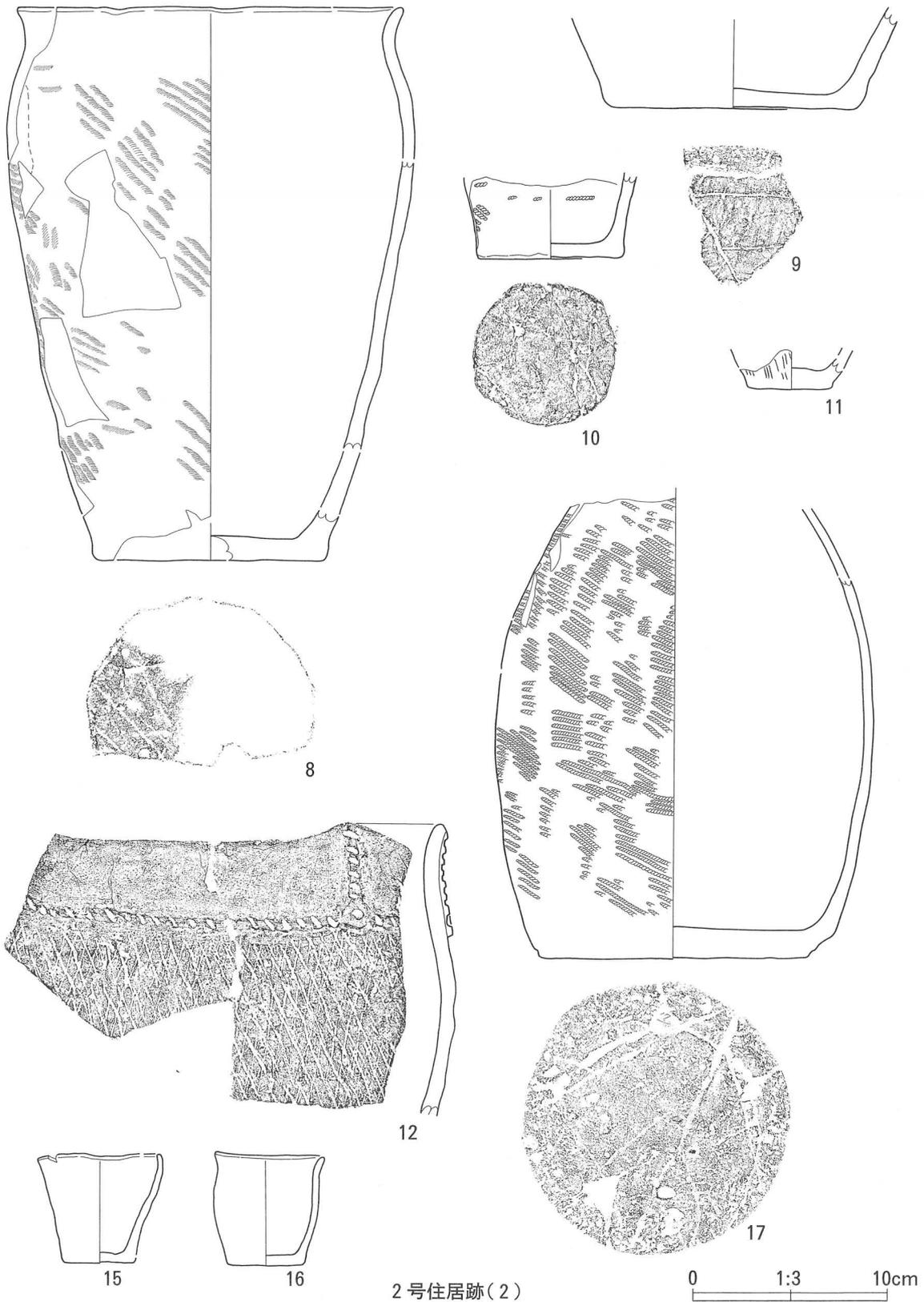


7

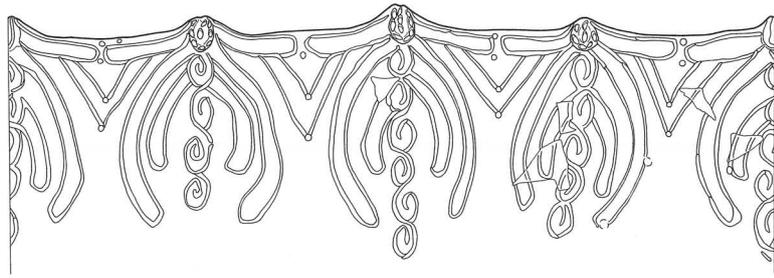
2号住居跡(1)

0 1:3 10cm

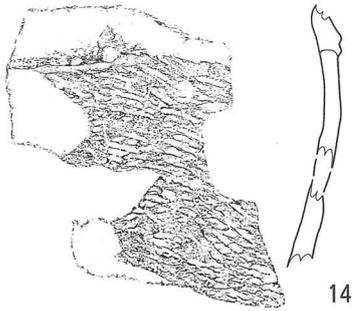
第26図 遺構内出土遺物(1)



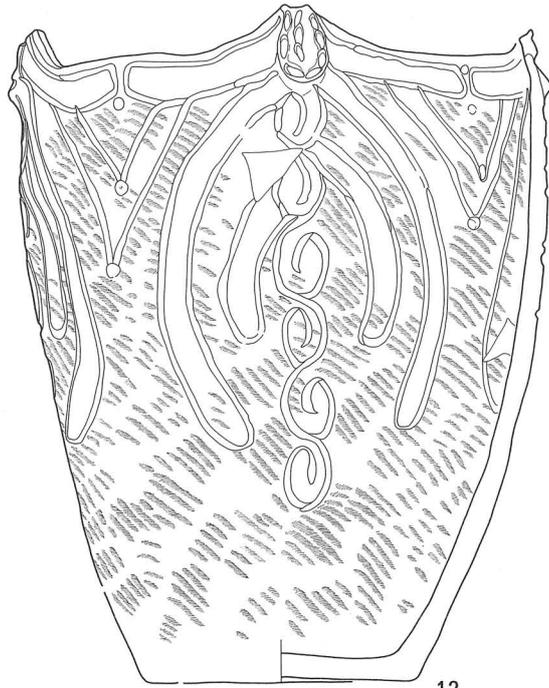
第27図 遺構内出土遺物(2)



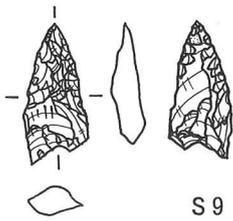
13



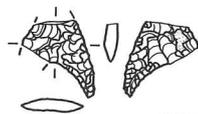
14



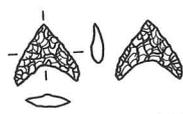
13



S9

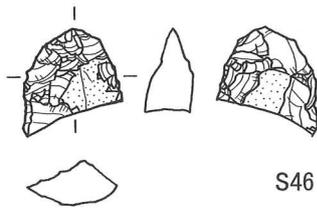


S30

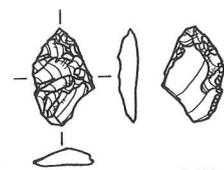


S31

S9, S30, S31, S46, S47... S=2/3



S46

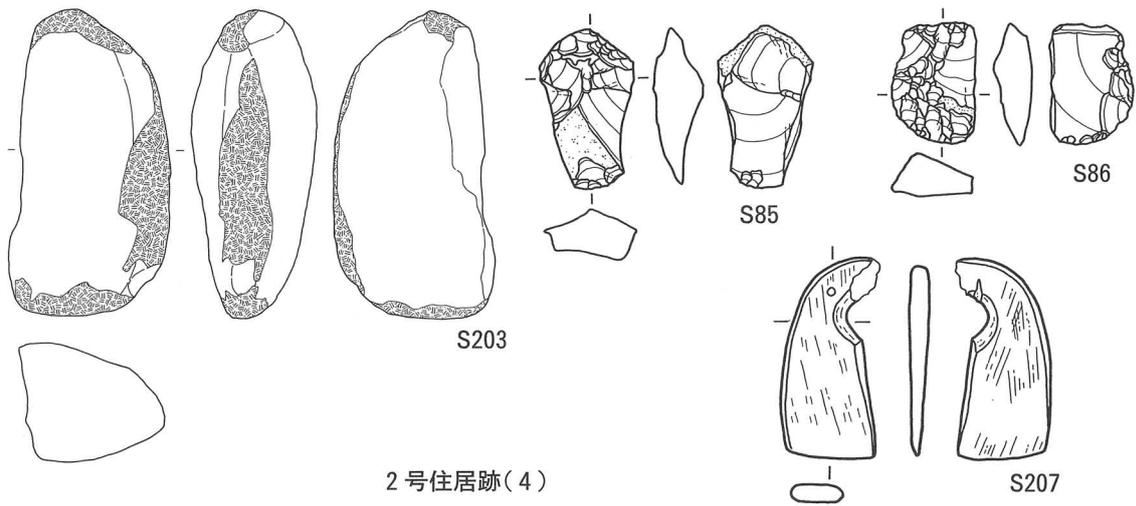


S47

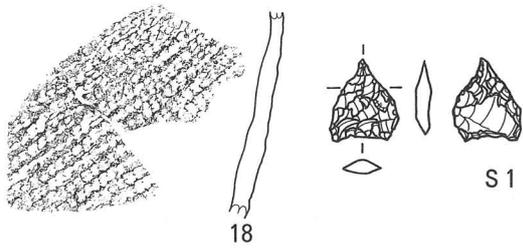
0 1:3 10cm

2号住居跡(3)

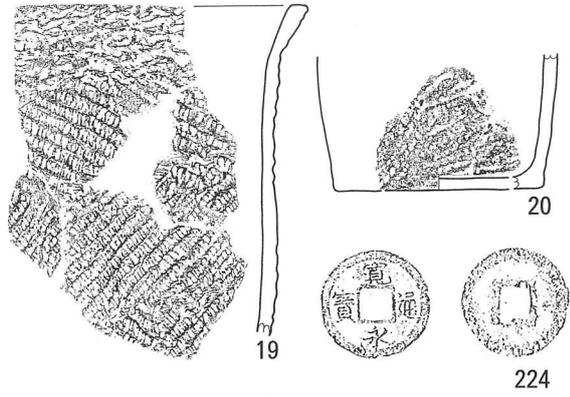
第28図 遺構内出土遺物(3)



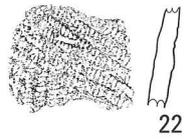
2号住居跡(4)



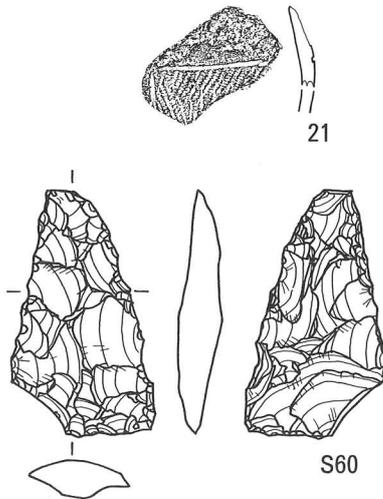
住居状遺構



1号陥し穴



2号土坑

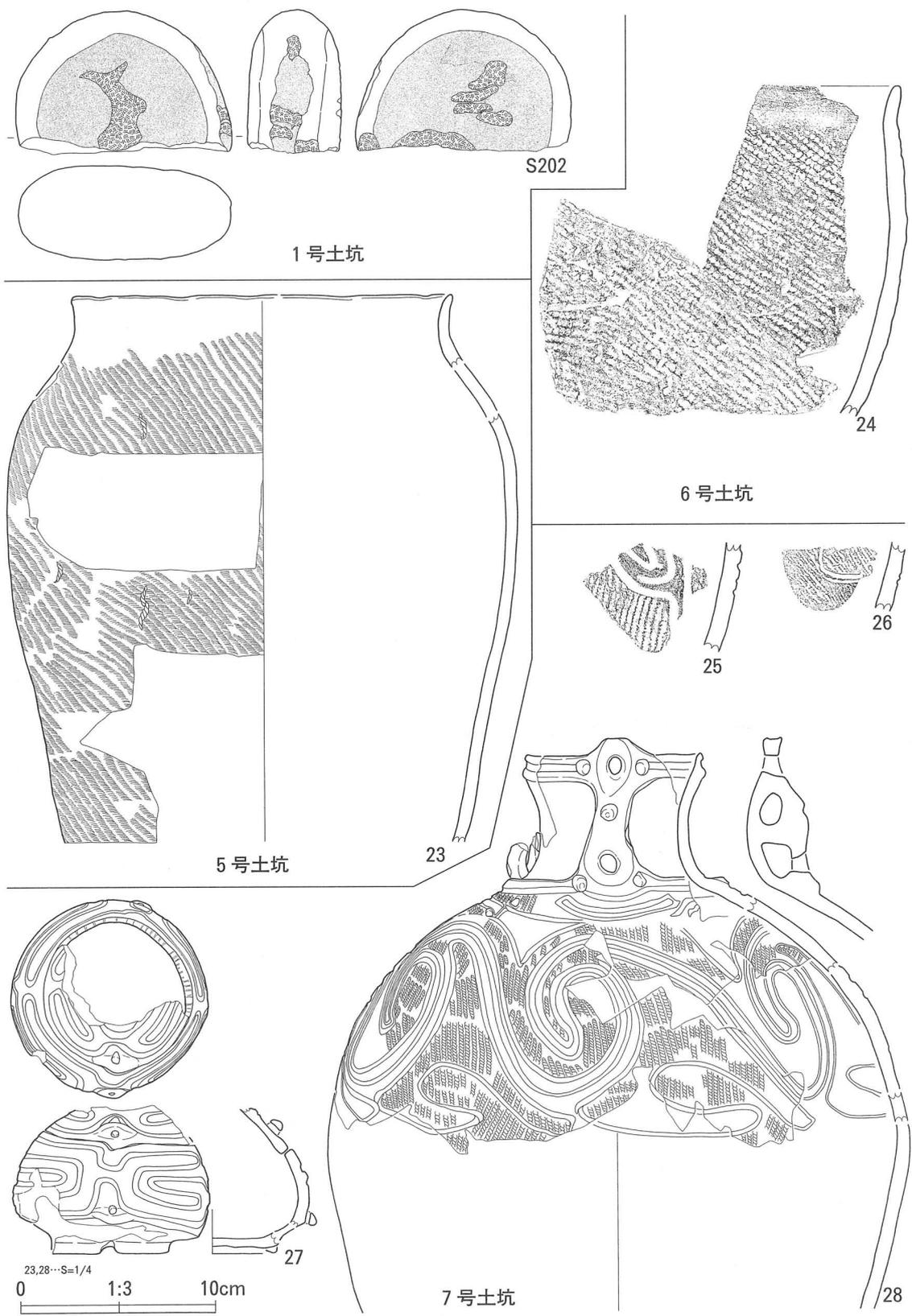


3号陥し穴

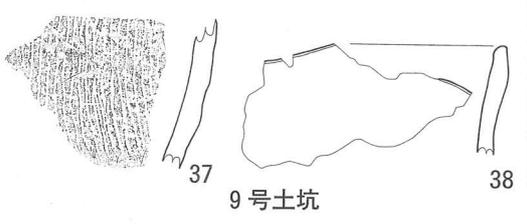
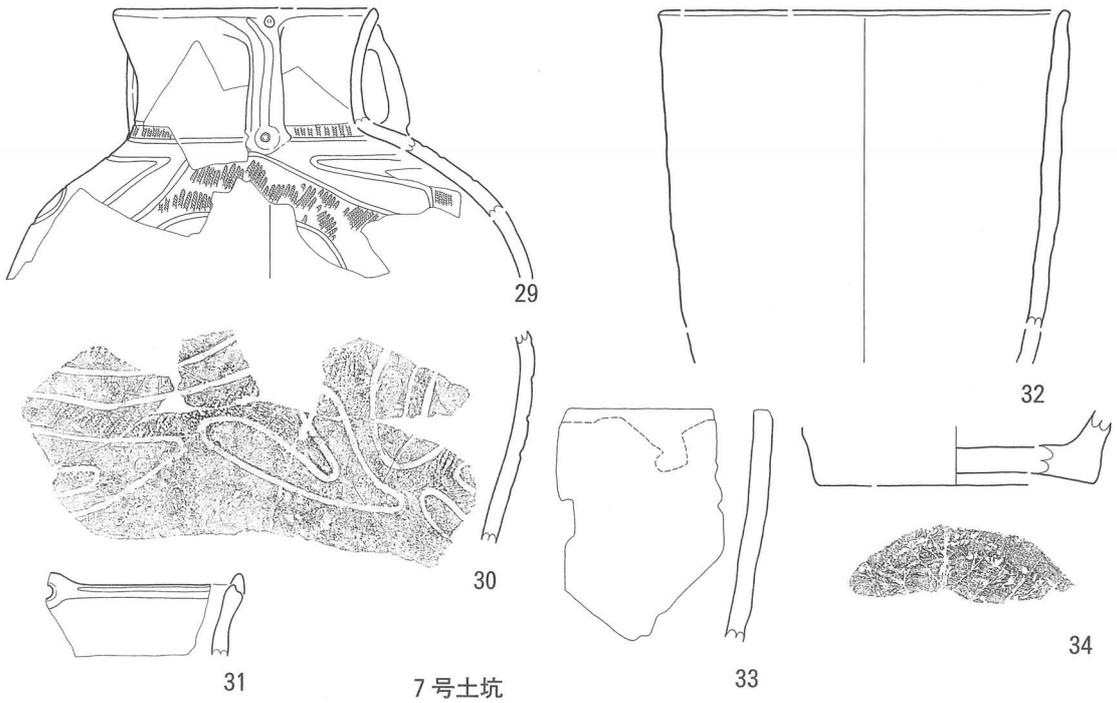
224, S1, S60, S85, S86, S207...S=2/3

0 1:3 10cm

第29図 遺構内出土遺物(4)

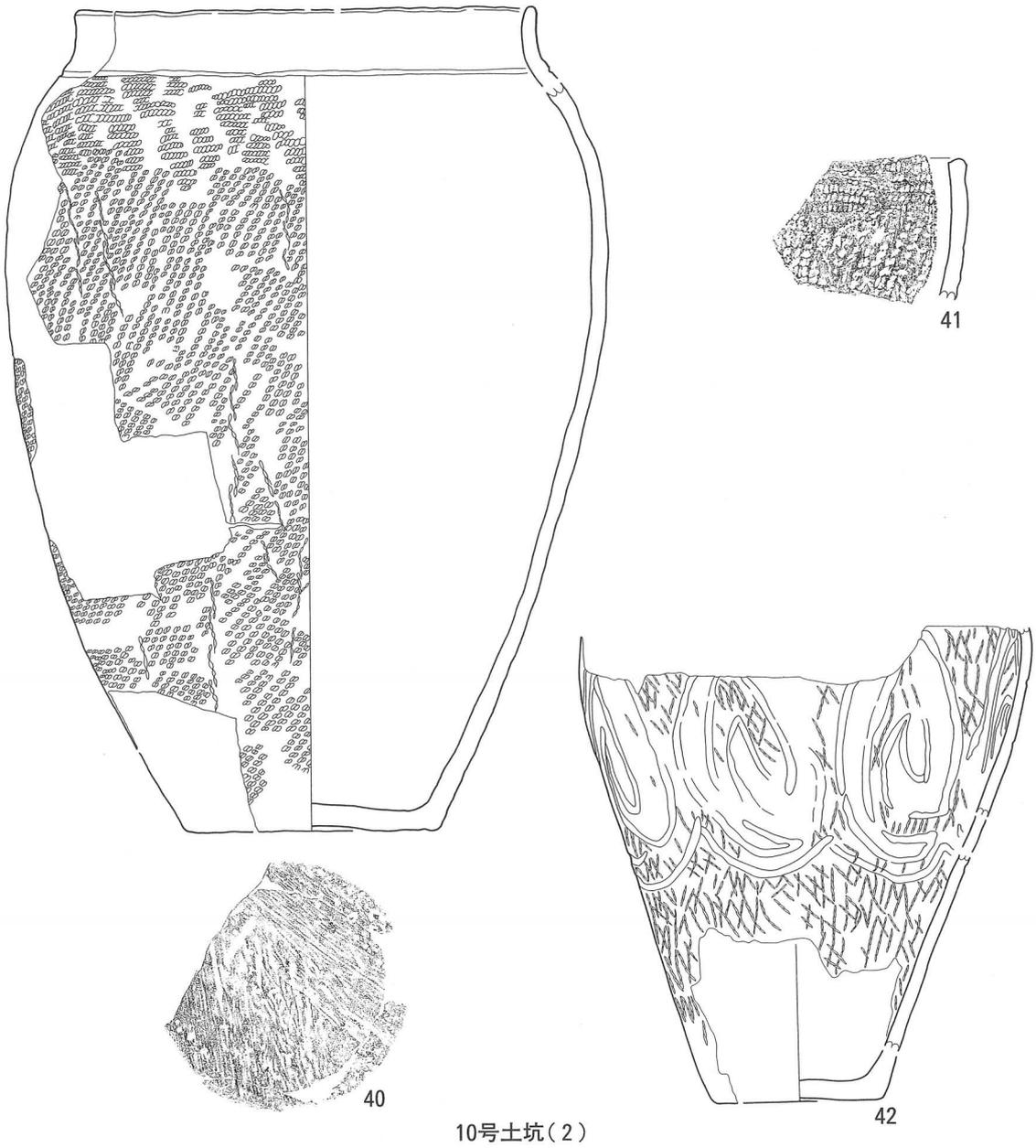


第30图 遺構内出土遺物(5)

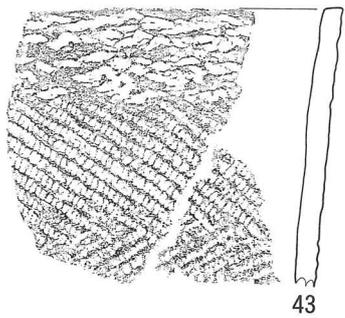


39...S=1/4
0 1:3 10cm

第31图 遺構内出土遺物(6)



10号土坑(2)



4号烧土

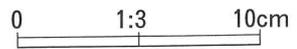
43



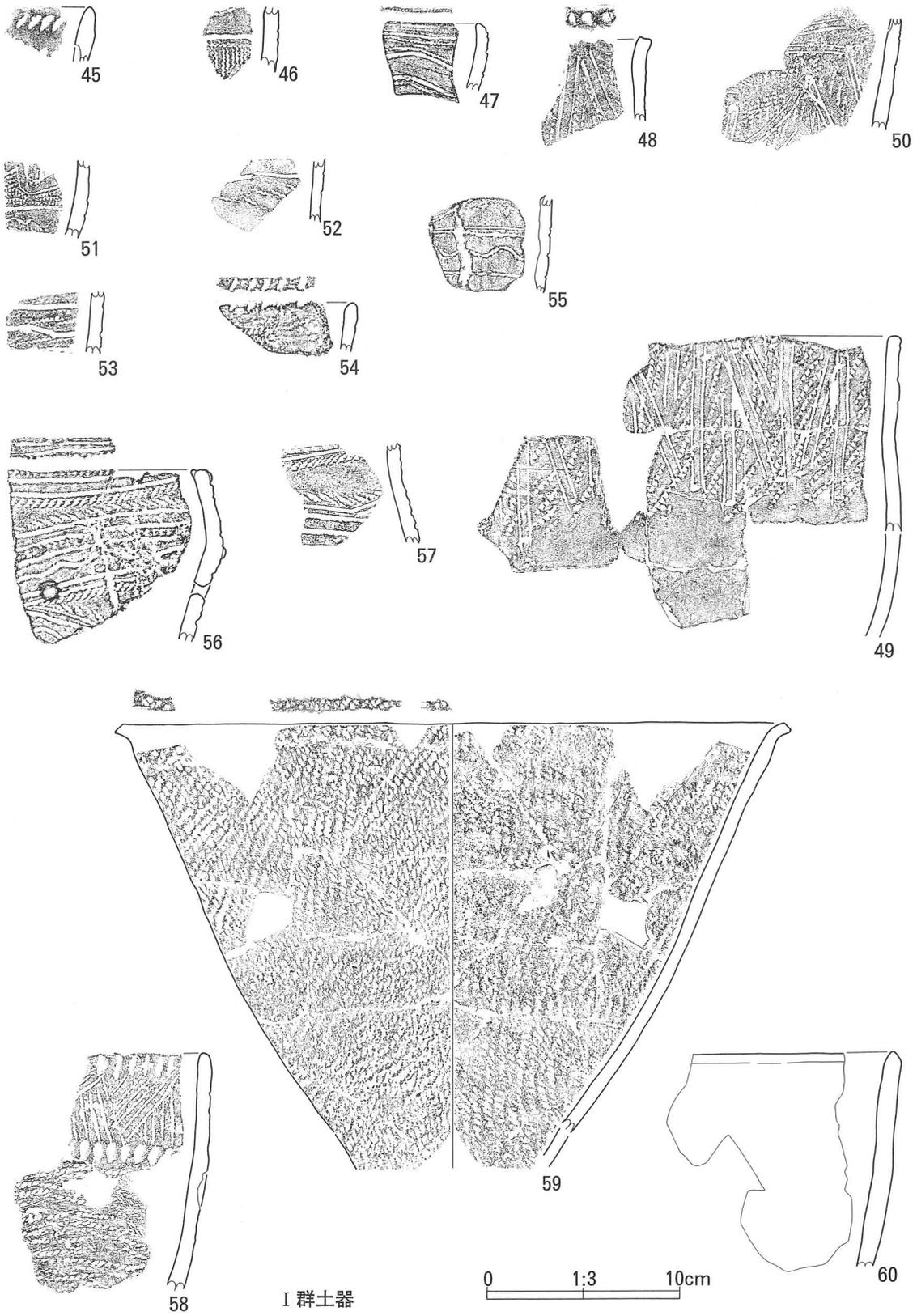
16号烧土

44

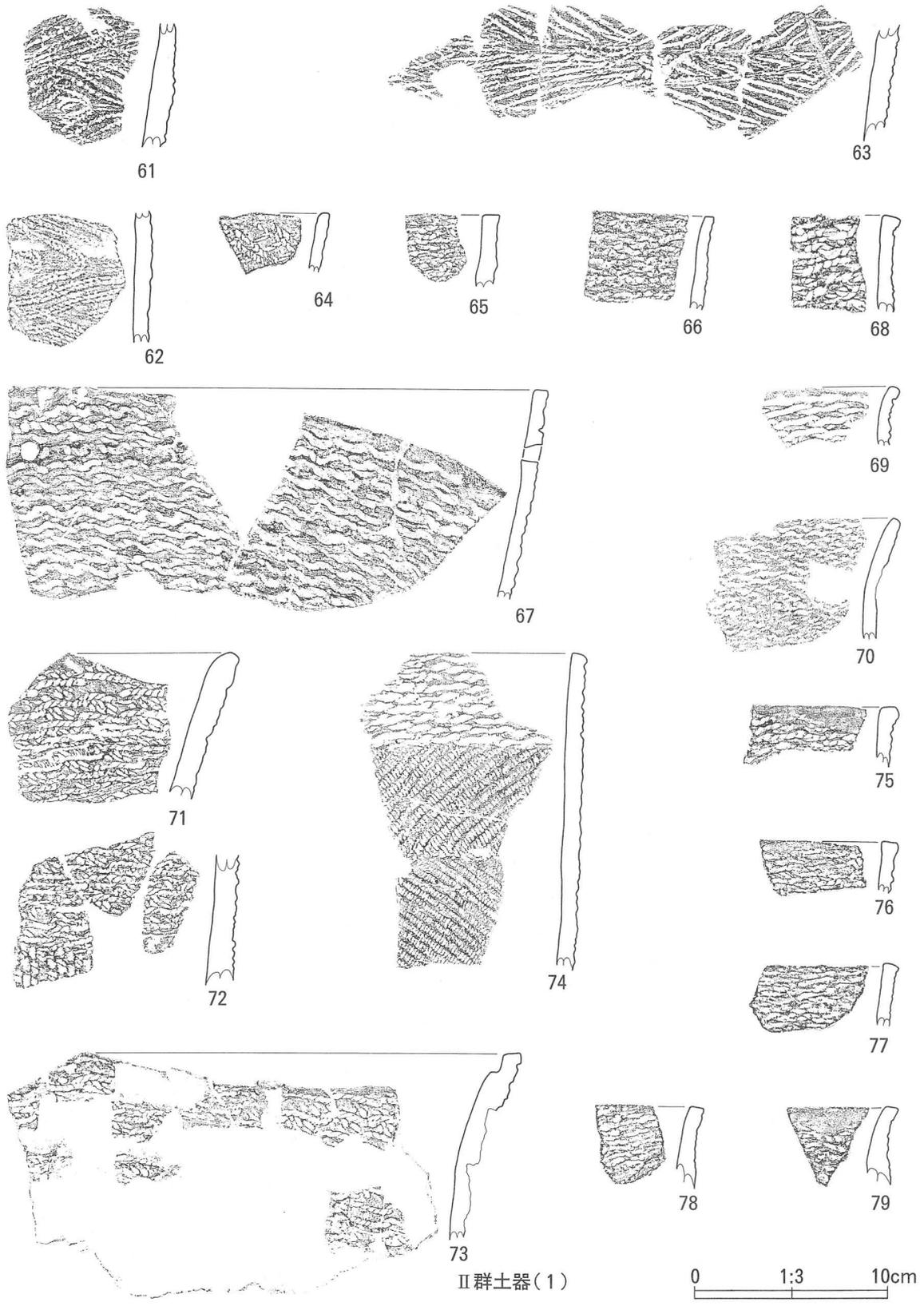
40...S=1/4



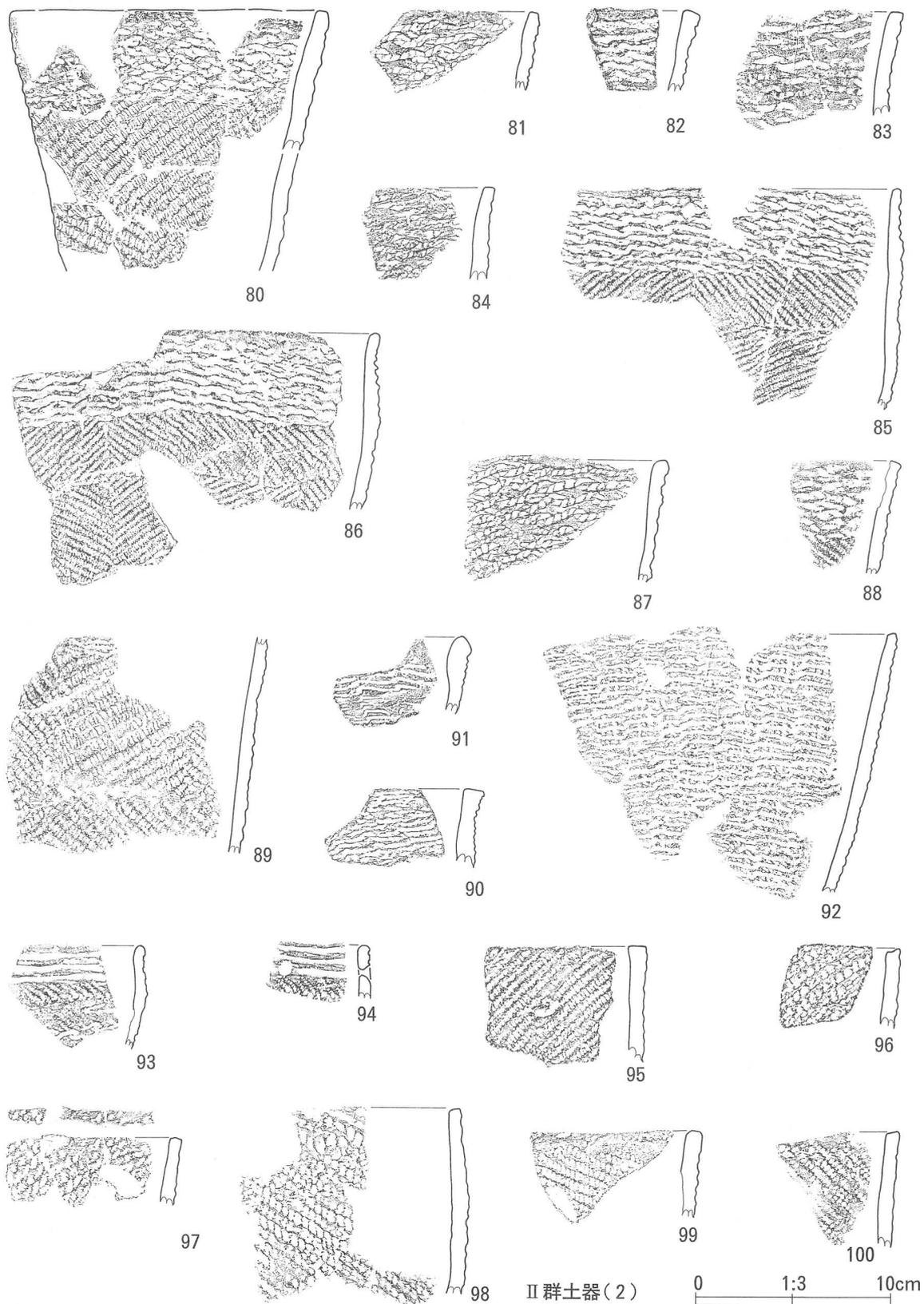
第32图 遺構内出土遺物(7)



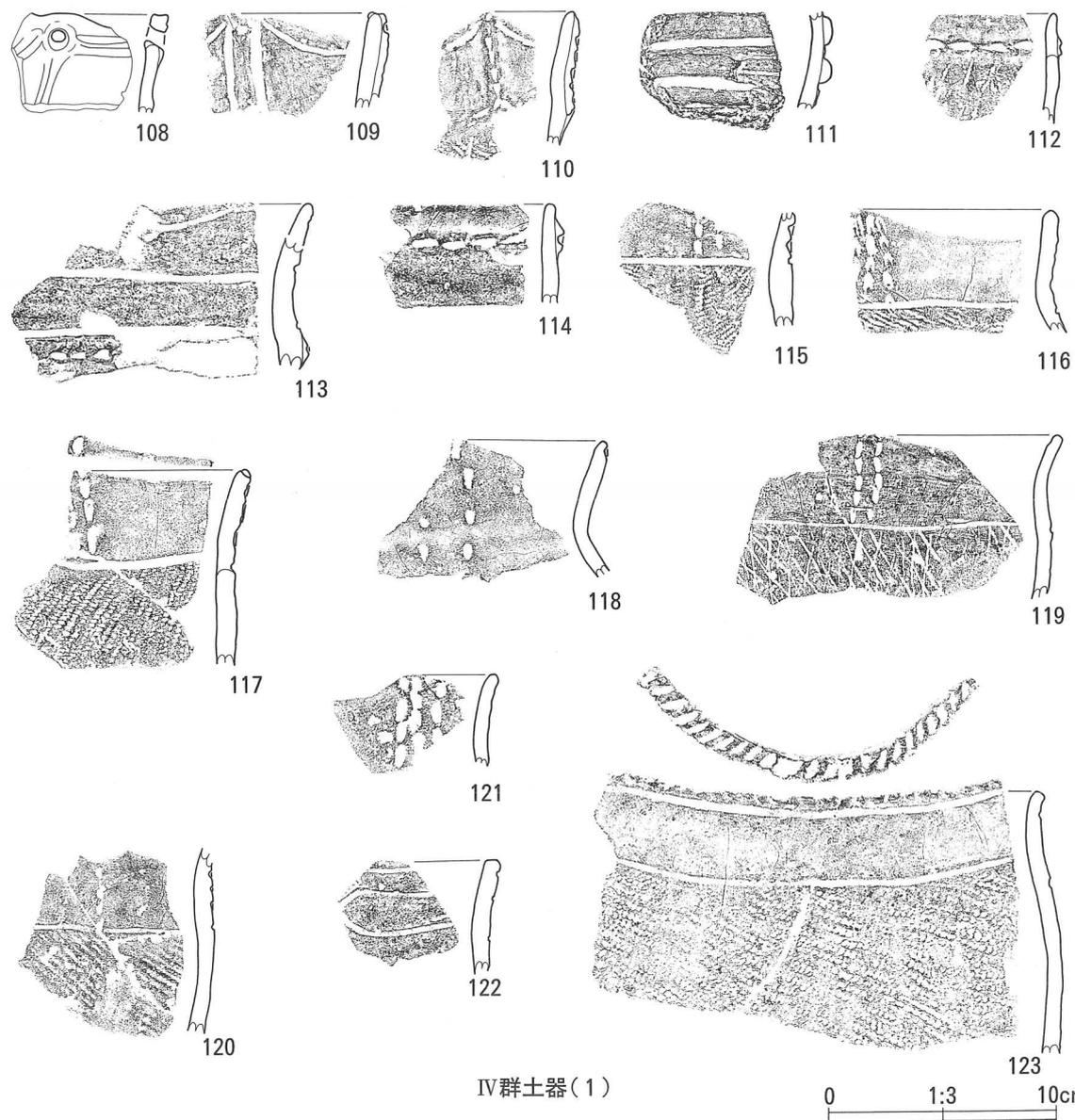
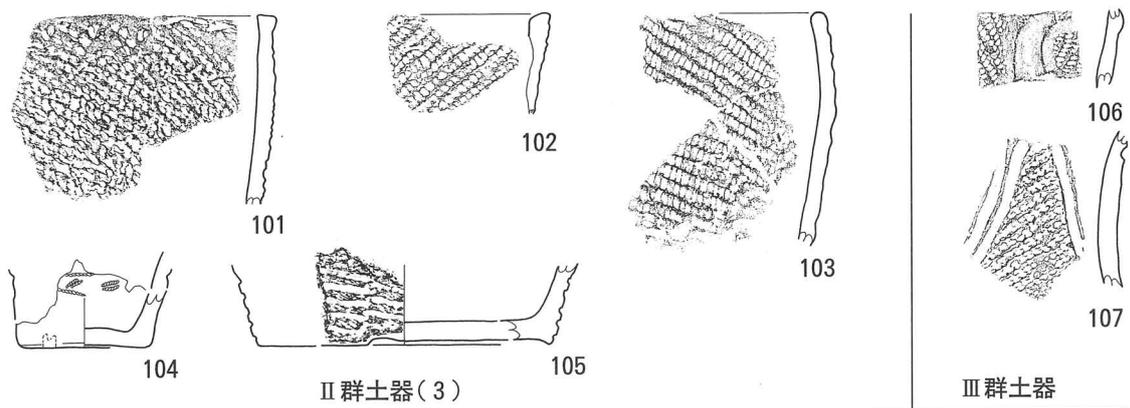
第33図 遺構外出土遺物 (1)



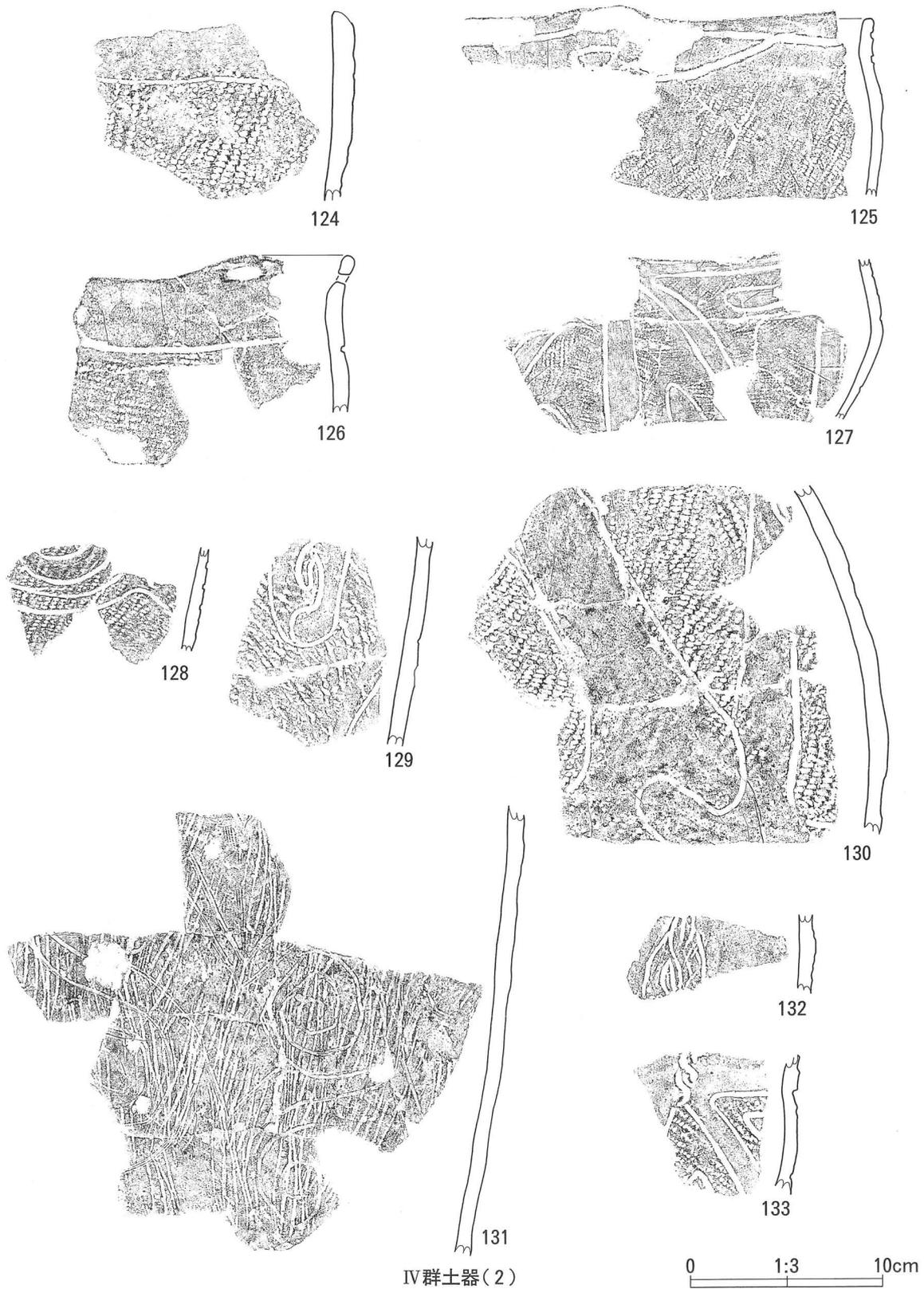
第34図 遺構外出土遺物(2)



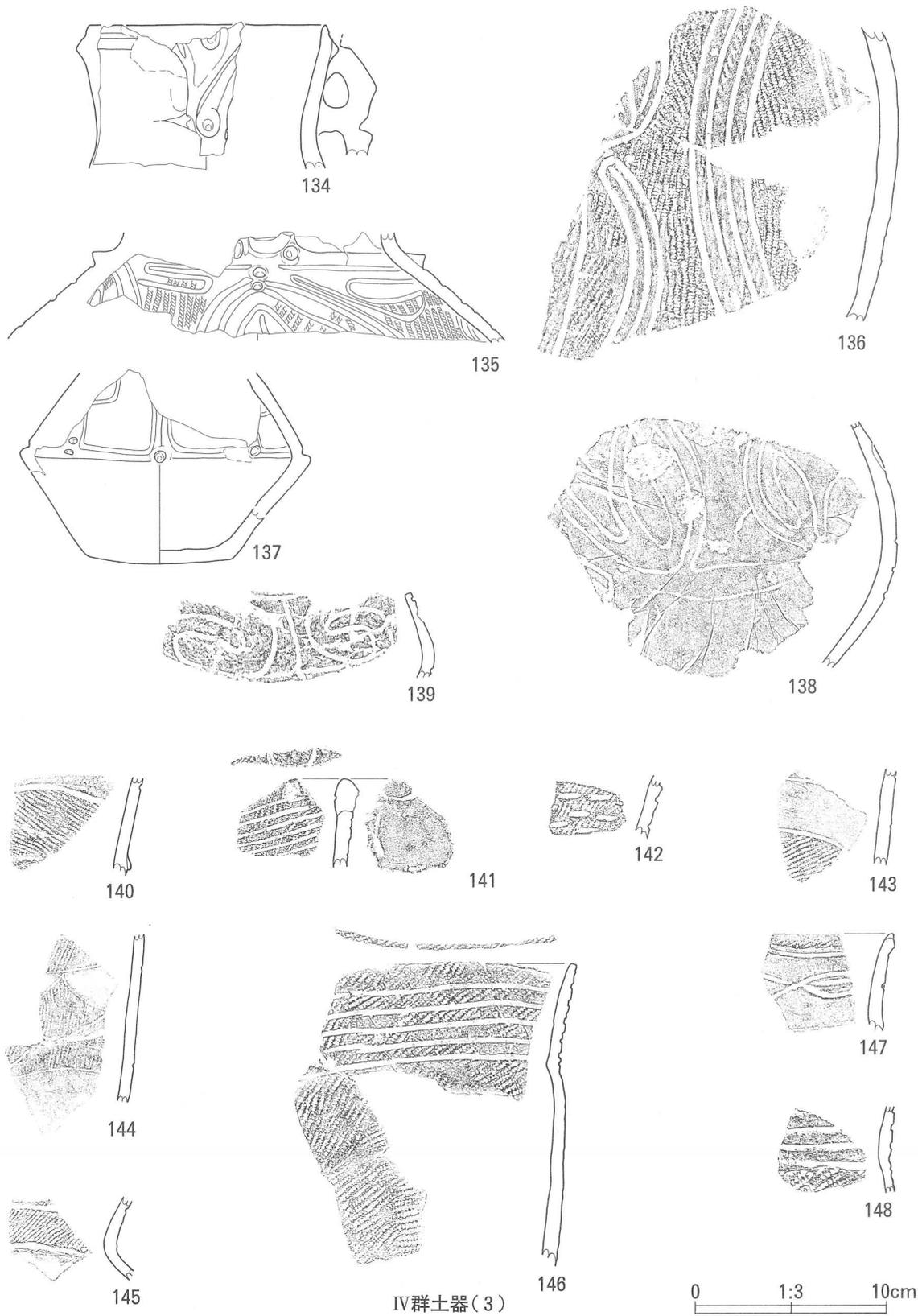
第35図 遺構外出土遺物(3)



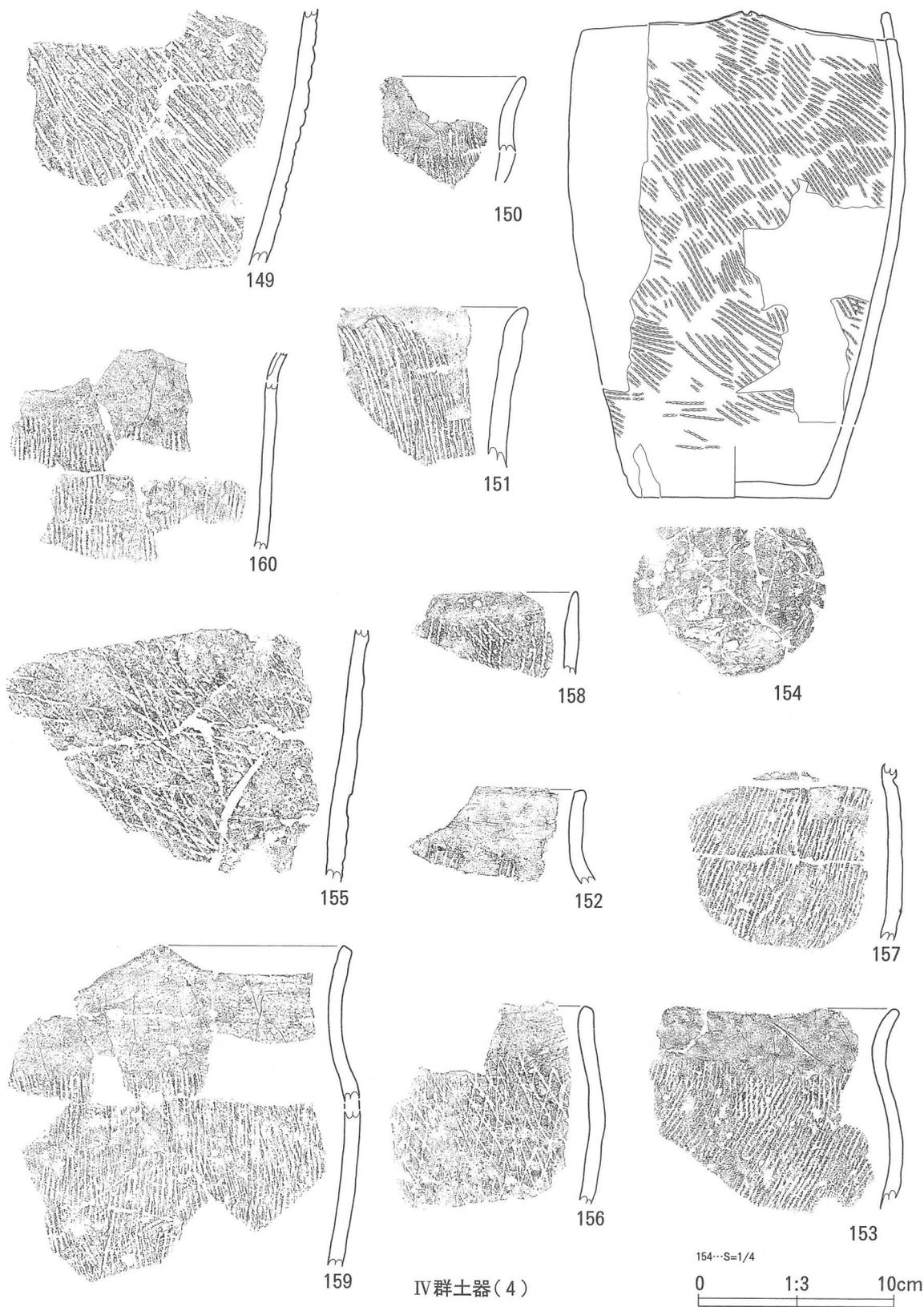
第36図 遺構外出土遺物(4)



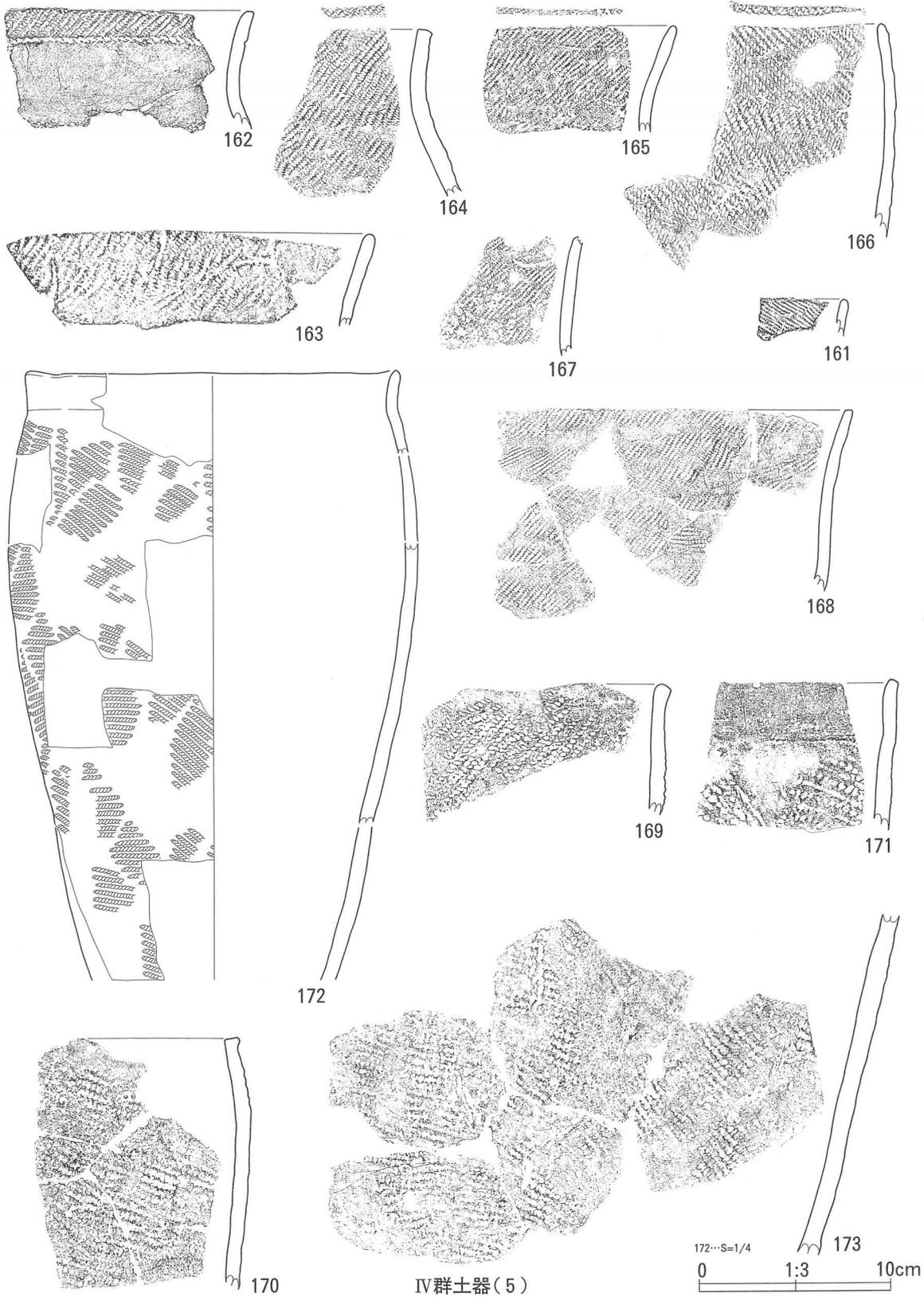
第37図 遺構外出土遺物 (5)



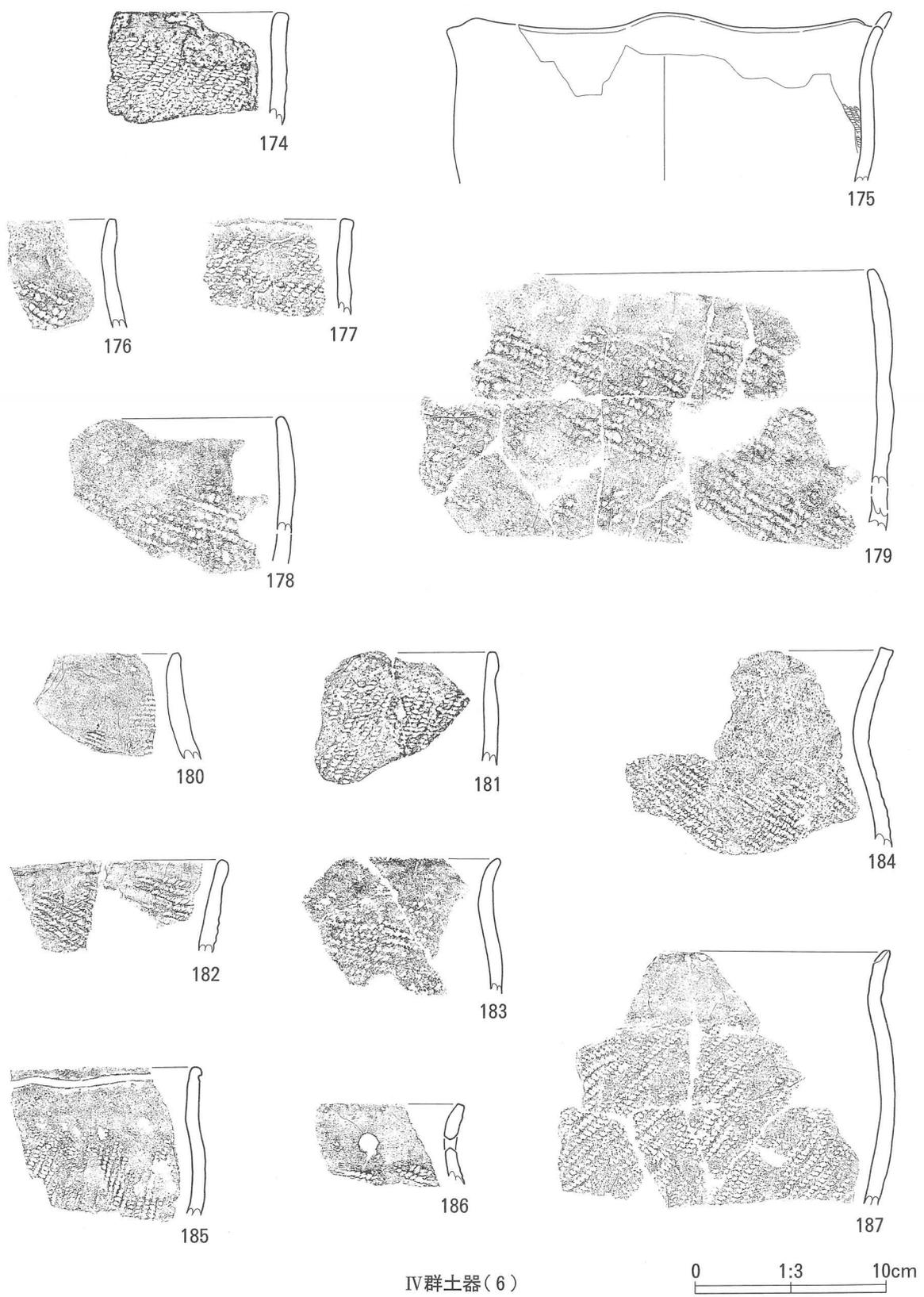
第38図 遺構外出土遺物(6)



第39図 遺構外出土遺物(7)

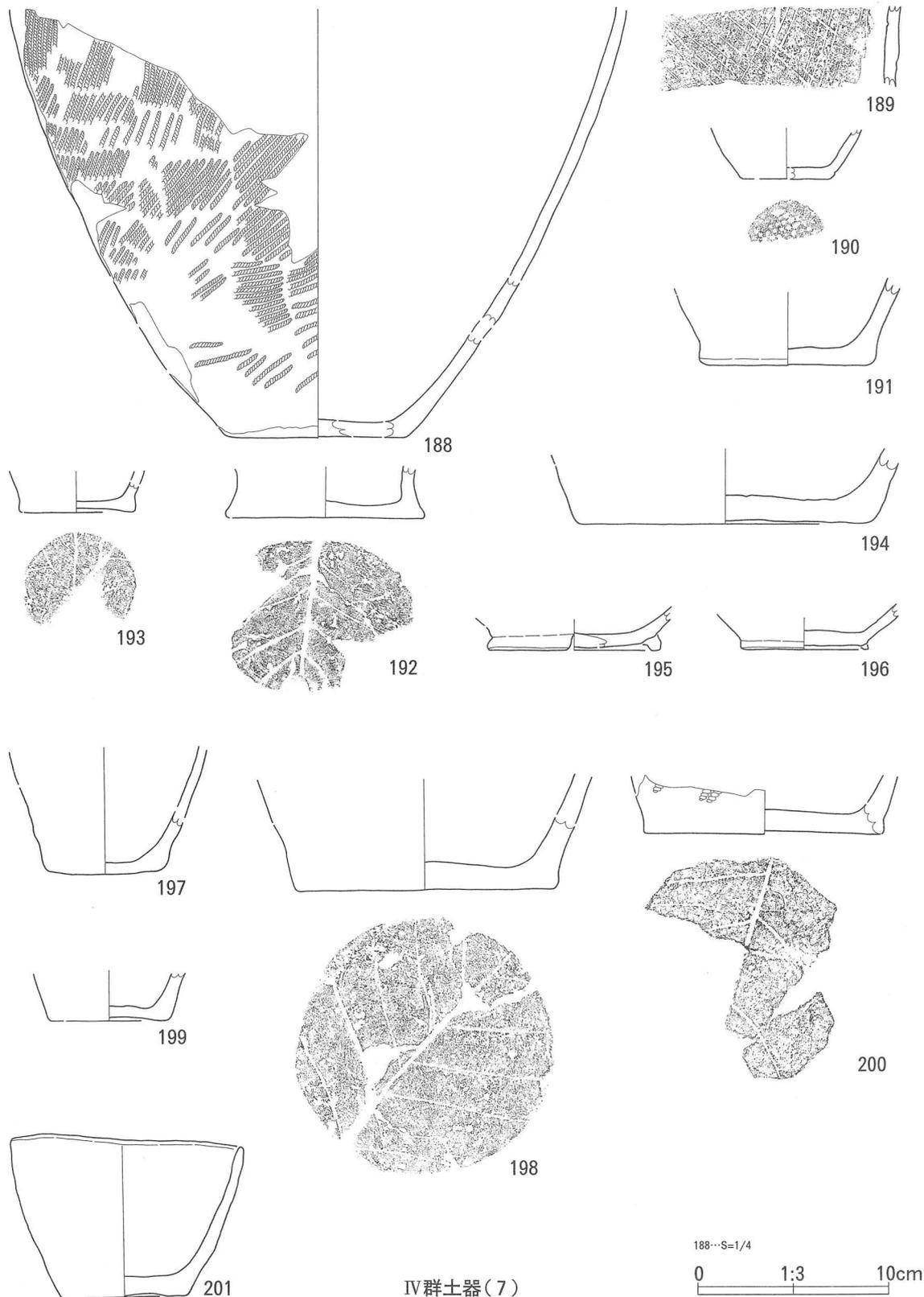


第40図 遺構外出土遺物(8)



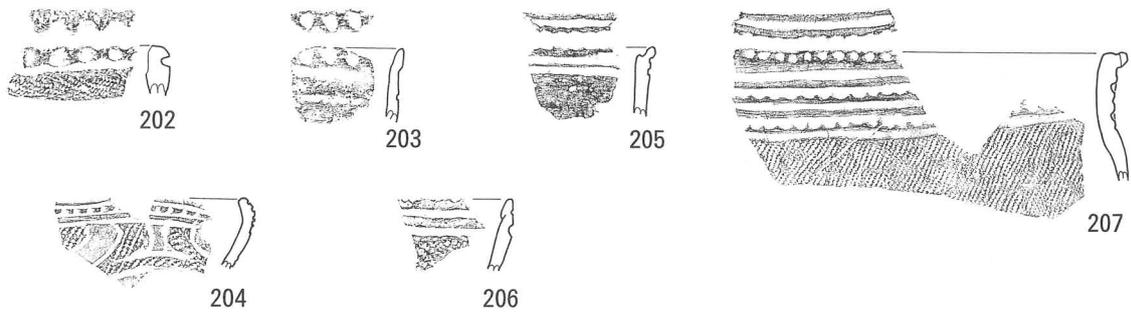
IV群土器(6)

第41図 遺構外出土遺物(9)

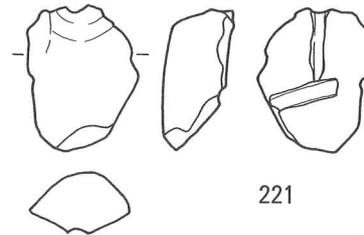
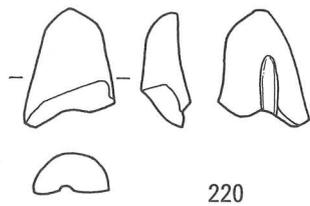
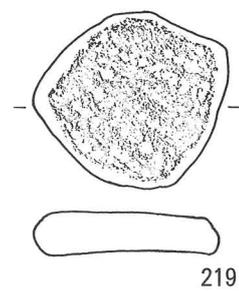
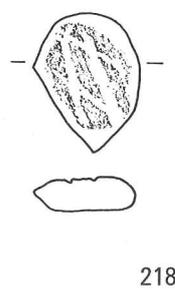
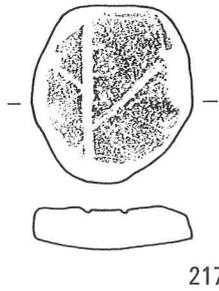
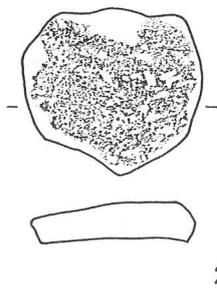
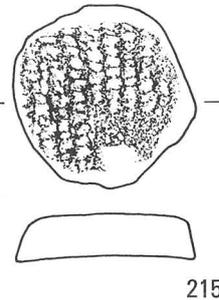
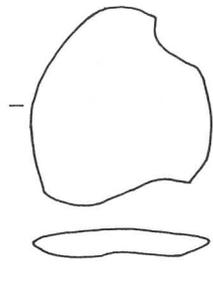
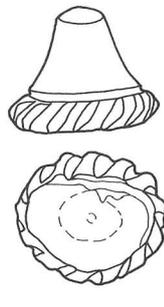
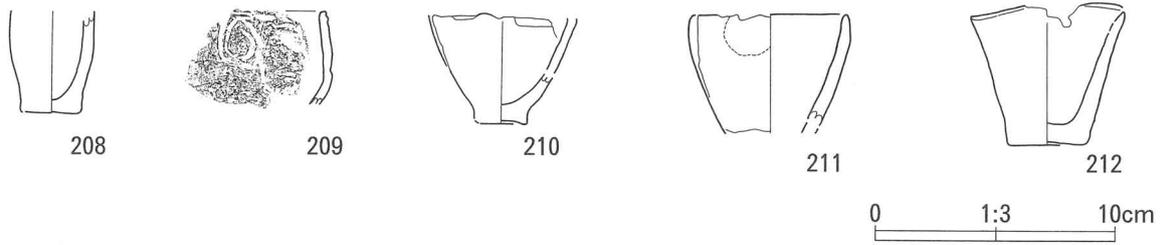


IV群土器(7)

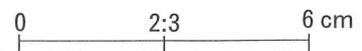
第42図 遺構外出土遺物(10)



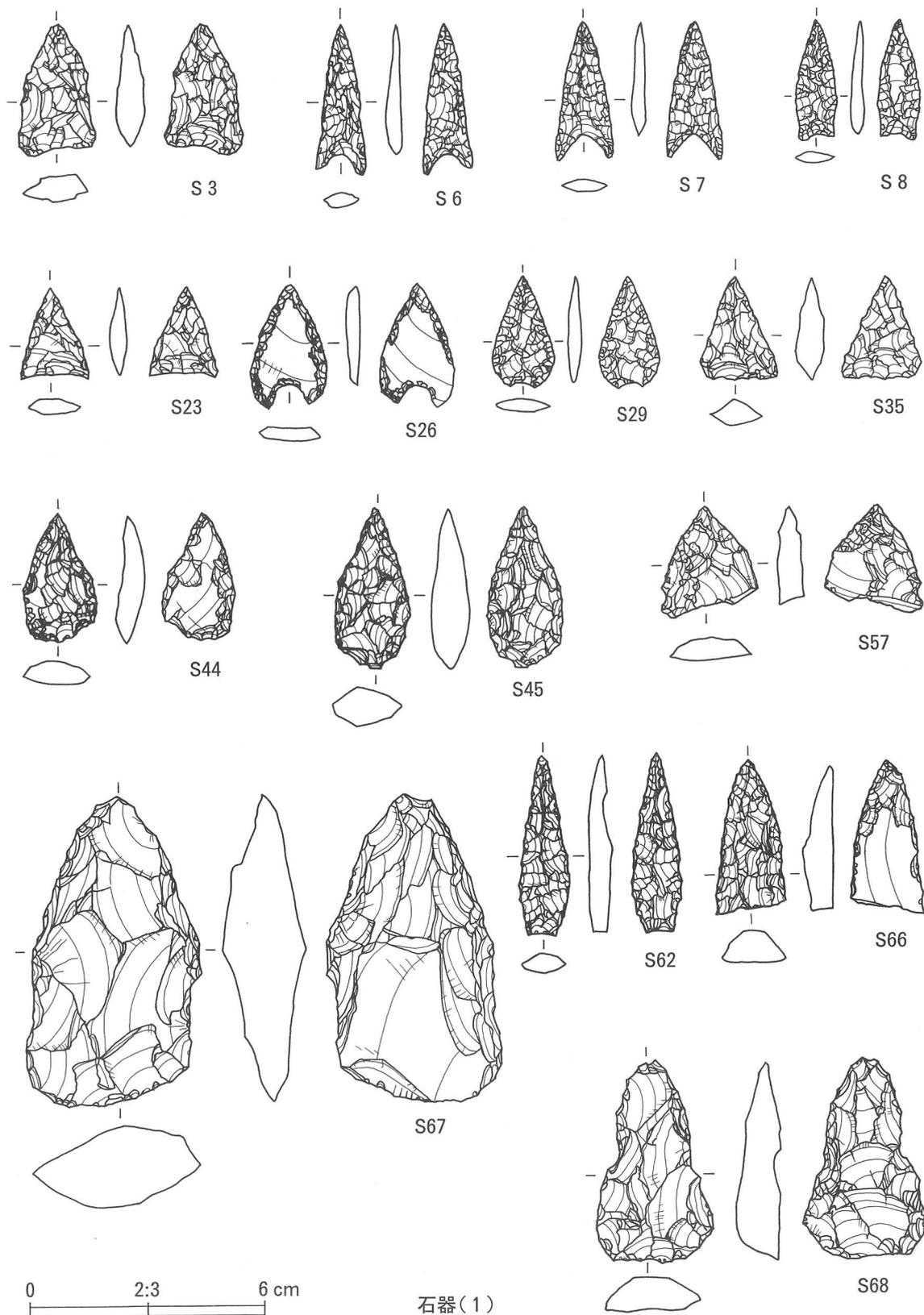
V群土器



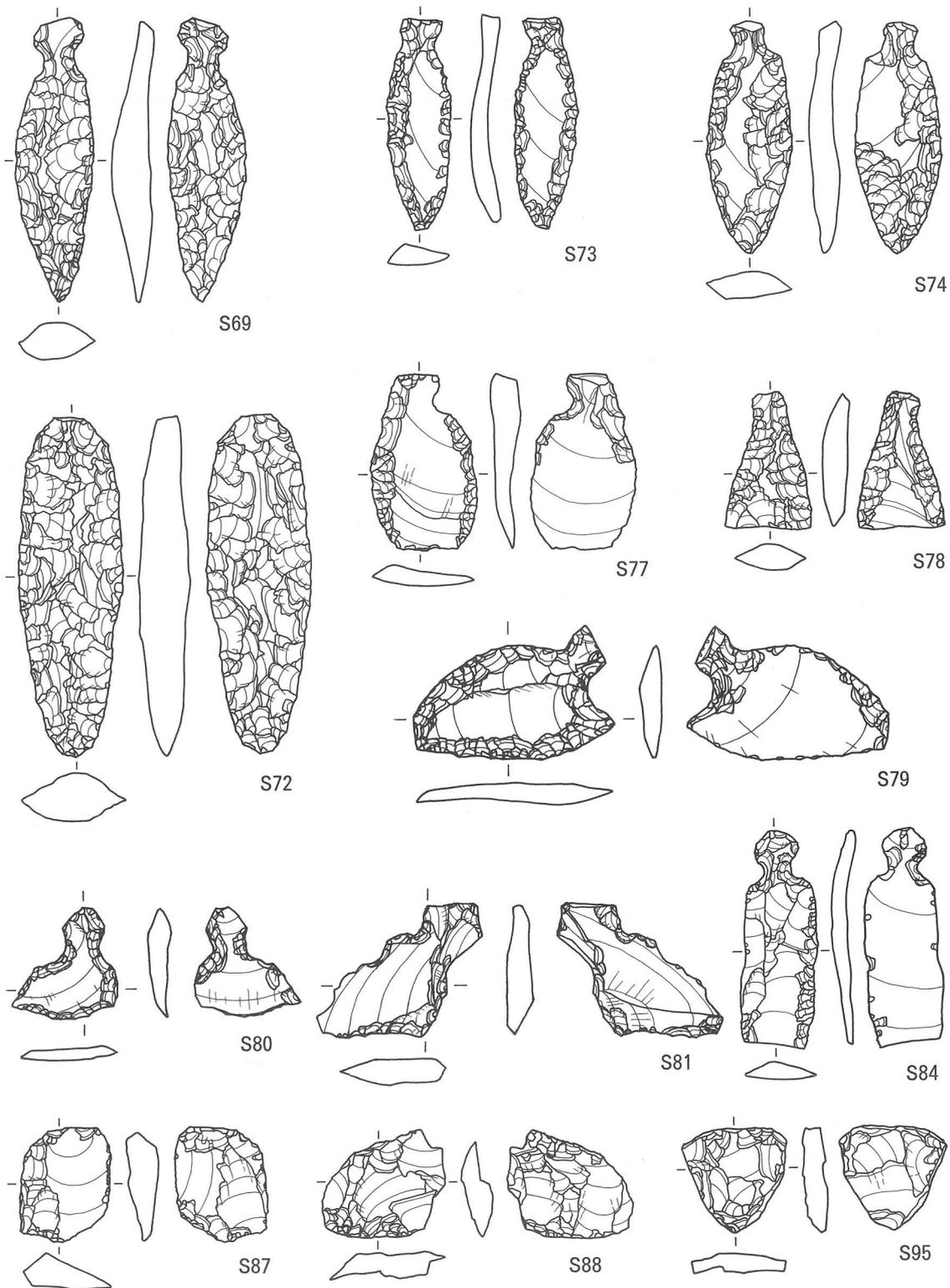
土製品



第43図 遺構外出土遺物 (11)

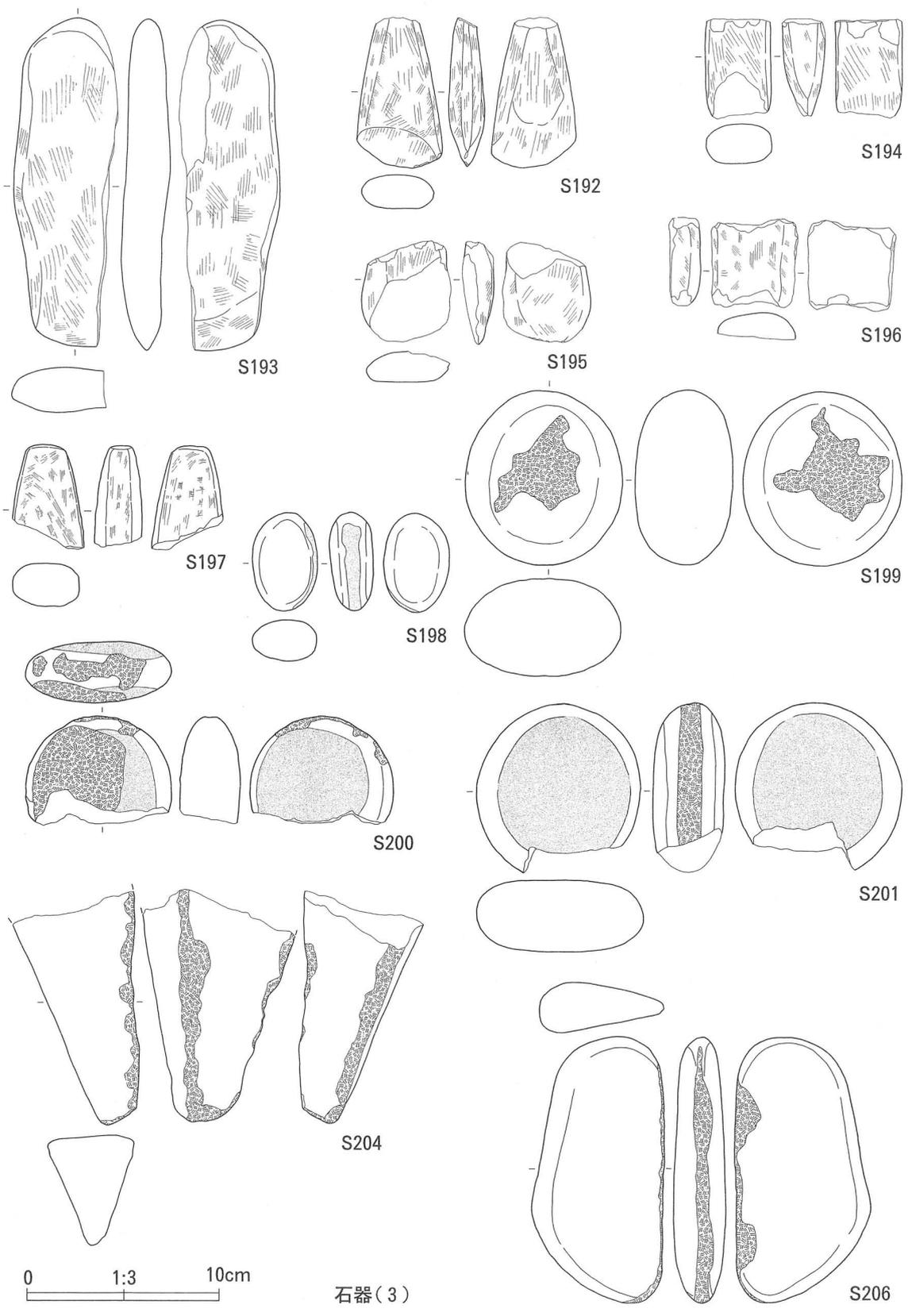


第44図 遺構外出土遺物 (12)



石器(2)

第45図 遺構外出土遺物 (13)



石器(3)

第46図 遺構外出土遺物(14)



222



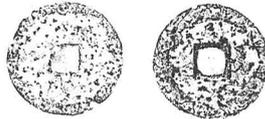
223



225

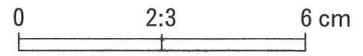


226



227

錢 貨



第47圖 遺構外出土遺物 (15)

第2表 出土遺物観察表

(遺構内出土土器)

番号	出土位置・層位	器種	部位	文様	備考	分類	遺物図版	写真図版
1	1号住居 ベルト4層	深鉢	口縁～ 胴上半	口縁：一条の沈線 ナデ 胴部：縄文（0段多条）焼け はじけ		Ⅲ	26	14
2	2号住居 炉埋土	皿？	口縁～ 底	無文		Ⅳ-5	26	14
3	2号住居 埋土下面	深鉢	口縁	口縁：斜めに刻みのある隆帯 円形貼付文 竹管による 刺突ナデ		Ⅳ-1- ①	26	14
4	2号住居 ベルト2・3・4層	鉢	口縁～ 胴上	口縁：波状 無文 ナデ 頂部に刻み 円孔 頸部：斜 めに刻みのある隆帯 胴部：縄文（L）		Ⅳ-1- ①	26	14
6	2号住居 ベルト1層	深鉢	口縁～ 胴上	口縁：無文 ナデ 胴部：縄文（L） 外面に炭化物		Ⅳ-3- ②	26	14
7	2号住居 埋土K	深鉢	口縁～ 胴上	口縁：無文 ナデ 胴部：縄文（L）		Ⅳ-3- ②	26	14
8	2号住居 埋土K	深鉢	口縁～ 底	口縁：無文 ナデ 胴部：縄文（L） 底部：木葉痕 内外面に炭化物		Ⅳ-3- ②	27	15
9	2号住居 埋土H		底	底：木葉痕 上げ底		Ⅳ-4	27	15
10	2号住居 埋土D・J	深鉢	胴下～ 底	胴部：縄文（LR） 底部：木葉痕		Ⅳ-4	27	15
11	2号住居 埋土C		底	胴部：撚糸文（L）		Ⅳ-4	27	15
12	2号住居 埋土G・K	深鉢	口縁～ 胴上	口縁：波状 無文 ナデ 頂部～頸部 頸部に斜めに刻みのある隆帯 交点に円形貼付文 竹管による刺突 胴部：網目状撚糸文		Ⅳ-1- ①	27	15
13	2号住居 埋土D・I	深鉢	口縁～ 底	口縁：4単位波状 楕円形貼付 沈線 刺突 胴部：沈 線による4単位の文様 縄文（L） 磨消技法		Ⅳ-1- ③-A	28	15
14	2号住居 埋土B	深鉢	頸部～ 胴上	頸部：刻み？のある隆帯 胴部：縄文（L） 外面に炭 化物		Ⅳ-1- ①	28	15
17	2号住居 埋土A	壺？	胴上半 ～底	縄文（LR） 底部：木葉痕		Ⅳ-3- ②	27	16
18	住居状遺構 ベルト13層	深鉢	胴部	縄文（LRL） 内面に炭化物	胎土に繊維	Ⅱ-5	29	16
19	1号陥し穴 埋土3層下部	深鉢	口縁～ 胴上	口縁：綾線文（L） 胴部：羽状縄文（0段多条 RL LR） 内外面に炭化物	胎土に繊維	Ⅱ-2	29	16
20	1号陥し穴 埋土3層下部	深鉢	胴下～ 底	縄文（LR） 内面に炭化物	胎土に繊維	Ⅱ-6	29	16
21	3号陥し穴 埋土上部	壺？	胴部	沈線 縄文（LR） 磨消技法 内面ミガキ		Ⅳ-1- ③-B	29	16
22	2号土坑 内焼土半裁	深鉢	胴部	羽状縄文？（0段多条 RL）	胎土に繊維	Ⅱ-5	29	16
23	5号土坑	深鉢	口縁～ 胴上	口縁：無文 ナデ 胴部：原体末端結節による綾線文 （L）		Ⅳ-3- ②	30	16
24	6号土坑 埋土2層	深鉢	口縁～ 胴上	口縁：無文 ナデ 胴部：原体末端結節による綾線文 （LR）		Ⅳ-3- ②	30	16
25	7号土坑 攪乱土	深鉢	胴部	沈線 縄文（LR） 磨消技法？		Ⅳ-1- ③-A	30	17
26	7号土坑	深鉢	胴部	沈線 縄文（LR）		Ⅳ-1- ③-A	30	17
27	7号土坑 付土器	切断蓋 付土器	口縁～ 底	沈線 円孔 ミガキ 赤色顔料		Ⅳ-1- ③-B	30	17
28	7号土坑	壺	口縁～ 胴上半	口縁と頸部に隆帯 沈線 3単位の把手？ 把手に刺突・円 孔 縄文（LR） 胴部に2個1組の円形刺突 ミガキ		Ⅳ-1- ③-B	30	17
29	7号土坑	壺	口縁～ 胴上	口縁：3単位の把手 把手上下に竹管による刺突 沈線 縄文（LR） 磨消技法 ミガキ		Ⅳ-1- ③-B	31	17
30	7号土坑	壺	胴部	沈線 縄文（LR） 磨消技法 ミガキ 赤色顔料		Ⅳ-1- ③-B	31	18
31	7号土坑	壺	口縁	円孔 隆帯 ナデ		Ⅳ-1- ③-B	31	18
32	7号土坑	深鉢	口縁	無文		Ⅳ-5	31	18
33	7号土坑	深鉢	口縁	無文 赤色顔料		Ⅳ-5	31	18
34	7号土坑		底	木葉痕		Ⅳ-4	31	18
35	8号土坑	深鉢	口縁～ 胴上	口縁：波状 無文 ナデ 胴部：縄文（L）		Ⅳ-3- ②	31	18
36	8号土坑	深鉢	胴部	原体末端結節による綾線文（L）		Ⅳ-3- ②	31	18
37	9号土坑	深鉢	胴部	撚糸文（R）		Ⅳ-3- ①	31	18
38	9号土坑	深鉢	口縁	口縁：波状 無文 ナデ		Ⅳ-5	31	18
39	10号土坑	深鉢	口縁～ 胴上	口縁：山形突起 無文 ナデ 胴部：縄文（LR）		Ⅳ-3- ②	31	18

番号	出土位置・層	器種	部位	文様	備考	分類	遺物図版	写真図版
40	10号土坑	深鉢	口縁～底	口縁：無文 ナデ 頸部：一条の沈線 胴部：縄文(上部：LR 下部：原体末端結節による綾線文RLR) 底部：木葉痕		IV-1-②	32	19
41	10号土坑	深鉢	口縁	口縁：剥落 縄文(LR)		IV-3-②	32	19
42	10号土坑	深鉢	胴部上～底	胴部：8単位の文様 沈線 網目状撚り糸文 磨消技法 ミガキ		IV-1-③-A	32	19
43	4号焼土	深鉢	口縁～胴上	口縁：綾線文(R) 胴部：縄文(RL?) 外面に炭化物	胎土に繊維	II-2	32	19
44	16号焼土	鉢?	口縁	撚糸文(L)		IV-3-①	32	19

(遺構外出土土器)

番号	出土位置・層	器種	部位	文様	備考	分類	遺物図版	写真図版
45	3H② IV層	深鉢	口縁	口縁：丸み 2条以上の爪形状の刺突 内外面に炭化物		I-1	33	20
46	第4トレンチ	深鉢	胴部	押引文 貝殻腹縁文		I-2	33	20
47	4F② IV層	深鉢	口縁	沈線 貝殻腹縁文 口唇部：貝殻腹縁による刻み		I-2	33	20
48	4F③ IV層下	深鉢	口縁	口縁：波状? 口唇部：棒状工具による刻み 半裁竹管による沈線 貝殻腹縁文 刺突		I-2	33	20
49	5F①・② IV層	深鉢	口縁～胴上	半裁竹管による沈線 刺突 貝殻腹縁文 口唇に貝殻腹縁による圧痕		I-2	33	20
50	5F② IV層	深鉢	胴部	半裁竹管による沈線 貝殻腹縁文 竹管による刺突 内外面に炭化物		I-2	33	20
51	5F② 根攪乱土	深鉢	胴部	波状の沈線 貝殻腹縁文 押引文		I-2	33	20
52	5E③ IV層	深鉢	胴部	沈線 貝殻腹縁文		I-2	33	20
53	5G	深鉢	胴部	沈線 貝殻腹縁文		I-2	33	20
54	5G② IV層	深鉢	口縁	口縁：丸み 貝殻腹縁による刻み 押引文 コンパス文 口唇部：連続した刻み		I-2	33	20
55	6F IV層①	深鉢	胴部	沈線 押引文		I-2	33	20
56	13H①	深鉢	口縁	口縁：波状 く字に屈曲 押引文に沿う貝殻腹縁による刻み 貝殻腹縁による刻みのある隆帯 沈線 補修孔 口唇部：2条の押引文	57と同一?	I-2	33	20
57	13H①	深鉢	口縁	押引文に沿う貝殻腹縁による刻み	56と同一?	I-2	33	20
58	3F④ IV層	深鉢	口縁～胴上	ヘラ状工具による連続した刻み 沈線 撚糸圧痕(RL)		I-3	33	20
59	8F III層～IV層③	深鉢	口縁～胴上半	口縁：外反 口唇部・胴部・内面：縄文(LR) 内外面に炭化物		I-4	33	20
60	2F② III層～IV層	深鉢	口縁～胴上	口唇部：外に傾斜 無文 外面に炭化物		I-5	33	20
61	8E② IV層	深鉢	胴部	撚糸文(R)	胎土に繊維	II-1	34	21
62	第5トレンチ	深鉢	胴部	撚糸文(L)	胎土に繊維	II-1	34	21
63	9G① IV層	深鉢	胴部	撚糸文(R)	胎土に繊維	II-1	34	21
64	5F② 根攪乱土	深鉢	口縁	撚糸文(L)?	胎土に繊維	II-1	34	21
65	10号焼土付近 IV層	深鉢	口縁	綾線文(R) 内面：ナデ	胎土に繊維	II-2	34	21
66	第8トレンチ	深鉢	口縁	綾線文(R) 内外面に炭化物 内面：ナデ	胎土に繊維	II-2	34	21
67	第8トレンチ	深鉢	口縁	綾線文(R) 補修孔 内外面に炭化物	胎土に繊維	II-2	34	21
68	2H③IV層	深鉢	口縁	綾線文(R) 口唇部：肥圧 やや外側に傾斜 内面：ナデ	胎土に繊維	II-2	34	21
69	4E① III層～IV層	深鉢	口縁	綾線文(L) 口唇部：肥圧しやや丸み やや外側に傾斜 外面に炭化物 内面：ナデ	胎土に繊維	II-2	34	21
70	4H③ IV層上	深鉢	口縁	綾線文(R) 口唇部：外側に傾斜 頸部：「く」の字に湾曲 内面に炭化物 ナデ	胎土に繊維	II-2	34	21
71	5E③ IV層	深鉢	口縁	口縁：波状 綾線文(R) 外面に炭化物 内面：ナデ	胎土に繊維 72・73と同一?	II-2	34	21
72	7E① III層	深鉢	胴部	綾線文(R) 縄文(RLR) 内面：ナデ	胎土に繊維 71・73と同一?	II-2	34	21
73	8F② III層	深鉢	口縁	口縁：波状 綾線文(R) 剥落あり 内面：ナデ	胎土に繊維 71・72と同一?	II-2	34	21
74	5H① 風倒木	深鉢	口縁～胴上	口縁：綾線文(L) 口唇部：外側に傾斜 胴部：羽状縄文(0段多条 LR RL) 内面に炭化物	胎土に繊維	II-2	34	21
75	5H① IV層	深鉢	口縁	綾線文(R) 口唇部：肥圧 内面：ナデ	胎土に繊維	II-2	34	21

番号	出土位置・層位	器種	部位	文様	備考	分類	遺物図版	写真図版
76	5 H① IV層	深鉢	口縁	綾線文 (R) 口唇部:肥圧 内面:ナデ	胎土に繊維	II-2	34	21
77	5 H③ III層下	深鉢	口縁	綾線文 (L) 口唇部:やや肥圧 外側に傾斜 内面:ナデ	胎土に繊維	II-2	34	21
78	6 D④ III層	深鉢	口縁	綾線文 (R) 内面:ナデ	胎土に繊維	II-2	34	21
79	6 H③ IV層	深鉢	口縁	綾線文 (L) 内面:ナデ	胎土に繊維	II-2	34	21
80	7 E①~④ IV層	深鉢	口縁~ 胴上半	口縁:綾線文 (LR?) 胴部:羽状縄文 (0段多条 LR RL)	胎土に繊維	II-2	35	21
81	7 E① IV層	深鉢	口縁	綾線文 (R) 内面:ナデ	胎土に繊維	II-2	35	21
82	7 G④ IV層	深鉢	口縁	綾線文 (R) 口唇部:肥圧 外側に傾斜	胎土に繊維	II-2	35	21
83	7 G①	深鉢	口縁	綾線文 (R)	胎土に繊維	II-2	35	21
84	8 E② III層	深鉢	口縁	綾線文 (R) 内面:ナデ	胎土に繊維	II-2	35	21
85	9 D④ 攪乱土	深鉢	口縁~ 胴上	綾線文 (R) 補修孔 胴部:羽状縄文 (0段多条 RL LR) 内面:ナデ	胎土に繊維 86と同一?	II-2	35	22
86	10 E④ III層	深鉢	口縁~ 胴上	綾線文 (R) 胴部:羽状縄文 (0段多条 RL LR) 内面:ナデ	胎土に繊維 85と同一?	II-2	35	22
87	9 F② III層	深鉢	口縁	綾線文 (R) 内面:ナデ	胎土に繊維	II-2	35	22
88	9 G③ III層	深鉢	口縁~ 胴上	口縁:綾線文 (R) 口唇部:外側に傾斜 胴部:縄文 (0段多条 RL) 内面:剥落	胎土に繊維	II-2	35	22
89	10 E④ III層	深鉢	胴部	綾線文 羽状縄文 (0段多条 LR RL) 内面に炭化物	胎土に繊維	II-2	35	22
90	7 E① IV層	深鉢	口縁	葺瓦状捺糸文 (L) 口唇部:肥圧 内面:ナデ	胎土に繊維	II-3	35	22
91	10 F① III層下	深鉢	口縁	山形突起 葺瓦状捺糸文 (R) 口唇部:外側に傾斜 内面:ナデ	胎土に繊維	II-3	35	22
92	11 D	深鉢	口縁~表 土~II層	葺瓦状捺糸文 (R) 内面:ナデ 胴上	胎土に繊維	II-3	35	22
93	10 F II層下部②	深鉢	口縁	3条の沈線 縄文 (RL) 綾線文 内面に炭化物 ナデ	胎土に繊維	II-4	35	22
94	11 D③ 攪乱土	深鉢	口縁	3条の沈線 縄文 (RL) 補修孔	胎土に繊維	II-4	35	22
95	第6トレンチ	深鉢	口縁	縄文 (LR) 内面に炭化物	胎土に繊維	II-5	35	22
96	4 H③ IV層	深鉢	口縁	縄文 (LRL)	胎土に繊維	II-5	35	22
97	6 F③ IV層	深鉢	口縁	縄文 (RLR?) 口唇部:縄文 (RLR?)	胎土に繊維	II-5	35	22
98	6 F③ IV層	深鉢	口縁	縄文 (RLR)	胎土に繊維	II-5	35	22
99	7 E① IV層	深鉢	口縁	縄文 (RLR) ナデ	胎土に繊維	II-5	35	22
100	8 F④ IV層上	深鉢	口縁	波状 縄文 (LR?) 内面に炭化物	胎土に繊維	II-5	35	22
101	9 F② II層	深鉢	口縁~ 胴上	縄文 (RLR) 内面:ナデ	胎土に繊維	II-5	36	22
102	10 G① III層	深鉢	口縁	縄文 (LR) 内面:ナデ	胎土に繊維	II-5	36	22
103	10 G③ IV層	深鉢	口縁	縄文 (RL) 内外面に炭化物	胎土に繊維	II-5	36	22
104	2号焼土脇 IV層		胴部下 ~底	胴部:綾線文 底部:ナデ	胎土に繊維	II-6	36	22
105	7 G② IV層		胴部下 ~底	胴部:葺瓦状捺糸文 底部:上げ底	胎土に繊維	II-6	36	22
106	9 E② III層		胴部	隆帯 縄文 (RL)		III	36	23
107	11 E③ 表土一括		胴部	縄文 (RLR) 沈線		III	36	23
108	11 D III層攪乱土	深鉢	口縁	横位・縦位の隆帯 円孔 ナデ		IV-1- ①	36	23
109	11 E④ II層下	深鉢	口縁	波状 頂部に棒状工具による2条の刻み 縦位の隆帯 円形刺突 隆帯・口縁に沿う沈線 ナデ		IV-1- ①	36	23
110	11 E④	深鉢	口縁	波状 刺突のある横位・縦位の隆帯 口縁に沿う沈線 ナデ		IV-1- ①	36	23
111	11 E③ II層下	深鉢	口縁?	沈線で下書き後隆帯貼付 隆帯脇に隆帯に沿う沈線		IV-1- ①	36	23
112	11 F① II c層	深鉢	口縁	口縁:ナデ 頸部:刺突のある隆帯 胴部:捺糸文 (R)		IV-1- ①	36	23
113	12 F② II層下	深鉢	口縁	口縁:沈線 頸部:刺突のある隆帯 ナデ		IV-1- ①	36	23

番号	出土位置・層位	器種	部位	文様	備考	分類	遺物図版	写真図版
114	13F~G 表土一括	深鉢	口縁	刺突のある隆帯 ナデ		IV-1- ①	36	23
115	10D② Ⅲ層	深鉢	頸部	2条縦位の刺突 沈線 胴部：縄文(LR) ナデ 内外面に炭化物		IV-1- ②	36	23
116	11D④ Ⅲ層	深鉢	口縁	口縁：波状 3条？縦位の刺突 頸部：沈線 胴部：縄文(L?) ナデ内外面に炭化物		IV-1- ②	36	23
117	11E Ⅱ層下	深鉢	口縁~ 胴上	口縁：波状 頂部に刻み 縦位の刺突 頸部：沈線 胴部：縄文(RL) ナデ 内面に炭化物		IV-1- ②	36	23
118	11E② Ⅱ層	深鉢	口縁	口縁：波状 2条縦位の刺突 頸部：沈線 ナデ		IV-1- ②	36	23
119	12E② Ⅱ層下	深鉢	口縁~ 胴上	口縁：波状 頂部に刻み 2条縦位の刺突 頸部：沈線 胴部：網目状撚糸文 ナデ		IV-1- ②	36	23
120	12G③	深鉢	頸部	1条縦位の刺突 沈線 胴部：縄文(L) ナデ 外面に炭化物		IV-1- ②	36	23
121	14G①	深鉢	口縁	口縁：波状 頂部に3条の刻み 3条縦位の刺突 頸部：沈線 ナデ 外面に炭化物		IV-1- ②	36	23
122	10G③ Ⅱ層下	深鉢	口縁	波状 沈線 ナデ		IV-1- ②	36	23
123	11E② Ⅱc層上	深鉢	口縁	口唇部：棒状工具による連続した斜位の刻み 頸部：沈線 胴部：縄文(LR)		IV-1- ②	36	23
124	12D②	深鉢	口縁	頸部：沈線 胴部：縄文(RL) ナデ 外面に炭化物		IV-1- ②	37	23
125	12E② Ⅱc~Ⅲ層	深鉢	口縁	口縁：突起？ 沈線 ナデ 胴部：縄文(RL) 内面に炭化物 剥落あり		IV-1- ②	37	23
126	12F① Ⅱ層~Ⅲ層	深鉢	口縁	口縁：粘土紐貼り付けによる楕円孔 ナデ 頸部：沈線 胴部：縄文(LR)		IV-1- ②	37	23
127	第5トレンチ	深鉢	胴部	沈線 縄文(LR) 磨消技法 ミガキ		IV-1- ③-A	37	23
128	11C③・④ 表土一括	深鉢	胴部	沈線 縄文(RL) 磨消技法		IV-1- ③-A	37	23
129	11E① Ⅱc層	深鉢	胴部	沈線 縄文(L?) 磨消技法		IV-1- ③-A	37	24
130	12F① 層下	深鉢	胴部	沈線 縄文(RL) 磨消技法 内面に炭化物		IV-1- Ⅱ③-A	37	24
131	12F②	深鉢	胴部	沈線 撚糸文(R)		IV-1- ③-A	37	24
132	12F④	深鉢	胴部	沈線		IV-1- ③-A	37	24
133	13F③	深鉢	口縁	波状 沈線 縄文(LR) 磨消技法		IV-1- ③-A	37	24
134	11E④ Ⅱ層	壺	口縁	隆帯 把手 円形刺突 ミガキ		IV-1- ③-B	38	24
135	12E② Ⅱ層	壺	胴部	沈線 縄文(LR) 円形刺突 隆帯貼付 磨消技法		IV-1- ③-B	38	24
136	12F② Ⅱ層下	壺	胴部	沈線 縄文(LR) 磨消技法		IV-1- ③-B	38	24
137	11E④ Ⅱ層下	壺	胴部~ 底	隆帯貼付 沈線 円形刺突 赤色顔料		IV-1- ③-B	38	24
138	11F④ Ⅱ層下	壺	胴部	沈線 赤色顔料		IV-1- ③-B	38	24
139	12E① Ⅱ層下	切断蓋 付土器	胴部	沈線		IV-1- ③-B	38	24
140	2H① Ⅲ~Ⅳ層	深鉢?	胴部	沈線 縄文(LR) 磨消技法		IV-2	38	25
141	4E③ Ⅳ層	深鉢	口縁	山形状突起 突起周囲に沈線 平行する数条の沈線 縄文(LR)		IV-2	38	25
142	6E③ Ⅳ層	深鉢	頸部?	縄文(LR) 刺突		IV-2	38	25
143	7E 表土~Ⅱ層	深鉢?	胴部	沈線 縄文(LR) 磨消技法		IV-2	38	25
144	7E 表土~Ⅱ層	深鉢	胴部	沈線 充填縄文(LR)		IV-2	38	25
145	7E 表土~Ⅱ層	壺?	頸部	沈線 縄文(LR)		IV-2	38	25
146	8E④ Ⅲ層	深鉢	口縁~ 胴上	縄文(LR) 5条の沈線 口唇部：縄文(LR)		IV-2	38	25
147	8F④ Ⅲ層	深鉢	口縁	沈線 口唇部：撚糸側面圧痕?(R)		IV-2	38	25
148	10E Ⅱc上④	深鉢	頸部	沈線 縄文(LR)		IV-2	38	25
149	10E④ Ⅲ層	深鉢	胴部	撚糸文(R)		IV-3- ①	39	25
150	11E④ Ⅲ層上	深鉢	口縁	口縁：無文 胴部：撚糸文(R) ナデ		IV-3- ①	39	25
151	11E④ Ⅲ層上	深鉢	口縁	撚糸文(R)		IV-3- ①	39	25

番号	出土位置・ 層位	器種	部位	文様	備考	分類	遺物 図版	写真 図版
152	第11トレンチ	深鉢	口縁	口縁：無文 ナデ 胴部：捺糸文（R）		IV-3- ①	39	25
153	第11トレンチ	深鉢	口縁～ 胴上	口縁：無文 ナデ 胴部：捺糸文（R） 円形刺突		IV-3- ①	39	25
154	12D④ II層下～III層	深鉢	口縁～ 底	山形突起 頂部に2条の刻み 捺糸文（R） 底部：木 葉痕		IV-3- ①	39	25
155	12E① II層下	深鉢	胴部	網目状捺糸文		IV-3- ①	39	25
156	12E② II層下	深鉢	口縁～ 胴上	口縁：無文 ナデ 網目状捺糸文		IV-3- ①	39	26
157	12E② II層	深鉢	胴部	沈線 捺糸文（R） 円形刺突		IV-3- ①	39	26
158	12G① 表土～II層	深鉢	口縁	口縁：無文 ナデ 捺糸文（R）		IV-3- ①	39	26
159	13F④	深鉢	口縁～ 胴上	口縁：波状 無文 ナデ 捺糸文（R） 内面に炭化物		IV-3- ①	39	26
160	13G II～III層②	深鉢	頸部～ 胴上	口縁：無文 ナデ 捺糸文（R）		IV-3- ①	39	26
161	6D ④III層	深鉢	口縁	縄文（RL）		IV-3- ②	40	26
162	6F ①IV層	深鉢	口縁	縄文（LR） 捺糸側面圧痕（LR） ナデ		IV-3- ②	40	26
163	6F ①IV層	深鉢	口縁	縄文（LR）		IV-3- ②	40	26
164	6F ②攪乱土	深鉢	口縁	縄文（LR） 口唇部：縄文（LR）		IV-3- ②	40	26
165	7E① III層	深鉢	口縁	縄文（LR） 口唇部：縄文（LR）		IV-3- ②	40	26
166	7E④ III層	深鉢	口縁	縄文（RL） 口唇部：縄文（RL）		IV-3- ②	40	26
167	第12トレンチ	深鉢	口縁	縄文（LR） 剥落		IV-3- ②	40	26
168	7E 表土～II層	深鉢	口縁	縄文（LR）		IV-3- ②	40	26
169	第11トレンチ	深鉢	口縁	縄文（RL） ナデ		IV-3- ②	40	26
170	第11トレンチ	深鉢	口縁	口縁：ゆるい山形状突起 ナデ 頂部に棒状工具による 刻み 縄文（LR）		IV-3- ②	40	26
171	第11トレンチ	深鉢	口縁	口縁：無文 ナデ 胴部：縄文（LR） 内外面に炭化 物		IV-3- ②	40	26
172	第11トレンチ	深鉢	口縁～ 胴下半	口縁：無文 胴部：縄文（LR）	173と同一？	IV-3- ②	40	27
173	11E II層	深鉢	胴部	縄文（LR） 内面に炭化物	172と同一？	IV-3- ②	40	27
174	11E③ II層上	深鉢	口縁	口縁：無文 ナデ 胴部：縄文（RL）		IV-3- ②	41	27
175	11E④ II層	深鉢	口縁	口縁：波状 無文 胴部：縄文（LR）		IV-3- ②	41	27
176	11E④ II層	深鉢	口縁	口縁：無文 ナデ 胴部：縄文（LR） 外面に炭化物		IV-3- ②	41	27
177	11F① III層	深鉢	口縁	ナデ 縄文（RL）		IV-3- ②	41	27
178	12D②	深鉢	口縁	口縁：山形状突起 無文 ナデ 胴部：縄文（LR）		IV-3- ②	41	27
179	12D②	深鉢	口縁	口縁：ゆるい山形状突起 無文 ナデ 胴部：縄文（LR）		IV-3- ②	41	27
180	12E① III層	深鉢	口縁	口縁：無文 ナデ 胴部：縄文（LR） 外面に炭化物		IV-3- ②	41	27
181	12E① II層下	深鉢	口縁	口縁：ゆるい山形状突起 縄文（RL） 外面に炭化物		IV-3- ②	41	27
182	12E① III層	深鉢	口縁	縄文（L） ナデ		IV-3- ②	41	27
183	12E② IIc層～III層	深鉢	口縁	口縁：無文 ナデ 胴部：縄文（LR）		IV-3- ②	41	27
184	12E② III層	深鉢	口縁	口縁：ゆるい山形状突起 指頭圧痕 無文 ナデ 胴部： 縄文（LR） 外面に炭化物		IV-3- ②	41	28
185	12F① III層	深鉢	口縁	口縁：沈線 ナデ 胴部：縄文（RL）		IV-3- ②	41	28
186	12F② II層下	深鉢	口縁	口縁：無文 円孔 ナデ 胴部：縄文（LR）		IV-3- ②	41	28
187	13G③	深鉢	口縁	口縁：無文 ナデ 胴部：縄文（RL） 内面に炭化物		IV-3- ②	41	28
188	11D③ III層	壺？	胴部～ 底	縄文（LR）	28の底部？	IV-3- ②	42	28
189	11E② II層	深鉢	胴部	沈線による格子目文		IV-3- ③	42	28

番号	出土位置・層位	器種	部位	文様	備考	分類	遺物図版	写真図版
190	7 E 表土～II層	深鉢	胴下～底	網代痕	144の底部？	IV-4	42	28
191	第11トレンチ		底			IV-4	42	28
192	11D④ II～III層攪乱土		底	木葉痕		IV-4	42	28
193	11E II層下		底	上げ底 木葉痕		IV-4	42	28
194	11E③ II層下		底	上げ底 ケズリ？		IV-4	42	28
195	11E③ II下～III層		底	高台		IV-4	42	28
196	11E④ II c層		底	高台		IV-4	42	28
197	11F① II層		底	丸底		IV-4	42	28
198	12D② II層		底	木葉痕		IV-4	42	28
199	12E② II層		底	上げ底		IV-4	42	29
200	12E② II c層		底	上げ底 木葉痕		IV-4	42	29
201	17号焼土脇	鉢	口縁～底	無文 上げ底 赤色顔料		IV-5	43	29
202	7 F③ II層下	鉢？	口縁	沈線 圧痕 縄文（RL？）		V	43	29
203	10E④ II c上	深鉢	口縁	沈線 口唇部：連続した刻み		V	43	29
204	10E④ II c上	鉢	口縁	沈線 縄文（LR）		V	43	29
205	10G③ III層	深鉢	口縁	口縁：沈線 口唇部：沈線 連続した刻み		V	43	29
206	第11トレンチ	鉢？	口縁	口縁：2条の沈線 口唇部：刻み 内側折り返し 縄文（LR）		V	43	29
207	11G② 表土一括	鉢	口縁	口縁：沈線 刺突 口唇部：連続した刻み 沈線		V	43	29

(土製品)

番号	出土位置・層位	種類	部位	文様・特徴	備考	遺物図版	写真図版
5	2号住居 ベルト1層	ミニチュア	胴下半 ～底	無文 底部：丸底		26	14
15	2号住居 埋土B	ミニチュア	口縁～ 底	口縁：波状 底部：上げ底 無文		27	15
16	2号住居 埋土A	ミニチュア	口縁～ 底	無文 内外面に炭化物		27	15
208	11D③	ミニチュア	胴下～ 底	無文		43	29
209	11D～ 12E④	ミニチュア	口縁	沈線		43	29
210	11E④ II層下部	ミニチュア	口縁～ 底	無文 上げ底		43	29
211	11F① III層	ミニチュア	口縁～ 胴上	無文		43	29
212	12E② II層	ミニチュア	口縁～ 底	無文		43	29
213	6 F① 攪乱土	スタンプ 形土製品		沈線 刻み		43	29
214	2 F① IV層	円盤状 土製品		無文		43	29
215	11D④ II層下	円盤状 土製品		縄文（LR）		43	29
216	11E④ II層	円盤状 土製品		縄文（LR）		43	29
217	11F① II層下	円盤状 土製品		木葉痕		43	29
218	11F① II層下	円盤状 土製品		網目状撚糸文		43	29
219	12E① II層下	円盤状 土製品		縄文（RL）		43	29
220	6 H① IV層	土偶？		管状の空洞		43	29
221	11E② II層下	土錘？		縦位・横位の管状の空洞		43	29

(石 器)

番号	出土地点・位 層	種類	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地	備 考	遺物 図版	写真 図版
S1	住居状遺構 ベルト8層	石鏃	I a	1.6	1.4	0.3	0.5	頁岩	北上 山地		29	30
S2	2 G③ IV層	石鏃	I b	3.3	1.8	0.6	3.7	頁岩	北上 山地			30
S3	5 G① IV層	石鏃	I b	3.4	2.0	0.7	4.0	頁岩	北上 山地		44	30
S4	4 F③ IV層	石鏃	I b	3.6	1.6	0.5	3.3	頁岩	北上 山地			30
S5	5 F② IV層	石鏃	I b	3.5	1.3	0.4	1.4	頁岩	北上 山地			30
S6	5 F② IV層	石鏃	I b	3.9	1.3	0.5	1.5	頁岩	北上 山地		44	30
S7	第5トレンチ	石鏃	I b	3.6	1.5	0.4	1.4	頁岩	北上 山地		44	30
S8	第12トレンチ	石鏃	I b	3.2	1.1	0.3	1.1	頁岩	北上 山地		44	30
S9	2号住居 埋土上面	石鏃	I c	2.9	(1.3)	0.6	1.8	頁岩	北上 山地	基部欠損	28	30
S10	2 E② IV層	石鏃	I c	2.3	1.4	0.3	0.6	頁岩	北上 山地			30
S11	4 F④ IV層	石鏃	I c	3.1	(1.3)	0.4	1.1	頁岩	北上 山地	基部欠損		30
S12	4 G④ 攪乱土	石鏃	I c	(2.0)	1.7	0.4	0.8	頁岩	北上 山地	先端部欠損		30
S13	5 F② IV層	石鏃	I c	2.9	(1.4)	0.4	1.1	頁岩	北上 山地	基部欠損		30
S14	5 F② IV層	石鏃	I c	3.1	(1.4)	0.5	1.2	頁岩	北上 山地	基部欠損		30
S15	5 F② 攪乱土	石鏃	I c	2.4	1.3	0.5	0.8	頁岩	北上 山地			30
S16	8 F① Ⅲ層下	石鏃	I c	3.0	1.4	0.4	1.4	頁岩	北上 山地			30
S17	第6トレンチ	石鏃	I c	2.7	(1.3)	0.3	0.9	頁岩	北上 山地	基部欠損		30
S18	3 E① IV層	石鏃	I d	2.1	1.5	0.4	0.9	頁岩	北上 山地			30
S19	6 E② IV層	石鏃	I d	1.8	1.4	0.3	0.5	頁岩	北上 山地			30
S20	6 H① IV層	石鏃	I d	1.9	1.2	0.3	0.6	頁岩	北上 山地			30
S21	7 E I～II層	石鏃	I d	2.9	(1.5)	0.5	1.4	頁岩	北上 山地	先端部欠損		30
S22	7 E④ Ⅲ層	石鏃	I d	(2.7)	1.6	0.7	2.3	頁岩	北上 山地	先端部欠損		30
S23	7 G① IV層	石鏃	I d	2.3	1.7	0.4	1.3	頁岩	北上 山地		44	30
S24	8 F① IV層上	石鏃	I d	1.9	1.4	0.5	0.7	頁岩	北上 山地			30
S25	8 F② Ⅲ層	石鏃	I d	2.4	1.5	0.5	1.1	頁岩	北上 山地			30
S26	5 F② IV層	石鏃	I e	3.1	1.9	0.4	2.1	頁岩	北上 山地		44	30
S27	4 H③ IV層	石鏃	I f	1.9	1.4	0.4	0.9	頁岩	北上 山地			30
S28	5 F② 攪乱土	石鏃	I f	(2.2)	1.2	0.4	0.7	頁岩	北上 山地	先端部欠損		30
S29	10 F③ Ⅱ層下	石鏃	I f	2.9	1.6	0.3	1.4	頁岩	北上 山地		44	30
S30	2号住居 ベルト2層	石鏃	I g	(1.6)	(1.6)	0.3	0.4	珪質 頁岩	北上 山地	先端部・基部欠損	28	30
S31	2号住居 埋土上面H	石鏃	I g	1.3	1.4	0.3	0.3	メノウ	北上 山地		28	30
S32	12 F① Ⅲ層	石鏃	I g	(1.6)	1.6	0.4	0.7	頁岩	北上 山地	先端部欠損		30
S33	5 F② 攪乱土	石鏃	II a	4.1	2.2	0.8	5.9	頁岩	北上 山地			30
S34	7 G① IV層	石鏃	II a	2.3	1.3	0.4	0.9	頁岩	北上 山地			30
S35	8 F① Ⅲ層下	石鏃	II a	2.7	(2.0)	0.7	2.6	頁岩	北上 山地	基部欠損	44	30
S36	4 H① IV層	石鏃	II b	2.8	1.8	0.5	2.0	頁岩	北上 山地	鏃身部欠損		30
S37	4 H③ 風倒木跡	石鏃	II b	2.1	(1.6)	0.2	0.6	頁岩	北上 山地	基部欠損		30

番号	出土地点・層位	種類	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地	備考	遺物図版	写真図版
S38	5 H③ Ⅲ層下	石鏃	Ⅱ b	2.2	1.8	0.4	1.4	頁岩	北上山地	両面に剥離面残す		30
S39	6 H Ⅲ層	石鏃	Ⅱ b	2.1	1.7	0.2	1.9	頁岩	北上山地			30
S40	8 F① Ⅳ層上	石鏃	Ⅱ b	2.0	1.9	0.5	1.4	頁岩	北上山地			30
S41	10 E④ Ⅲ層	石鏃	Ⅲ a	2.7	(2.0)	0.6	2.5	頁岩	北上山地	欠損品		30
S42	5 F② Ⅳ層	石鏃	Ⅲ b	2.2	1.2	0.5	1.0	頁岩	北上山地			30
S43	4 F④ Ⅳ層	石鏃	Ⅲ b	(2.8)	1.2	0.5	1.6	頁岩	北上山地	先端部欠損		30
S44	5 F② 攪乱土	石鏃	Ⅲ b	3.3	1.9	0.6	3.0	頁岩	北上山地		44	30
S45	7 G① Ⅳ層	石鏃	Ⅲ b	4.2	1.9	1.1	7.2	頁岩	北上山地		44	30
S46	2号住居 埋土下面	石鏃	Ⅳ	(2.2)	(2.1)	1.0	3.5	珪質 頁岩	北上山地	欠損品	28	30
S47	2号住居 ベルト4層	石鏃	Ⅳ	(2.0)	(1.3)	0.4	0.9	珪質 頁岩	北上山地	欠損品	28	30
S48	2号住居 埋土上面	石鏃	Ⅳ	(1.8)	(1.8)	0.7	1.8	珪質 頁岩	北上山地	欠損品		30
S49	2号住居 埋土上面	石鏃	Ⅳ	(1.7)	(1.5)	0.4	0.9	珪質 頁岩	北上山地	欠損品		30
S50	2号住居 埋土上面	石鏃	Ⅳ	1.6	(1.2)	0.3	0.4	メノウ	北上山地	欠損品		30
S51	2号住居 埋土上面	石鏃	Ⅳ	(1.9)	(1.5)	0.4	0.8	珪質 頁岩	北上山地	欠損品		30
S52	3 F② 攪乱土	石鏃	Ⅳ	3.1	2.1	0.4	3.0	頁岩	北上山地	未製品?		30
S53	4 G③ Ⅳ層	石鏃	Ⅳ	2.7	2.0	0.7	3.5	頁岩	北上山地	未製品?		30
S54	4 H③ Ⅳ層	石鏃	Ⅳ	(1.9)	1.6	0.3	0.8	頁岩	北上山地	味製品の欠損品?		31
S55	2 H① Ⅲ~Ⅳ層	石鏃	Ⅳ	(4.5)	(3.0)	0.6	5.9	頁岩	北上山地	未製品?		31
S56	5 F② 攪乱土	石鏃	Ⅳ	(1.6)	(1.5)	0.4	0.5	頁岩	北上山地	欠損品		31
S57	7 G④ Ⅳ層	石鏃	Ⅳ	(2.8)	(2.6)	0.6	3.9	黒曜石	不明	未製品	44	31
S58	8 F① Ⅲ層下	石鏃	Ⅳ	(1.7)	(1.7)	0.3	0.6	頁岩	北上山地	欠損品		31
S59	12 E① Ⅳ層	石鏃	Ⅳ	2.5	(1.5)	0.5	1.1	頁岩	北上山地	欠損品		31
S60	3号陥し穴	尖頭器	Ⅰ	(5.2)	(2.9)	0.9	11	頁岩	北上山地	先端部・基部欠損	29	31
S61	5 F② 攪乱土	尖頭器	Ⅰ	(3.4)	(2.3)	0.9	4.8	頁岩	北上山地	基部欠損		31
S62	第1トレンチ	尖頭器	Ⅱ	(4.6)	1.3	0.6	2.3	頁岩	北上山地	基部欠損	44	31
S63	第6トレンチ	尖頭器	Ⅱ	(3.8)	1.1	0.7	2.5	頁岩	北上山地	先端部欠損		31
S64	5 F② 攪乱土	尖頭器	Ⅱ	(2.1)	(1.1)	0.7	1.1	頁岩	北上山地	基部欠損		31
S65	9 F① Ⅲ層	尖頭器	Ⅱ	(4.8)	1.3	0.7	3.2	頁岩	北上山地	基部欠損		31
S66	4 F② 攪乱土	石筥		(4.0)	1.8	0.8	5.2	頁岩	北上山地	欠損品 片面調整	44	31
S67	第4トレンチ	石筥		8.1	4.5	2.1	65	頁岩	北上山地	両面調整	44	31
S68	10 G① 沢Ⅲ層	石筥		5.3	3.0	1.2	16	頁岩	北上山地	両面調整	44	31
S69	2 F③ Ⅳ層	石匙	Ⅰ a	6.9	1.9	1.0	10	頁岩	北上山地		45	31
S70	5 F② Ⅳ層	石匙	Ⅰ a	3.2	1.9	0.4	2.0	頁岩	北上山地			31
S71	7 E② Ⅲ層	石匙	Ⅰ a	(5.7)	1.5	0.7	5.3	頁岩	北上山地	つまみ部欠損		31
S72	7 G① Ⅳ層	石匙	Ⅰ a	(8.5)	2.6	1.3	28	頁岩	北上山地	つまみ部欠損	45	31
S73	7 G③ Ⅳ層下	石匙	Ⅰ a	(5.3)	1.6	0.6	4.5	頁岩	北上山地	先端部欠損	45	31
S74	8 F① Ⅳ層上	石匙	Ⅰ a	5.8	2.1	0.7	8.6	頁岩	北上山地		45	31
S75	8 G③ Ⅲ層	石匙	Ⅰ a	(5.1)	1.5	0.7	6.8	頁岩	北上山地	つまみ部欠損		31

番号	出土地点・層	種類	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地	備考	遺物図版	写真図版
S76	12G① 風倒木跡	石匙	I a	6.1	1.4	0.5	5.3	頁岩	北上山地			31
S77	4H① IV層	石匙	I b	4.4	2.6	0.7	6.6	頁岩	北上山地		45	31
S78	11D② III層	石匙	I b	3.5	2.1	0.6	4.0	頁岩	北上山地		45	31
S79	7G① IV層	石匙	II a	3.2	5.0	0.7	9.5	頁岩	北上山地		45	31
S80	7G① IV層	石匙	II b	2.7	2.7	0.5	2.3	頁岩	北上山地		45	31
S81	11F③ II層下	石匙	II b	3.3	4.1	0.6	6.0	頁岩	北上山地		45	31
S82	5F④ IV層	石匙	III	(4.0)	2.6	0.7	2.2	頁岩	北上山地	つまみ部・先端部欠損		31
S83	9F② III層	石匙	III	(5.3)	(2.3)	0.8	8.9	頁岩	北上山地	先端部欠損		31
S84	10F①沢 III層	石匙	III	(5.3)	1.9	0.7	4.5	頁岩	北上山地	先端部欠損	45	31

番号	出土地点・層	種類	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地	剥片	備考	遺物図版	写真図版
S85	2号住居 埋土下面	楔形 石器		3.4	2.0	1.0	5.5	珪質 頁岩	北上山地	不明		29	32
S86	2号住居 埋土上面	楔形 石器		2.6	1.8	0.9	3.9	珪質 頁岩	北上山地	不明		29	32
S87	4H③ IV層	楔形 石器		2.9	2.3	0.7	4.8	頁岩	北上山地	縦長		45	32
S88	4H③～ 5H①	楔形 石器		2.7	3.1	0.8	4.7	頁岩	北上山地	横長		45	32
S89	5F② 攪乱土	楔形 石器		2.9	2.4	0.7	4.1	頁岩	北上山地	縦長			32
S90	6H①	楔形 石器		2.4	3.4	0.9	6.0	頁岩	北上山地	縦長			32
S91	7G② IV層	楔形 石器		4.4	1.2	1.2	11	頁岩	北上山地	縦長			32
S92	10E④ III層	楔形 石器		2.3	2.0	1.0	2.7	珪質 頁岩	北上山地	不明			32
S93	11E② III層	楔形 石器		1.6	2.1	0.7	2.5	メノウ	北上山地	横長			32
S94	11E② III層	楔形 石器		2.0	1.6	0.7	2.2	メノウ	北上山地	不明			32
S95	11E② II c層上	楔形 石器		2.6	2.6	0.7	5.3	頁岩	北上山地	不明		45	32

全側縁：◎ 上辺：○ 下辺：● 右辺：△ 左辺：▲に加工

番号	出土地点・層	種類	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地	剥片	加工		備考	遺物図版	写真図版
											背面	腹面			
S96	2号住居 埋土下面	不定形	I 1	2.7	2.7	0.6	5.7	珪質 頁岩	北上山地				背面不明		32
S97	2号住居 埋土下面	不定形	I 1	1.8	2.0	1.1	3.8	珪質 頁岩	北上山地	不明	△				32
S98	2号住居 埋土上面	不定形	I 1	2.6	1.6	0.7	2.0	珪質 頁岩	北上山地	縦長		△			32
S99	2号住居 埋土上面	不定形	I 1	2.0	1.7	0.2	0.8	メノウ	北上山地	不明	△				32
S100	4E① III～IV層	不定形	I 1	5.6	1.6	1.0	7.6	頁岩	北上山地	縦長	△				32
S101	5F② IV層	不定形	I 1	3.0	3.5	0.8	8.6	頁岩	北上山地	縦長	▲				32
S102	5F③ 攪乱土	不定形	I 1	1.8	3.5	0.5	3.5	頁岩	北上山地	不明	△				32
S103	5G③ IV層	不定形	I 1	2.3	3.8	0.9	6.1	頁岩	北上山地	横長	●		腹面にバルブ		32
S104	5G IV層	不定形	I 1	1.1	3.7	0.8	2.4	頁岩	北上山地	不明	●	●			32
S105	6E③ IV層	不定形	I 1	2.1	2.2	0.5	2.5	頁岩	北上山地	不明	○	○			32
S106	6E③ III層	不定形	I 1	2.3	1.8	0.4	1.6	頁岩	北上山地	不明	△				32
S107	6G② IV層	不定形	I 1	2.5	4.8	0.9	12	頁岩	北上山地	不明	●	●			32
S108	6G④ IV層上	不定形	I 1	1.6	3.4	0.8	3.8	頁岩	北上山地	不明	●	●			32
S109	6H①	不定形	I 1	1.8	2.7	0.4	1.5	頁岩	北上山地	不明	△	▲			32

番号	出土地点・層位	種類	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地	剥片	加工		備考	遺物図版	写真図版
											背面	腹面			
S110	7 G① IV層	不定形	I 1	2.2	2.0	0.2	0.9	頁岩	北上山地	横長	△		腹面にバルブ		32
S111	8 D② IV層	不定形	I 1	2.5	2.4	0.4	2.2	頁岩	北上山地	不明	△	▲			32
S112	12 E② 攪乱土	不定形	I 1	2.0	3.1	1.2	5.8	珪質頁岩	北上山地	不明	○				33
S113	5 F① IV層	不定形	I 2	4.3	4.1	0.8	9.9	頁岩	北上山地	縦長	●		腹面にバルブ		33
S114	5 F② IV層	不定形	I 2	1.8	3.2	0.9	3.9	頁岩	北上山地	不明	▲	△			33
S115	5 F② 攪乱土	不定形	I 2	2.5	3.2	0.8	5.9	頁岩	北上山地	不明	○	○			33
S116	6 H① IV層	不定形	I 2	2.3	1.6	0.7	2.3	頁岩	北上山地	不明	▲	△	腹面にバルブ		33
S117	7 G① IV層	不定形	I 2	3.8	2.6	0.4	2.9	頁岩	北上山地	縦長	△		腹面にバルブ		33
S118	2号土坑 内焼土付近	不定形	I 3	3.5	4.7	1.1	13	頁岩	北上山地	横長	▲		腹面にバルブ		33
S119	4 H③ 風倒木跡	不定形	I 3	3.4	4.1	0.4	3.3	頁岩	北上山地	不明	△				33
S120	5 F② IV層	不定形	I 3	4.2	4.4	0.8	7.9	頁岩	北上山地	不明		●			33
S121	7 G② IV層	不定形	I 3	1.5	4.0	0.7	4.1	頁岩	北上山地	不明	○	○			33
S122	5 H① IV層	不定形	I 4	4.4	2.3	0.9	11	頁岩	北上山地	縦長		△			33
S123	6 H③ IV層	不定形	I 4	2.6	2.1	0.5	3.1	頁岩	北上山地	縦長	▲				33
S124	8 F① IV層上	不定形	I 4	1.0	1.6	0.2	0.3	頁岩	北上山地	不明		△			33
S125	13 D② II~III層	不定形	I 4	2.2	4.1	1.0	5.5	頁岩	北上山地	不明	△				33
S126	住居状遺構 ベルト7層	不定形	II a 1	4.7	3.4	0.7	10	頁岩	北上山地	不明	▲	●			33
S127	3号陥し穴 埋土上部	不定形	II a 1	0.7	1.5	0.2	0.2	頁岩	北上山地	不明	●△	●	背腹面不明		33
S128	2号土坑 内焼土	不定形	II a 1	3.3	2.6	0.6	4.4	頁岩	北上山地	不明	●△	●			33
S129	4 H③ IV層	不定形	II a 1	2.6	2.9	1.0	5.0	頁岩	北上山地	縦長	△	△			33
S130	5 F① IV層	不定形	II a 1	5.8	9.3	1.5	53	頁岩	北上山地	横長	○●	○●			33
S131	5 F② IV層	不定形	II a 1	2.3	1.7	0.5	1.8	頁岩	北上山地	不明	△	●			33
S132	5 F② 攪乱土	不定形	II a 1	2.3	1.8	0.4	1.8	頁岩	北上山地	縦長	△▲		腹面にバルブ		33
S133	5 F② 攪乱土	不定形	II a 1	1.3	1.8	0.3	0.8	頁岩	北上山地	不明	△▲				33
S134	5 G① IV層	不定形	II a 1	3.3	3.0	0.4	4.5	頁岩	北上山地	縦長	△▲	△▲			33
S135	5 G② IV層	不定形	II a 1	2.6	6.1	1.0	9.5	頁岩	北上山地	不明	○●	○●			33
S136	6 E③ III層	不定形	II a 1	3.1	3.4	0.8	8.0	頁岩	北上山地	横長	○▲	○△			33
S137	6 H① IV層	不定形	II a 1	1.1	0.8	0.2	0.1	頁岩	北上山地	不明	△▲	△▲	背腹面不明		33
S138	6 H③ IV層	不定形	II a 1	3.8	5.3	0.8	16	頁岩	北上山地	横長	●▲	●			33
S139	8 F① IV層	不定形	II a 1	2.2	2.6	0.4	1.6	頁岩	北上山地	不明	○	○▲			33
S140	8 F① III層	不定形	II a 1	3.8	4.7	0.9	17	頁岩	北上山地	縦長	●△	▲			33
S141	8 F~ G IV層	不定形	II a 1	2.6	1.9	0.5	2.6	頁岩	北上山地	不明	△▲	△			33
S142	9 F③ III~IV層	不定形	II a 1	3.6	4.3	0.9	11	頁岩	北上山地	不明	▲	○			33
S143	10 G①沢 III層	不定形	II a 1	2.2	1.9	0.5	2.1	頁岩	北上山地	不明	△▲				33
S144	第1トレンチ	不定形	II a 1	3.1	2.8	0.9	5.8	頁岩	北上山地	不明	●▲	●△	腹面にバルブ		33
S145	第7トレンチ	不定形	II a 1	2.2	3.4	0.7	5.5	頁岩	北上山地	不明	△▲	▲			33
S146	8 F① IV層上	不定形	II a 2	4.1	6.4	1.1	24	頁岩	北上山地	横長	○●	○●			33
S147	8 F④ II層	不定形	II a 2	4.3	2.1	0.5	4.7	頁岩	北上山地	不明	▲	▲			33

番号	出土地点・ 層位	種類	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	産地	剥片	加工		備考	遺物 図版	写真 図版
											背面	腹面			
S148	12E① II層下	不定形	II a 2	2.2	3.3	1.1	7.5	珪質 頁岩	北上 山地	不明	●△				33
S149	2号住居 埋土下面	不定形	II b 1	1.8	3.1	1.0	4.8	珪質 頁岩	北上 山地	不明	△▲	△			33
S150	4H④ IV層上	不定形	II b 1	1.5	2.5	0.3	1.1	頁岩	北上 山地	不明	▲	△▲			33
S151	5E② IV層	不定形	II b 1	3.2	2.5	0.4	3.9	頁岩	北上 山地	不明	○	○●			33
S152	5F② IV層	不定形	II b 1	2.3	3.2	0.5	2.6	頁岩	北上 山地	不明	○●	●			33
S153	5F② 攪乱土	不定形	II b 1	4.2	3.0	0.6	9.9	頁岩	北上 山地	縦長	△▲	△	腹面にバルブ		33
S154	6E③ III層	不定形	II b 1	3.8	4.9	1.3	23	頁岩	北上 山地	不明	△	△			33
S155	6F① IV層	不定形	II b 1	2.6	2.5	0.5	3.5	頁岩	北上 山地	縦長	△▲	△▲	腹面にバルブ		33
S156	6G④ IV層	不定形	II b 1	3.7	3.4	0.6	9.1	頁岩	北上 山地	不明	△▲	△▲	腹面にバルブ		33
S157	8F~G IV層	不定形	II b 1	2.9	1.3	0.7	2.3	珪質 頁岩	北上 山地	縦長		△▲			33
S158	10F② II層下	不定形	II b 1	3.6	3.7	1.5	18	珪質 頁岩	北上 山地	不明	△▲				33
S159	12F② II層下	不定形	II b 1	3.7	3.4	1.2	11	頁岩	北上 山地	横長	●	○●	腹面にバルブ		34
S160	不明	不定形	II b 1	3.0	1.9	0.5	2.7	頁岩	北上 山地	縦長	△▲	△▲	腹面にバルブ		34
S161	5F① 攪乱土	不定形	II b 2	2.8	3.2	0.8	6.0	頁岩	北上 山地	縦長	△	△▲			34
S162	5G③ IV層	不定形	II b 2	2.6	2.8	0.7	6.6	頁岩	北上 山地	不明	△▲	▲	腹面にバルブ		34
S163	7F③ IV層	不定形	II b 2	3.6	4.9	0.9	14	頁岩	北上 山地	横長	●△	●			34
S164	9F② III層	不定形	II b 2	3.3	2.9	1.0	11	頁岩	北上 山地	縦長	△▲				34
S165	11C④ I層	不定形	II b 2	3.9	1.6	1.0	4.2	頁岩	北上 山地	縦長	△	△▲			34
S166	12E① I層	不定形	II b 2	3.4	1.8	0.8	4.3	珪質 頁岩	北上 山地	不明	△▲	▲			34
S167	2G① 攪乱土	不定形	II b 3	3.0	1.1	0.3	0.8	頁岩	北上 山地	不明	△	△▲			34
S168	6G② IV層	不定形	II b 3	2.9	2.6	0.5	3.2	頁岩	北上 山地	縦長	△▲				34
S169	2号住居 埋土下面	不定形	III 1	3.1	3.6	1.2	14	珪質 頁岩	北上 山地	不明	○●▲		腹面にバルブ		34
S170	2号土坑内 焼土付近	不定形	III 1	3.5	3.3	1.0	13	頁岩	北上 山地	不明	●△▲	●△▲	背腹面不明		34
S171	4F③ IV層	不定形	III 1	5.3	5.8	2.1	73	頁岩	北上 山地	不明	▲	●△▲	腹面にバルブ		34
S172	5F② 攪乱土	不定形	III 1	3.0	3.7	0.9	11	頁岩	北上 山地	不明	○△	○●▲	背腹面不明		34
S173	5F③ 攪乱土	不定形	III 1	3.8	4.2	1.1	19	頁岩	北上 山地	不明	○	○●△			34
S174	5H③ 風倒木跡	不定形	III 1	1.3	2.0	0.3	0.6	頁岩	北上 山地	横長		●△▲	腹面にバルブ		34
S175	6E② IV層	不定形	III 1	3.2	2.4	0.3	3.2	頁岩	北上 山地	縦長	●△▲				34
S176	6F① IV層	不定形	III 1	2.6	2.9	1.0	7.7	頁岩	北上 山地	不明	○△▲	○▲			34
S177	6G④ IV層	不定形	III 1	3.1	2.3	0.7	4.9	頁岩	北上 山地	縦長	○△▲	△▲			34
S178	7G② IV層	不定形	III 1	3.7	3.5	1.1	9.9	頁岩	北上 山地	不明	●▲	△▲	腹面にバルブ		34
S179	7G④ IV層	不定形	III 1	5.1	3.9	0.7	14	頁岩	北上 山地	縦長	○△▲	▲	腹面にバルブ		34
S180	8F① II層下	不定形	III 1	2.6	1.6	0.4	1.6	頁岩	北上 山地	縦長	●△▲	●			34
S181	12F① II層下~III層	不定形	III 1	3.3	1.4	0.9	3.0	珪質 頁岩	北上 山地	縦長	○△	△			34
S182	第1トレンチ	不定形	III 1	3.4	1.9	0.9	6.7	頁岩	北上 山地	縦長	○△▲	○△▲			34
S183	第3トレンチ	不定形	III 1	2.0	2.2	0.5	1.7	頁岩	北上 山地	不明	○△▲	○△			34
S184	第6トレンチ	不定形	III 1	3.1	4.4	0.9	11	頁岩	北上 山地	不明	○●▲	○●△			34
S185	不明	不定形	III 1	2.4	2.0	0.5	3.1	頁岩	北上 山地	不明	○●△	○●▲	腹面にバルブ		34

番号	出土地点・層位	種類	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地	剥片	加工		備考	遺物図版	写真図版
											背面	腹面			
S186	7 G② IV層	不定形	Ⅲ 2	4.5	2.3	0.8	8.5	頁岩	北上山地	縦長	○△▲	▲	腹面にバルブ		34
S187	2号住居 埋土上面	不定形	Ⅳ 1	2.5	1.3	0.5	1.8	頁岩	北上山地	不明	◎	◎			34
S188	2号住居 埋土H	不定形	Ⅳ 1	3.9	2.6	1.1	13	珪質頁岩	北上山地	不明	◎	○△			34
S189	4 H IV層③	不定形	Ⅳ 1	2.2	2.3	0.3	1.3	頁岩	北上山地	不明	◎	●△			34
S190	5 F② IV層	不定形	Ⅳ 1	7.7	3.0	1.1	26	頁岩	北上山地	縦長	●△	○△▲			34
S191	第5トレンチ	不定形	Ⅳ 1	3.2	3.7	0.7	7.6	頁岩	北上山地	縦長		◎			34

番号	出土地点・層位	種類	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地	備考		遺物図版	写真図版
S192	6 G② IV層上	磨製石斧		(8.0)	(4.4)	1.9	97	頁岩	北上山地	基部欠損		46	35
S193	8 F① Ⅲ層上	磨製石斧		18	(5.4)	2.5	353	ホルンフェルス	北上山地	半面欠損		46	35
S194	11 E② Ⅱ層下	磨製石斧		(5.3)	3.5	2.2	70	細粒閃緑岩	北上山地	刃部・基部欠損		46	35
S195	11 D②~12 E③ I層	磨製石斧		(5.4)	(4.5)	1.6	47	頁岩	北上山地	刃部・基部欠損		46	35
S196	11 C③④ I層	磨製石斧		(4.7)	4.5	1.5	61	頁岩	北上山地	半面欠損 刃部・基部欠損		46	35
S197	第11トレンチ	磨製石斧		(5.5)	(3.7)	2.4	73	頁岩	北上山地	刃部欠損		46	35
S198	11 E② Ⅱ c層上	敲磨器	I 1	5.2	3.4	2.3	58	砂岩	北上山地	磨り痕		46	35
S199	8 F③ Ⅲ層	敲磨器	I 2	9.3	8.2	5.1	611	閃緑岩	北上山地	凹み痕		46	35
S200	5 E② IV層	敲磨器	I 5	(5.7)	7.6	3.2	209	花崗斑岩	北上山地	磨り痕+敲打痕 欠損		46	35
S201	5 G② Ⅲ層	敲磨器	I 5	(9.9)	8.1	3.8	410	砂岩	北上山地	磨り痕+敲打痕 欠損		46	35
S202	1号土坑 埋土12層	敲磨器	I 7	(7.5)	11	4.8	663	閃緑岩	北上山地	磨り痕+凹痕+敲打痕 欠損		30	35
S203	2号住居	敲磨器	Ⅱ 3	13	6.7	5.2	494	砂岩	北上山地	3側縁に敲打痕		29	35
S204	8 F① Ⅲ層上	敲磨器	Ⅱ 3	12	6.3	8.0	405	デイサイト	北上山地	2側縁に敲打痕		46	36
S205	2号土坑 内焼土脇	敲磨器	Ⅱ 5	14	6.7	5.8	751	ホルンフェルス	北上山地	磨り痕+敲打痕		29	36
S206	8 F③ IV層	敲磨器	Ⅱ 5	14	7.0	2.8	384	ホルンフェルス	北上山地	磨り痕+敲打痕		46	36

番号	出土地点・層位	種類	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	産地	備考		遺物図版	写真図版
S207	2号住居 埋土H	球状耳飾		4.2	(1.9)	0.4	5.1	ヒスイ	新潟?	欠損		29	36

VI まとめ

今回の発掘調査で検出された遺構は、竪穴住居跡3棟（以下住居とする）、住居状遺構1棟、陥し穴状遺構3基、土坑12基、焼土遺構24基（内、土坑内2基、二次堆積5基）である。検出遺構数が少ないので、今回の発掘調査の成果を項目ごとに並べてまとめたい。

1. 層位について

基本層序は本書Ⅱの項で8層に大別している。出土遺物等からおおまかな時期を推定すると、Ⅳ～Ⅴ層面では早期から前期に属する可能性の高い土器の出土量が多いこと、1号住居の埋土はⅢ層に似た土であったこと、Ⅱ層下面～Ⅲ層では後期に属する可能性の高い土器の出土量が多いこと、Ⅱ層からは中世の遺物の出土が見られることからⅣ層～Ⅴ層は早期から前期、Ⅲ層～Ⅳ層は中期、Ⅱ層下面～Ⅲ層は後期の生活面であった可能性が高いと思われる。ただし出土遺物と層位に差が生じているものもあること、木の根や耕作によりかなり攪乱や削平を受けているため上記は推定の域をでない。

2. 遺構

(1) 竪穴住居跡

3棟検出されている。住居跡が検出されたのは調査区北側の3H①グリットと南側の11D～12Eグリットである。1号住居は複式炉をもち、大木10式土器を出土している。炉は住居の直径約1/4に位置し、炉の長軸は南西―北東である。住居に伴う可能性のある柱穴は6基検出している。中期後葉に属するものである。2号住居は住居中央部に石囲炉をもち、上面埋土から後期前葉の土器が出土している。住居に伴う可能性のある柱穴は1基検出している。後期前葉に位置づけられるものである。3号住居は攪乱のため検出状況が悪く、時期を決定づける遺物は出土していないが、遺構内埋土がⅡ層の黒色土主体であることから古代のものである可能性が高い。柱穴等は確認されておらず詳細は不明である。

(2) 陥し穴状遺構

3基検出されている。不整の円形状で副穴を持つもの2基、不整の楕円形状のもの1基である。「陥し穴状遺構の形態と時期について（田村荘一）」を参考としてこれらの遺構の形態を当てはめると1号・2号陥し穴状遺構はC型、3号土坑はB型にそれぞれ該当するものと思われる。C型は縄文時代早期末葉～前期初頭、B型を縄文時代晩期中葉～平安前期に該当する可能性のものとしている。本遺跡においては1号陥し穴状遺構の3層下から胎土に繊維を含む土器が出土している。上面からの出土で時期を決定付けられるものではないと思われるが田村氏を参考とすれば形態の似ている1号・2号陥し穴状遺構は早期末葉から前期初頭に該当する可能性が高いものと思われる。3号陥し穴状遺構については埋土上面から縄文時代後期前葉の土器片が数点出土しているが時期を決定づけるものとは考えにくい。田村氏を参考とすれば縄文時代晩期中葉～平安前期に該当する可能性のものとしており、この時期に該当する可能性が高いと思われる。

(3) 土坑

調査区の北半側に4基、南側に8基の検出で、沢のあった中央部には検出されていない。平面形は円形・不整の円形7、楕円形・不整の楕円形2、砲弾型1、不明2で円形を基調とするものが多い。断面形は浅鉢状のものが多い。完形に近い土器が出土したものは5号土坑、7号土坑、10号土坑である。いずれも後期前葉に属する可能性の土器である。また、付近から石器が多量に出土したものは2号土坑である。埋土中に多

量の礫を含んでいたものに12号土坑がある。「土器の出土状況からみた土壙墓の認定について（中村大）」によると、土壙墓の認定基準に、「1. 人骨が検出される 2. 赤色顔料が撒布されている。 3. 土坑上面に配石や集石、立石などを有する。 4. 底面に周溝を持つ、または土坑の底や壁に礫を並べる。 5. 耳飾り・玉類などの装身具や石棒など第二の道具が出土する。」とある。本遺跡の土坑において、赤色顔料を塗った土器が出土している7号土坑は土壙墓であった可能性が高いものと思われる。また、楕円形を呈し、埋土に大きめの礫を含む12号土坑、土坑内から土器・焼土が検出された5号・6号土坑の埋土は人為的に埋め戻された可能性が高く、土壙墓の可能性のあるものと考えている。また、周囲から剥片石器が多量に出土した2号土坑については、土坑内焼土から土器や剥片石器が出土し異地性の焼土の可能性もあるが、木の根による攪乱もあり断言はできない。土坑ではなく、付近に石器製作に関連する施設があり、やや窪んだところに焼土を破棄している可能性あるいは石器製作に関連する施設であった可能性が考えられるが推定の域である。

（4）焼土遺構

24基検出した。焼土に平面的な広がりを持たずブロック状になっている5基は異地性の焼土と判断した。焼土には不整形のものが多く規模は最大で、約180×86cm、最小で約19×14cmである。1号～4号焼土および11号～15号焼土検出直前の層には中礫撮火山灰の褐色ブロックが含まれており、また付近から胎土に繊維を含む土器が出土していることからこれらの焼土は縄文時代前期の可能性のあるものと思われる。

おわりに

今回調査した柘洞Ⅱ遺跡は早期～前期前葉、中期後葉～後期中葉、晩期中葉の土器および中世～近世の陶磁器が出土している。土器は後期前葉のものが最も多く、次いで前期前葉のものが多く。他の遺構が削平により消滅した可能性もあるが、早期から前期の遺構は陥し穴状遺構が確認されただけである。この時代には居住地ではなく狩猟域であった可能性が高い。中期の後葉～後期にかけては住居が検出されており生活の場として利用されていたものと思われる。早期の土器が沢跡付近のⅣ層から検出されており、早期には調査区内には2本の沢が存在していたものと思われる。後期には沢上面付近から土坑、住居が検出されていることから後期以前に沢は埋まっていたものと思われる。後期中葉、晩期については、土器のみの検出であり、付近にこの時期に属する遺構が存在する可能性が高い。また、中世の皿や銭貨も出土していることから付近に中世の遺跡の存在も考えられる。今後周辺の調査が進むとさらに生活様式、土地利用が明らかになるものと思われる。

<参考・引用文献>

- 興野義一（1967）：「大木式土器理解のために（1）～（3）」『考古学ジャーナル』
- 岩木山刊行会（1968）：「十腰内遺跡」『岩木山』
- 花泉町教育委員会（1971）：「貝鳥貝塚」
- 大槌町教育委員会（1974）：「崎山弁天遺跡発掘調査報告書」
- 後藤勝彦（1974）：「縄文後期宮戸Ⅰb式周辺の吟味」『東北の考古・歴史論集』
- 熊谷常正（1975）：「岩手県磐井郡の縄文時代前期土器群」『考古風土記 第4号』
- 岡村道雄（1976）：「ピエス・エスキューについて」『東北考古学の諸問題』 東北考古学会
- 山内清男（1979）：「日本先史土器の縄紋」 先史考古学会
- 大迫町教委区委員会（1979）：「立石遺跡」

- 青森市蛭沢遺跡発掘調査団（1979）：「蛭沢遺跡」
- 仙台市教育委員会（1980）：「三神峰遺跡発掘調査報告書」 仙台市文化財調査報告書第25集
- 加藤晋平・小林達雄・藤本強（1981）：「縄文文化の研究 4 縄文土器Ⅱ」 雄山閣出版株式会社
- 加藤晋平・小林達雄・藤本強（1982）：「縄文文化の研究 3 縄文土器Ⅰ」 雄山閣出版株式会社
- 岩手県博物館（1982）：「岩手の土器」
- 加藤晋平・小林達雄・藤本強（1983）：「縄文文化の研究 5 縄文土器Ⅲ」 雄山閣出版株式会社
- 熊谷常正（1983）：「岩手県における縄文時代前期土器群の成立」『岩手県立博物館研究報告 第1号』
- 宮城県教育委員会（1986）：「田柄貝塚Ⅱ」 宮城県文化財調査報告書第111集
- 大迫町教育委員会（1986）：「観音堂遺跡」
- （財）岩手県埋蔵文化財センター（1987）：「馬立Ⅰ・太田遺跡発掘調査報告書」 岩埋文調査報告書第123集
- （財）岩手県埋蔵文化財センター（1988）：「馬立Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 岩埋文調査報告書第122集
- 白鳥良一（1989）：「前期大木式土器様式」 『縄文土器大観1』 小学館
- 丹羽 茂（1989）：「中期大木式土器様式」 『縄文土器大観1』 小学館
- 成田滋彦（1989）：「入江・十腰内式土器様式」『縄文土器大観4』 小学館
- 熊谷常正（1989）：「岩手県の早期後半から前期初頭の土器群について」 第41回縄文文化検討会シンポジウム
- 相原淳一（1990）：「東北地方における縄文時代早期後葉から前期前葉にかけての土器編年」 『考古学雑誌』
- 本間 宏（1990）：「東北地方南部における縄文後期前葉土器群の変遷課程」『縄文時代の諸問題』
- 鈴木道之助（1991）：「石器入門事典－縄文」 柏書房
- 高橋亜貴子（1992）：「東北地方縄文時代前期前葉組縄文について」『東北文化論のための先史学歴史学論集』
- 陸前高田市教育委員会（1992）：「門前貝塚」 陸前高田市文化財調査報告書第16集
- （財）岩手県埋蔵文化財センター（1993）：「新山権現社遺跡発掘調査報告書」 岩埋文調査報告書第188集
- 坂本真弓・杉野森淳子（1997）：「青森近県における陥し穴集成」『研究紀要 第2号』 青森県埋蔵文化財調査センター
- 佐々木嘉直（1988）：「岩手県内出土の石製円盤・土製円盤について」『紀要 Ⅷ』（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 福田友之（1999）：「本州北端の玦状耳飾り」『研究紀要 第4号』 青森県埋蔵文化財調査センター
- 成田滋彦（1999）：「異形土器 切断蓋付土器－出土状態と器形を考える」『研究紀要 第4号』 青森県埋蔵文化財調査センター
- 白鳥文雄（2000）：「縄文時代の灯明具？－小型土器の用途について」『研究紀要 第5号』 青森県埋蔵文化財調査センター
- 中村 大（2000）：「土器の出土状況からみた土壌墓の認定について－縄文時代の北日本を中心として－」 国学院大学考古資料館紀要第16輯
- （財）岩手県埋蔵文化財センター（2000）：「沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書」 岩埋文調査報告書第342集
- 鈴木克彦（2001）：「北日本の縄文土器編年の研究」 雄山閣出版株式会社
- （財）岩手県埋蔵文化財センター（2002）：「清水遺跡発掘調査報告書」 岩埋文調査報告書第382集
- （財）岩手県埋蔵文化財センター（2002）：「小松Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 岩埋文調査報告書第392集

写 真 图 版



遺跡遠景(北から)



調査区全景

写真図版 1 遺跡遠景・調査区全景



調査前風景(南西側)



調査前風景(中央)



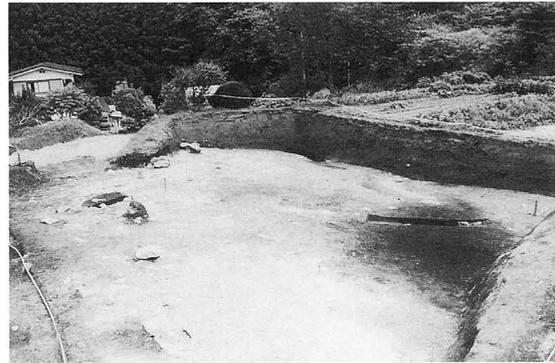
調査前風景(東側)



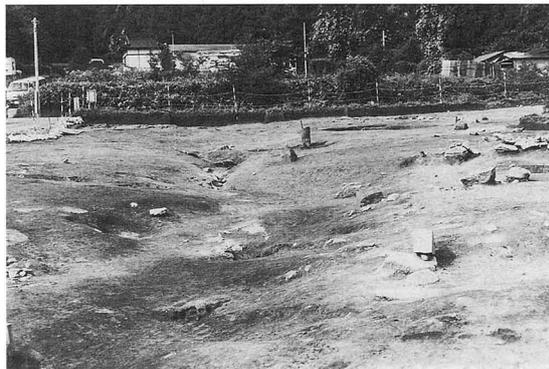
調査前風景(北から)



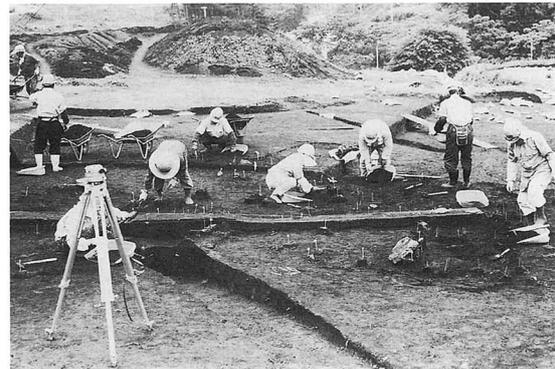
調査後風景(東側)



調査後風景(南側)



調査後風景(西側)



作業風景

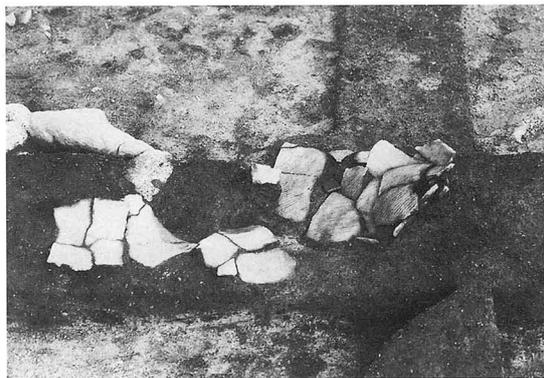
写真図版 2 調査前風景・調査後風景



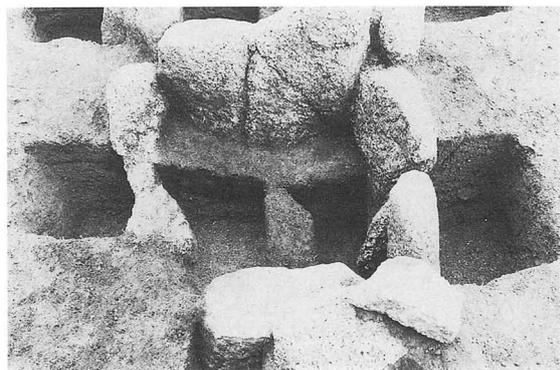
平面



断面



遺物出土状況

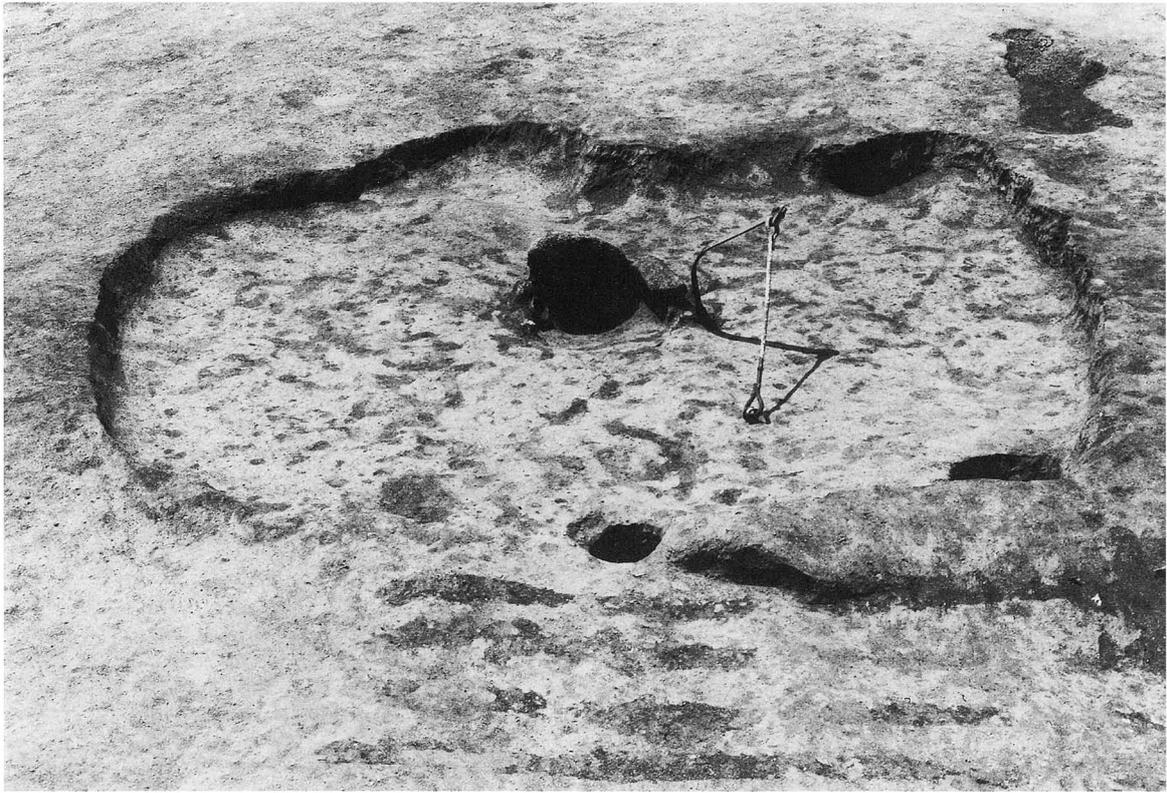


炉断面

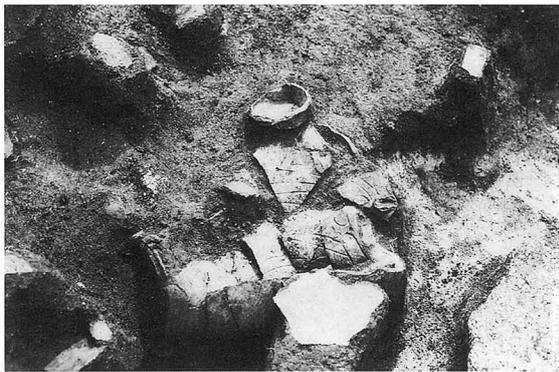


炉断面

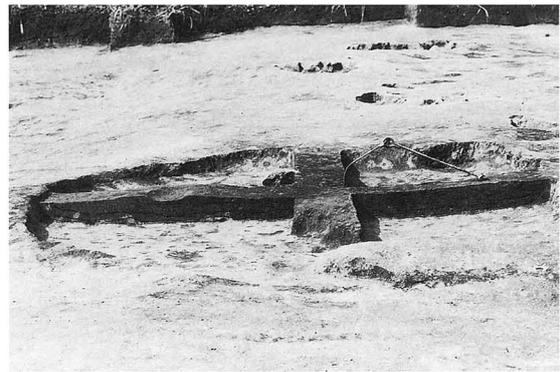
写真図版 3 1号竪穴住居跡



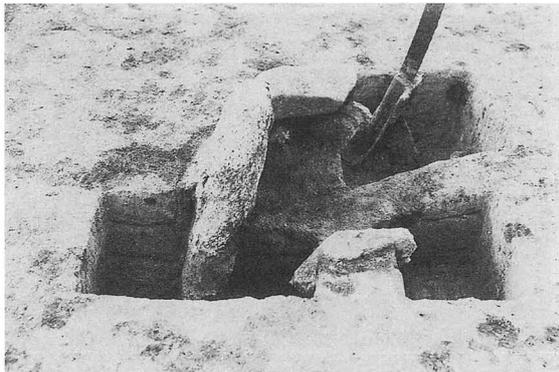
平面



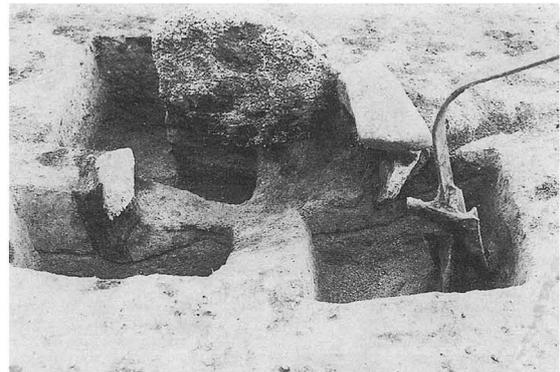
遺物出土状況



断面

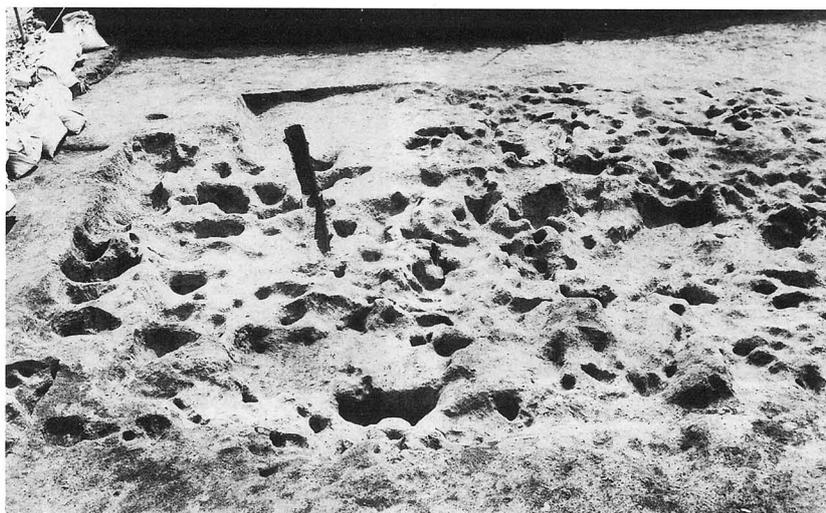


炉断面

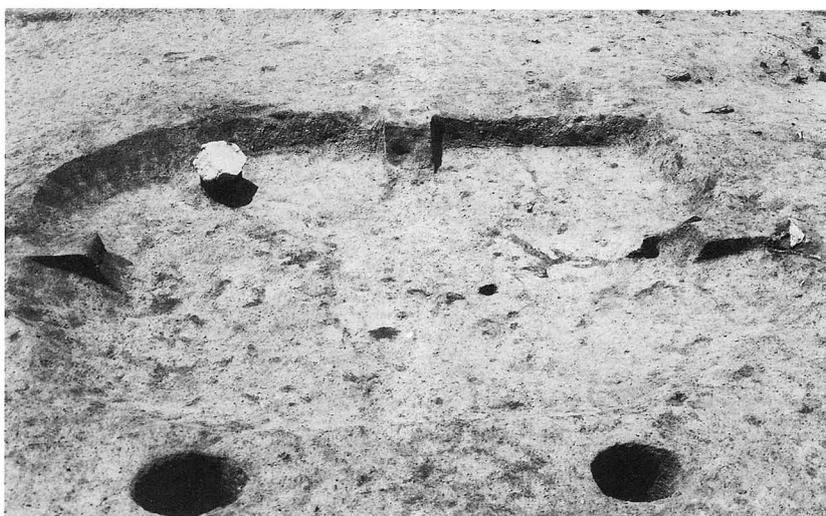


炉断面

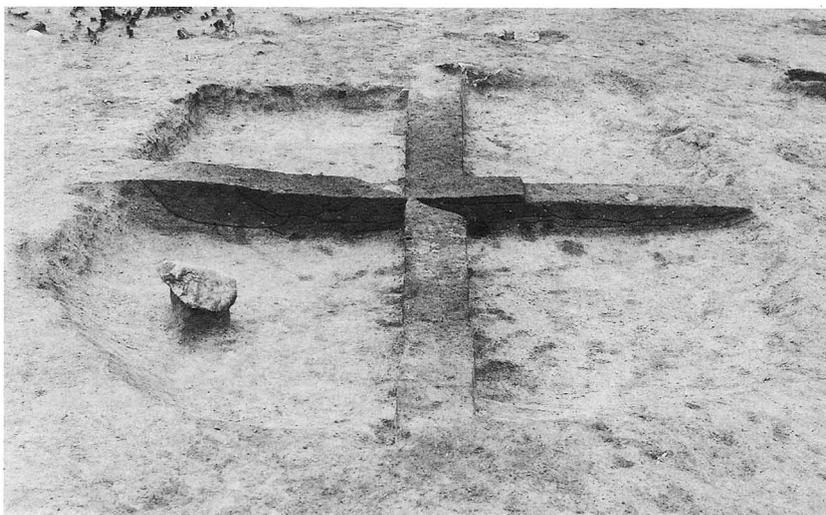
写真図版 4 2号竪穴住居跡



3号堅穴住居跡 平面



住居状遺構 平面

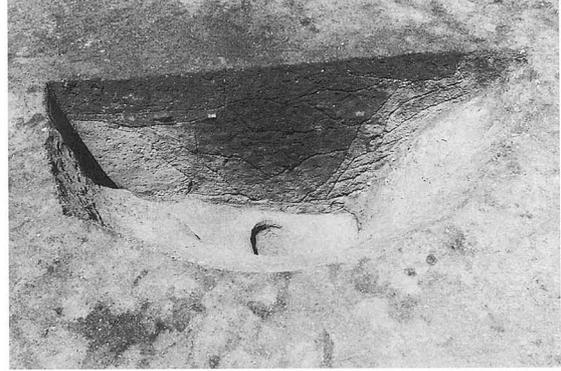


住居状遺構 断面

写真図版 5 3号堅穴住居跡・住居状遺構



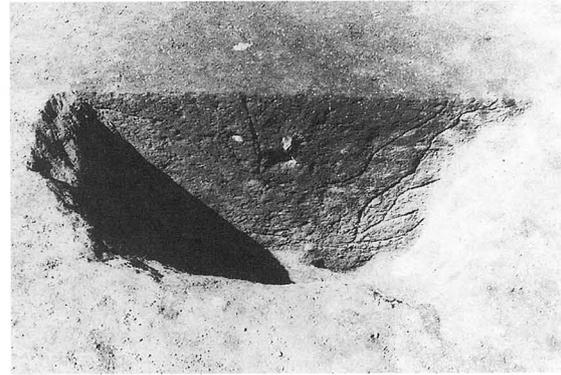
1号陥し穴状遺構 平面



1号陥し穴状遺構 断面



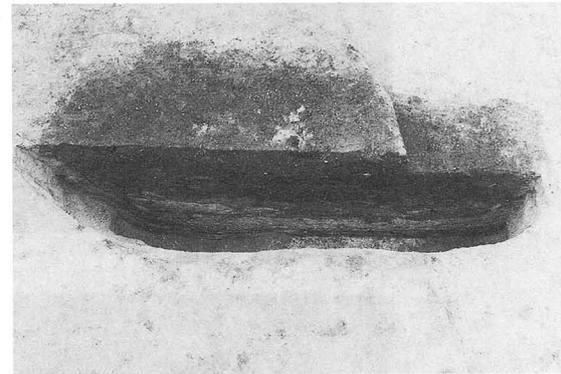
2号陥し穴状遺構 平面



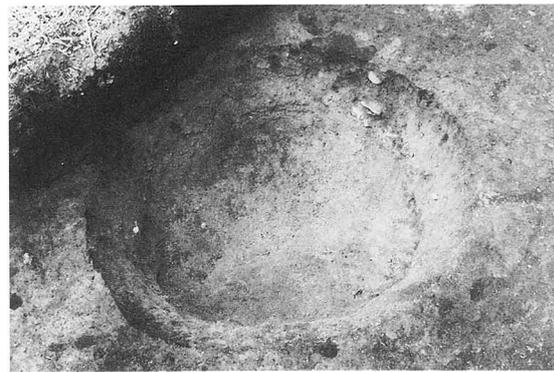
2号陥し穴状遺構 断面



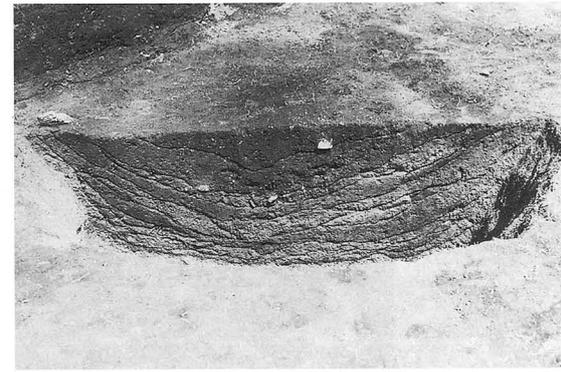
3号陥し穴状遺構 平面



3号陥し穴状遺構 断面



1号土坑 平面



1号土坑 断面

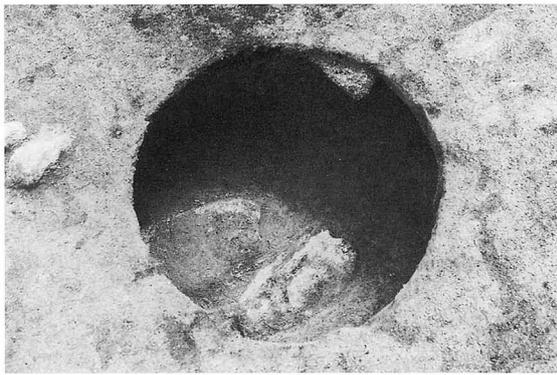
写真図版6 陥し穴状遺構・土坑(1)



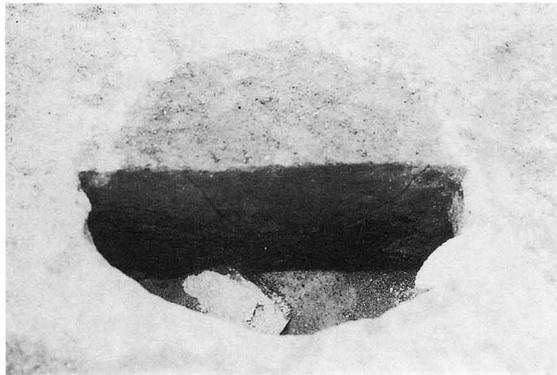
2号土坑 平面



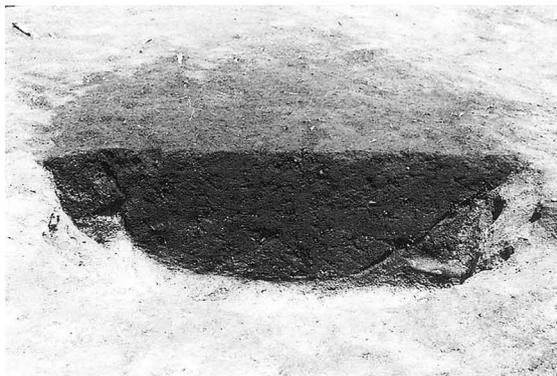
2号土坑内烧土 断面



3号土坑 平面



3号土坑 断面



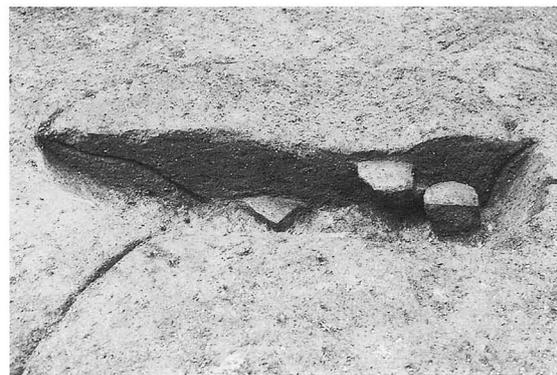
4号土坑 断面



5号土坑 平面



5·6号土坑内烧土 断面

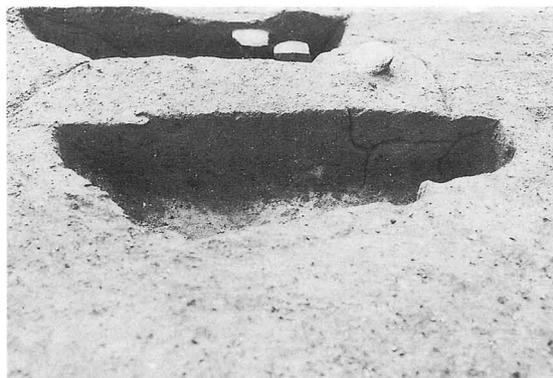


5号土坑 断面

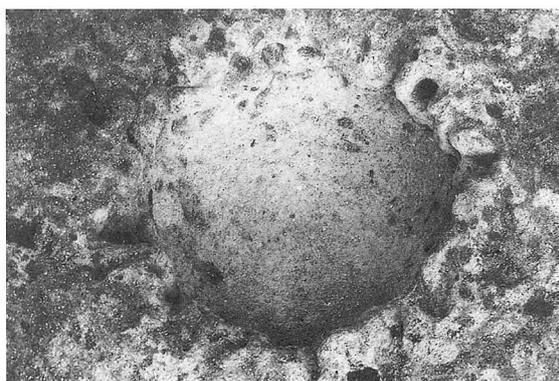
写真图版 7 土坑 (2)



6号土坑 平面



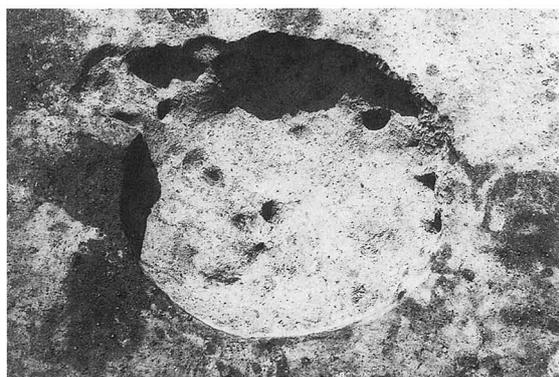
6号土坑 断面



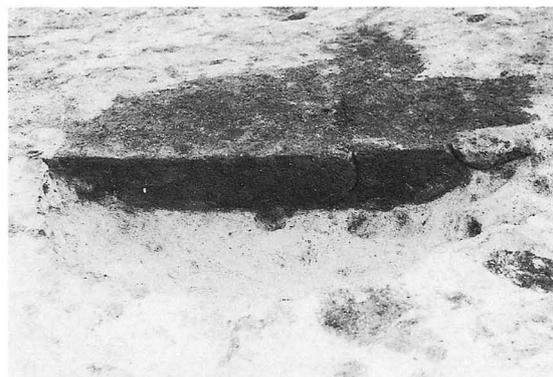
8号土坑 平面



8号土坑 断面



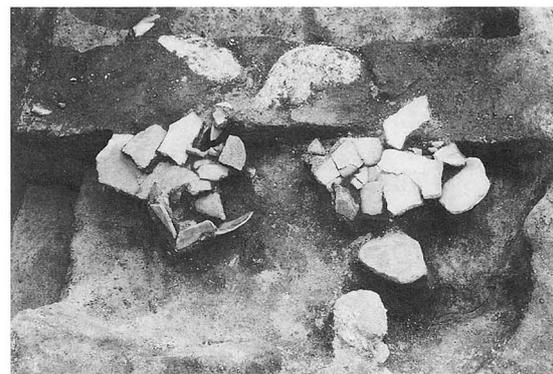
9号土坑 平面



9号土坑 断面

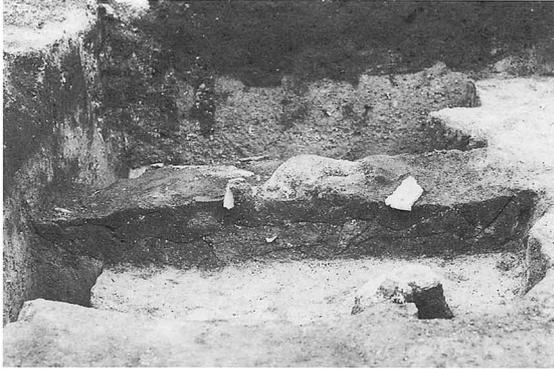


7号土坑 平面



10号土坑遺物出土狀況

写真図版8 土坑(3)



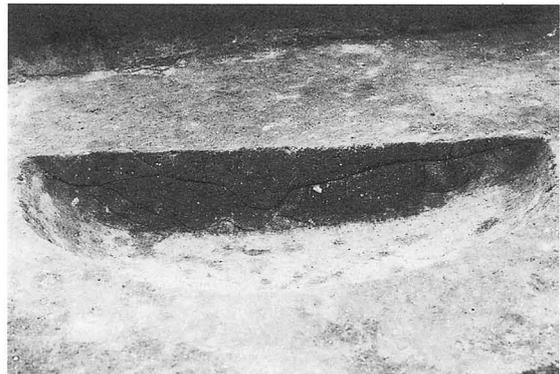
10号土坑 断面



10号土坑 平面



11号土坑 平面



11号土坑 断面



12号土坑 平面



12号土坑 断面



1号烧土 平面

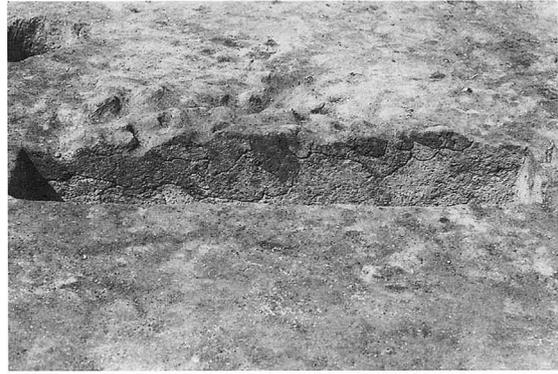


1号烧土 断面

写真図版9 土坑(4)・烧土遺構(1)



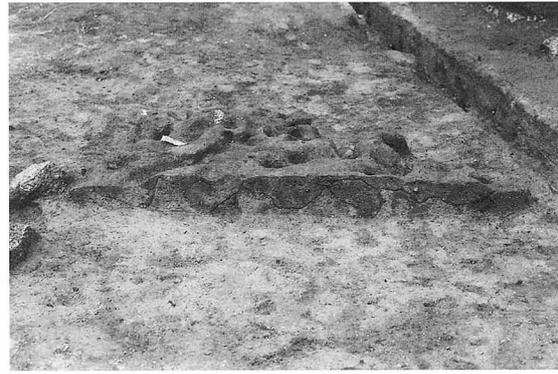
2号烧土 平面



2号烧土 断面



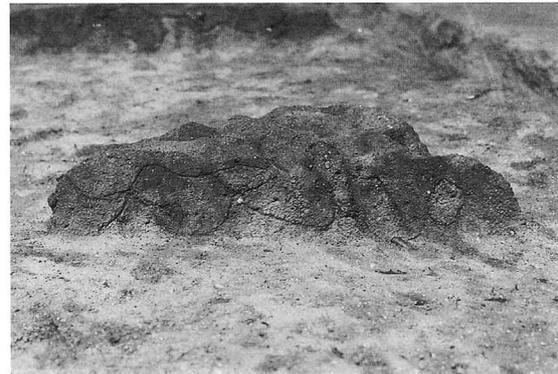
3号烧土 平面



3号烧土 断面



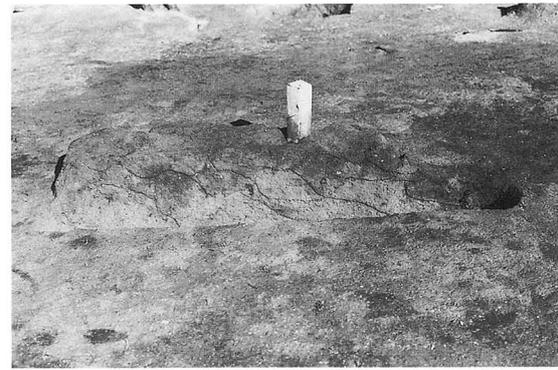
4号烧土 平面



4号烧土 断面



6号烧土 平面



6号烧土 断面

写真図版10 烧土遺構(2)



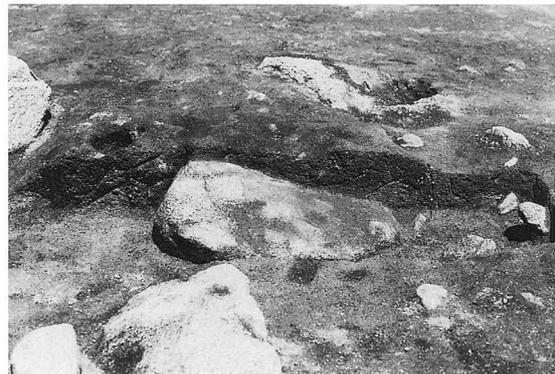
7号烧土 平面



7号烧土 断面



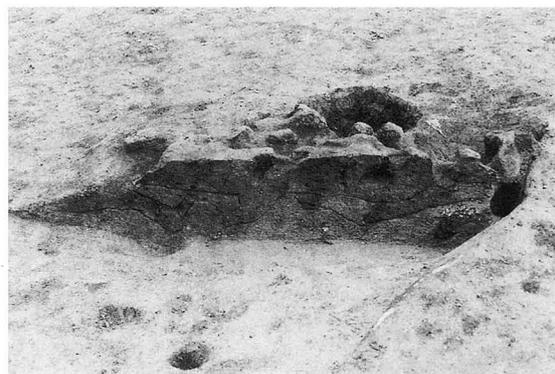
8号烧土 平面



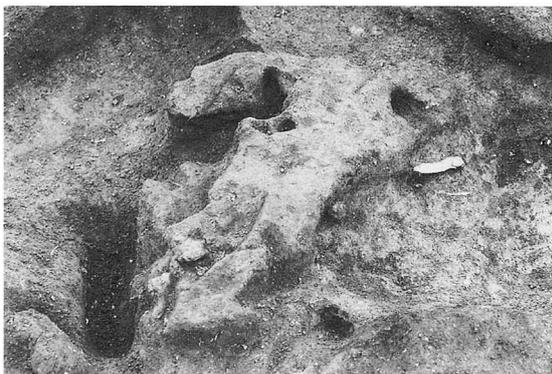
8号烧土 断面



9号烧土 平面



9号烧土 断面



10号烧土 平面



10号烧土 断面

写真图版11 烧土遺構 (3)



11号烧土 平面



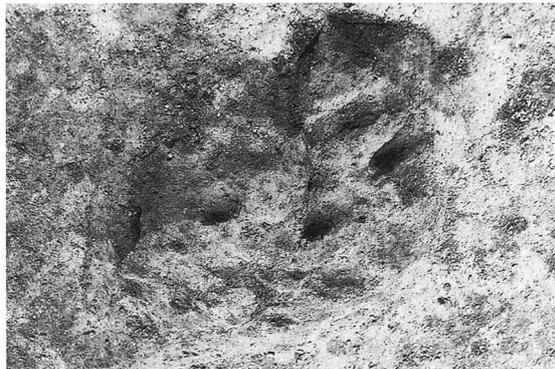
11号烧土 断面



12号烧土 平面



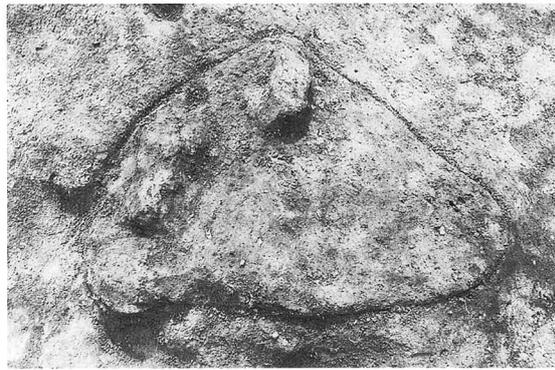
12号烧土 断面



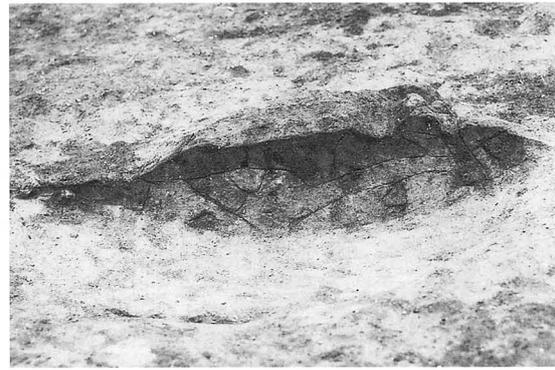
13号烧土 平面



13号烧土 断面



14号烧土 平面

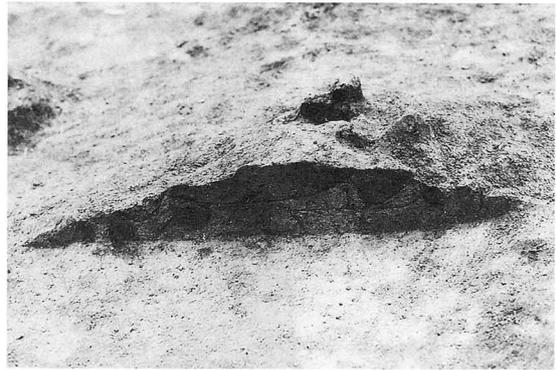


14号烧土 断面

写真图版12 烧土遺構 (4)



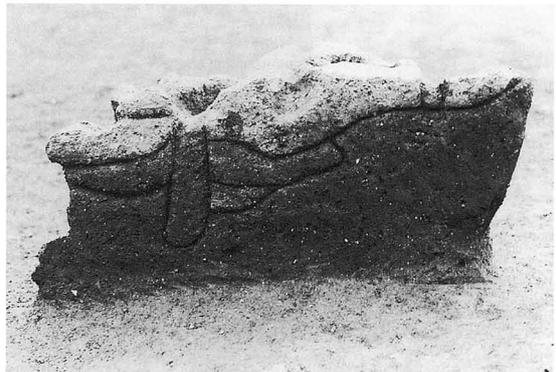
15号焼土 平面



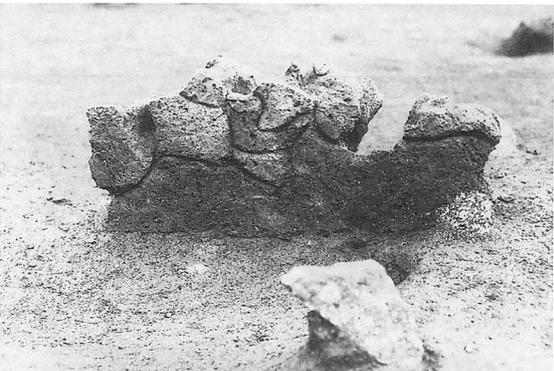
15号焼土 断面



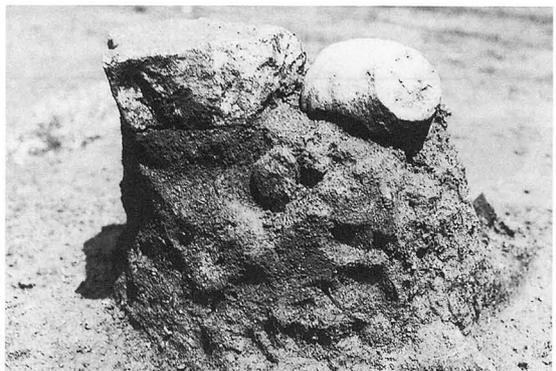
16・17号焼土 平面



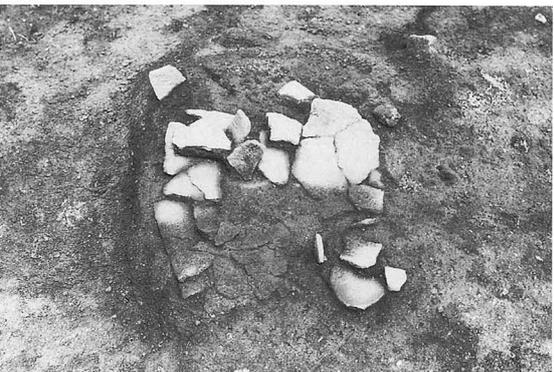
16号焼土 断面



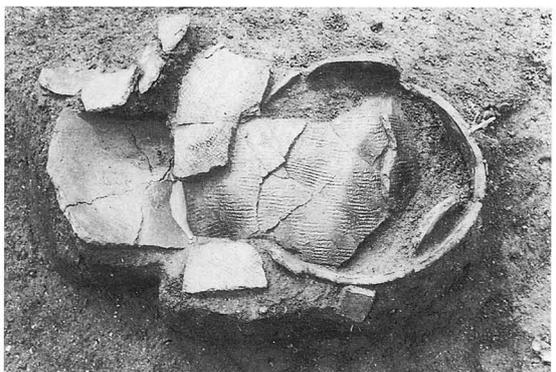
17号焼土 断面



17号焼土脇No.201土器出土状況



No.59土器出土状況

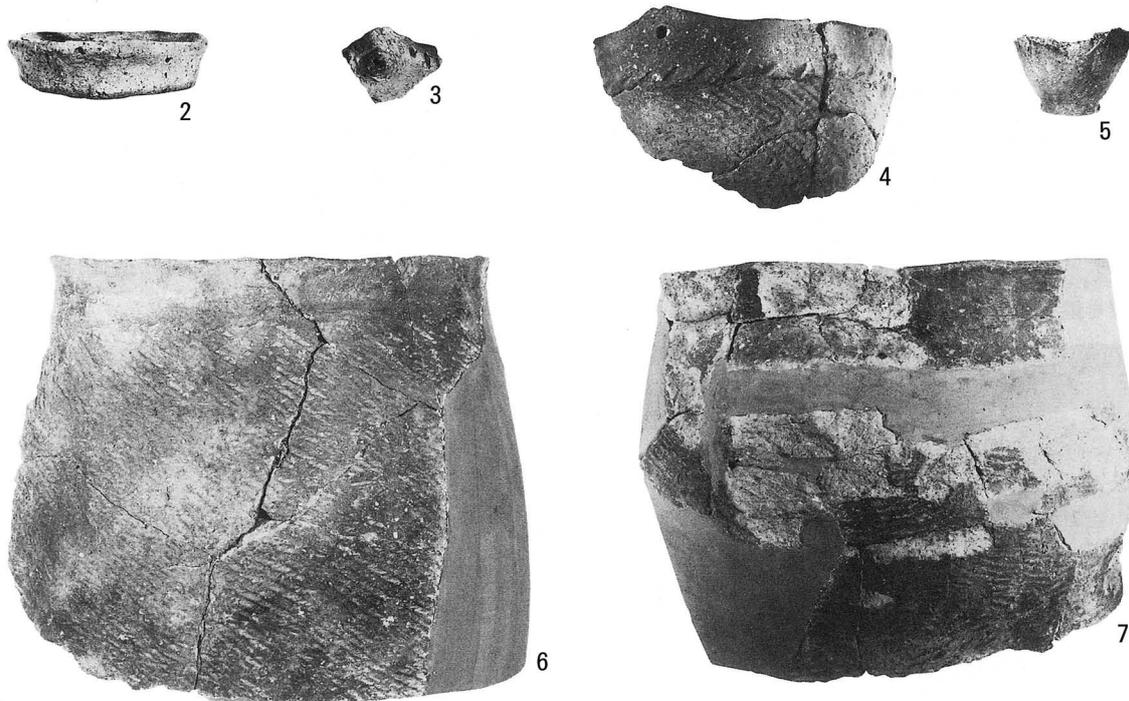


No.17土器出土状況

写真図版13 焼土遺構(5)・遺物出土状況



1号住居



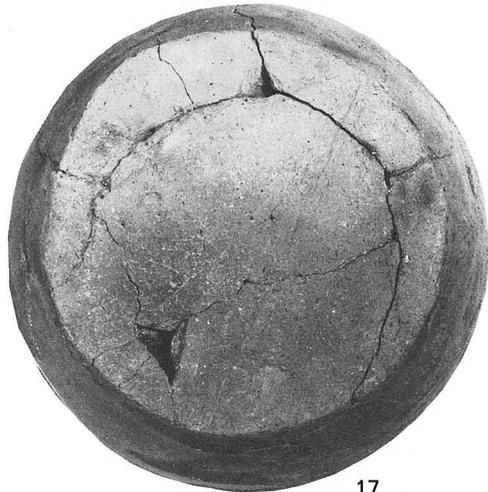
2号住居 (1)

写真図版14 遺構内出土遺物 (1)



2号住居(2)

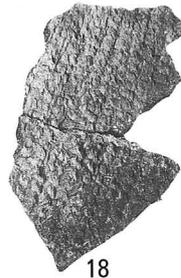
写真図版15 遺構内出土遺物(2)



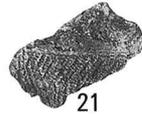
2号住居 (3) 17



6号土坑 24



18
住居状遺構



21
3号陥し穴



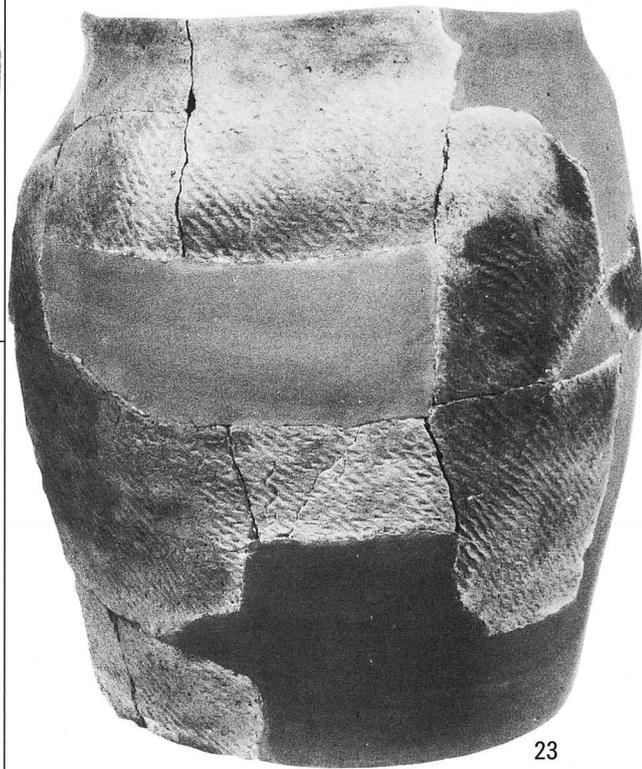
22
2号土坑



19



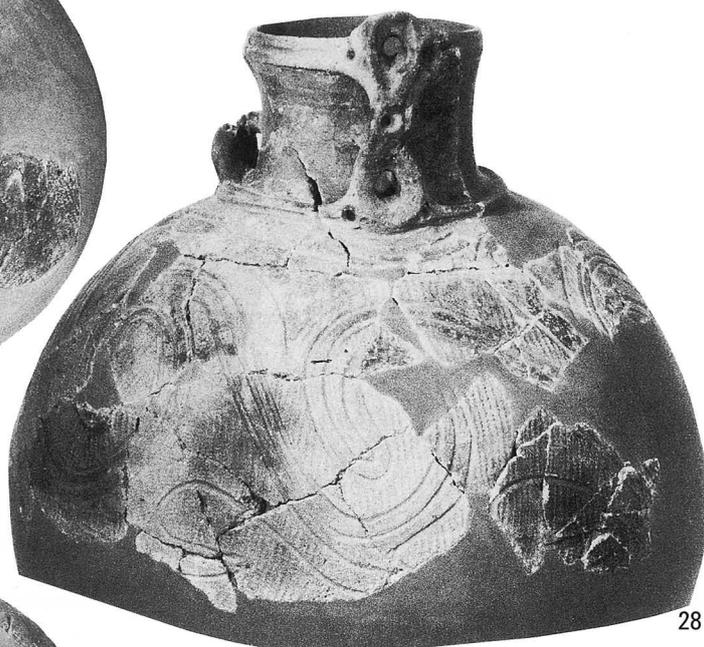
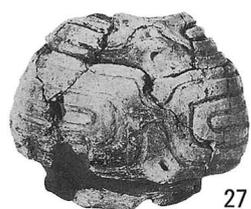
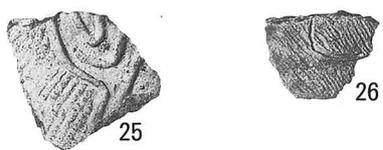
20



23

5号土坑

写真図版16 遺構内出土遺物 (3)



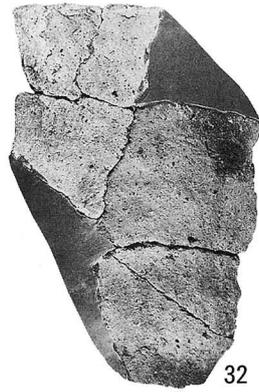
29

7号土坑(1)

写真図版17 遺構内出土遺物(4)



30



32



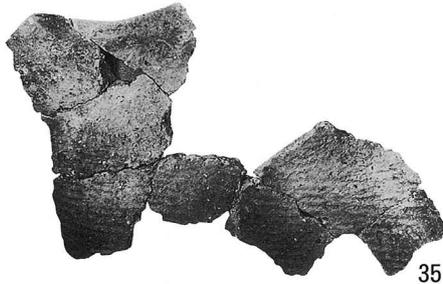
33



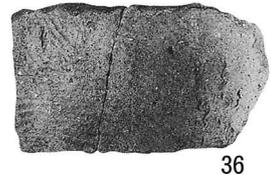
31



34



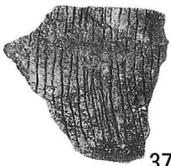
35



36

8号土坑

7号土坑 (2)



37



38

9号土坑



39

10号土坑

写真图版18 遺構内出土遺物 (5)



41



42



40



44



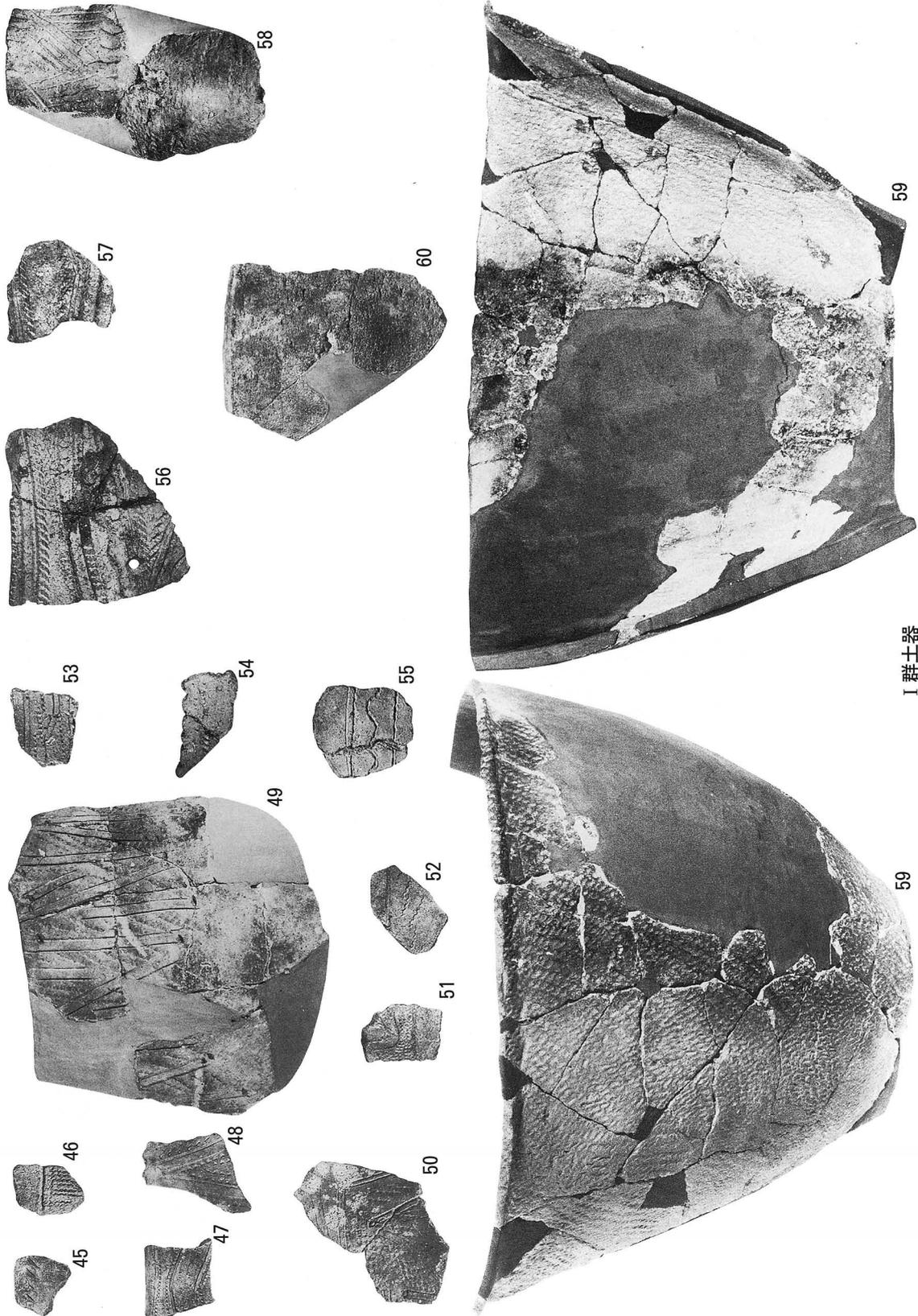
43

10号土坑

16号土坑

4号烧土

写真图版19 遺構内出土遺物 (6)



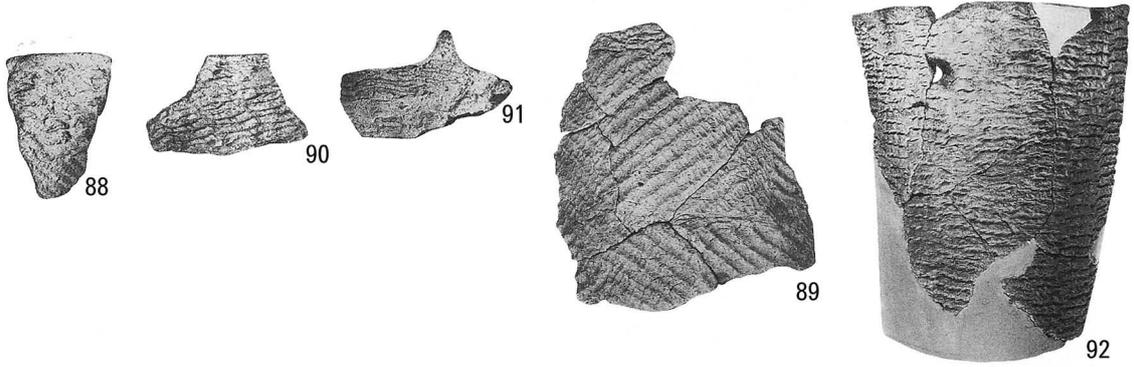
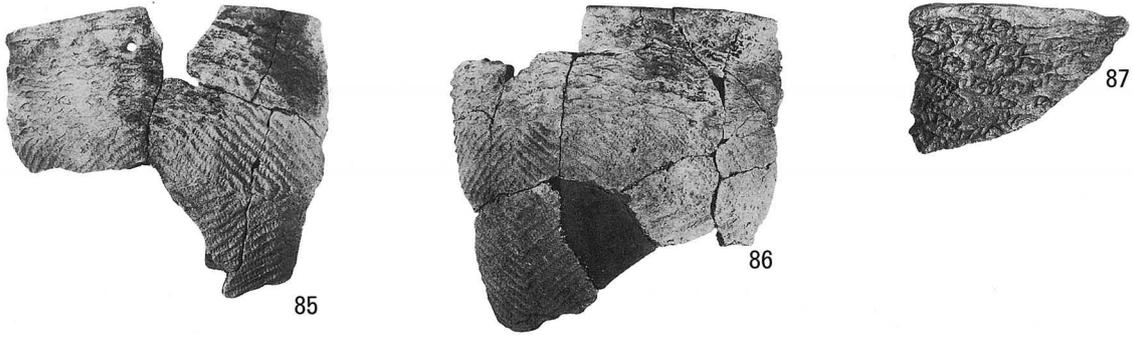
I 群土器

写真図版20 遺構外出土遺物(1)



Ⅱ群土器(1)

写真図版21 遺構外出土遺物(2)

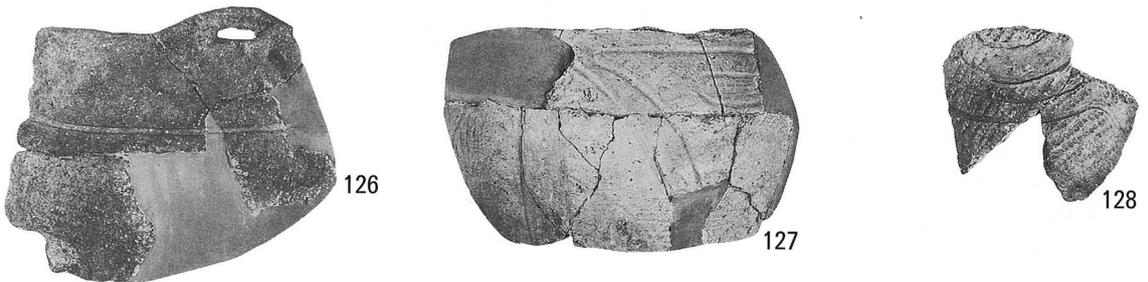
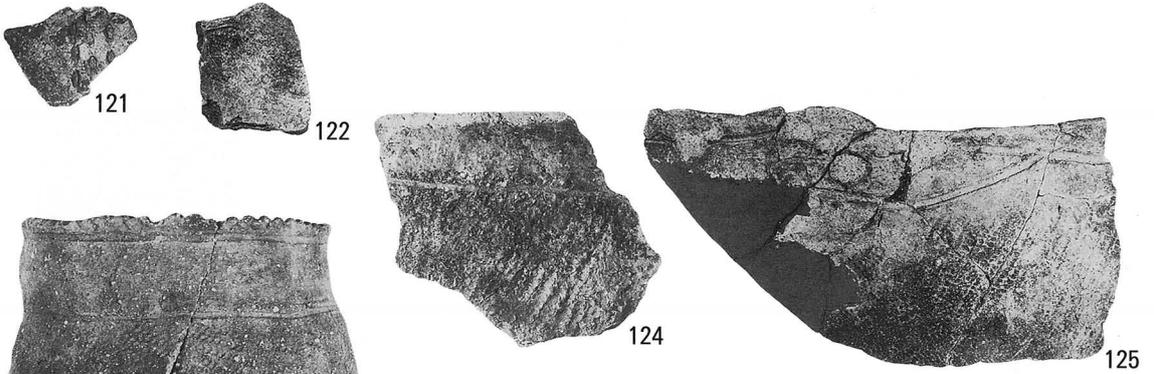
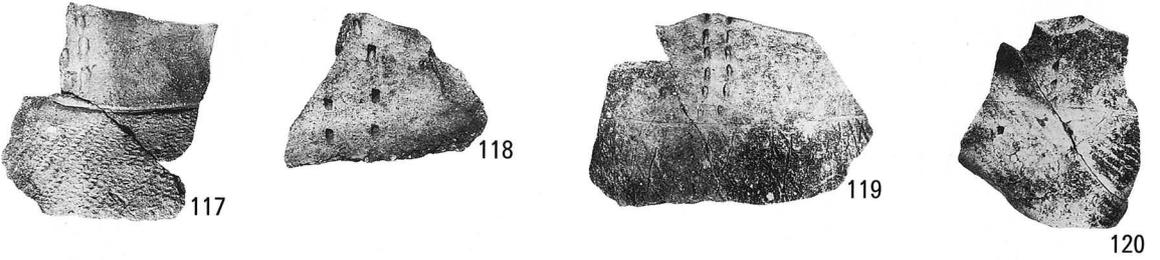
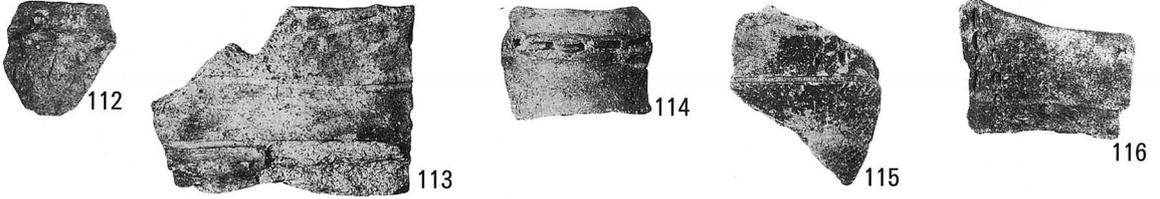
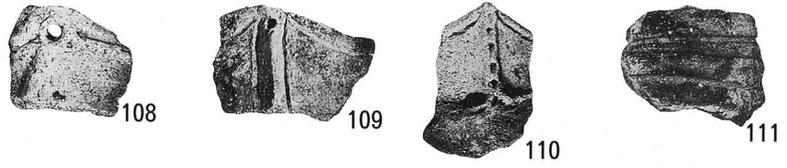


Ⅱ群土器(2)

写真図版22 遺構外出土遺物(3)

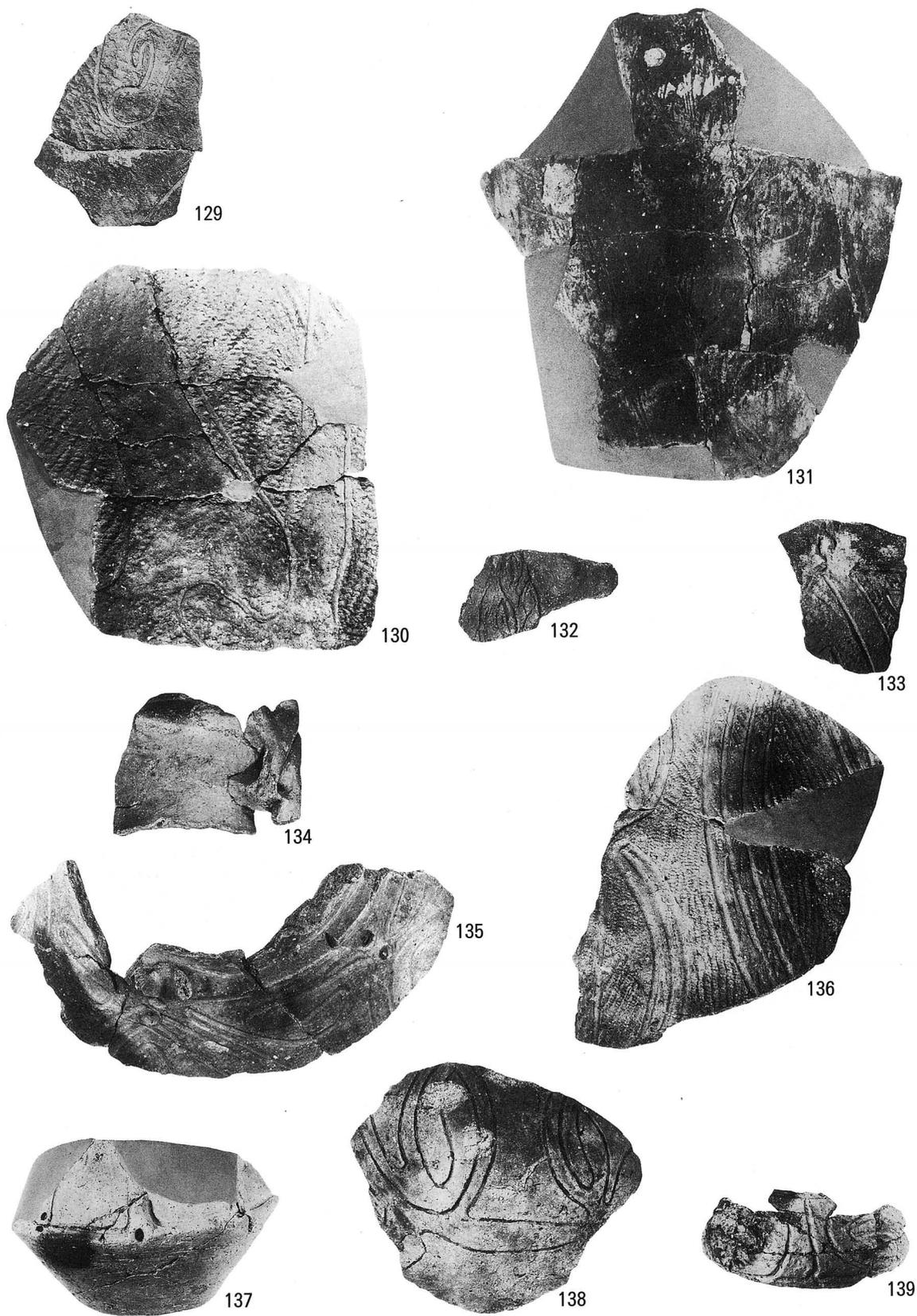


III群土器



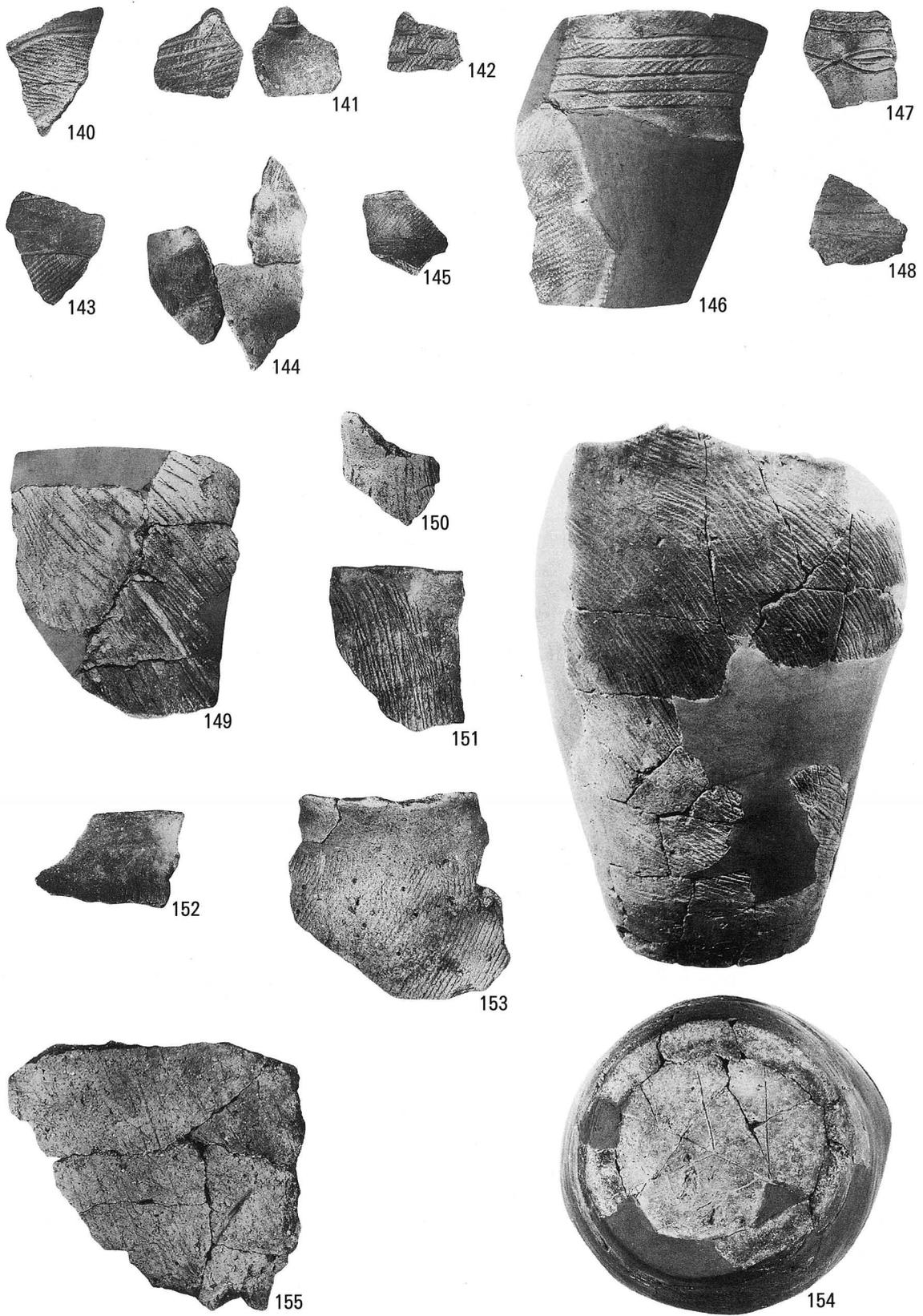
IV群土器(1)

写真図版23 遺構外出土遺物(4)



IV群土器(2)

写真図版24 遺構外出土遺物(5)

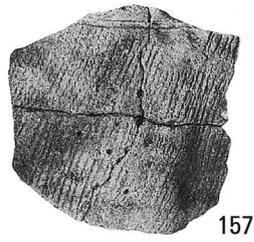


IV群土器(3)

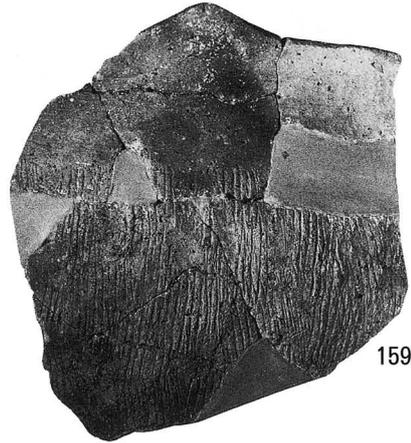
写真図版25 遺構外出土遺物(6)



156



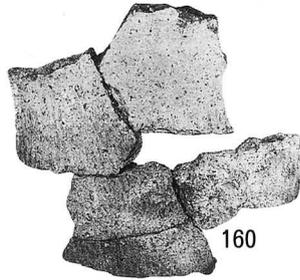
157



159



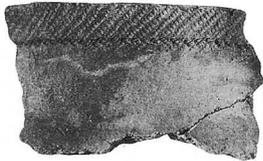
158



160



161



162



163



164



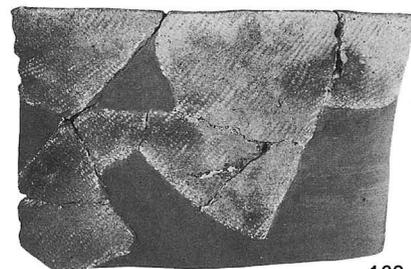
165



166



167



168



169



170



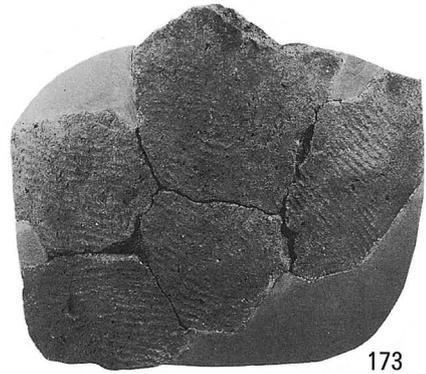
171

IV群土器(4)

写真図版26 遺構外出土遺物(7)



172



173



174



175



176



177



178



179



180



181



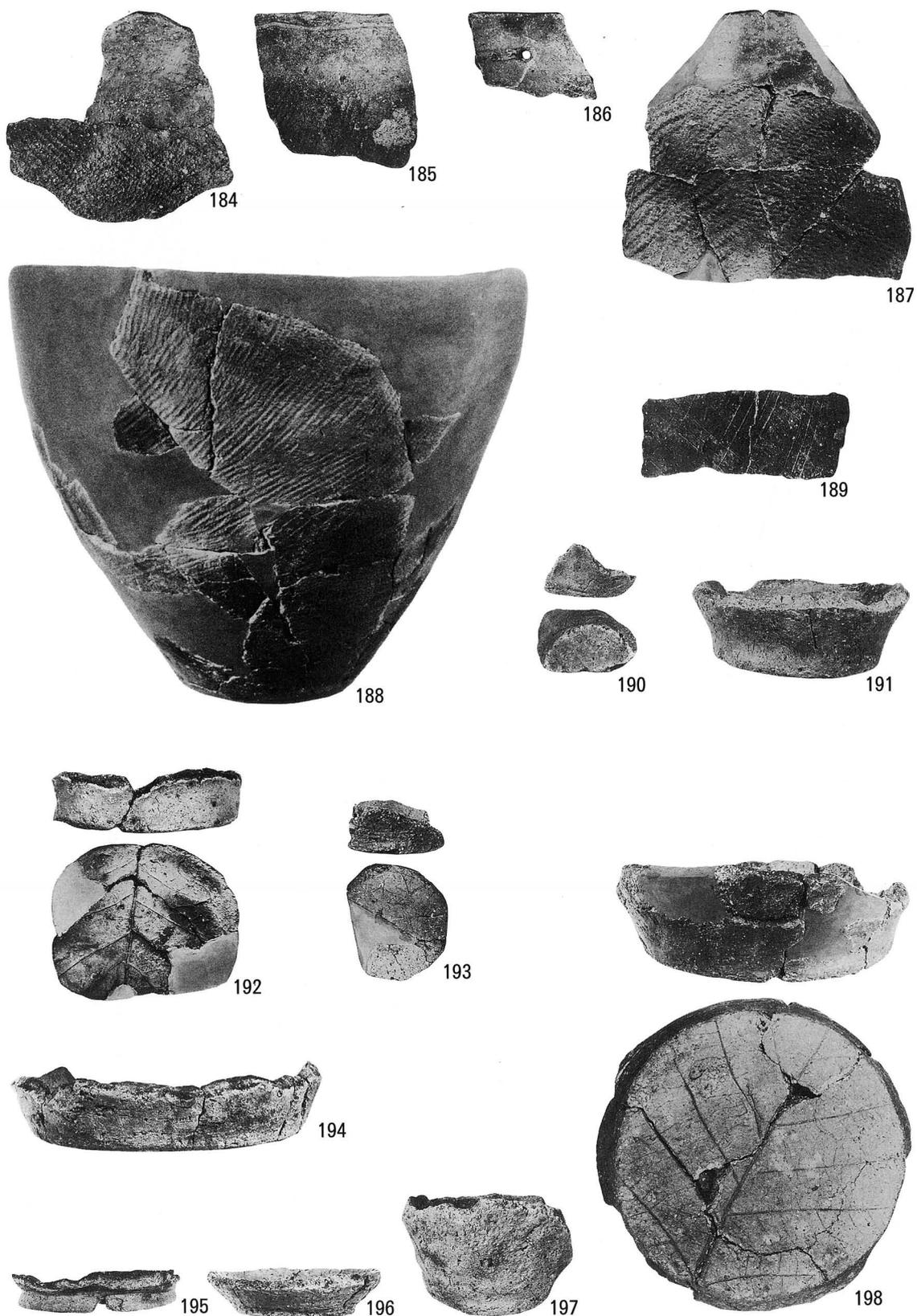
182



183

IV群土器(5)

写真図版27 遺構外出土遺物(8)

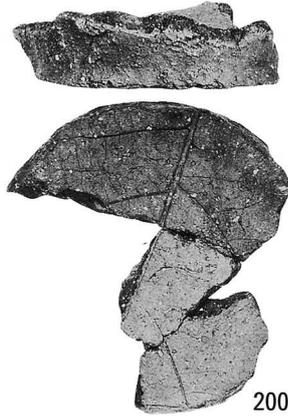


IV群土器(6)

写真図版28 遺構外出土遺物(9)



199



200



201

IV群土器



202



203



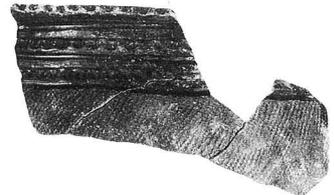
204



205



206



207

V群土器



208



209



210



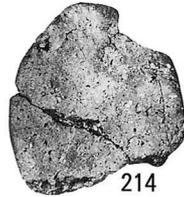
211



212



213



214



215



216



217



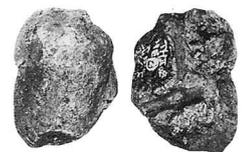
218



219



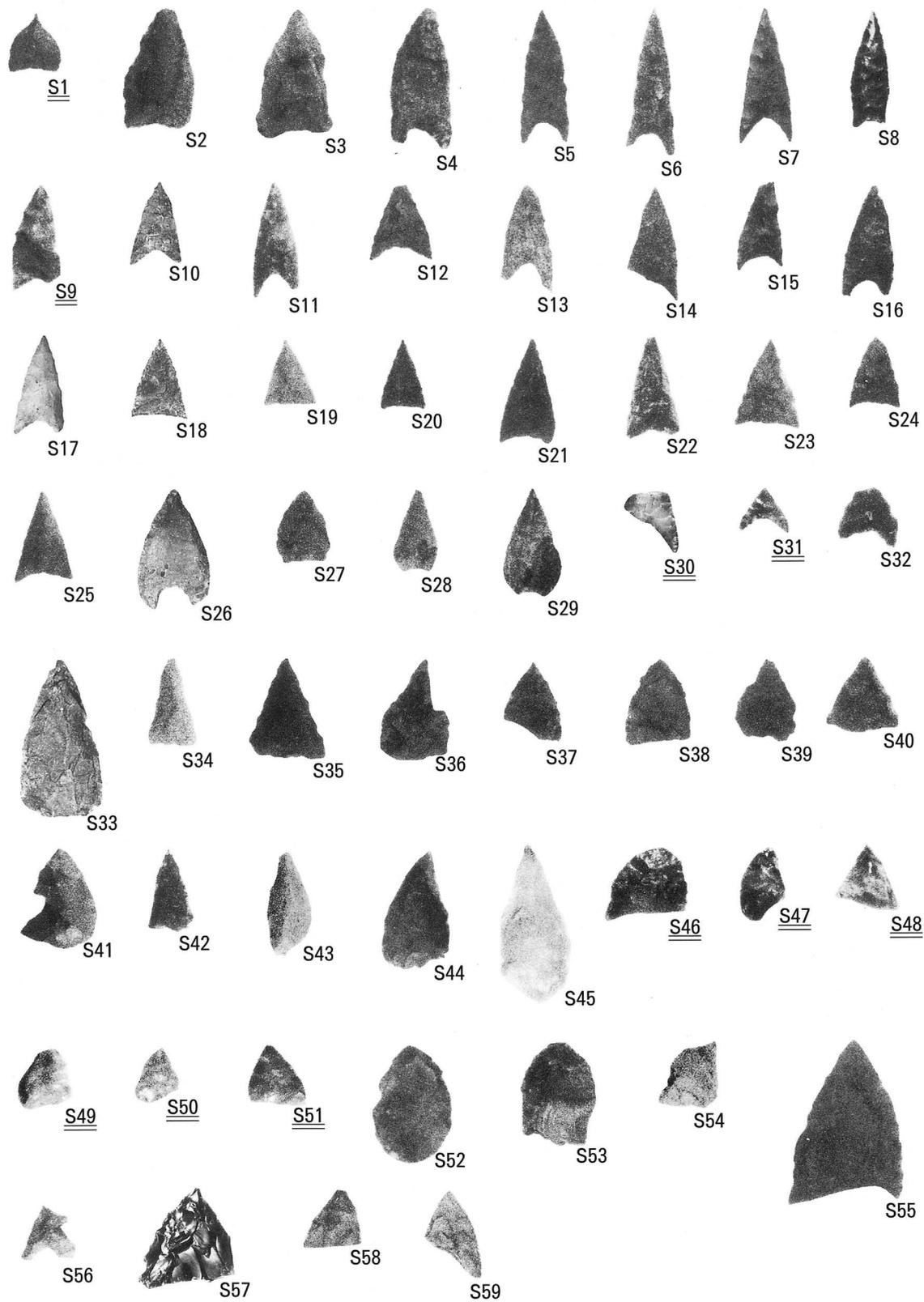
220



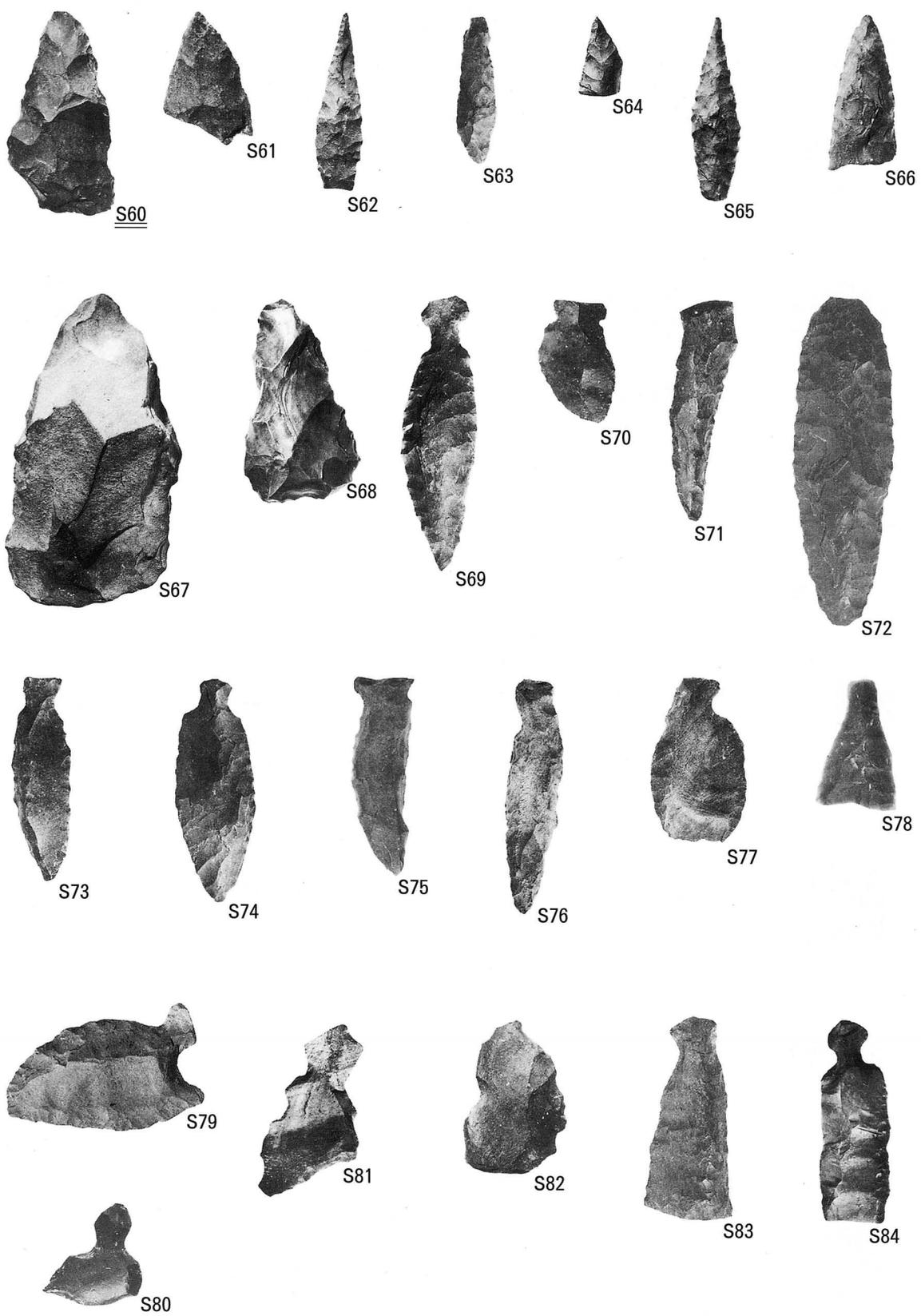
221

土製品

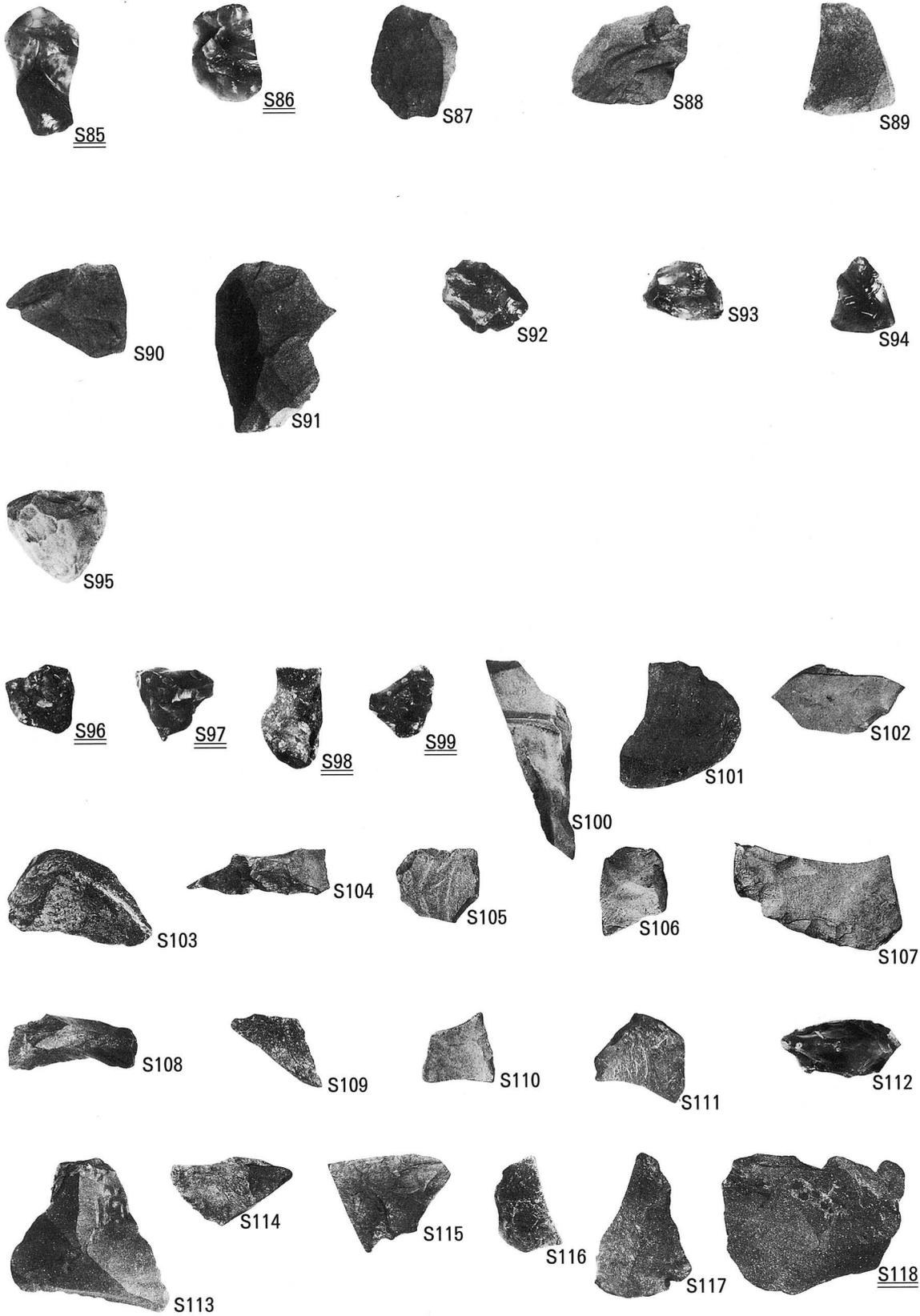
写真図版29 遺構外出土遺物 (10)



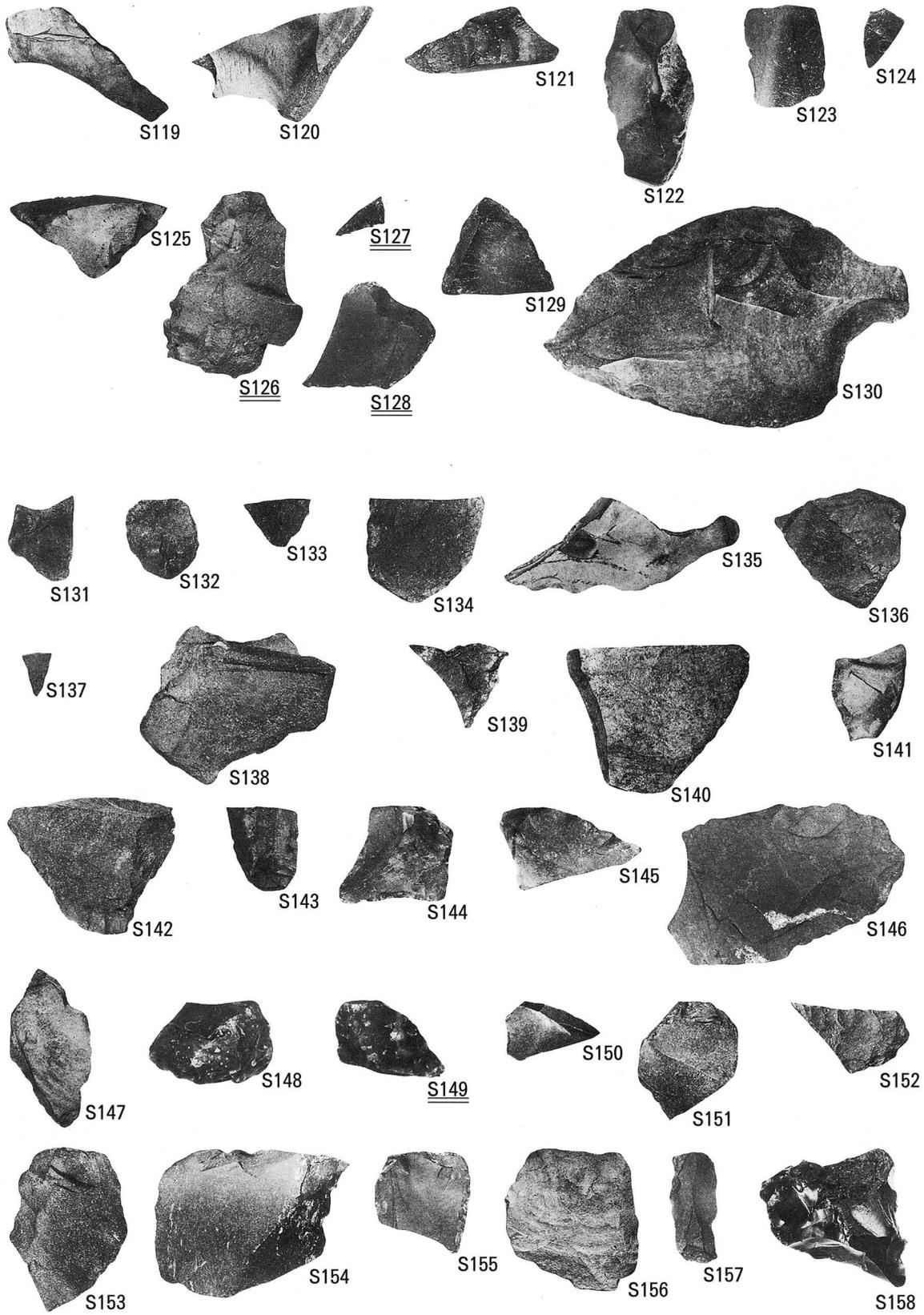
写真图版30 石器(1)



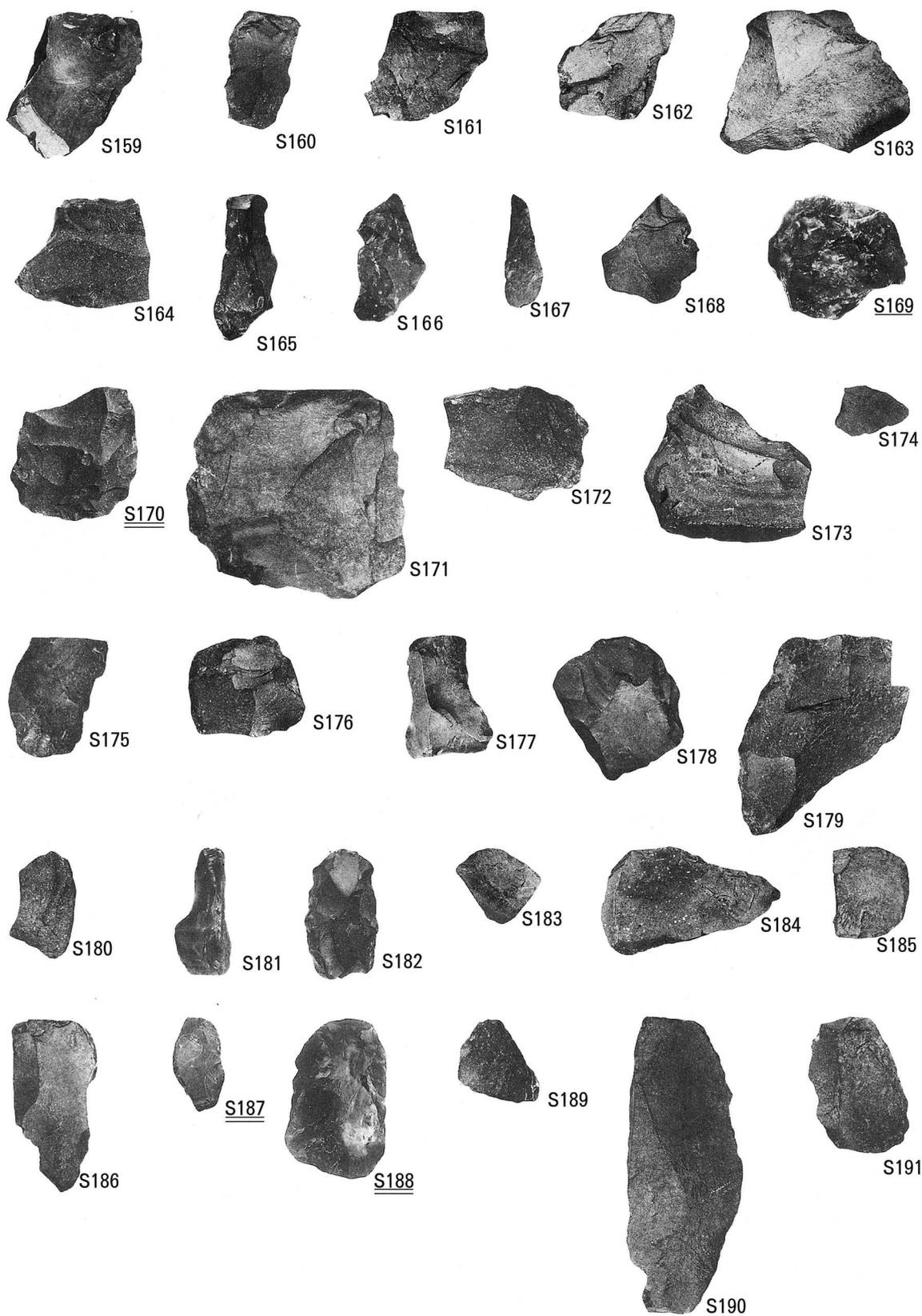
写真图版31 石器(2)



写真图版32 石器(3)



写真图版33 石器(4)



写真图版34 石器(5)



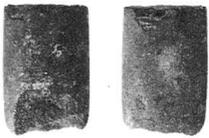
S192



S193



S195



S194



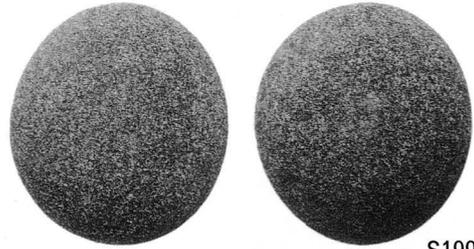
S196



S197



S198



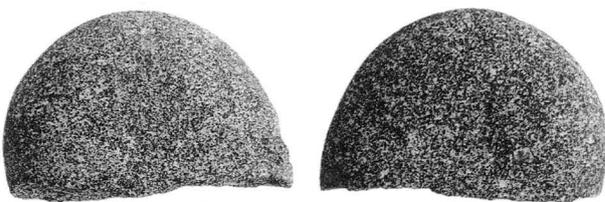
S199



S200



S201



S202



S203

写真図版35 石器(6)



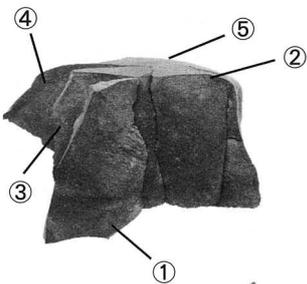
S204

S205

S206



S207



S208



S208-1



S208-2



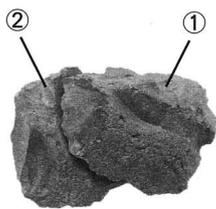
S208-3



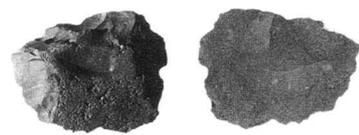
S208-4



S208-5



S209

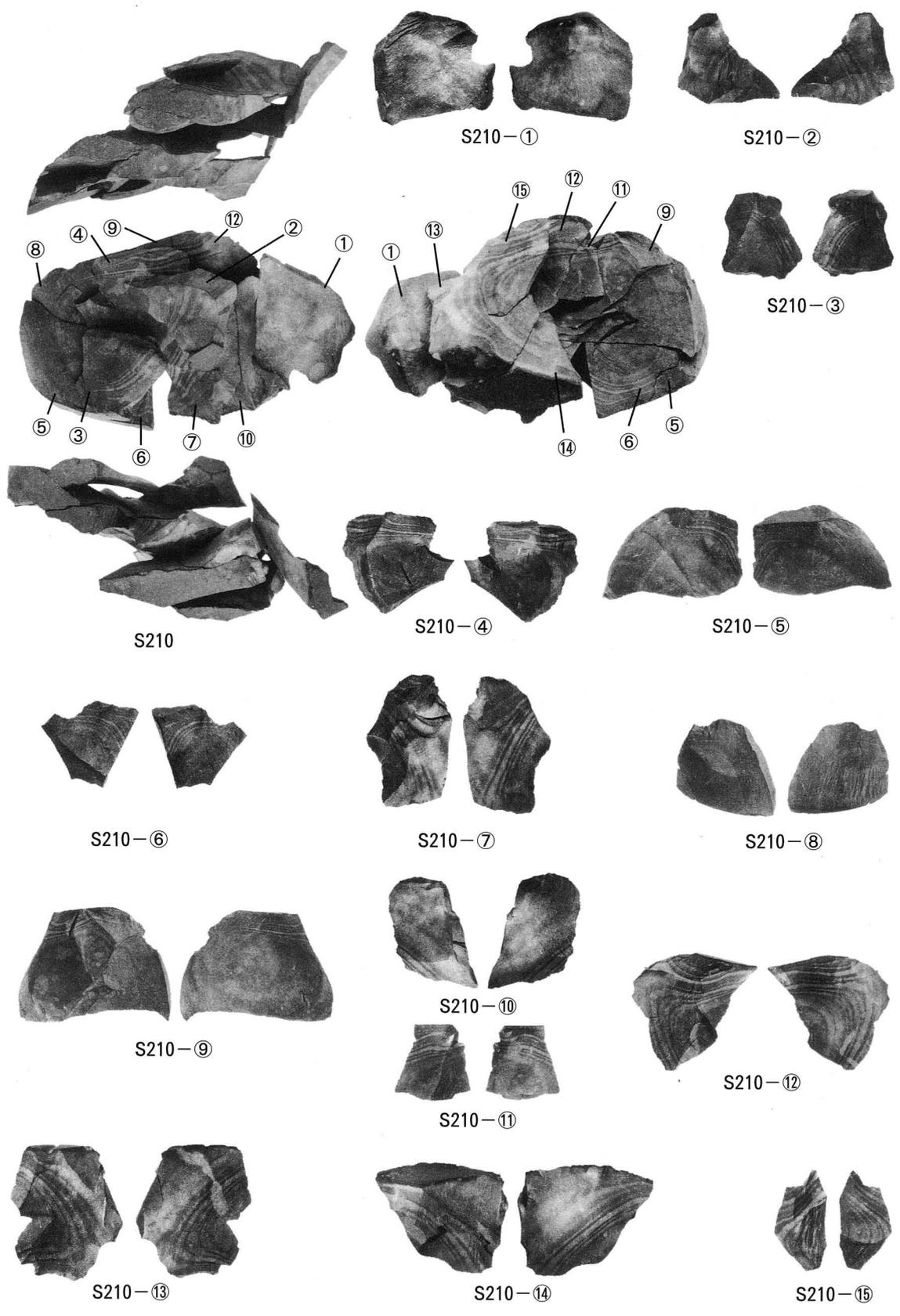


S209-1



S209-2

写真图版36 石器(7)



写真图版37 石器 (8)



222



223



224



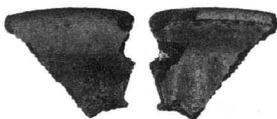
225



226



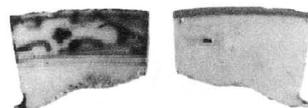
227



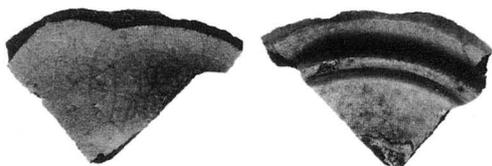
228



229



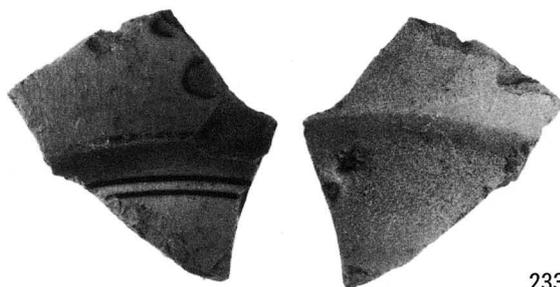
231



230



232



233

写真図版38 錢貨・陶磁器

報告書抄録

ふりがな	とちほらにいせきはくつちようさほうこくしょ					
書名	栃洞Ⅱ遺跡発掘調査報告書					
副書名	遠野第二ダム建設事業関連遺跡発掘調査					
巻次						
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書					
シリーズ番号	第436集					
編著者名	星 幸文、坂部恵造					
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター					
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL 019-638-9001 FAX 019-638-8563					
発行年月日	西暦 2003年 12月 18日					
ふりがな	とちほらにいせき					
所収遺跡名	栃洞Ⅱ遺跡					
ふりがな	いわてけんとおのしとおのちょうめおといし					
所在地	岩手県遠野市遠野町第31地割女男石47-7ほか					
コード	市町村 03208 遺跡番号 MF55-0093					
北緯	39° 19' 00"					
東経	141° 31' 51"					
調査期間	平成14年 4月1日～7月31日					
調査面積	4,106㎡					
調査原因	遠野第二ダム建設事業に伴う緊急発掘調査					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
栃洞Ⅱ遺跡	散布地 集落	縄文	竪穴住居 2	縄文土器	前期前葉・後期前葉主体	
			住居状遺構 1	(早期～晩期)		
			陥し穴状遺構 3	石 鏃(縄文)		
			土坑 12	土製品(縄文)		スタンプ・円盤状土製品等
			焼土遺構 24	石製品(縄文)		珠状耳飾
		古代?	竪穴住居 1	陶磁器(中世・近世)	皿等	
			銭貨(中世・近世)	永楽通宝・寛永通宝等		

平成15年度 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所 長	木 村 昇	副 所 長	平 野 允 苗
〔管理課〕			
課 長	斐 沢 正 吾	嘱 託	高 橋 照 雄
課 長 補 佐	山 岸 直 美	〃	湯 沢 邦 子
主 査	中 嶋 賢 一 子	〃	沼 田 テル子
主 事	猿 橋 幸 子	〃	伊 藤 滋 子
〔調査第一課〕			
課 長	佐々木 勝	文化財調査員	北 村 忠 昭
課 長 補 佐	佐々木 清 文	〃	八 木 勝 枝
文化財専門員	金 子 昭 彦	〃	丸 山 浩 治
文化財調査員	吉 田 充	〃	北 田 勲
〃	亀 大 二 郎	〃	島 原 弘 征
〃	野 中 真 盛	期限付調査員	坂 部 恵 造
〃	新 妻 伸 也	〃	小 林 弘 卓
〃	阿 部 勝 則	〃	藤 原 大 輔
〃	杉 沢 昭 太 郎	〃	小 針 大 志
〃	西 澤 正 晴	〃	太 田 代 一 彦
〃	村 木 敬	〃	新 井 田 えり子
〔調査第二課〕			
課 長	三 浦 謙 一	文化財調査員	星 雅 之
課 長 補 佐	中 川 重 紀	〃	佐 藤 淳 一
〃	高 橋 義 介	〃	星 幸 文
文化財専門員	小 山 内 透	〃	溜 浩 二 郎
〃	金 子 佐 知 子	〃	本 多 準 一 郎
〃	濱 田 宏	〃	丸 山 直 美
文化財調査員	赤 石 登	〃	福 島 正 和
〃	阿 部 眞 澄	〃	米 田 寛 拓
〃	水 上 明 博	〃	須 原 拓 美
〃	阿 部 憲 淳	〃	中 村 絵 美
〃	早 坂 則 也	〃	川 又 普 敦
〃	小 松 德 幸	〃	村 田 拓
〃	阿 部 伸 吾	期限付調査員	(村 上 拓)
〃	窓 岩 盛 行	〃	斎 藤 麻 紀 子
〃	亀 澤 一 重	〃	石 崎 高 臣
〃	飯 坂 裕 明	〃	吉 田 里 和
〃	鈴 木 勲	〃	立 花 裕 敦
〃	林 孝 明	〃	江 藤 智 寛
〃	阿 部 柴 直 人	〃	駒 木 野 智 寛

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 436 集

枳洞Ⅱ遺跡発掘調査報告書

遠野第二ダム建設事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成15年12月11日

発行 平成15年12月18日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

TEL (019)638-9001

FAX (019)638-8563

印刷 (株)五六堂印刷

〒020-0021 盛岡市中央通3-16-15

TEL (019)654-5610

FAX (019)651-2167
